

支那の租税制度に就て	木村増太郎 (亞經) 四二二	過渡期に於ける支那	エム・ロウズン (改造) 六五八
支那婦人纏足の起原	那珂 通世 (史雜) 明三九	中國女子の覺醒	陳 望道 (改造) 六五八
唐代女子化粧考	原田 淑人 (史雜) 明三三	支那に於ける赤化運動	布施 勝治 (改造) 六五八
支那社會主義の信徒	小村俊三郎 (改造) 六〇三	支那の興國運動	中田 薫 (資料) 六五三
支那内地の人情風俗	後藤朝太郎 (中史) 六〇三	唐宋時代の家族共產制	高須芳次郎 (國家) 六五〇
支那婦人の社會的地位に就きての歴史的考察	那波 利貞 (歴史) 六二二	支那に於ける社會革命思想	高須芳次郎 (改造) 六五八
唐時代の社會史的考察	玉井 是博 (史雜) 六三三	中國の學生運動	内藤虎次郎 (商論) 六五一
日支飲食物の關係	中村久四郎 (中史) 六三六	近代支那の文化生活 (講演)	大田 一穂 (亞經) 六五〇
支那の家庭に於ける情味	後藤朝太郎 (中史) 六三六	福建省内或る地方の一妻多夫制に就て	那波 利貞 (歴史) 六五二
支那の社會思想	高須芳次郎 (中史) 六三六	唐宋時代の旗亭酒樓	宮崎 龍介 (社問講) 六四六
支那學生運動と共產派	松本 鎗吉 (改造) 六四七	支那の社會思想と社會運動	橋 樸 (我等) 六四九
一九二五年の支那解放運動の背景	伊藤 武雄 (社思) 六四九	支那の大家族制度の破綻	八木英三郎 (我等) 六四九
支那の同郷團體	根岸 信 (改造) 六四八	支那の時局と我國の態度	船津辰一郎 (エコ) 六四九
支那の赤化的傾向	大西 齋 (改造) 六四八	支那の大家族制について	清水 泰次 (史雜) 六四九
支那社會の解剖	後藤朝太郎 (外時) 六四八	北京に於ける貧窮問題と其救済	伊藤 武雄 (我等) 六四九
新生支那に於ける女性の地位	朱明 彬夏 (改造) 六四八	支那は果して赤化するか	堀江 歸一 (エコ) 六四九
新支那の青年運動と日本の立場	林 駿 (改造) 六四八	支那の民族的傳説の復興	柏田 忠一 (エコ) 六四九
中國無産階級及びその運動の特質	李 人傑 (改造) 六四八	支那に於ける本邦商品の廣告に就て	遠藤寛六郎 (亞經) 六四七
		支那に於ける阿片の現状	宮崎 和生 (國知) 六四七
		支那社會の本質とその産業	

組織	宋代の房錢に就いて	宮脇賢之介 (社政) 四二一	最近の支那政局	西澤 英一 (財經) 六五三
	支那回教徒と革命運動	加藤 繁 (史雜) 四二二	支那政局の側面觀	速水 一孔 (外時) 六五〇
	支那に於ける思潮の方向	笹川 潔 (外時) 四二二	北京政府論	松本 鎗吉 (外時) 六五〇
	支那の職業紹介事業	岡野 一朗 (社政) 四二一	一九二六年の支那	一宮房治郎 (國知) 六四七
政治	新定支那省道管轄區域表	齋藤 恒 (史雜) 六四三	支那に於ける地方自治制度の變遷	小田垣光之輔 (都問) 四二四
	清帝の退位と袁世凱 (講演)	箭内 互 (史雜) 六六六	支那新興勢力の一考察	水野 梅曉 (外時) 四二五
	蒙古の國會即ち「クリルタイ」に就いて	松井 等 (歴史) 六八三	孫文の概	嘉治 隆一 (我等) 四二九
	唐末の節度使と現代の督軍	本多辰次郎 (中史) 六〇二	支那の新興勢力を正視せよ	佐々木到一 (外時) 四二九
	歴史上より觀たる支那の統一	内藤虎次郎 (史林) 六二七	孫文主義總論	徐 世經 (解放) 四二六
	清朝初期の繼嗣問題	岡崎 文夫 (歴史) 六二九	支那は赤化するべきや否や	前田幸太郎 (亞經) 四二二
	唐の府衛制に就て	矢野 仁一 (史林) 六三一	支那赤化防遏の好機	坂西利八郎 (外時) 四二二
	戊戌の變法及び政變	稻葉 君山 (中史) 六三六	アグレン氏罷免問題	小川 節 (外時) 四二五
	近代支那に於ける政型の變遷	小村俊三郎 (改造) 六三六	支那の經濟的特殊性とロシアの觀點	富士 辰馬 (國知) 四二七
	支那の戦争とその思想的並	宮崎 龍介 (改造) 六四七	行方不明の三民主義	松本 鎗吉 (外時) 四二七
	政治的背景	伊藤 武雄 (社思) 六四五	東方會議の意義	植原悦二郎 (國知) 四二七
	孫逸仙物語	山井格太郎 (外時) 六五〇	支那現時の政治及經濟狀態	長野 朗 (我等) 四二九
	支那無産階級政治運動の近		支那三分論	小川 節 (外時) 四二九
	支那は赤化せず		義和拳匪亂の真相に就いて (講演)	矢野 仁一 (史雜) 四二九
			支那不統一論	松波仁一郎 (外時) 四二九
			南京會議を中心に	松本 鎗吉 (外時) 四二九
			四分五裂の支那政局觀	小川 節 (外時) 四二九

支那共産黨の内情	横田 實(外時) 昭二 卷 五三
支那の内治外交を顧みて	長野 朗(國知) 昭二 七 三
對 外 關 係	
支那政府の歐洲使節待遇法	雨 骨(歴地) 昭五 四 三
唐を中心とする外國交通殊	高楠順次郎(史雜) 昭六 四 四、六
にその航海に就て	
明末の袁崇煥と清に代れる	吉田 東伍(歴地) 大五 二七 一
袁世凱兩袁の朝鮮に附與	重松 俊章(歴地) 大六 二九 二、三
すべき感動如何	杉森孝次郎(改造) 大〇 三 二
漢人の外交思想に就て	清水 泰次(解放) 大〇 三 二
支那の國際管理觀	稻葉 君山(中史) 大二 四 一
支那を中心とした列國の妖	松井 等(中史) 大二 四 一
雲	ラッセル(改造) 大二 四 四
南京會議の前後	B. Russell(改造) 大二 四 四
天津北京會議(一八五八年	矢野 仁一(史雜) 大二 三 五
一八六〇年)	松井 等(中史) 大三 六 四
支那の國際的地位を論ず	米田 實(改造) 大四 七 八
International condition of	
China	
支那の開國に就て(講演)	
支那を中心とした東洋間	
題	
支那の國權回復問題	
國際關係の現状に對する支	

那人の不平と要求	米内山庸夫(改造) 大四 七 八
對支列國借款の由來と其現	木村増太郎(改造) 大四 七 八
狀	岡本 彰 一 大五 山口高商
最惠國條款と支那	ドナルド(改造) 大五 八 八
列強對支關係の新紀元	木村 惇(國知) 大五 六 七、八
對支文化事業概觀	
近代諸外國との關係に依つ	矢野 仁一(外時) 大五 四 五、三
て支那に生じた影響を論	
ず	趙 欣伯(外時) 大五 四 五、三
日本の期待に添はん(民國	後藤朝太郎(外時) 大五 四 五、三
に於ける領事裁判權の撤	
廢に就いて)	清澤 洵(國知) 大五 六 一〇
支那外交の新局面	石射猪太郎(外時) 昭二 五 〇
英同盟復活か(南支那の	宮脇賢之介(社政) 昭二 一 七
時局と日英米の立場)	小村俊三郎(エコ) 昭二 五 四
支那の國際的特殊地位	蛭川 新(外時) 昭二 五 五、三
現實の支那とその對外關係	間瀬 悟郎(國知) 昭二 七 二
支那の排外運動と對策	徐 世經(法治) 昭二 六 二
不平等條約の尊重	高木 陸郎(外時) 昭二 五 四
對支外交の地方化より觀た	
る廣東地方政府承認論	
岩本氏の「領事裁判權撤廢	
に付き」を讀む	
列國協調の必要	

支那時局と列國	根岸 信(外時) 昭二 卷 五七
支那に於ける反帝國主義運	
動	
支那の國權恢復運動の經過	市村今朝藏(社科) 昭二 三 二
國民政府の外人學校迫害	山内 清(我等) 昭二 九 四
南京事件と「共同動作」	澤村 幸夫(外時) 昭二 五 九
不平等條約と支那	山川 均(改造) 昭二 九 五
外交ゴシップ(支那問題を	高柳松一郎(國知) 昭二 七 五
中心として)	X Y Z(國知) 昭二 七 六
上海中立に關する一考察	末廣 重雄(經叢) 昭二 二 五 一
獨逸の膠洲灣、露國の旅順	
大連及英國の威海衛獲得	永富守之助(國際) 昭二 二 六 六、八
事情	末廣 重雄(外時) 昭二 四 五、四
日英の友好的協力(支那問	
題を中心として)	
不當課税を中心としての支	松原 一雄(外時) 昭二 四 五、四
那問題	今田新太郎(外時) 昭二 四 五、四
支那は國際的に真空也	桑原 隆藏(外時) 昭二 四 五、四
國際間の驕兒としての支那	
國際法より觀たる支那に於	好富 正臣(外時) 昭二 四 五、四
ける外國の行政地域	高柳松一郎(外時) 昭二 四 五、四
揚子江中立論	末廣 重雄(外時) 昭二 四 五、三
「支那は支那人に」委すべ	
きや	

支那は永い眼で親切に觀よ	清水 泰次(外時) 昭二 四 五、五
支那の内治外交を顧みて	長野 朗(國知) 昭二 七 二、三
日 支 關 係	
徳川家光支那侵略の企圖	小倉 秀貫(史雜) 昭四 二 一、五
遣唐使	陶山康次郎(歴地) 昭六 五 二、三
菅公の遣唐使廢止の建議に	小林庄次郎(歴地) 昭六 五 三
就て	
明初に於ける日本と支那と	池内 宏(歴地) 昭七 六 五、八
の交渉	吉田 東伍(歴地) 昭五 一 九 六
寛永年中の日韓清の國際と	
國勢について	
日本朝廷と渤海國との交渉	中村元次郎(歴地) 大元 二〇 三
に就て所見を述べ	谷森 饒男(史雜) 大四 二 五 五
日唐の交通路に就いて	中村久四郎(史雜) 大四 二 六 五、六
明末の日本乞師及び乞資	
入宋僧成尋及び當時の日宋	鷺尾 順敬(歴地) 大五 四 六 二、一、二
交通	
宋代に於ける日支國交上の	後藤 肅堂(歴地) 大五 元 三
一疑問	
後藤君の「宋代に於ける日	
支國交上の一疑問」を讀	鷺尾 順敬(歴地) 大五 元 四
む	
明成祖より足利義持に贈れ	

る勅書に就いて
日明交通史上に於ける明史
の誤想に就いて
明末の日本乞師補考
足利義持の對明交渉
辻博士の足利義持對明交渉
に就て
遣唐使の事蹟に就て
日支關係研究號
日支關係問題の概論
日支交通の沿革
歸化人より見たる日支の關
係
日支關係の一二考察
遣唐使
元寇の役を中心としたる日
支關係史
遣唐使廢止の年代に關する
疑問
日本と吳越との交通
足利時代の日明交通
對支國策討議
支那の統一と我對策
源信を中心とする日宋文化

淺野	長武	〔史雜〕	大六三	年卷	一號
後藤	秀穂	〔史雜〕	大六二	六六	六七
中村久四郎	〔史雜〕	大七二	九		
辻善之助	〔歷地〕	大八四	一		
後藤	肅堂	〔歷地〕	大八四	三	
牧野	義智	〔歴史〕	大九五	一	
久米	邦武	〔中史〕	大三六	六	
松井	等	〔中史〕	大三六	六	
中村久四郎	〔中史〕	大三六	六		
赤堀又次郎	〔中史〕	大三六	六		
西岡虎之助	〔中史〕	大三六	六		
龍	肅	〔中史〕	大三六	六	
西岡虎之助	〔歷地〕	大三四	一		
西岡虎之助	〔歷地〕	大三四	一		
宮島	貞亮	〔史學〕	大三四	一	
諸	家	〔改造〕	大三六	二	
三宅	雪嶺	〔改造〕	大三六	二	

の交渉
大亞細亞主義の意義と日支
親善の唯一策
遣唐使並に遣唐使に關する
研究
支那の排外罷業擾亂の意味
と日本の地位
遣唐使廢絶後に於ける日唐
の交通
支那の關稅自主權と日本の
對支經濟關係
中國實業團に答ふ(日支親
善の眞諦如何)
無視された山東條約
旅大還附苦しからず
張作霖援助断じて不可
芳澤公使の歸任に際して
日支通商條約改訂問題
日支通商條約改訂提議と日
本
日支條約改訂交渉
我が對廣東軍策
日支通商航海條約改正に就
て

西岡虎之助	〔史雜〕	大二三	二二		
孫	文	〔改造〕	大四七	一	
木宮	泰彦	〔歴史〕	大四五	四	
高橋	龜吉	〔改造〕	大四七	六	
木宮	泰彦	〔歷地〕	大四四	五	
堀江	歸一	〔改造〕	大四七	三	
高柳松一郎	〔外時〕	大五五	五八		
吉木	周治	〔外時〕	大五五	五八	
末廣	重雄	〔外時〕	大五五	五八	
半澤	玉城	〔外時〕	大五五	五三	
半澤	玉城	〔外時〕	大五五	五三	
吉田	虎雄	〔外時〕	大五五	五三	
小川	節	〔外時〕	大五五	五七	
小川	節	〔國知〕	大五五	六	
澤村	幸夫	〔外時〕	大五五	五〇	
末廣	重雄	〔經叢〕	大二四	一	

外相の對支政策を中心とし

て
國民外交と日支協會
支那人に代つて日本人に與
ふる書
南京事件と日本の對策
日、支、露問題討議
支那時局の重大と日本の好
意政策の限界
對支外交の破産
邦人の殘害と當局の責任
英露支三國に與ふ(日本の
新)
對支阿諛政策の禍害
對支政策の刷新を望む
對支硬外交の眞意義
支那通に代つて支那に答ふ
る書
對支見解の分裂
支那と日本
對支問題と國際協調の政策
北支出兵は從屬現象のみ

稻原	勝治	〔外時〕	昭二	年卷	五三號
石本	惠吉	〔外時〕	昭二	五三	
半澤	玉城	〔外時〕	昭二	五五	
大井	二郎	〔外時〕	昭二	五七	
後藤	天仇	〔改造〕	昭二	九	
後藤	新平	〔改造〕	昭二	九	
矢野	仁一	〔經叢〕	昭二	四	
本多熊太郎	〔外時〕	昭二	五八		
安岡	秀夫	〔外時〕	昭二	五八	
半澤	玉城	〔外時〕	昭二	五八	
長永	義正	〔外時〕	昭二	五八	
船越光之丞	〔外時〕	昭二	五九		
小川	節	〔外時〕	昭二	五九	
小松	霞南	〔外時〕	昭二	五九	
縣山	俊夫	〔國知〕	昭二	五	
米田	實	〔企社〕	昭二	一	
神戸	正雄	〔時經〕	昭二	六	
大井	二郎	〔外時〕	昭二	五	

出兵を中心として

日本現下の對支策
はやまつた對支出兵
田中内閣の對支政策
英國の對露斷交と日本の對
支出兵
抜いた刀の始末(支那の現
狀とわが對策)
近時の對支外交論議
傍觀沈黙主義を守れ
英露斷交、對支出兵の我觀
對支日本出兵に就て
日明交通史上第一關門たる
十年一貢制に就て
第六次の排日貨運動
合理性の對支出兵
謂はれなき山東出兵批難
對支出兵是非
日英同盟復活論と張作霖援
助論

柏田	忠一	〔外時〕	昭二	五四	
長野	朗	〔外時〕	昭二	五四	
山森	利一	〔外時〕	昭二	五四	
西澤	英一	〔財經〕	昭二	六	
我	等	〔我等〕	昭二	九	
神田	正雄	〔外時〕	昭二	五三	
山本熊太郎	〔外時〕	昭二	五三		
小川	節	〔外時〕	昭二	五三	
三川	秀夫	〔解放〕	昭二	二	
徐	世	〔解放〕	昭二	二	
後藤	肅堂	〔亞經〕	昭二	三四	
澤村	幸夫	〔外時〕	昭二	五四	
蛭川	新	〔外時〕	昭二	五四	
松井	石根	〔外時〕	昭二	五四	
稻原	勝治	〔國知〕	昭二	七	
山森	利一	〔國知〕	昭二	七	
長野	朗	〔外時〕	昭二	五五	
小川	節	〔國知〕	昭二	八	
安岡	秀夫	〔外時〕	昭二	五六	
西山	榮久	〔外時〕	昭二	五六	

支那の排日は國民的發狂
 日支國民外交開立論
 支那人に代つて日本人に與ふる書(再び)
 對支商權擁護運動
 支那に對する根本觀念
 山東出兵の總勘定
 經濟を主とした支那時局觀
 と對支政策
 日支關係の將來
 日支經濟關係の將來
 對支根本政策の新基調
 對支積極政策と對支消極政策
 英國實業家の主張に聽け(過去及び現在の日英支關係)
 支那に手を焼きつゝある英國
 英支葛藤と日本
 萬縣事件の重大性
 支那に於ける英國の厄運
 英國の對支新政策に就て

高山 謙介(外時)	昭二	四	五
坂西利八郎(外時)	昭二	四	五
牛澤 玉城(外時)	昭二	四	五
長水 義正(財經)	昭二	四	九
植原悦二郎(外時)	昭二	四	五
松井 石根(外時)	昭二	四	五
寺西 秀武(外時)	昭二	四	五
長野 朗(國知)	昭二	七	一〇
長野 朗(エコ)	昭二	五	三
木村増太郎(外時)	昭二	四	五
山森 利一(外時)	昭二	四	五
澤村 幸夫(外時)	昭二	四	五
稻原 勝治(外時)	昭二	四	五
小川 節(外時)	昭二	四	五
澤村 幸夫(外時)	昭二	四	五
澤村 幸夫(亞經)	昭二	四	五
吉田 虎雄(外時)	昭二	四	五

支那に於ける英露戰爭
 英支葛藤事件
 アグレン氏罷免問題
 英國の對支行動
 英國の帝國主義と支那の國民運動
 ビントの合はぬ英の對支政策
 利權回收期に入れる支那と英國商權の危機
 英國實業家の主張に聽け(過去及び現在の日英支關係)
 支那に於ける英國の帝國主義
 米國の在支無線外交
 米國の支那人排斥法
 米國對支非協調
 露西亞
 コップ大使の更迭(露國の支那革命援助と北滿の日露關係)
 露國大使館關入事件

牛澤 玉城(外時)	昭二	四	五
小川 節(國知)	昭二	七	二
小川 節(外時)	昭二	四	五
高木 信威(外時)	昭二	四	五
山川 均(改造)	昭二	九	三
稻原 勝治(國知)	昭二	七	三
中山 四郎(亞經)	昭二	二	二
澤村 幸夫(外時)	昭二	四	五
Elinor Burns(資料)	昭二	三	三
三島 泰雄(外時)	昭二	四	五
木村 惇(外時)	昭二	四	五
三島 泰雄(外時)	昭二	四	五
牛澤 玉城(外時)	昭二	四	五
泉 哲(外時)	昭二	四	五

治外法權

所謂支那の治外法權撤廢問題
 支那に於ける治外法權に就て
 國際法より觀たる支那に於ける外國の行政地域
 東三省の治外法權問題
 農 業
 貿易
 唐宋時代の支那沿海貿易並貿易港に就いて
 宋末の提舉市舶使西域人蒲壽庚に就いて
 藤田君の「宋代市舶司及び市舶條令」に就いて
 明時代に於けるマカオの貿易と其繁榮に就いて
 イブン、コルダードベールに見えたる支那貿易港殊にジャンフウとカンツウに就いて
 矢野博士の葡萄牙人渡來頭

加藤 行吉(法公)	昭二	三	一
北澤 佐雄(商集)	昭二	二	一
好富 正臣(外時)	昭二	四	五
米田 實(外時)	昭二	四	五
石橋 五郎(史雜)	昭二	三	一
桑原 隲藏(史雜)	昭二	三	一
桑原 隲藏(史雜)	昭二	三	一
矢野 仁一(史林)	昭二	三	四
桑原 隲藏(史雜)	昭二	三	一

法 律

末の一節に就いて
 英吉利の日支初期貿易關係
 梁啓超氏の通商條約改正論
 日支貿易
 支那法典の體裁に就て
 總督巡撫兼御史考
 明令考
 「史」——支那の上代に於ける文書の聯
 乾嘉二朝文字の獄について
 乾嘉二朝文字の獄について
 補正
 元の官吏登庸法に就いて
 金史に見えたる土語の官稱の四五に就きて
 支那國際私法に就て
 王朝の律令と唐の律令
 支那史上に於ける公私債務の免除
 中華民國律草案第三一二條について
 民律草案第三一二條に就て
 東洋古代の聽斷法

後藤 秀穂(史雜)	昭二	三	七
矢野 仁一(亞經)	昭二	四	一
宮脇賢之介(亞經)	昭二	二	一
淺井 虎夫(史雜)	昭二	四	八
淺井 虎夫(史雜)	昭二	四	七
淺井 虎夫(史雜)	昭二	四	六
飯島 忠夫(史雜)	昭二	四	二
稻葉 君山(歷地)	昭二	三	一
稻葉 君山(歷地)	昭二	三	二
田中萃一郎(史雜)	昭二	四	三
鳥山 喜一(史雜)	昭二	四	九
山田 三良	昭二	四	九
桑原 隲藏(歴史)	昭二	四	五
加藤 繁(史林)	昭二	四	四
堀部 清雄(長彙)	昭二	五	八
堀部 清雄(長彙)	昭二	五	九
不破 清警(新聞)	昭二	五	三

【支那】【シニョア】【ジノヴィエフ】【支拂猶豫】【紙幣】【西比利亞】

支那南方の社會に見る土豪劣紳
支那商標法の研究
卑彌呼法典の通路
労働及労働階級

【シニョア】

(William Nassau Senior, 1790-1864)
シニョアの勞銀論
シニョアの利潤論
ナツソウ・ウイリアム・シニョア論

【ジノヴィエフ】

(Georgij Zinoviev, 1883-)
ジノヴィエフ「レーニズムと科學」(譯)
ジノヴィエフの失脚を中心にして

【支拂猶豫】

モラトリウム法の要旨
Moratorium について

支拂猶豫令の解釋に就て
支拂猶豫令に絡まる諸問題
支拂猶豫に關する法律的考察
支拂猶豫に關する法律的考察

モラトリウムに就て
Moratorium に就て
「モラトリウム」の概念に就いて

支拂猶豫令と物價
再びモラトリウムに就て
支拂猶豫令論

【紙幣】

西比利亞の河川と北極海との連絡航路
西伯利撤兵と過激派の前途
西比利亞に於ける日露關係
ボガトスキー「極東シベリヤの木材界」(譯)

【西比利亞】

中村 公男(銀研) 昭二 三六
妹尾 一雄(銀研) 昭二 三六
齋藤常三郎(國經) 昭二 四六
齋藤常三郎(法公) 昭二 三八一〇
岩田 宙造(正義) 昭二 三六
宇都宮 鼎(早政) 昭二 一七
中村 宥吉(銀叢) 昭二 九一
土方 成美(經論) 昭二 六一
中村 宗雄(早法) 昭二 七一
竹野竹三郎(新報) 昭二 三七一
貨幣を見よ
内田 寛一(史林) 大八 三四
千賀鶴太郎(解放) 大九 二六
滿川龜太郎(解放) 大九 一〇
庄田 作輔(經研) 昭二 二

西比利亞出兵の責任者は誰ぞ

【私法】

徳川時代の文學に見えたる私法
私法の方法論に關する一考察
察(裁判を中心とする考察方法の提唱)

【法】

参照||商法。法學。法律。民法。
清瀬 一郎(改造) 昭二 九 五
中田 薫 | 大三宮崎記念
我妻 榮(法協) 大五 四 七
参照||裁判所。裁判所構成法。少年裁判所。陪審制度。領事裁判。

【司法】

王朝時代司法制度の研究
手近より改むべし
司法官生活の回顧と司法部
革正管見
司法實務研究に就き江木法相に與ふ
歐米巡視法曹諸君に寄す
王朝及武家司法制度考
江木法相に與へて司法實務の研究を論ず

瀧川政次郎(歴史) 大六 三 二
卜部喜太郎(正義) 大五 二 七
寺西勝太郎(新聞) 大五 一 二五
布施 辰治(法公) 大五 三 八
小宮三保松(新聞) 大五 一 二五
水上 浩窮(法協) 大五 四 一
布施 辰治(新聞) 大五 一 二六

江木法相に與へて司法實務の研究を論ず

司法權に對する國民の誤解を憂ふ
司法權に對する國民の誤解を憂ふ

在野法曹と司法次の大審院長
司法獨立と豫算
立法に對する生存運動
司法大臣に對する希望
新法相に對する希望
呈原司法大臣
總ては斷の一字
新法相に對する希望一東
司法大臣に對する希望
司法官辯護士合同協議會に就て

司法權の獨立性確保に關する裁判所構成法上の用意
司法制度改正愚論
司法省議はつとめて公平無私であつて欲しい
大審院長後任問題に關し原

布施 辰治(法新) 大五 一 五
原 嘉道(正義) 昭二 三
原 嘉道(臺法) 昭二 三
猪股 淇清(法公) 昭二 三
松本 重敏(法新) 昭二 一
松本 重敏(法新) 昭二 一
加藤 勝藏(法公) 昭二 三
近江 漁夫(新聞) 昭二 一
久田 博人(新聞) 昭二 一
溝淵 孝雄(法新) 昭二 一
小野 實雄(新聞) 昭二 一
巴 港(新聞) 昭二 一
神洲 健次(新聞) 昭二 一
岸 清一(正義) 昭二 三
皆川 治廣(法曹) 昭二 五
井蛙 山人(新聞) 昭二 一
播磨 龍城(新聞) 昭二 一

【西比利亞】【私法】【司法】

【司法】 【司法官】 【資本主義】

法相の英断を望む	小野 實雄 (新聞) 昭二 二七九
司法事務刷新問題の考察	播磨 龍城 (新聞) 昭二 二七〇
司法事務の刷新と優遇問題	播磨 龍城 (新聞) 昭二 二七四
司法大臣に對する希望	小林 鶴吉 (新聞) 昭二 二七三
司法権尊重と東郷元帥	秋山 襄 (新聞) 昭二 二七四
我國民の法律思想と司法權に就て	柳川元次郎 (法新) 昭二 二二五
懷舊談 (講演)	金子堅太郎 (正義) 昭二 二〇
國民の司法教育の急務	原 嘉道 (法新) 昭二 二〇
總督政治の暴壓と司法權侵害問題	布施 辰治 (法新) 昭二 一三二
外 國	
ポアンカレ内閣の司法的	
改革	
臺灣清時の司法制度	近藤 倫二 (正義) 昭二 三
英國現司法制度概観	白井新太郎 (臺法) 昭二 二六二
	占部百太郎 (法研) 昭二 六
	参照 検事。裁判所書記。判事。辯護士。
憲法と定年法及び陪審法	江木 衷 一 六〇 評論記念
米國裁判官道德の標準	佐々木周八 (新聞) 大五 一 二六三
司法官の特別研究に就て	
司法官と社會思想 (暴力行爲處罰法其他に關する大	

【資本主義】

審院最近の判決について	末弘嚴太郎 (改造) 昭二 九
シツフェル「獨國法官の獨立」 (譯)	
司法官の待遇を速に改めよ	秋山 襄 (正義) 昭二 三
検事局直屬司法警察官を設置せよ	秋山 襄 (新聞) 昭二 二七九
先づ高級司法官の内職を禁ずべし	侃 諤 生 (新聞) 昭二 二七六
司法職員待遇改善の急を論ず	秋山 襄 (法新) 昭二 一三二
高級司法官の内職 (學校講義) 問題批判	言平 老人 (新聞) 昭二 二七五
婦人と司法官及び辯護士適格性	
	森山武市郎 (法治) 昭二 二六
	参照 貨幣。銀行。金融。經濟學。工業。産業。資本利子税。商業。生産。貯蓄。帝國主義。投資。富。トラスト。利子。利潤。労働と資本。(マルクス資本論は「マルクス資本論」を見よ)
軍國主義及資本主義管見	堀江 歸一 (解放) 大八 一
現代哲學と資本主義精神	米田庄太郎 (解放) 大九 二

資本制度の純經濟的純機械的崩壞の経路	山川 均 (解放) 大〇 三 二
資本増殖の理法と資本主義の崩壞	福田 徳三 (改造) 大〇 三
資本主義は恢復するか	山川 均 (改造) 大二 四
戦時共産主義より國家資本主義への轉換	稲垣 守克 (改造) 大二 五
近代資本主義と猶太人	新居 格 (改造) 大二 五
我國資本主義の特質と其の崩壞	高橋 龜吉 (改造) 大二 五
レニンの國家資本主義	千葉雄次郎 (社思) 大三 三
金融資本の成立 (ヒルファードイニング)	パウエル (社思) 大三 三
ブハーリン「近代的資本主義の矛盾」 (譯)	嘉治 隆一 (社思) 大四 四
シユタインベルグ「資本主義の危機 (戦時債務問題)」 (譯)	檜崎 輝 (社思) 大四 四
資本主義と農業	河田 嗣郎 (改造) 大四 七
資金の意味と其蓄積及支配	高橋 龜吉 (改造) 大四 七
現代卑屈論	杉森孝次郎 (改造) 大四 七
資本主義崩壞の理論的根據	猪俣津南雄 (改造) 大五 八
資本主義の「安定」について	青野 季吉 (解放) 大五 五

獨逸に於ける資本主義の發達	石濱 知行 (社政) 大五 一
資本主義確定の一資料	松井 敏生 (明商) 大五 一
クチンスキ「資本蓄積の辯證法的發展」 (譯)	赤松五百磨 (商論) 大五 一
工場制度を特徴とする資本主義の進展 (マルクスよりテラーへ)	向井 鹿松 (三學) 大五 二〇
資本主義と賃銀制度	加藤 一雄 (法治) 大五 二
世界及日本資本主義の情勢	丸岡 重亮 (社思) 大五 五
と我國社會運動	林 癸未夫 一 大五 社經體系
資本主義の本質及形成	高橋 龜吉 一 大五 社經體系
末期の資本主義	野呂榮太郎 一 社問講三
日本資本主義發達史	丸岡 重亮 一 社問講三
世界資本主義經濟の現勢	
資本主義文化と社會主義文化	平林初之輔 一 昭二 社問講四
轉換期に立てる吾國資本主義の苦悶と其打開	武藤 山治 (改造) 昭二 九
我が資本主義の行詰と農村經濟の將來	高橋 龜吉 (社科) 昭二 三
右翼夢遊病者の帝國主義論 (丸岡重亮氏の俗論を駁す)	濱田 徹造 (マル) 昭二 一

【資本主義】

【資本主義】 【資本利子税】

ジャン・ステーン「資本主義 安定の理論的批判」(譯) 戦後の國際資本主義と其の 前途	廣島 定吉(社科) 昭二 三 二
資本制度の諸作用	木村孫八郎(同論) 昭二 一 三
資本主義安定?と日本勞農 總聯合の戰術的根據	日比谷市三(法公) 昭二 三 二六
「資本主義の情勢と我國社 會運動」再論(濱田徹造 等の駁論に答ふ)	阪本 勝(社思) 昭二 六 三
資本主義的生産組織に於け る所有權の作用(資本主 義と私法の研究への一寄 與としてカルネルの所論)	丸岡 重堯(社思) 昭二 六 三
超帝國主義と資本主義發展 不均等の法則	我妻 榮(法協) 昭二 五 三五
デウウオイラツキー「ロー ザ・ルクセンブルク資本 蓄積論の批評」(譯)	ヴァルガ(我等) 昭二 九 三
日本資本主義發達の現段階 夢遊病者の躍進についで (丸岡氏併せて薄へを評 す)	鳥海 篤助(社科) 昭二 三 二
薄 茂人(社科) 昭二 三 二	
濱田 徹造(マル) 昭二 一 三五九	

【資本利子税】

題(譯)	鳥海 篤助(我等) 昭二 九 四
世界資本主義安定の實相	丸岡 重堯(社思) 昭二 六 五
資本主義の觀念	田邊 忠男 昭二 社經體系 一五
金融資本主義の議會統制	猪谷 善一(企社) 昭二 一 一五
ブランドレー「歐洲大戰 後に於ける資本主義の狀 態」(譯)	石濱 知行(社思) 昭二 六 七
米田資本主義構成の變化 (ヴァルガ)	宮川 實(商論) 昭二 二 二
「大衆」は批判者たり得た か(夢遊病者の躍進に就 て、三)	濱田 徹造(マル) 昭二 一 三三
我國資本主義の現段階の間 題	猪俣津南雄(社科) 昭二 三 三
英國資本主義制度の起原	野村兼太郎(財經) 昭二 一 九
マルクス・エンゲルスとい ギリスの資本主義	西 雅雄(社科) 昭二 三 四
資本還元の理論	宮田喜代藏(商論) 昭二 五 一
資本利子税に就て	春木忠三郎(銀叢) 大五 七 一
資本利子税と地方附加税	神戸 正雄(經叢) 大五 三 一
資本利子税法の施行區域に	

就て	中村 重嗣(會計) 大五 九 四
資本利子税の客體に就て	小山田小七(經叢) 大五 三 六

【事務管理】

事務管理の起原及本質	鳩山 秀夫 大六土方記念
------------	--------------

【爪哇】

ジアバ島の都邑	大江 武男(歴地) 昭二 一五 六
爪哇の氣候と住民の生活	石橋 五郎(史林) 大六 二 二
爪哇紀行	杉本文三郎(史林) 大六 一 三

【社會科學】

社會科學界の一年	佐野 學(解放) 大〇 三 二
大學生運動の新展開及びそ の社會的意義(社會科學 の人生價值前論)	大山 郁夫(改造) 大三 六 九
政治過程の盲目的進行に對 する意識的統制の必要及 びその目標	大山 郁夫(改造) 大四 七 四
社會科學の階級性	森戸 辰男(改造) 大四 七 九
帝國主義の支配下に於ける	

【資本利子税】 【事務管理】 【爪哇】 【社會科學】

社會科學研究の「自由」 文相の思想暴歴	大山 郁夫(改造) 大五 八 七
科學の自己促進性と支配階 級の抑壓態度	山川 均(改造) 大五 八 七
鬭争手段としての現代教育	大山 郁夫(我等) 大五 八 七
ジムメル「社會科學の認識」 (譯)	森戸 辰男(改造) 大五 八 九
現代國家と社會科學の壓迫	武内 龍次(社雜) 大五 三 三九八
シュパン社會科學的概念構 成の論理	長谷川萬次郎(我等) 大五 八 一〇
社會科學に於ける統計的方 法	岩井 茂(商工) 昭二 二 一
ミルのエソロチー論	水谷 良一(統集) 昭二 一 五五〇
認識の獨立と大學に於ける 社會科學的部分	米田庄太郎(經叢) 昭二 二 一
ガムプロキッツの科學方法 論	杉森孝次郎(改造) 昭二 九 八
歴史的、社會的學問特に經 濟學の方法論に就て(マ ックス・ウエバアを中心 として)	今中 次麿(國家) 昭二 四 八
本多 謙三(思想) 昭二 一三 三	
參照 革命、家族、教育、共産 キルド社會主義、經濟 學、個人主義、國家。	

【社會學】

財產。産業。社會科學。社會教育。社會主義。社會心理。社會政策。社會問題。宗教。少年。人口。人種問題。政治學。戰爭。中間階級。統計。道德。都市。奴隸。犯罪。貧困。貧民。婦人。平和。封建制度。保險。無政府主義。優生學。ユトーピア。勞働及勞働階級。

靜的安全及び動的の安全の調節を論ず
 法律的方法と社會學的方法
 最近の歴史哲學と社會哲學
 個人の完成と社會的經濟生活
 自然法と社會制度
 近代的精神の崩壞
 間接行動の存在權
 社會の文化に就いて
 社會法則論の一節
 思惟の支配に對する反抗
 精神分析と群衆心理

鳩山 秀夫 年卷 號
 織田 萬 大四種積祝賀
 米田庄太郎(史林) 大九 五 三四

野村兼太郎(解放) 大九 二 八
 高橋誠一郎(改造) 大〇 三 七
 長谷川萬太郎(改造) 大〇 三 一三
 杉森孝次郎(改造) 大二 四 一
 高田 保馬(思想) 大二 一 四
 高田 保馬(思想) 大二 二 七
 長谷川萬太郎(改造) 大二 四 二
 米田庄太郎(改造) 大二 五 一

「快樂經濟」と本能派の理想社會
 第三史觀
 大社會と自由
 マルクスの社會觀念
 ジムメルの社會概念
 レーニンの社會學說批判
 (特に其國家本質論に就て)
 社會發展過程に於ける飛躍
 社會運動の定型
 社會契約論の起原と封建制度
 定型論再說
 二元社會に於ける文明の成立と崩壞
 暴力と權力と指導
 社會結合形式の進化
 國家的統一と社會的統一の對蹠的關係
 社會學とその諸分科
 社會運動に於ける「行動」と「意識」
 家族、國家、貴族、官吏、

出井 盛之(解放) 大三 五 四
 高田 保馬(思想) 大三 四 一九
 室伏 高信(改造) 大三 五 八
 波多野 鼎(社思) 大三 三 一
 關 榮吉(思想) 大三 五 三
 波多野 鼎(社思) 大三 三 三
 住谷 悅治(社思) 大三 三 八
 新明 正道(社思) 大三 三 五
 橫 智雄(史學) 大三 三 四
 新明 正道(社思) 大三 三 一〇
 長谷川萬太郎(改造) 大四 七 一
 林 要(社思) 大四 四 一
 關 榮吉(思想) 大四 八 一
 長谷川萬太郎(改造) 大四 七 二
 淡 德三郎(思想) 大四 九 五〇
 本莊 可宗(解放) 大五 五 三

軍人の起原 (Miller-Lyer 學說紹介)

社會學史
 上下關係論
 ルキプランの社會學說と國民工場

On Marx's "Forms of social consciousness"

英國理想主義運動
 社會的理性の發達(講演)
 社會關係を論ず
 貨幣的評價に關するクレー

形式社會學的發展
 社會批評の人生的意義
 カール・メンガー社會科學方法論の研究
 科學の自己促進性と支配階級の抑壓態度
 社會學と唯物史觀について
 社會學的認識に於ける説明と理解と批判
 概念體系構成に關する一考察

石濱 知行(社思) 大五 年卷 號
 新明 正道 大五 社問講四
 小松堅太郎(思想) 大五 一〇 五
 德増榮太郎(企社) 大五 一 四

河上 肇(京紀) 大五 一 一
 河合榮治郎(經論) 大五 五 一
 瀧本 誠一(史學) 大五 五 三
 小松堅太郎(社雜) 大五 三 三
 高瀬莊太郎(社雜) 大五 三 二
 井森 陸平(社雜) 大五 三 二
 本莊 可宗(社研) 大五 一 四
 杉村 廣藏(商研) 大五 六 一
 大山 郁夫(我等) 大五 八 七
 新明 正道(社科) 大五 二 八
 城戸幡太郎(社雜) 大五 三 六
 今井 時郎(社雜) 大五 三 六

社會的見解の成立及び持続
 と其の壓力

毒婦の社會學的研究
 プラトウの社會哲學
 社會學大意
 社會學的研究とは何ぞや
 教育に關する社會學的問題
 基督教の影響を受けたる社會思想

社會關係の平行について
 エチエンス・カペーの理想社會論
 教育思想史の問題としての個人と社會
 社會の脱皮
 日本社會學の意義
 マルクスの「資本論」に於ける二種の社會型とテニ

「利益社會」の範疇
 統制支配の權力と法律
 日本社會學の意義(再論)
 アダム・スミスの社會哲學

田村 德治(社政) 大五 一 七
 早山 正雄(法政) 大五 三 八
 不破 祐俊(法治) 大五 五 八
 高田 保馬 大五 社政系一
 遠藤 隆吉(社雜) 大五 三 二
 藏内 數太(社雜) 大五 三 二
 尾形 繁之(商經) 大五 一 四
 高田 保馬(社雜) 大五 三 三
 淺野 研眞(法政) 大五 三 一〇

小林 澄兒(史學) 大五 五 四
 熊岡 敬三(法政) 大五 三 一〇
 若宮卯之助(社雜) 大五 三 三
 服部 之總(社雜) 大五 三 三
 平野義太郎(志林) 大五 三 三
 若宮卯之助(社雜) 大五 三 三

と其の思想的背景	柳澤 泰爾(社雜) 昭二 二二
共同社會と國家	服部 之總(我等) 昭二 二五
人間行動の社會學	長谷川萬次郎 昭二 二六
共同社會と利益社會	波多野 鼎 昭二 二九
機能主義の未發達と實現	杉森孝次郎(改造) 昭二 二九
再びマルクスの社會的意識	
形態について(かねて福	
本和夫氏の批評に答ふ)	河上 肇(經叢) 昭二 二四
個人の自由と社會統制	加藤 一雄(法治) 昭二 二六
慣習に關する一二の考察	徳田 彦安(歴史) 昭二 二九
社會哲學	土田 杏村 昭二 二九
權力と經濟原理との交争	阿部 賢一(改造) 昭二 二九
社會學的研究に於ける圖式	小松堅太郎(社雜) 昭二 三三
的方法と純型的方法	
書翰 日記に現はれたる社	
會の精神流	綿貫 哲雄(社究) 昭二 一一
共同社會の優越に就いて	高田 保馬(社究) 昭二 一一
ミルの社會學概念	米田庄太郎(經叢) 昭二 二四
近世社會思想大略(結論)	小泉 信三(財經) 昭二 二四
米國社會學界の新傾向	古坂 明詮(社雜) 昭二 三三
教育的社會學の現状	田制 佐重(社雜) 昭二 三三
相互作用に關する諸問題	小松堅太郎(商評) 昭二 三三
歴史の「ゾルレン」に交渉	村瀬武比古(法治) 昭二 二六

社會學の研究について	加田 哲一(三學) 昭二 三三
英國ロマンチストの社會	徳増榮太郎(企社) 昭二 一一
思想	北野 大吉(企社) 昭二 一一
ロバート・オーウエンの社	増井 幸雄(企社) 昭二 一一
會思想	喜多野精一(法集) 昭二 二二
綜合としての社會連帶主義	作田 莊一(經叢) 昭二 二二
ミュラー・リャーQ-Phaseo-	
Logische Methode"に就て	綿貫 哲雄(社究) 昭二 一一
純粹國家	赤坂 靜也(社雜) 昭二 二四
封鎖社會とその社會圏の擴	
大	
模倣と強制に就て	
ジムメルに於ける社會形式	
概念の一考察(特にシュ	
タムラアの形式概念を考	
慮し乍ら)	
「義理」に就ての一二の考	林 惠海(社雜) 昭二 二四
察	福場 保洲(社雜) 昭二 二四
現時の思想問題に關する社	
會哲學的考察(自由主義	
と平等主義)	鈴木 宗忠(社政) 昭二 一八
國家社會學の概念と方法	
(オッペンハイマーの國	
家論)	堀 眞琴(法研) 昭二 二六

刑式社會學及現象學的社會	新明 正道 昭二 二二
學	松本潤一郎(社雜) 昭二 二四
現實的集團分類の一企圖	小松堅太郎(商評) 昭二 二六
相互期待としての社會關係	
ギデンクス著「人間社會の	
科學的研究」に就て	難波 紋吉(同論) 昭二 一一
フイアーカントの服従本能	田畑 忍(同論) 昭二 一一
論	
支配の歴史より生活自體の	
歴史へ(革命史の反社會	
的性質)	長谷川萬次郎(我等) 昭二 二九
行動の體系としての社會	長谷川萬次郎(社雜) 昭二 二九
現代社會學に於けるマルク	九谷 夏雄(社思) 昭二 二六
スの根本問題	松本潤一郎(法集) 昭二 三三
集團形態としての階級の二	
三の特性	
ケルゼン法律學的方法と社	後藤 清(法治) 昭二 二六
會學的方法との限界に就	
て	金子鷹之助(企社) 昭二 一七
マクイヴァー氏社會學の哲	
學的基調	
獨逸浪漫派の國家觀及び經	
濟觀(王としてクルック	
ホーンの「人格と共同團	

體)について)	吹田 順助(企社) 昭二 一七
意味現實態	米田庄太郎(經叢) 昭二 二五
社會認識及び批評に於ける	
方法撰擇の根據	本莊 可宗(法治) 昭二 二六
ヘーゲルの「市民社會」	新明 正道(我等) 昭二 二九
近世社會學成立史	加田 哲一 昭二 二九
ジムメルとテンニイスの社	
會圖型論	新明 正道(思想) 昭二 二二
パークの自然的社會辯護論	瀧澤 三郎(企社) 昭二 二八
現代のロシア社會學(ソロ	
ーキ)	山口 正(社雜) 昭二 二四
ディルタイの社會概念に就	
いて	林 惠海(社雜) 昭二 二四
多數決原理の省察	木村 龜二(思想) 昭二 二二
社會學の基本範疇としての	
社會的關係について	五十嵐 信(思想) 昭二 二二
左右田博士の「協同體倫理」	金子鷹之助(商研) 昭二 二七
社會の進化と我國體	清水谷隆寛(商工) 昭二 二二
普遍化了解科學	米田庄太郎(經叢) 昭二 二五
社會進歩と心意作用	岩井 龍海(社雜) 昭二 二四
社會學概論	小松堅太郎 昭二 二四
Die soziologische Erkennt-	
nisweise (形式社會學の根	
本問題に關する一考察)	黒川 純一(社雜) 昭二 二四

社會哲學の基本問題（社會對個人の問題を通じての左右田哲學への一省察）南 亮三郎（商討）四二二 二 下 號

オーウエンの境遇論に於ける五大根本的事實 北野 大吉（商評）四二六 三

古事記の社會學的研究（法律社會史の一資料）野村 重臣（討論）四二二 一 二四

【社會革命】

マルクスの矛盾と河上博士の矛盾 高島 素之（解放）六二四 二

唯物史觀の根本命題と社會革命の概念とについて 武藤 直治（解放）六五五 四

支那に於ける社會革命思想 高須芳次郎 六五社問講附録

【社會教育】

支配階級的教育への叛逆 權田保之助（我等）六五八 七

無産者教育の壓迫 長谷川萬太郎（我等）六五八 八

社會と教育 森戸 辰男 四二二社問講四

【社會事業】

參照 社會問題。

ブルークリン大姉妹協會 髮結床の研究 堤 隆（法曹）六五四 七

社會事業概説 幸田 友成（商研）六五六 二

奉天同善堂の社會事業 矢吹 慶輝 六五社政系二

乳幼児及母性保護事業の意義と英國に於ける其の發達 谷山 惠林 六五社政系二

米國に於ける各種社會事業團體の協働 猪間 驥一（都問）四二四 六

社會事業概念の限定 宮島幹之助（都問）四二四 六

社會事業 海野 幸徳（社雅）四二四 五

都市社會事業の經費と財源 矢吹 慶輝 四二二社政體系

山口 正（國經）四二四 六

參照 社會問題。（尙各國名にて「社會」の項を見よ）

元祿時代に於ける奢侈の増進 古田 良一（歴史）六八四 四

義經の生存したる時代の社會的背景 中村 孝也（中史）六九一 五

日本現代の社會生活 河田 嗣郎（解放）六〇三 六

日本社會の一觀察 山川 均（解放）六〇三 六

日本古代の社會組織（特に家族制の起原に就いて） 西村 眞次（中史）六二四 四

日本石器時代民衆の生活狀況

【社會事情】

態 谷川 磐雄（中史）六二六 五 號

都下の思想團體 堺 利彦（解放）六二五 五

新愛國運動の諸士 滿川龜太郎（解放）六二五 五

活躍せる農民運動者 坂下 敏之（解放）六二五 五

幕末變革期に於ける社會缺陷の研究 久代 高任（中史）六二六 五

わが上代文化に於ける地方相 後藤 守一（中史）六二七 二 三

日本社會史に就て 本庄榮治郎（歴史）六三三 五

藤原時代の爛熟生活 久松 潜一（中史）六三八 一

日本社會史とは何ぞや 喜田 貞吉（歴史）六三三 二

戰國時代に於ける民衆生活の一面 高須芳次郎（中史）六三八 四

再び「日本社會史」の意義に就て 本庄榮治郎（歴史）六三三 五

江戸時代における町人に對する思想 中村 孝也（歴史）六四四 一

町人全盛の世 笹川 種郎（歴史）六四四 一

有産者の奢侈と我産業の行詰 高橋 龜吉（改造）六四七 六

日本近世の奢侈について 西田直二郎（史雜）六五七 二

徳川時代概観 本庄榮治郎（社科）六五七 七

日本社會史 本庄榮治郎 社問講四

平安朝末期の民間思想に就

いて 藤 直幹（歴史）四二九 一

寛政改革と柳橙の改版 岡田朝太郎（早法）四二六 一

明治啓蒙期文獻雜話 吉野 作造（社究）四二一 一 二

封鎖社會とその社會圏の擴大 綿貫 哲雄（社究）四二一 二

鎌倉時代に於ける吏僚生活の一面 櫻井 秀（史林）四二二 三

寛政改革と柳橙の改版の増損 岡田朝太郎（早法）四二七 一

參照 アイ・ダブリュ・ダブリュ。階級闘争。經濟學。共產主義。ギルド社會主義。國有。個人主義。サンジカリズム。（社會黨）。消費組合。ボルシエヴィズム。民主主義。無政府主義。唯物史觀。ユトーピア。勞働及勞働階級。

【社會主義】

基督教と社會主義 高橋誠一郎（改造）六八一 七

國家社會主義と勞働問題 山川 均（改造）六八一 七

社會主義と勞働組合 室伏 高信（解放）六九二 一

メンガアの觀たるマルクス派社會主義 森戸 辰男（改造）六九二 三

【社會主義】

社會主義「未來國家」を論ず	佐野 學〔解放〕大九二	年	二	卷	三	號
生産組織の社會化	堀江 歸一〔改造〕大九二	年	二	卷	五	號
勞働運動の集中化と國家社會主義	高島 素之〔改造〕大九二	年	二	卷	二	號
小工業と社會主義	小泉 信三〔改造〕大〇三	年	三	卷	一	號
社會主義國家と勞働組合	山川 均〔改造〕大〇三	年	三	卷	四	號
不勞取得と土地社會主義	小泉 信三〔改造〕大〇三	年	三	卷	六	號
カウツキーとベルンシタイ	室伏 高信〔改造〕大〇三	年	三	卷	三	號
社會主義運動の通景	新居 格〔解放〕大〇三	年	三	卷	二	號
民族闘争と社會主義思潮	諸 家〔解放〕大〇三	年	三	卷	一	號
社會主義と民族闘争	山川 均〔解放〕大〇三	年	三	卷	一	號
自由か強制か(自由主義と無政府主義と集産主義)	加田 哲二〔解放〕大〇三	年	三	卷	一	號
社會學的進化論としての社會主義	ハムンスタイン〔改造〕大〇三	年	三	卷	二	號
Der Sozialismus als soziologische Entwicklungslehre	E. Bernstein〔改造〕大〇三	年	三	卷	二	號
カウツキー「社會主義とデモクラシー」(譯)	高島 素之〔解放〕大〇三	年	三	卷	二	號
個人主義者と社會主義者	河上 肇〔改造〕大〇三	年	三	卷	二	號
未開國に於ける社會主義	ラッセル〔改造〕大〇三	年	三	卷	五	號
Socialism in undeveloped countries	B. Russell〔改造〕大〇三	年	三	卷	五	號

一八一

Die philosophischen Grundlagen von Fichtes Sozialismus	H. Rickert〔改造〕大〇三	年	三	卷	六	號
先進國に於ける社會主義	ラッセル〔改造〕大〇三	年	三	卷	七	號
Socialism in advanced countries	B. Russell〔改造〕大〇三	年	三	卷	七	號
社會主義は危險思想にあらざる	安部 磯雄〔解放〕大〇三	年	三	卷	七	號
個人性と社會性との交響	北原 龍雄〔解放〕大〇三	年	三	卷	七	號
フエルチナンド・ラッセルの國家社會主義	高橋誠一郎〔改造〕大〇三	年	三	卷	三	號
ウィルブランド「社會主義の二方面」(譯)	黒田 禮二〔解放〕大〇三	年	三	卷	三	號
社會主義の實行可能的方面	安部 磯雄〔解放〕大〇三	年	三	卷	三	號
マルクスとバクウニン(社會主義と無政府主義)	大杉 榮〔改造〕大〇三	年	三	卷	一	號
議會主義と反議會主義の原理	赤松 克麿〔解放〕大〇三	年	三	卷	二	號
中間階級的社會主義論	佐野 學〔解放〕大〇三	年	三	卷	二	號
社會主義思想の宗教的交渉	河田 嗣郎〔解放〕大〇三	年	三	卷	三	號
舊約宗教と社會主義	石橋 智信〔改造〕大〇三	年	三	卷	五	號
フイヒテの哲學に於ける倫	工藤 信〔解放〕大〇三	年	三	卷	三	號

【社會主義】

理的個性主義と經濟社會主義	リツケルト〔改造〕大二	年	二	卷	五	號
Ethischer Individualismus und wirtschaftlicher Sozialismus in Fichtes Philosophie	H. Rickert〔改造〕大二	年	二	卷	五	號
社會主義と農業問題	佐野 學〔解放〕大二	年	二	卷	六	號
反議會主義者の議會行動論	赤松 克麿〔解放〕大二	年	二	卷	八	號
基督教と經濟學	高橋誠一郎〔解放〕大二	年	二	卷	九	號
革命藝術と社會主義的藝術	トロツキー〔改造〕大二	年	二	卷	二	號
リヒャルト・ワグナーと社會主義	小泉 信三〔改造〕大三	年	三	卷	三	號
マルクスとラッサー	河野 密〔社思〕大三	年	三	卷	五	號
社會主義と議會主義	ルンペンブルグ〔社思〕大三	年	三	卷	六	號
社會主義に於ける所有問題と經營問題との交渉	蠟山 政道〔改造〕大三	年	三	卷	六	號
社會主義は闇に面するか光に面するか	榊田 民藏〔改造〕大三	年	三	卷	七	號
戦争反對國際週間に就て	バルビニウス〔改造〕大四	年	四	卷	七	號
マルクス主義と國家	小泉 信三〔思想〕大四	年	四	卷	七	號
の觀念(特にエンゲルスの國家觀念)	波多野 鼎〔社思〕大四	年	四	卷	七	號
ゲーテと社會主義(放浪記の八)	石濱 知行〔社思〕大四	年	四	卷	二	號

一八三

崩壊過程に於ける傳統主義	工藤 信〔解放〕大四	年	四	卷	三	號
カウツキー「社會主義と農業小經營」(譯)	河西太一郎〔社思〕大四	年	四	卷	三	號
エルフルト綱領とエンゲルス	嘉治 隆一〔社思〕大四	年	四	卷	二	號
「權力原理」と「政治的無關心主義」(二つの資料)	波多野 鼎〔社思〕大五	年	五	卷	二	號
社會主義文學論(放浪記十)	石濱 知行〔社思〕大五	年	五	卷	二	號
歐洲革命以前に於ける新社會思想の醜態	石川三四郎〔解放〕大五	年	五	卷	三	號
社會思想發達史	波多野 鼎 一 大五社間講一	年	五	卷	三	號
マルキシズム概説	高島 素之 一 大五社間講一	年	五	卷	三	號
農業社會化運動	河田 嗣郎〔改造〕大五	年	五	卷	七	號
社會主義の發達に關する概説	山下 祥一〔法政〕大五	年	五	卷	七	號
當面の任務	北條 一雄〔マル〕大五	年	五	卷	七	號
大鹽平八郎と空想的社會主義	住谷 悦治〔社思〕大五	年	五	卷	八	號
ラッサル以前	小泉 信三〔財經〕大五	年	五	卷	一〇	號
理論的闘争開展の社會的根據	北條 一雄〔マル〕大五	年	五	卷	一〇	號
中間派左翼の結成か單一左翼の形成か	山川 均〔マル〕大五	年	五	卷	一〇	號

【社會主義】

正體を曝露せる「大衆」	杉 道夫 (マル) 六五	年五卷	三〇
左翼中間派結成計畫の批判	北條 一雄 (マル) 六五	年五卷	三〇
ベルンシュタインの「追放の時代」	河合榮治郎 (經論) 六五	年五卷	三〇
社會化に就いて	宮田喜代藏 (商義) 六五	年四卷	一
基督教社會主義論	賀川 豊彦	社問講一	
社會運動家及社會思想家列傳	大宅 莊一	社問講一	
原始宗教と社會主義	嘉治 隆一	社問講一	
社會主義と農民運動	稻村 隆一	社問講二	
資本主義文化と社會主義文化	平林初之輔	社問講四	
農業問題に於ける社會民主黨と共産黨	河西太一郎 (社科) 四二	年三卷	一
カウツキー「マルクス主義的農業問題研究方法」	(譯)		
デボーリン「ルカッチと彼のマルクス主義批評」	(譯)		
社會主義運動史	稻村 順三 (我等) 四二	年九卷	一三
リカアド派社會主義	石川三四郎	社經體系	
ブルゲン氏の諸社會主義評論 (譯)	堀 經夫	社經體系	
	田島 錦治 (經義) 四二	年四卷	二六

ブルドンの相互主義	小泉 信三 (財經) 四二	年四卷	二
意識化せる折衷主義とその行方 (山川氏最近の諸論文を評す)	伊吹 英一 (マル) 四二	年三卷	三四
新カント派社會主義	波多野 鼎	社經體系	
社會行動に於ける二様の良心 (無産階級運動に於けるアナキズムよりの逸脱)	本莊 可宗 (解放) 四二	年六卷	四
マクドナルドの社會主義	北岡 壽逸 (社科) 四二	年一	六
左傾思想の社會學的解釋	川邊喜三郎 (社研) 四二	年二	一
歴史「ゾルレン」に交渉する新社會力	村瀬武比古 (法治) 四二	年六	三四
日和見主義の典型 (山川均氏の折衷主義の批判)	徳田 球一 (マル) 四二	年一	三五
非科學的社會主義としてのマルキシズム	猪谷 善一 (企社) 四二	年一	一三
レーニン「マルクス主義の歴史的發展の二三の特性に就て」 (譯)	北浦千太郎 (我等) 四二	年九	四
社會主義と無神論について	佐野 學 (マル) 四二	年一	七
福本イズム批判	諸 家 (解放) 四二	年六	七
ルツボル「カントかマルクスカ」 (譯)	波多野 鼎 (社思) 四二	年六	五
吾々の綱領	レニ (マル) 四二	年一	三七

【社會主義】

「大衆」は何をなさんとするか?	若林 亮 (マル) 四二	年一	三七
マルクスの思惟に於ける「唯物的」(デボーリン及びブルムより)	本莊 可宗 (解放) 四二	年六	八
マルクス説と學問の研究	松本 重敏 (法新) 四二	年一	二二
マルクス無神論とその歪曲	佐野 學 (改造) 四二	年九	七
マクス・アドラーの「マルクス主義國家觀」	平野 常治 (社雜) 四二	年四	三九
現代社會學に於けるマルクスの根本問題	九谷 夏雄 (社思) 四二	年六	七
社會化の際の賠償に關する若干問題	岩城 忠一 (商論) 四二	年二	二
公式社會主義者の哲學	秋山 次郎 (マル) 四二	年一	二
獨逸社會民主主義者の賠償論據に就て	岩城 忠一 (我等) 四二	年九	六
ユートピア社會主義	土山 杏村	社經體系	
マルクス主義と唯物論 (唯物史觀覺書その二)	三木 清 (思想) 四二	年三	七〇
福本イズムの清算	北浦千太郎 (社科) 四二	年三	三
福本氏の體系を評す	河野 密 (社科) 四二	年三	三
追隨主義者の新裝に就いて	淡 徳三郎 (社科) 四二	年三	三
理論闘争の歴史的性質とその次の發展段階	佐野 學 (社科) 四二	年三	三

オーウエンとマルサスの比較研究	北野 大吉 (企社) 四二	年一	一八
新中間派の生誕 (「理論闘争批判」の批判)	若林 亮 (マル) 四二	年一	四
エンゲルス「權威の原理について」	服部 之總 (我等) 四二	年九	八
フエビアン社會主義序論	河合榮治郎 (經論) 四二	年六	二
ジョン・スチュアート・ミルと社會主義	高橋誠一郎 (財經) 四二	年四	一〇
マルクス・エンゲルス著作書目の所在	大塚金之助 (商研) 四二	年七	一
マルクス主義全解	諸 家 (社科) 四二	年三	四
レーニン主義に於けるマルクス主義の展開	佐野 學 (社科) 四二	年三	四
マルクス・エンゲルス文獻考證	リヤザノフ (社科) 四二	年三	四
マルクス主義農業理論の史的發展	村山藤四郎 (社科) 四二	年三	四
社會主義の婦人觀	山川 菊榮 (社科) 四二	年三	四
ボール・ジヤネ「サン・シモニズム」 (譯)	大岩 誠 (法義) 四二	年一	五六
ブラグマチズムとマルキシズムの哲學 (唯物史觀覺書その三)	三木 清 (思想) 四二	年三	七四

カール・マルクス	レーニン(マル)	昭和二年	四號
社會主義婦人運動と赤潮會	山川 菊榮(改造)	六〇	三
赤潮會について	伊藤 野枝(改造)	六〇	三
社會主義運動の願望	新居 格(解放)	六一	四
日本に於ける社會主義の將來と思想界の趨勢	諸 家(改造)	六三	六
明治社會史資料	波多野 鼎(社思)	六四	三
日本フエビアン協會の解散	新居 格(解放)	六五	五
日本社會主義史	木村 毅	社問講	二
日本社會主義史上におけるラーネツド博士	住谷 悦治(同論)	四二	一
明治初期における社會主義、共産主義、無政府主義論	住谷 悦治(我等)	四二	九
獨逸社會黨に於ける硬軟兩派の衝突	桑田 熊藏	大五金井記念	一
オルガニザチオン・エシエリツヒ	室伏 高信(改造)	六一	四
冬眠せる獨逸社會主義運動	藤井 悌(改造)	六五	八
マルクシズムとマルクス修	小泉 信三(財經)	六五	三
正主義——獨逸社會思想社會化に就いて	宮田喜代藏(商叢)	六五	四
第十九世紀前半の獨逸社會			

思想史文獻大要	加田 哲二(三學)	四二	三
ドイツ問題について	ブハーリン(社科)	四二	三
支那社會主義の信徒	小村俊三郎(改造)	六〇	三
バリ・コンミュニンの話	堺 利彦(改造)	六〇	三
露西亞社會主義運動史	嘉治 隆一(社思)	六三	三
米國社會運動の最近動向	八木澤善次(改造)	六五	八
英國に於けるコレクティブイズム思想勃興の一面(ウェッブ)	緒方 清(企社)	四二	一
佛國社會主義者と農民問題	八木澤善次(社政)	四二	一
英國派社會主義	河合榮治郎	四二	社經體系
社會心理學	市村今朝藏	大五社問講	四
法の行はれる社會心理的基礎	中島 重(同論)	四二	一
【社會政策】	参照 社會革命。社會事業。社會問題。都市。ユーロピア。		
英國に於ける最近の社會政策	上田貞次郎	大三和田垣記念	一
生存權の社會政策	福田 德三	大五金井記念	一

解放の社會政策	福田 德三(解放)	六八	年卷一號
社會政策の形而上學	大西猪之介(改造)	六〇	三
自由獲得社會より資本的營利社會へ	福田 德三(改造)	六三	六
疑はれたした社會政策の眞價	田中 貢(エコ)	六五	四
新自由主義と協同組合	上田貞次郎(企社)	六五	一
新自由主義と金の輸出解禁	上田貞次郎(企社)	六五	一
上田博士の新自由主義を評す(新民主主義の提唱)	永井 亨(國家)	六五	四
新自由主義の理論	上田貞次郎(企社)	四二	一
新自由主義と我國の勞働組合	上田貞次郎(企社)	六五	一
新自由主義に對する水井博士の批評に答ふ	上田貞次郎(企社)	六五	一
コールの新自由主義	金子鷹之助(企社)	六五	一
社會政策總論	河津 暹	大五社政系	二
「新自由主義」批判	諸 家(改造)	六五	八
新自由主義と我國の關稅政策	上田貞次郎(企社)	六五	一
社會政策	小林 輝次	大五社問講	三
新自由主義と官業	上田貞次郎(企社)	六五	一
經濟學的立場より見たる獨逸新憲法	井上 貞藏(法政)	六五	三

將來の社會政策(講演)	長岡隆一郎(新聞)	六五	一
新自由主義と租稅制度	上田貞次郎(企社)	六五	一
マックス・ウェバーの政策論の根本概念に就いて	藤田 敬三(經叢)	六五	三
社會政策	永井 亨	四二	社經體系
社會行政	河原田稼吉	四二	社經體系
社會政策序論	田崎 仁義(長叢)	四二	九
コールの新自由主義	金子鷹之助(企社)	四二	一
新自由主義と教育	上田貞次郎(企社)	四二	一
新自由主義と教育革新	木村 正義(企社)	四二	一
勞働者保護と社會政策	伊藤 久秋(長叢)	四二	九
新自由主義の理論	上田貞次郎(企社)	四二	一
社會政策上より見たる日本の政黨	永井 亨(社究)	四二	一
經濟理論と社會政策(「滅びゆく階級」の學說に就いて森本博士の教を乞へる)	南 亮三郎(商討)	四二	二
上田博士著「新自由主義」を論評す	永井 亨(企社)	四二	一
英米に於ける社會調査とその文獻	磯村 英一(社雜)	四二	四
政治學に於ける經濟政策の概念(經濟政策、社會政			

【社會政策】【社會哲學】【社會法學】【社會保險】【社會問題】

策及び政治政策の關係) 今中 次磨 昭二小野塚一

【社會哲學】 社會學を見よ

【社會法學】

アメリカに於ける社會學的

法律學(バンド)

ゾムローの社會學的法理學

【社會保險】

獨逸社會政策的保險の由來

濠洲の現行社會立法及び社

會保險法制定の調査に就

て

佛蘭西社會保險體系及其批

評

合衆國に於ける社會保險制

度概論

チエコスロヴァキア新社會

保險法の立法事情

英國に於ける労働者家族所

得保險問題

社會保險の範圍に就て
社會保險の給付に就て
社會保險の體系(講演)
家族員數保險論

園 乾治(三學) 昭二 三
園 乾治(三學) 昭二 三
森 莊三郎(保評) 昭二 〇
末高 信(早商) 昭二 三
參照|| 移民。階級闘争。家族。
監獄。教育。婚姻。失
業。社會事業。社會專
情。社會主義。社會政
策。社會保險。借家。
住宅。少年犯罪。少年
労働。人種問題。生活
費。生活標準。戦争。
同盟罷工。特殊部落。
都市。犯罪。貧困。貧
民。(浮浪)。優生學。
離婚。労働及び労働階
級。労働保險。(尙各國
名にて「社會」の項を見
よ)

【社會問題】

社會問題の調査方法たるア
ンケートに就て
明治時代の思想界
人口論及賃金學說と社會運
動

山崎覺次郎 大五金井記念
清原 貞雄(歴史) 大八 四 五
小泉 信三(改造) 大九 二 三

群集運動に就ての一考案
社會思想の進展
現代の社會と國民的自覺
近世思想問題の回顧
現代國民思想と國史
社會組織の良否の分岐點
What makes a social system
good or bad?

植田好太郎(解放) 大九 年 二 一〇
堺 利彦(解放) 大九 二 二
吉田 靜致(中史) 大〇 二 二
藤井甚太郎(中史) 大〇 二 二
三宅 雪嶺(中史) 大〇 二 三
ラッセル(改造) 大〇 三 四
B. Russell (改造) 大〇 三 四
杉森孝次郎(解放) 大〇 三 六
河田 嗣郎(解放) 大〇 三 七

現代日本の思想界
社會全一の生活
日本歴史上より見たる日本
改造運動の將來
週制度創設の提唱
我國治者階級の社會史觀
近代流行現象物語
智識階級の無識
クラルテの運動(歐羅巴の
知識階級と其の新思想)
Les intellectuels européens
et les idées nouvelles. Le
mouvement de Clarté

牧 健二(歴史) 大〇 九 一
諸 家(改造) 大〇 三 九
佐野 學(解放) 大〇 三 九
門馬 直衛(改造) 大〇 三 一
山川 均(改造) 大〇 三 二
バルビユス(改造) 大〇 四 四
H. Barbusse (改造) 大〇 四 四
堺 利彦(改造) 大〇 四 五
諸 家(解放) 大〇 四 七
平林初之輔(解放) 大〇 四 七

非公式勸説力
親鸞と現代社會
學問思想及藝術と流行

現在社會と流行
流行の社會心理考察
マンモニズム心理
明治思想界の啓蒙時代
賣淫の文化的研究
改造問題と明治時代の省察
王道と霸道
墮胎禁止と無産階級の態度
道徳的標準と社會的幸福
社會思想の新潮流
日本に於ける社會主義の將
來と思想界の趨勢
社會運動と政治運動
暴力に對する國民の不徹底
態度
新井白石の社會改造論
日本の特殊性と歴史の必然
性
思想と闘争
歴史上より見たる現代の思
想

現代卑屈論
ラチオ文明の原理
社會運動と智識階級

權田保之助(解放) 大〇 四 七
寺田 精一(解放) 大〇 四 七
諸 家(解放) 大〇 四 九
佐々木臥山(歴史) 大〇 一 〇
増田 拘村(改造) 大〇 一 〇
末弘嚴太郎(改造) 大〇 一 一
北 吟吉(改造) 大〇 一 四
黒田 禮二(改造) 大〇 一 九
ラッセル(改造) 大〇 一 九
ビヤード(改造) 大〇 一 二
諸 家(改造) 大〇 一 六
福田 徳三(改造) 大〇 一 六
安部 磯雄(改造) 大〇 一 六
本庄榮治郎(改造) 大〇 一 六
青野 季吉(改造) 大〇 一 七
森戸 辰男(改造) 大〇 一 七
喜田 貞吉(歴史) 大〇 一 七
杉森孝次郎(改造) 大〇 一 七
室伏 高信(改造) 大〇 一 七
麻生 久(改造) 大〇 一 七

【社會問題】

日本社會運動内面史	山崎今朝彌 (解放)	六四	二
軍事行動による社會統制とその崩壊	長谷川萬太郎 (改造)	六四	七
二五の社會運動について	青野 季吉 (解放)	六四	四
解放運動の戦線に立つ人々	諸 家 (解放)	六五	五
大正十五年の諸問題	山川 均 (解放)	六五	五
最近の感想	水守龜之助 (解放)	六五	五
闘争の進化と闘士性格	長谷川萬太郎 (解放)	六五	五
思想取締の理想と其の實現	田村 徳治 (改造)	六五	八
現代常識の根本概念百	杉森孝次郎 (改造)	六五	八
微生物の形而上學	長谷川萬太郎 (改造)	六五	八
朝鮮無産階級の團體及び在日朝鮮團體	高津 正道 (解放)	六五	五
解放運動團體の現勢	横山樸太郎 (解放)	六五	五
黒色青年聯盟	永井 亨 (社政)	六五	一
社會思想の研究及び取締	河崎義三郎 (法公)	六五	一
教育と思想	不破 清誓 (新聞)	六五	一
運動論	成瀬 復一 (新聞)	六五	一
時を尊重し遵守せしむる方法如何	山川 菊榮 (改造)	六五	八
舶來と國産と	河野 密 (解放)	六五	五
社會運動雜筆	荻原 擴	六五	社政系一
近代思想			
迷信文明の變體的延長とし			

ての資本主義文明	長谷川萬太郎 (改造)	六五	八
秘密社會の機能	新明 正道 (改造)	六五	八
思想問題に就て	緒方 清繼 (臺法)	六五	二〇
社會改造の基本的精神	加藤 一雄 (法治)	六五	五
徳川時代に於ける「子おろし」の研究	徳田 彦安 (歴史)	六五	四
群集の社會問題	新明 正道 (我等)	六五	八
社會教化事業	鈴木 誠治	六五	社政系一
自由主義と暴力主義	長谷川萬太郎 (改造)	六五	八
大正十五年解放運動大觀	山崎今朝彌 (解放)	六五	五
合掌的生活を高唱す	堀 榮二 (商叢)	六五	四
ロバート・オーウエン著「社會に關する新見解」を讀む	北澤新次郎 (早商)	六五	二
反動から回顧への一年	長谷川萬太郎 (我等)	六五	八
本年の文藝及び社會を概観して(一九二六年概観)	青野 季吉 (我等)	六五	八
社會問題總論	安部 磯雄		社問講一
賣淫論	村島 歸之		社問講四
現代苦悶の諸相とその打開	諸 家 (改造)	六五	九
解放運動界の巨星新星	諸 家 (解放)	六五	六
人道主義の暴露	大山 郁夫 (我等)	六五	九
大正の政治及び社會運動	渡邊幾治郎 (中史)	六五	三
解放運動者の心理解剖	布施 辰治 (解放)	六五	二

左傾思想の社會學的解釋	川邊喜三郎 (社研)	六二	二
孫文主義總論	徐 世經 (解放)	六二	六
矯風問題	久布白落實	六二	社政系九
興國の傾向歟亡國の傾向歟	播磨 龍城 (新聞)	六二	社政系一
資産家の無自覺	松本 重敏 (法新)	六二	一〇九
社會的闘争に於ける新戰術	松山 斌 (同論)	六二	一三
社交の階級理論	新明 正道 (改造)	六二	九
國の社會的性質	戸田 貞三 (社雜)	六二	四〇
再び思想問題に就て	緒方 清繼 (臺法)	六二	九
「我等は」如何にしてその新進路を打開すべきか	大山 郁夫 (我等)	六二	九
社會問題と宗教思想	渡邊 海旭	六二	社政系十
青年運動	田澤 義輔	六二	社政系十

【弱體保險】	弱體保險の必要及其の經營法	エンブデン (保評)	六五	九
	弱體保險問題	三浦 義道 (新報)	六五	七
	弱體保險と諸外國の實情(講演)	三浦 義道 (保評)	六五	二〇
	弱體保險再保險契約の準據條款	エムブデン (保評)	六五	二〇
	弱體保險に對するヒルフェー	今井田清徳 (國經)	六五	三六
	保險會社の率定組織	國崎 裕 (保評)	六五	二〇
	弱體保險經營の利害	三浦 義道 (保雜)	六五	三三
	弱體保險問題に就て	三浦 義道 (保雜)	六五	三三
	弱體保險の理論と其經營方法	藤井 博 (保評)	六五	六

濠洲の現行社會立法及び社會保險法制定の調査に就て	生江 孝之 (社政)	六五	一
社會的立法の思想的背景	鈴木 義男 (社政)	六五	一
【借地借家調停法】			
調停法の眞價を疑ふ	生 (新聞)	六五	一

【借地法】	借地に因る先取特權を論ず	藥師寺志光	六〇	横田記念
	帝都復興と借地借家權の保護	末弘嚴太郎 (改造)	六三	五
	防火地区域内借地權と借地法第三條に就て	塚田 貫一 (新聞)	六五	一

【借地法】 【借家法】 【社債】

借地権消滅と大審院の驚くべき判決

山口 直(新聞) 大五 一 二六六

借地権消滅と大審院の驚くべき判決

山口 直(法新) 大五 一 二六六

土地明渡訴訟と建物の買手

請求権行使の結果に就て

鈴木喜三郎(新聞) 昭二 一 三六六

防火地区内借地権処理法に就て

債務不履行に因る借地権消滅と借地法第四條

小倉 庫次(都問) 昭二 四 五

土地明渡訴訟と建物の買取

請求権に就て

鈴木喜三郎(法新) 昭二 一 一〇九

借家争議の戦術

借家人運動の本質及方針確立と組織の完成

布施 辰治 社問講四

借家争議の戦術

借家人運動の本質及方針確立と組織の完成

布施 辰治(新聞) 昭二 一 二五六

借家争議の戦術

借家人運動の本質及方針確立と組織の完成

布施 辰治(新聞) 昭二 一 二五六

借家争議の戦術

借家人運動の本質及方針確立と組織の完成

布施 辰治(新聞) 昭二 一 二五六

借家争議の戦術

借家人運動の本質及方針確立と組織の完成

末弘殿太郎(改造) 大三五 一〇

法規

中村 高一(解放) 昭二 六 一五

【社債】

参照|| 會社。株式。株式會社。金融。債券。證券。

英法に於ける社債發行要件

工業資金としての社債論

大木 利一 大五 山口高商

社債と社債券の話

米國に於ける社債の請負に就て

渡邊 鐵藏(イン) 大五 四 一三

記名社債と無記名社債と何れが便利か

米國に於ける社債賣出のシンヂケート

板橋 菊松(イン) 大五 四 一三

社債の擔保に關する經濟的考察

社債償還請求權の消滅時效

B U 生(イン) 大五 四 三

社債不償還と其の責任

英國に於けるデベンチュアー・ストック」制度

栗栖 越夫(イン) 大五 四 三

ハドレー「社債と株式の比率に就て」(譯)

米國社債賣捌シンヂケート契約に就て

池田 了實(銀研) 大五 一 四

自由か強制か(自由主義と無政府主義と集産主義)

自由に關する一考察

栗栖 越夫(イン) 大五 四 三

カント哲學に於ける自由の概念

自由、力、及び無價値の哲學

栗栖 越夫(イン) 大五 四 三

何故明治に自由主義行はれざりしか

ミルの「自由論」

板橋 菊松(イン) 昭二 五 二

トーマス・ヒル・グリーンの自由論

自由の道徳

MIKU生(イン) 昭二 五 四

自由の道徳

自由の道徳

栗栖 越夫(イン) 大五 四 三

自由の道徳

自由の道徳

栗栖 越夫(イン) 大五 四 三

自由の道徳

自由の道徳

栗栖 越夫(イン) 大五 四 三

自由の道徳

自由の道徳

栗栖 越夫(イン) 大五 四 三

自由の道徳

自由の道徳

栗栖 越夫(イン) 大五 四 三

自由の道徳

自由の道徳

栗栖 越夫(イン) 大五 四 三

自由の道徳

自由の道徳

栗栖 越夫(イン) 大五 四 三

自由の道徳

自由の道徳

栗栖 越夫(イン) 大五 四 三

自由の道徳

自由の道徳

栗栖 越夫(イン) 大五 四 三

自由の道徳

自由の道徳

栗栖 越夫(イン) 大五 四 三

自由の道徳

自由の道徳

栗栖 越夫(イン) 大五 四 三

自由の道徳

自由の道徳

栗栖 越夫(イン) 大五 四 三

自由の道徳

自由の道徳

栗栖 越夫(イン) 大五 四 三

帝都復興と借地権借家權の保護

實際問題で曝露された借家

實際問題で曝露された借家

實際問題で曝露された借家

實際問題で曝露された借家

實際問題で曝露された借家

實際問題で曝露された借家

實際問題で曝露された借家

實際問題で曝露された借家

實際問題で曝露された借家

實際問題で曝露された借家

實際問題で曝露された借家

實際問題で曝露された借家

實際問題で曝露された借家

實際問題で曝露された借家

實際問題で曝露された借家

實際問題で曝露された借家

實際問題で曝露された借家

實際問題で曝露された借家

實際問題で曝露された借家

實際問題で曝露された借家

實際問題で曝露された借家

實際問題で曝露された借家

實際問題で曝露された借家

實際問題で曝露された借家

實際問題で曝露された借家

實際問題で曝露された借家

實際問題で曝露された借家

實際問題で曝露された借家

實際問題で曝露された借家

實際問題で曝露された借家

實際問題で曝露された借家

實際問題で曝露された借家

實際問題で曝露された借家

自由か強制か(自由主義と無政府主義と集産主義)

自由に關する一考察

カント哲學に於ける自由の概念

自由、力、及び無價値の哲學

何故明治に自由主義行はれざりしか

ミルの「自由論」

トーマス・ヒル・グリーンの自由論

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

自由の道徳

平安朝時代宗教道德の概観
大正十年の宗教界
神の問題
宗教的真理の本質
生命宗教の本質
宗教の獨立的絶對性より普遍的絶對性へ
宗教對思想問題研究號
惡魔の宗教
「永遠の生命」思想と宗教
日本古代の宗教思想
宗教倫理哲學界總評
宗教哲學の再建
原始社會に於ける宗教
原始宗教としての生殖器崇拜
社會主義思想の宗教的交渉
原始宗教としての太陽崇拜
道德と宗教
宗教改革の先驅グロセテス
テとその時代
日本人の宗教生活の原始と其年代
神自體に就て

清原 貞雄 (歴史)	大九	六	五	號
沖野岩三郎 (解放)	六〇	三	三	
柳 宗悦 (改造)	六二	四	四	
柳 宗悦 (改造)	六二	四	四	
賀川 豊彦 (改造)	六二	四	八	
石原 純 (改造)	六二	四	九	
厨川 辰夫 (改造)	六二	四	一	
志筑 祥 (中史)	六二	五	五	
西村 眞次 (中史)	六二	五	五	
村松 正俊 (解放)	六二	四	二	
柳 宗悦 (思想)	六三	三	一	
津田 敬武 (中史)	六三	六	一	
出口 米吉 (中史)	六三	六	一	
河田 嗣郎 (解放)	六三	五	四	
出口 米吉 (中史)	六三	六	五	
安倍 能成 (思想)	六三	四	三	
朝日 融溪 (中史)	六三	七	二	
福原 武 (中史)	六三	八	一	
柳 宗悦 (思想)	六三	三	一	

イギリスの革命期に現はれたる宗教思想の變遷に就いて
埃及第十八王朝時代の宗教
鎌倉時代に於ける宗教改革の問題
ビスマルクの信仰と文化闘争
ルーテルの革命的態度に就て
宗教の社會的意義
維新の改革と中世不定の運動
メキシコの宗教争議
ウバニシヤッド哲學の究極理想
宗教劇に就いて
羅馬法王の宗教政治に就いて
國家及寺院と宗教的行動
原始宗教と社會主義
科學世界のゲッセマネの園
(現代に於ける形式宗教)

朝日 融溪 (中史)	六三	九	八	五	一
恒松 安夫 (史學)	六三	三	一	五	一
松本彦次郎 (史雜)	六三	三	一	二	一
時野谷常三郎 (史林)	六四	一〇	一	一	一
朝日 融溪 (中史)	六四	一〇	六	七	一
日比谷市三 (法公)	六五	三〇	七	一	一
竹田 勝也 (思想)	六五	六	一〇	一	一
福田 光愛 (國知)	六五	六	一〇	一	一
小池 覺淳 (法政)	六五	三	一〇	一	一
仲木 貞一 (法政)	六五	三	一〇	一	一
佐治 謙讓 (法叢)	六五	一六	一〇	一	一
長谷川萬太郎 (我等)	六五	八	一〇	一	一
嘉治 隆一	六五	八	一〇	一	一

の煩悶

宗教問題の社會學的考察
宗教と法律
禊祓に關する研究 (宗教的除災式と法律的制裁法との分化)
宗教の效驗に就て
宗教の效驗に就て
社會主義と無神論について
神の性に就いて
都市人の要求としての宗教
第十七世紀英國の民權思想と新教
マルクス無神論とその歪曲
倫理的宗教と都市生活
宗教の效驗に就て (忠義孝道)
社會問題と宗教思想
社會教化と宗教

賀川 豊彦 (改造)	昭二	九	一	號
赤神 良讓 (社研)	昭二	二	一	
三谷 隆正	昭二	社經體系		
植木直一郎 (社雜)	昭二	三	三	
河原榮次郎 (新聞)	昭二	一	二	六〇
河原榮次郎 (正義)	昭二	三	六	九
佐野 學 (マル)	昭二	一	三	六
中島 悅次 (中史)	昭二	三	五	五
小田垣光之輔 (都問)	昭二	四	五	五
横 智雄 (三學)	昭二	二	六	六
佐野 學 (改造)	昭二	九	七	七
小田垣光之輔 (都問)	昭二	五	二	二
河原榮次郎 (新聞)	昭二	一	二	三
渡邊 海旭	昭二	社政系十		
加藤 咄堂	昭二	社政系十		

產關係と宗教法案
宗教法案の民法問題
宗教法案摘批
宗教法案に就て
宗教法案に就て
宗教法概説

工業主義と私有財産
Industrialism and private Property
私有財産制度について (國家の本質と關聯しつゝ)
ハウンド氏「私有財産制度の基礎に關する法理學史的考察」(譯)
新獨逸國憲法と私有財産制度
人格法學と資本及財産制

【集産主義】 共產主義及び社會主義を見よ

我妻 榮 (法協)	六五	四	八	
穂積 重遠 (法協)	六五	四	一〇	
伊藤 武雄 (法協)	昭二	四	一	二
峯川辰五郎 (法公)	昭二	三	四	
下間 空教	昭二	社政系十		
ラッセル (改造)	六〇	三	一〇	
B. Russell (改造)	六〇	三	一〇	
林 要 (社思)	六四	四	五	
田岡嘉壽彦 (商集)	六五	一	一	
田岡嘉壽彦 (商集)	六五	一	一	
渡邊 省三 (法新)	昭二	一	一〇	七

住所に關する考察

齊藤常三郎(國經) 昭二 四二 一

【住宅問題】

参照建築。借家。地代。都市。都市計畫。

英國に於ける住宅政策

河合榮治郎(都問) 大五 三 一三

都市問題及住宅政策

弓家 七郎 大五 社政系六

住宅問題

小島 憲(政經) 昭二 二 一

住宅問題に對する瑞西の立法の回顧

後藤 清(商論) 昭二 二 一

【聚落】

聚落の研究

西龜 正天(歴史) 大七 二 一

聚落の高度

橋本 辰彦(歴史) 大九 六 一

工業の地理的分布と聚落形態との關係

黒正 巖(歴史) 大一一 一 一

箱根山に於ける交通及聚落の變遷

淺井 治平(歴史) 昭二 究 三

聚落の自然的條件について

奥井復太郎(三學) 昭二 二 九

聚落に關する三新著

黒正 巖(經叢) 昭二 二 五 六

【儒教】

儒教成立史の側面

津田左右吉(史雜) 大四 三 六 一

孔子と儒教

下村慎太郎(中史) 大四 一 一

東西文化の流通と孔子教の西漸

後藤 末雄(思想) 大五 一 〇 五 五 七

儒教と商業(講演)

中村久四郎(亞經) 大五 一 〇 四

儒教の合理主義

五來 欣造(早政) 昭二 一 七

【出版】

参照著作權。新聞紙。

徳川末の出版界に於ける繪師と作者

藤懸 靜也(史雜) 大七 二 九 六 七

近世の出版界

中村喜代三(歴史) 大一一 一 二 一 二 五

南北朝時代の出版事業

中村 直勝(歴史) 大五 一 七 五

官憲の報道管理

山根眞次郎(改造) 昭二 九 四

【シユムペーター】(Joseph Schumpeter)

シユムペーターのシユモツラー觀

菊田 太郎(經叢) 大五 三 五

【シユモラー】(Gustav Schmoller, 1838-1917)

シユムペーターのシユモツラー觀

菊田 太郎(經叢) 大五 三 五

【シフマルンバツハ】(Eugen Schmalerbach, 1873-)

會計價値の理論(シユマー)

レンバツハの價値論研究 林 健二(國經) 大五 四 五 六 號

【シユミット】(Conrad Schmidt, 1863-)

唯物論かカント主義か(ブレハーノフ及シユミット)

(社思) 大五 五 八

【狩獵】

印度支那の牧畜と狩獵

向井 章(亞經) 大五 一 〇 三

【準備金】

法定準備金に就て

三邊 金藏(財經) 昭二 一 四 七

積立金の諸問題

長谷川安兵衛(早商) 昭二 三 二

【莊園】

参照封建制度。

守護地頭考

星野 恒(史雜) 昭二 二 三 五 三 元

後三條帝莊園の處分に關する文書

三上 參次(史雜) 昭三 一 〇 九

下總莊園考

柳岡 良弼(歴史) 昭三 二 八 九

後三條帝莊園の御處分に關する文書に付

星野 恒(史雜) 昭三 四 二 三

地頭の得分に就て

黒板 勝美(史雜) 昭三 一 三 二

地頭に關する通俗の誤解三則

喜田 貞吉(歴史) 昭三 六 五 五

維新前後に於ける大名領地莊園の起原

喜田 貞吉(歴史) 昭三 九 八 一 二

下司と地頭に就いて

川上 多助(歴史) 大四 二 天 五

高野山領莊園に就いて

魚澄惣五郎(歴史) 大五 二 八 二

守護制度の研究(講演)

魚澄惣五郎(歴史) 大七 三 三 三 五

莊園制度崩壞の一例として

三浦 周行(史雜) 大八 三 〇 一 〇

の越前國河口坪江莊の研究

牧野信之助(史林) 大九 五 三 四

武家と莊園制度

芝 葛盛(中史) 大九 一 六

守護地頭に關する新説の根本的誤謬

平泉 澄(史雜) 大二 三 四 一

莊民の生活(特に伊賀黒田庄に關して)

中村 直勝(史林) 大二 八 一

平安朝の莊園政策

川上 多助(史雜) 大二 三 四 二 七

文治の守護地頭に就きて

牧 健二(史雜) 大二 三 四 四

平泉學士の教へに答ふ

【莊園】【傷害の罪】【商業】

延久記録所の意義

三浦 周行 (歴史) 六二二 三二四

大名論

牧 健二 (歴史) 六二二 甲六

田莊の研究 (莊園の起原の一節)

牧 健二 (社科) 六五二 七

平安朝時代に於ける莊園の組織

川上 多助 (史林) 六五二 一四

莊民の生活 (再び)

中村 直勝 (史林) 四二二 一

日本國家の歴史的諸形態

高橋 信司 (同論) 四二二 一

ウエーバー「領主財産の成立」(譯)

黒正 巖 (歴史) 四二二 九 二二三

舊南部領の莊園類似の制度

木村 修三 (農經) 四二二 三

【傷害の罪】

ツアイラト「スポーツに於ける傷害の刑法上の考察」(譯)

仲 節雄 (法公) 四二三 二

参照 會計學。會社。科學的管理法。外國爲替。貨幣。(爲替)。關稅。恐慌。競爭。銀行。金融。景氣。經濟學。減價。原價計算。工業。廣告。財産目錄。産業。市場。

【商業】

資本。(商業會議所)。商業教育。商業政策。商業道德。商人。商標。信託。信用。倉庫。デパートメント・ストア。投機。富。取引所。賤廉。販賣。貿易。簿記。

商業及商人階級の發生

明治の商工界に於ける五代友厚

勞農露國の商業組織に就て

江戶文學に現はれた商人及商業

神社と商業

平安時代の商業及び商人の生活について

室町時代に於ける京都の商業

商業組織の改善

天保の改革の兵庫の商業に及ぼせる影響

古田 良一 (歴史) 六五二 一七 六

石川博士の「商業十二講」

矢作 榮藏 (經論) 六五二 一五 二

儒教と商業 (講演)

大泉 行雄 (商工) 六五二 一五 一

中等商業學校改善論

森 富治郎 (企社) 四二二 一 二

商業專門教育の改革に就いて

池田 信行 (銀叢) 四二二 九 一

商業學者と商業教員

霞峰 閑人 (會計) 四二二 二〇 五

獨逸に於ける專門商業教育

池田 信行 (商評) 四二二 六 二二三

支配人の代理權

本間 喜一 一六〇 横田記念

商事代理權に關する考察

高窪喜八郎 (新報) 六五二 三六 一三

ヒルファデーディング「商業政策と農業恐慌」(譯)

太田 徹夫 (法政) 四二二 二四 一、三

商業政策

河津 進 一四二 社經體系

【商業帳簿】

参照 財産評價。財産目錄。貸借對照表。

商業帳簿の意義に關する學說の誤謬

高窪喜八郎 (正義) 六五二 二 七

ルイ十四世商業條例中商業帳簿に關する條文

岡田 誠一 (會計) 六五二 一 四

リチャルド・カンチロン

「商業一般論」の研究

伊藤 久秋 (商濟) 六二二 七 二一

明治大正商業史論第一期序

井上 貞藏 (法政) 四二二 二 二

商業の機械的及び有機的職能と其分解作用

向井 鹿松 (國經) 四二二 四 四

語言の雪冤(「出物」の語義)

播磨 龍城 (新聞) 四二二 一 二六八

世界商業史

野村兼太郎 一四二 社經體系

新經濟政策後に於ける露國の商業機關

波多野義熊 (亞經) 四二二 二 三四

商業の資本的集中 (Douman & Whitaker)

猪谷 善一 (企社) 四二二 一 一七

【商業學校】

商業教育を見よ

【商業教育】

参照 會計學。徒弟。簿記。

神戸高商の過去現在及び將來 (講演)

水島 鐵也 一六三 神戸高商

ドンハム「ケース・システムに依る商業教育」(譯)

鈴木 得二 (商叢) 六五二 一 一

米國に於ける商業大學教育

平井泰太郎 (企社) 四二二 一 二

ドイツ高等商業教育論

増地庸治郎 (企社) 四二二 一 二

【商業】

【商業學校】

【商業教育】

【商業使用人】

【商業政策】

【商業帳簿】

【商業帳簿】

【商業帳簿】

【商業帳簿】

【商業帳簿】

【商業帳簿】

【商業帳簿】

【商業道德】【證券】【證據】【商行為】

1100

【商業道德】

參照＝競争。

商業道德
實業と道德との兩立如何

有馬 祐政（歴地）六四四一
菱川 精一（山商）四二一

【證券】

參照＝株式。銀行。金融。債
券。社債。船荷證券。
有價證券。

企業と證券制度
流通證券に就いて
米國の證券業者とシンヂゲ
ートの責任

佐々木吉郎（明商）六五一
平田 央（商叢）六五四
M K 生（イン）四二六

【證據】

事件の真相を促らへ公明の
裁判を得んとせば證據證
言を眞實ならしむること
寫眞科學に依る筆跡及印影
の鑑定に付て
陪審法施行後の證據の處理
に就て
タニー「證人訊問論」（譯）
刑事探證資料

松倉慶三郎（新聞）六五
石井敬三郎（法公）六五〇
板倉松太郎（法曹）六五
三浦 強一（法公）六五〇
山崎 佐（正義）六五〇

（仲立營業）。賣買。保
險。有價證券。

【上告】

De l'irrecevabilité du pourvoi
en cassation pour violation
ou fausse application d'une
loi étrangère

Jean Ray 年卷
大七富井祝賀

上告審の事實審理に於ける
附帶上告
事實問題と法律問題
第一審判決に對する上告に
於ける事實審理開始決定
の不法續論並に大赦事件
に對する實體判決の違法
を論ず

平井彦三郎（法曹）六五四
豐島 直通（法曹）四二五

第一審の判決に對する上告
に於て事實審理開始の決
定を下し得るや、又之を
爲したる場合の前後策を
論ず

溝淵 孝雄（法曹）四二五

第一審の判決に對する上告
に於ける事實審理開始決
論す

溝淵 孝雄（法新）四二一

【上告】【商事調停法】【上訴】

檢事檢證を爲し得る場合に
鑑定其他の強制處分を爲
し得ざる場合ありや
變死屍體の檢視檢證と他の
強制處分に就て
起訴後作成せられたる私文
書の證據力と其判例
現行犯發覺したるも犯人不
明なる場合に檢事は證人
訊問を爲し又は鑑定を命
ずることを得るや
刑事探證學的に應用すべき
寫眞
檢事の檢視、檢證及鑑定を
論ず
刑事訴訟法に於ける證言の
範圍
死體檢視後に於ける檢事の
鑑定
鑑定と妥協と訴訟と

平井彦三郎（法曹）四二五
松水 志逸（法曹）四二五
佐々木藤市郎（法公）四二三
池田 昌深（新聞）四二二
石井敬三郎（法公）四二三
溝淵 孝雄（法新）四二一
平井彦三郎（法曹）四二五
津田 進（法治）四二六
大澤 一六（法新）四二一
參照＝運送營業。（運送取扱營
業）。（寄託）。（交互計算）。
證券。倉庫營業。問屋營
業。匿名組合。取引所。

【商行為】

定の事件に付大赦ありた
る場合に實體判決を爲し
たる違法を論ず
第一審判決に對する上告と
事實審理
實體的法律違背の上告を論
ず

溝淵 孝雄（法新）四二一
藤田 和夫（法新）四二一
溝淵 孝雄（法新）四二一

【商事調停法】

商事調停法の長所
商事調停と人間性
英國に於ける商事仲裁の概
觀
商事調停委員に呈す
商事調停委員に呈す
商事調停に就て（講演）

長島 毅（法新）六五
奥戶善之助（新聞）六五
神垣 秀六（法曹）六五
小橋 壽夫（新聞）六五
小橋 壽夫（法新）六五
今村恭太郎（法新）四二一

【上訴】

附帶上訴はなるべく避けら
れたし
上訴權回復の請求に所謂自
己又は代人の意義並被告

齊藤 巖（新聞）六五

1101

人が原審に於ける辯護人に上訴申立を依頼したる場合の兩者の地位其他辯護人の過失に因る原状回復を論ず

平井彦三郎 (法曹)	昭二五	五
溝淵 孝雄 (法曹)	昭二五	七

【聖德太子】

文化史上より觀たる聖德太子

聖德太子の内治外交
聖德太子傳の奇蹟に就いて

黒板 勝美 (歴史)	六七二	一
内藤虎次郎 (歴史)	六七二	一
喜田 貞吉 (歴史)	六七二	一
大須賀秀道 (歴史)	六七二	一
清原 貞雄 (歴史)	六七二	一
境野 哲 (歴史)	六七二	一
西田直二郎 (歴史)	六七二	一
橋川 正 (歴史)	六七二	一
播磨 龍城 (新聞)	六七二	一
播磨辰治郎 (臺法)	六七二	一

眞宗より觀たる聖德太子
神道史上の聖德太子
聖德太子三辨
太子の流芳
聖德太子傳の研究
聖德太子と裁判制度
聖德太子と裁判制度
聖德太子と裁判制度

石橋 五郎 (歴史)	四五	四五
岡田 正之 (史雜)	四五	七
橋川 正 (歴史)	六七二	一
聖德太子十七條憲法評論		
憲法十七條に就いて		
憲法十七條と上宮御製疏		

十七條憲法

石橋 五郎 (歴史)	四五	四五
岡田 正之 (史雜)	四五	七
橋川 正 (歴史)	六七二	一

十七條憲法と羅馬の十二表法との比較

健二 (歴史)	昭二二	一
---------	-----	---

【商人】

日本商人史
日本商人史觀
古代の商人
平安時代の商業及び商人の生活について

三浦 周行 (歴史)	六四	四
喜田 貞吉 (歴史)	六四	四

鎌倉時代の商人
中世の商人と海賊衆
搖籃期に於ける近江商人
徳川時代の商人
江戸文學に現はれた商人及び商業
明治時代商人の第一歩
商人排除論を評す

西岡虎之助 (歴史)	六四	四
大森金五郎 (歴史)	六四	四
相田 二郎 (歴史)	六四	四
牧野信之助 (歴史)	六四	四
赤堀又次郎 (歴史)	六四	四
高須芳次郎 (歴史)	六四	四
藤井甚太郎 (歴史)	六四	四
小林 行昌 (早商)	六四	四

【證人】

證據を見よ

【少年犯罪】

参照II(少年裁判所)不夏少年

少年法實施後東京區裁判所に於ける犯罪少年に就ての調査

石田 弘吉 (法曹)	二五	九
石田 弘吉 (法曹)	二五	七

【少年保護】

少年保護の基本原理解
異常兒保護
社會的兒童保護概論
司法保護事業の概要
無産階級と兒童保護
少年保護運動資料

新納 時哉 (法曹)	二五	四
富士川 游	二五	八
倉橋 惣三	二五	八
岩村 通世 (法公)	二五	四
生江 孝江 (社政)	二五	一
S. M生 (法曹)	二五	一

【少年労働】

ツヤルモン「佛國に於ける婦人、少年及家庭労働に關する立法」(譯)
本邦都市に於ける少年雇傭事情

三浦 義一 (法曹)	昭二五	一
磯村 英一 (社政)	昭二一	八

【消費】

消費
消費經濟は生産經濟の先決問題
消費經濟論
消費論の本質及研究範圍
居住費の研究特にシユロへの法則に就いて

パウアー (純集)	六五	一
中島久萬吉 (統集)	六五	一
中島久萬吉 (統集)	六五	一
井關 孝雄 (法政)	六五	一
郡 菊之助 (商討)	六五	一
矢作 榮藏	六五	一
本位田祥男 (解放)	六五	一
ウエップ (改造)	六五	一
Sidney Webb (改造)	六五	一
大野彌曾次	六五	一
上田貞次郎 (企社)	六五	一
徳永 直 (解放)	六五	一
岡本 利吉 (解放)	六五	一

【消費組合】

Les sociétés cooperatives au Japon
社會改造運動としての消費組合の價値
資本家的産業制度の自然的變形
The consumers' co-operative movement in Great Britain
配給問題と消費組合
新自由主義と協同組合
實際を如何に運動すべきか
如何にして消費組合運動者となりしか
労働組合の一事業としての

参照II(共済組合)共産主義、社會主義、利益分配、労働組合

【條約】【剩餘價值】【ジョオンス】【職業】【植民地】

二〇六

【條約】

一七六三年の巴里條約に就いて

國際條約締結權

米國憲法上に於ける條約の特質

條約論の批判的考察
事情の變遷と條約の效力

【剩餘價值】

河上博士の剩餘價格論

剩餘價格に對して再び教を河上博士に請ふ

剩餘價格第三論(河上博士の再論について)

New theory of surplus value and the harmony of the various classes of society.
マルクス「剩餘價值學說史」

参照||外交。國際關係。國際法。最惠國條款。日英同盟。平和條約。(一九一九年)。(尙各國名にて「對外關係」の項を見よ)

野村兼太郎(史學) 六四 四
稲田周之助(新報) 四二 三
大山卯次郎(外時) 四二 五
山本三吾(外時) 四二 四
信天淳平(早政) 四二 一

高田 保馬(解放) 六三 五
高田 保馬(解放) 六三 五
高田 保馬(改造) 六三 六
田島 錦治(京紀) 六五 一

河津 暹 一 六
武藤 長藏(歴史) 六七 二
西田與四郎(歴史) 六七 二
内田 銀藏(歴史) 六七 二
高岡 熊雄(改造) 六五 八
細川 嘉六(原雅) 四二 五
長田 三郎(経叢) 四二 五
長田 三郎(國經) 四二 三

【植民政策】

人種に關する植民政策の一端

植民の目的を論じて諸國戦後の植民政策に及ぶ

航海條令と英國の植民政策

クローンウエルの植民政策

新日本の植民政策
The basic principle of future colonial policy

山内 正瞭 一 六
河津 暹 一 六
竹林 熊彦(歴史) 六七 二
阿部 秀助(歴史) 六七 二
浅見 登郎(外時) 六五 四
山本美越乃(京紀) 六五 一

【植民】【植民政策】【植民地】

二〇七

【ジョオンス】

(Richard Jones, 1790-1855)

歴史學派の先驅者としてのリチャード・ジョーンズ

小農地代論

【職業】

職業市場に現はれた就職難の解剖的考察

子弟の職業選擇に就いて
フレイド「職業選擇に於ける統計的見地」(譯)

智識階級の就職難と教育
職業指導

ドイツ職業調査報告
職業統制と高等教育
支那の職業紹介事業

大内 兵衛(原六) 四二 一
堀 經夫(経叢) 四二 二
東浦 庄治(社政) 四二 一

安田 龜一(改造) 六三 六
末弘嚴太郎(改造) 六五 八
風早 徹(勞科) 六五 三
大泉 行雄(商工) 六五 一
武田 眞量 一 二
増地庸治郎(企社) 四二 一
倉持 徳久(経研) 四二 四
岡野 一朗(社政) 四二 一

【植民】

誤れる植民政策の畸形兒一
琉球

矢内原教授の「植民及び植民政策」

植民政策の眞諦
植民政策

英國労働黨の植民政策(Curt) 金田 近二(企社) 四二 一

【植民地】

獨逸海軍と其海外植民地の初期

西班牙領植民地の盛衰
植民地と砂糖業

歸化植物より見たる植民地論

植民地の種類及其統治策
イタリヤと植民地問題
植民地領有の價值如何(ノルマン・エンゼルの「大幻影」の検討)

亂雜遠慮の植民地法制
ドイツの舊植民地恢復熱
植民及び植民地の意義

山本美越乃(経叢) 六五 一
大内 兵衛(経論) 六五 二
山本美越乃(外時) 四二 五
東郷 實 一 二
金田 近二(企社) 四二 一
長 壽吉(歴史) 六七 一
山鹿誠之助(歴史) 六七 二
下田 禮佐(歴史) 六七 二
平山常太郎(歴史) 六七 二
下田 禮佐(歴史) 六七 一
藤澤 親雄(國際) 六五 五
松下 芳男(法治) 六五 五
西本辰之助(法研) 四二 五
堀 敏一(國知) 四二 七
長田 三郎(経叢) 四二 三

【植民地】 【食糧】 【女子】 【所得】

二〇八

植民及び植民地の字義
植民的保護地の理念

長田 三郎 (國經) 昭二 四三
長田 三郎 (商經) 昭二 一 四八

【食糧】

【女子】

参照 生活費。

さつまいものはじまり
十八世紀の末フランス人の
常用したる野菜物に就て
十八世紀末フランスに於て
常用したる穀類及び果物
に就て

藤田 明 (歴史) 昭六 六 二
坪井九馬三 (史雜) 大四 天 五

原始民族の水産食料
日支飲食物の關係
原始時代の食物
蕪粉に關する研究
東京市の生野菜供給概況
珈琲價格引上政策に就て
強制土地收用と食糧増殖
食糧品の輸出獎勵を念とせよ

坪井九馬三 (史雜) 大五 二七 九
岸上 鎌吉 (中史) 六二 六 一
中村久四郎 (中史) 六二 六 四
沼田 頼輔 (中史) 六二 六 五
西田 彰三 (商討) 六五 一 上
福本 英男 (都問) 六五 三 二
織田松太郎 (商經) 六五 一 四
堀江 歸一 (エコ) 六五 四 一九
井上 正賀 (洋經) 六五 一 二三八

A bird's-eye view of Japanese pickles

財部 靜治 (京紀) 六五 一 二
上田貞次郎 (企社) 昭二 一 二
有元 英夫 (企社) 昭二 一 二

我國生鮮食料品市場の將來
食糧及人口問題
餉に關する研究
食糧生産上に於ける一革命
の可能性

本邦に於ける牛肉の需給關係に就て
本邦食料問題と滿洲
巴里に於ける食料品市場の發達

我國の食料問題と支那の經濟資源
人口と食料問題

階級闘争當事者としての雇
傭所得と資本所得
國民所得について (統計的
研究序論)

國民所得とその分配
セイの土地所得論

【女子】

【所得】

婦人を見よ

【所得】

【女子】

参照 財產。資本。貨銀。富。

補瀬 常猪 (企社) 昭二 一 二
石川 潔太 (統雜) 昭二 四 二
品川 秀三 (商討) 昭二 二 上下
那須 皓 (農經) 昭二 三 三
岡田 博道 (明商) 昭二 二 四
關 未代策 (明商) 昭二 三 二二三
木村増太郎 (法集) 昭二 三 二
田中 穂積 (早商) 昭二 三 二

大町 端二 (新報) 昭二 三七 三七
松本 重敏 (正義) 昭二 三 七
高橋 正雄 (經論) 大五 五 一
岡崎 良藏 (商經) 大五 一 一
増井 幸雄 (三學) 大五 二 二

英國に於ける小所得額の推計

(統計) 昭二 一 卷 三二

【所得税】

所得税法上に於ける建設利息

武井 猛 (會計) 昭二 二 五

所得申告遺漏の補充方法
(特に消費事實に依る補充方法)

所得税の目的物に就て
精神労働者と獨逸所得税法
所得税雜題

神戸 正雄 (經叢) 昭二 二 四 六
北崎 進 (政經) 昭二 二 二 二
汐見 三郎 (經叢) 昭二 二 五 一
福田 清 (會計) 昭二 二 二 二

【所有權】

参照 土地所有權。

舊約の所有觀念
文化史上の所有權の叛逆
資本主義的生産組織に於ける所有權の作用 (資本主義と私法研究への一寄與としてカルネルの所論)

穂積 重遠 (改造) 大三 六 八
新井 誠夫 (中史) 大三 九 六
我妻 榮 (法協) 昭二 登 三五

續權 (譯)
所有權の不可侵

大町 端二 (新報) 昭二 三七 三七
松本 重敏 (正義) 昭二 三 七

【所有權 (法)】

参照 入會權。外國人土地所有權。共有。物權。

土地測量誤謬の土地所有權に及ぼす影響と其の救済とに關する法律問題に就て
有價證券の所有權に就て

【ジヨールレス】 Jean Jaurès, 1859-1914)

ジヨールレスの撃たれたるク
ロアサンの酒場 (放浪記の二)
史的理論主義か史的唯物論か (ジヨールレス對ラファ
ルグとの論争) (譯)

石濱 知行 (社思) 大四 四 五
淡徳三郎 (社科) 大五 二 八

【人格】

【人格】

参照 權利。

人格と世界
哲學と人格關係

阿部 次郎 (改造) 大二 四 四
紀平 正美 (思想) 大四 九 五〇

【所得】 【所得税】 【所有權】 【所有權 (法)】 【ジヨールレス】 【人格】

二〇九

【シンクレア】

(Upton Beall Sinclair (Pseud. Arthur Stirling), 1878-)

アプトン・シンクレアの自
叙傳(放浪記の五)
大學の資本主義化

石濱 知行(社思)大二四 四 八
シンクレア(我等)昭二九 三
参照|| 權利。自由。人格。(臣
民)。生存權。奴隷。民
主義。

【人権】

二種の人権宣言

森戸 辰男(改造)大九二 一〇
参照|| 移民。國勢調査。植民。
人口統計。統計。(マル
サスの人口論に就いて
は「マルサス—人口論」
を見よ)

【人口】

人口論及賃銀學說と社會運
動

小泉 信三(改造)大九二 三

新マルサス主義と貧困避妊
搾取

高島 素之(改造)大九二 一〇

産兒調節と新マルサス主義
情慾産兒制限の哲學

山川 均(改造)大九二 一〇

Birth control: past present
and future

M. Sanger (改造)大一〇 三 六
エリス(改造)大一〇 三 一三

産兒制限と性の考察

鈴木文治氏の人口制限論

Birth-control

羅馬の人口政策(特に羅馬
府に於けるプロレタリア
ト政策)

H. Ellis (改造)大一〇 三 一三
安藤 俊雄(歴史)大二〇 九 八 一六

新マルサス主義の生物學的
吟味

中山 啓(解放)六一 四 四

婦人の力と産兒制限

サンガー(改造)六一 四 四

Woman's power and birth
control

M. Sanger (改造)六一 四 四

産兒制限に對する所説及び
批判

藤井健治郎(解放)六一 五 三

奈良朝時代の人口の研究

澤田 吾一(史雜)大五 三 七 二七

産兒調節論批判

陣岐 義等(勞科)大五 三 二 二〇

人口法則と産業豫備軍の法
則

南 亮三郎(商討)六一 一 一 上

大西教授と人口論(遺著「
人口と國力」を讀みて)

南 亮三郎(商討)六一 一 一 上

資本主義末期の一症狀とし
ての人口過剰のうめき

河上 肇(社問)六一 一 一 七三

生活難の事實を言葉の上で
否認することにより之を
解決せんとする、高田、
氣賀二博士の意見

河上 肇(社問)六一 一 一 七四

鈴木文治氏の人口制限論

河上 肇(社問)六一 一 一 七四

人口増殖理論曲線に關する
數學

齋藤 齊(統集)昭二 一 四五二

人口問題の反批判

高田 保馬(改造)昭二 九 一〇

オーウエンとマルサスの比
較研究

北野 大吉(企社)昭二 一 一八

景氣變動と人口現象

福井 文雄(經研)昭二 四 四

文化意識の發達と人口減衰
の諸兆(知識階級婦人の
出生率に關する研究)

磯村 英一(社雜)昭二 四 四

人口論

淡 德三郎(社科)昭二 三 四

經濟學に於ける過剰人口論
の不可能

竹村豊太郎(三學)昭二 三 二一

人口問題の自然科學的意義
と社會學的意義

長谷川萬次郎(我等)昭二 九 九

共産社會と人口制限

南 亮三郎(國經)昭二 四 六

都市人口制限問題

岡本駒之助(法公)昭二 三 一

人口と食料問題

田中 穂積(早商)昭二 三 二

マルクス・モスト共編「資
本主義的人口法則」(譯)
「人口」の概念を産み出し
た統制組織

嘉治 隆一(我等)昭二 九 一〇

本邦の大都會人口

高野岩三郎(我等)昭二 九 一〇

本邦人口過剰問題

高野岩三郎(我等)昭二 九 一〇

人口過剰の世界的問題

成田 三二(統集)大五 一 五四二

人口新論(人口増進の軌道
を論ず)

稻垣 乙丙(統時)大五 一 一六

生物學と産兒制限

山本 宣治(大五社問講)四

玉井學士著「人口思想史論」
を讀む

南 亮三郎(商討)大五一 一 下

人口問題の生物學的一考察

宮島幹之助(改造)昭二 九 一

人口問題に關して稻田博士
に質す

鹿島宗二郎(社研)昭二 二 一

再び人口の増殖に就て

稻垣 乙丙(統時)昭二 一 一八

人口問題と歐米學者の誤謬

稻垣 乙丙(統雜)昭二 四 四九〇

ボウレイ教授の人口推計

成田 三二(統集)昭二 一 五四九

セイの人口論

増井 幸雄(三學)昭二 三 五

人口増殖と其制限要因

成田 三二(統集)昭二 一 五四七

人口問題の世界的考察

淺田 彦一(外時)昭二 四 五五七

人口行脚(楠田、河上、高
野氏と語る)

南 亮三郎(商討)昭二 二 上

ゾンバルトの人口論

伊藤 久秋(長彙)昭二 一〇 一

リカアド勞賃論とマルサス

森 耕一郎(經叢)昭二 二 二

人口論

小泉 信三(財經)昭二 二 四 八

社會政策の基調としての都
市人口の周流

磯村 英一(社政)昭二 一 三

人口問題

山内 正瞭(商研)昭二 六 三

【人口】

移民問題と人口問題
最近五年間全國各都市人口の變化
人口論（人口増加悦ぶべし）
人口集中論
民族の消長（所謂人口問題及び其對策を評す）
本邦人口集積と國策
我邦最近の人口増加と北海道拓殖計畫
再び我が國の人口問題に就て
海外發展と人口集中問題
昨年度の我國人口の異常増加に就いて
行き惱める日本の人口問題（アレン・トムソン兩氏の所論を讀みて）
人口問題と現代國家の矛盾
徳川時代の人口と明治時代の人口
我國の人口及食糧問題
人口食糧調査會に望む

石射猪太郎（外時）	大五	四	五	八
猪間 驥一（都問）	大五	三	一	一
中橋徳五郎（洋經）	大五	一	一	一
中橋徳五郎（洋經）	大五	一	一	一
稲田周之助（新報）	大五	五	八	八
石橋 五郎（國經）	大五	四	一	五
神戸 正雄（時經）	大五	六	五	一
山本美越乃（經叢）	大五	三	五	五
田中誠之助（洋經）	大五	一	一	一
猪間 驥一（社政）	大五	一	七	五
南 亮三郎（社政）	大五	一	五	一
長谷川萬次郎（エコ）	昭二	五	一	一
郡 菊之助（企社）	昭二	一	一	一
上田貞次郎（企社）	昭二	一	一	一
有元 英夫（企社）	昭二	一	一	一

我國人口論の根本問題
人口問題に就て
異常なる人口増加と生活問題
The question of population in Japan
日本人口問題
最近我國に於ける人口の都市集中傾向
人口問題管見
Population problems in the Tokugawa era
最近に於ける本邦人口増加の真相
臺灣の人口と理蕃事業
臺灣に於ける蕃人人口に就て
佛 蘭 西
フランスに於ける人口問題
人口問題に關む佛國と歐洲各國人口増加の趨勢
フランスの人口問題
其 他
最近國勢調査による獨逸其

猪谷 善一（企社）	昭二	一	二	二
添田 壽一（統雜）	昭二	四	一	九
下條 康廣（統時）	昭二	一	一	九
山本美越乃（京紀）	昭二	二	一	一
佐々 弘雄（社思）	昭二	六	九	九
猪間 驥一（統集）	昭二	一	一	一
野津 務（エコ）	昭二	五	三	三
本庄榮治郎（京紀）	昭二	二	二	二
郡 菊之助（商叢）	昭二	五	一	一
栗野 秀徳（歴理）	大七	二	三	三
水科七三郎（統雜）	大五	四	一	五
齋藤 文藏（中史）	大四	二	一	一
藤田 友作（統集）	大五	一	五	九
廣瀬 浩（法究）	昭二	四	六	六

他諸國の都市並に村落人口
支那の人口問題に就て
勞農露西亞の人口及び失業問題

猪間 驥一（都問）	大五	三	二	二
木村増太郎（亞經）	昭二	一	一	三
小泉 信三（財經）	昭二	一	四	九

【人口統計】

參照 國勢調査、人口。

本邦人口の平均婚姻年齢
區勢調査に現はれし札幌區民の「讀書力」
舊大阪水帳、人別帳の「家」は「棟」にあらざる考
古代の戸籍計帳の研究
豊臣秀吉の戸口調査
再び豊臣秀吉の戸口調査に就いて
大正十四年人口動態統計（Vital statistics）に就きて
（統計拾穂抄、四）
都市出生率の低下と細民階級
國勢調査の結果に據る公定人口

高野岩三郎	大三	和	田	垣	記念	
高岡 熊雄	大	三	和	田	垣	記念
佐古 慶三（歴理）	大	三	一	二	四	
澤田 吾一（史雜）	大	三	三	四	一	
相田 二郎（歴地）	大	四	四	六	六	
相田 二郎（歴地）	大	五	四	七	四	
内閣統計局（統雜）	大	五	四	一	四	
財部 靜治（經叢）	大	五	三	三	五	
磯村 英一（社雜）	大	五	三	三	一	

Suicide statistics in Japan classified according to sex
改正人口推計方法
江戸時代初期の戸口調査
出生統計の虚偽と死産統計
大正十五年推計人口全國市郡別
我國諸都市の乳兒死亡統計に就て
Populationistik に就きて（統計拾穂抄、六）
六大都市及び全國早期乳兒死亡の推移
一般人口統計に依る小兒死亡率の決定
出生率の決定
出產死亡の届洩に就て
徳川時代の出生率及死亡率
宗門人別改制度の沿革
昨年本邦人口動態統計概況
大正十五年昭和元年帝國人口動態統計梗概
我國の赤ん坊の殖え方
戸口當り生産價額並に公課算出に使用せらるる戸口

財部 靜治（京紀）	大五	一	一	一
内閣統計局（統集）	大五	一	五	五
伊東尾四郎（歴地）	大五	四	六	六
猪間 驥一（經研）	昭二	四	一	一
内閣統計局（統雜）	昭二	四	一	一
猪間 驥一（都問）	昭二	四	一	一
財部 靜治（經叢）	昭二	四	二	二
猪間 驥一（都問）	昭二	四	三	三
成田 弘毅（保雜）	昭二	三	三	三
關森 健二（統集）	昭二	一	五	二
増谷達之輔（統集）	昭二	一	五	一
菊田 太郎（經叢）	昭二	五	一	一
内閣統計局（統雜）	昭二	四	四	四
内閣統計局（統集）	昭二	一	五	三
横山 雅男（統雜）	昭二	四	二	二

【人口】 【人口統計】

の研究
昭和二年推計人口
臺灣センサスの由來
昭和元年關東廳内人口動態
概説

加地 成雄 (統集) 昭二 年 卷 五五七
内閣統計局 (統集) 昭二 一 五五七
水科七三郎 (統集) 昭二 三 四九〇
關東廳統計課 (統集) 昭二 一 五五七

獨逸の出産率と労働市場
昨年施行された獨逸の國勢
調査

(統集) 大五 一 五三八
(統集) 大五 一 五三八

【震災(大正十二年)】

参照 火災保險。地震。
東京。

復興日本當面の問題
帝都復興に要する大なる犠
牲
破壊されたる東京市
震災と經濟恢復
今回の大震災の經過を陳べ
て將來に及ぶ
生殘者の責任
震災と文化的影響
世界の金の配分と日本の震
災
震災所見

福田 徳三 (改造) 大二三 五 一〇
安部 磯雄 (改造) 大二三 五 一〇
堀江 歸一 (改造) 大二三 五 一〇
河津 暹 (改造) 大二三 五 一〇
今村 明恒 (改造) 大二三 五 一〇
杉森孝次郎 (改造) 大二三 五 一〇
千葉 龜雄 (改造) 大二三 五 一〇
青木 得三 (改造) 大二三 五 一〇
小泉 信三 (改造) 大二三 五 一〇

帝都改造の先決問題
帝都復興に就いて
大震災と名園
大震災に於ける主要建築物
の被害状況
復興經濟の第一原理
相模灘大地震の真相
大地震による火災
大地震の惨害を見ての感想
震災雜談
地震と建築
地震と火災
民族性と住宅觀
建築物と震災
東京市街地に於ける震度の
分布
大震災感
震災關係の心理的現象
震災と都會文化
九月一日
認識による征服
流言蜚語の心理
地異印象記
一つの經驗

尾崎 行雄 (改造) 大二三 五 一〇
後藤 新平 (改造) 大二三 五 一〇
龍居松之助 (中史) 大二三 七 四
關野 貞 (中史) 大二三 七 四
福田 徳三 (改造) 大二三 五 一〇
須田 皖次 (思想) 大二三 五 一〇
中村 清二 (思想) 大二三 五 一〇
中村左衛門太郎 (思想) 大二三 五 一〇
岡田 武松 (思想) 大二三 五 一〇
佐野 利器 (思想) 大二三 五 一〇
藤原 咲平 (思想) 大二三 五 一〇
佐藤 功一 (思想) 大二三 五 一〇
内藤 多仲 (思想) 大二三 五 一〇
今村 明恒 (思想) 大二三 五 一〇
長岡半太郎 (思想) 大二三 五 一〇
三宅 雪嶺 (思想) 大二三 五 一〇
安倍 能成 (思想) 大二三 五 一〇
野上豊一郎 (思想) 大二三 五 一〇
茅野 蕭々 (思想) 大二三 五 一〇
速水 滉 (思想) 大二三 五 一〇
和辻 哲郎 (思想) 大二三 五 一〇
篠田 英 (思想) 大二三 五 一〇

復興問題と社會主義的政策
復興經濟の厚生の意義
震災後の日本に歸りて

山川 均 (改造) 大二三 五 一〇
福田 徳三 (改造) 大二三 五 一〇
石原 謙 (思想) 大二三 五 一〇

法律問題

帝都復興と借地權借家權の
保護
假設建築物撤去延期問題
不可抗力の影響

末弘巖太郎 (改造) 大二三 五 一〇
小倉 庫次 (都問) 大二三 五 一〇
加藤 勝藏 (法公) 昭二三 五 一〇

保險問題

震災ニ對スル保險政策
震災火災保險問題より觀たる
司法裁判所の態度

森 莊三郎 (改造) 大二三 五 一〇
田坂 貞雄 (法公) 大二三 五 一〇

火災保險金問題の經過並其
の顛末
火災保險金問題の經過並其
の顛末

寺田 四郎 (法治) 昭二 六 四一〇
寺田 四郎 (保評) 昭二 二〇 九

【シンジケート】

トラストを見よ

【神】

【社】

参照 祭祀。

神社につきての研究
古社寺保存の方法について
の世評を論ず

松本 愛重 (史雜) 昭三二 五
辻 善之助 (歴地) 昭四三 二

【人種問題】

人種に關する殖民政策の一
端
黑人解放論

辻 善之助 (史雜) 昭二 三 一〇
参照 移民。國際關係。國民
主義。國民性。植民。民
族。猶太人。
山内 正暲 一 大 三和田垣記念
北澤新次郎 (解放) 大八一 五

【人種問題】【親族(法)】【信託】

人種的偏見の哲學的解釋
黑人ガ1ウエー
原始時代の人種問題
エスキモー人種の原始生活
黑人種解放運動の現勢と其の傾向(人種闘争と階級闘争)

デュウイ(改造) 大三
美土路昌一(改造) 六一
島居 龍藏(中史) 六三
津田 敬武(中史) 六三

世界戦争と人種問題
地と人と文化との三角關係
北米に於ける黑人問題
米國の人種問題

赤松 克磨(改造) 六三
苦米地英俊(商討) 六五
西村 眞次(我等) 六五
大川 周明(外時) 六五
長谷部 靜(國知) 六五

【親族(法)】

日本親族法の特質
米國加州親族法釋義
「ロシヤ」共和國親族法の改正

山口 弘一 六四
岩本 英夫(法政) 六五

幼年者保護に付民法改正調査委員に望む

秋山 彌助(法新) 六一
井上辰九郎 六三

【信託】

信託事業一斑

井上辰九郎 六三

印度信託法
擔保附社債と据置期限前の償還

花岡 敏夫 六一
豐浦 與七(イン) 六五
三木 義雄(イン) 六五

信託の沿革に就て
債券及び株券の安全保管と銀行及び信託會社の保護預業務

栗栖 越夫(イン) 六五
細矢 祐治(イン) 六五
松崎 壽(銀研) 六五

投資機關としての信託會社
銀行と信託會社との限界
金錢信託と定期預金
Fiducia et Testamentum

細矢 祐治(銀研) 六五
西本辰之助(三學) 六五
三木 義雄(イン) 六五

公益信託制度に就いて
瑞西に於ける投資信託業の發達及び現在

吳 文炳(イン) 六五

受託會社の擔保權實行義務を論ず(信託法上の普通義務と信託法上の特別義務)

板橋 菊松(イン) 六五
奥田 勳(銀研) 六五

米國に於ける會社受託者の發展と其將來
米國信託會社に於ける民事信託實務
年金事業と信託會社
信託財産の擔保金融是非

鈴木 武治(銀研) 六五
細矢 祐治(國家) 六五
吳 文炳(イン) 六五

受託會社の代表者を擔保權實行集會の議長に選舉するの可否如何

板橋 菊松(イン) 六五

信託會計上の一問題

陶山保次郎(會計) 六五

破産管財人と信託會社

藤原 泰(銀研) 六五

受託會社が擔保權を實行するの義務を怠つた時の救済手段に就て

板橋 菊松(イン) 六五

信託會社當面の若干問題

千葉 研二(銀叢) 六五

信託政策と受託機關

細矢 祐治(國經) 六五

社債擔保の變更に就て

靜 浦 生(イン) 六五

本邦信託會社運動と其の活動の狀態

細矢 祐治(イン) 六五

金錢信託と銀行預金

生田 定之(エコ) 六五

信託と銀行の分業

小平 房吉(エコ) 六五

信託合同運用金に對する一考察

大塚 良治(銀研) 六五

擔保附社債信託法上の信託を論ず

入江眞太郎(志林) 六五

時勢の進歩に鑑みよ(銀行業と信託業との兼營問題) 兩業者間に紛議を生ずる現

堀江 歸一(イン) 六五

行制度(銀行業と信託業との兼營問題)

遊佐 慶夫(イン) 六五

獨特の使命を有する別箇の機關(銀行業と信託業との兼營問題)

吳 文炳(イン) 六五

兩業の兼營を排斥する(銀行業と信託業との兼營問題)

細矢 祐治(イン) 六五

英國における「デベンチュアーストック」制度

栗栖 越夫(イン) 六五

銀行の信託業兼營問題を論ず

志賀 京一(銀叢) 六五

普通銀行と信託會社との争

神戸 正雄(時經) 六五

信託會社と財産管理處分及整理清算業務

細矢 祐治(志林) 六五

信託法令適用上の疑義

野守 廣(法協) 六五

受託會社の辨濟受領の意義如何

板橋 菊松(イン) 六五

信託業に關する日米法制の比較

吳 文炳(イン) 六五

銀行株式の信託表示方法

水野 淳二(銀研) 六五

二次的信託金錢の處理に就て

大塚 良治(銀研) 六五

共同受託者の権利義務に就いて
 投資信託の目的と其の特徴
 「銀行の信託業兼営問題」の出所
 二ヶ年定期預金の制度に就いて
 法人能力に關する立法思想と信託會社
 信託は破産法上否認することを得るや
 金銭信託の収益と其の課税
 金銭信託證書を擔保とする貸付は有效なりや
 銀行及信託會社の豫算式經營法
 銀行の信託業務兼營論を支持す
 米國に於ける信託會社の特徵に付て
 銀行の信託業兼營是非論
 破産を豫期したる信託行爲に就て
 有價證券の意義と有價證券

本莊鐵次郎 (銀叢)	二八	一
吳 文炳 (イン)	二五	二
岡田 純夫 (銀研)	二三	二
武谷 成直 (銀研)	二三	二
細矢 祐治 (新報)	二七	二
竹田 恒吉 (新聞)	二二	二
河村 憲一 (イン)	二五	三
吳 文炳 (イン)	二五	三
岩崎 博 (銀研)	二三	三
小林 俊輔 (銀研)	二三	三
武谷 成直 (銀研)	二三	三
細矢 祐治 (銀叢)	二八	三
久田 博人 (新聞)	二二	三

信託の範圍
 米國信託會社の信託報酬
 信託の計算に就いて
 信託法に於ける信託の本質を論ず
 信託預金實務誌
 有價證券信託に關する諸問題
 信託
 信託法論
 破産と信託
 破産と信託
 遺言信託及遺言執行者と信託會社の問題
 信託利益と其の配給
 宋の檢校庫に就いて
 ゾルタン「有限責任組織の辯護士信託會社」
 信託業と信託會社
 金銭信託と法定投資制限
 ギャランテイ信託會社に於ける投資部の作用
 不良會社の淘汰に關する信託會社と取引所の施設

野守 廣 (イン)	二五	四
鈴木 武治 (銀研)	二二	四
本莊鐵次郎 (銀叢)	二八	四
入江眞太郎 (新報)	二七	四
小林 俊輔 (銀研)	二二	四
吳 文炳 (洋經)	二一	五〇
米山 梅吉	二二	社經體系
三淵 忠彦	二二	社經體系
乾 政彦 (法公)	二三	六七
山内確三郎 (法新)	二二	二二
細矢 祐治 (新報)	二七	七
細矢 祐治 (明商)	二二	三
加藤 繁 (史學)	二六	三
青木 徹二 (法公)	二三	八一
細矢 祐治 (明商)	二二	一四
M K 生 (イン)	二六	四
鈴木 武治 (銀研)	二三	四
串本友三郎 (銀叢)	二九	四

不動産信託の現在及將來に就て
 信託期間の最長限度に就て
 事業金融機關としての信託會社の地位
 米國社債信託に於ける信託證書
 信託行爲概説

森下 利雄 (銀研)	二二	年卷
本莊鐵次郎 (銀研)	二三	五
池田 了實 (銀叢)	二九	六
西田 駒三 (銀叢)	二九	六
水井 壽吉 (法治)	二六	二

社會組織と新聞雜誌
 新聞之將來
 新聞と社會思想
 國際的新聞通信事業の現在及將來
 支那に於ける新聞發達小史
 新聞紙研究への一指向
 Zeitsungsverlag und Schriftsteller-schutz
 勞農ロシアの新聞紙雜誌

早坂 二郎	一	六五	社問講四
島谷 亮輔 (改造)	二五	八	七、九
阪本 勝 (社思)	二五	五	七
岩永 裕吉 (外時)	二五	四	五三
藤原 勲治 (社雜)	二四	四	〇
T. Sternberg (法研)	二六	二	二
喜多壯一郎 (我等)	二九	七	二

【新聞紙】

現代の新聞批判
今日の新聞が悪い理由
社會的的感覺機關としての新聞紙

【シンメル】

ジムの社會概念
ジムの文化哲學
ジメルが精神史に對して持つ意義 (アドラー)

現代の新聞批判
 今日新聞が悪い理由
 社會的的感覺機關としての新聞紙
 新聞編輯及製作苦心談
 アメリカン・ジャーナリズム
 新聞のフェア・プレー

諸 家 (解放)	二五	九
黒田 禮二 (解放)	二五	九
長谷川萬太郎 (解放)	二五	九
諸 家 (改造)	二六	五
原田 謙二 (改造)	二六	一
原田 謙二 (改造)	二七	一

ジムの社會概念
 ジムの文化哲學
 ジメルが精神史に對して持つ意義 (アドラー)
 ジムメル「社會科學の認識」 (譯)
 ジムメルに於ける社會形式
 概念の一考察 (特にシュタムラアの形式概念を考慮し乍ら)
 ジンメルとテンニイスの社

關 榮吉 (思想)	二五	二八
バウル・フラウト (思想)	二六	三五
五十嵐 信 (思想)	二五	五二
武内 龍次 (社雜)	二五	三九
林 惠海 (社雜)	二四	三七

【ジンメル】【信用】【信用組合】【信用状】【信用保険】【心理學】【森林】

一一〇

會圖型論

新明 正道(思想) 昭二 年 卷 七
 参照 貨幣、銀行、金融、公債、社債。(農業信用)。
 物價。

明治維新の通貨と信用とに就て

ヘンリー・ソーンソンの信用論とその一派

信用の分量、本質並に實際クレディートモビリエーの設立と歴史

銀行と信用組合の交渉
 貯蓄銀行と庶民銀行の改善に就て

【信用組合】

商業信用状
 休業銀行の信用状に就て

【信用状】

【信用保険】

毛里英於菟(經研) 大五 三 三
 春日井 薫(明商) 大五 一 二 三
 松尾 藤平(銀叢) 大五 七 五
 中西 寅雄(經論) 昭二 六 一

松崎 壽(銀研) 大五 二 二
 岡野文之助(銀叢) 大五 七 五

竹田 省(法叢) 昭二 一 一 一
 松川 昇造(銀研) 昭二 一 一 一

太田勇治郎(經研) 大五 三 四
 向井 章(亞經) 大五 一 四
 川上英一郎(洋經) 大五 一 二 七
 三浦 義道(保雜) 昭二 三 二 二

向井 章(亞經) 昭二 一 一 三
 平田 憲夫(經叢) 昭二 二 四 四

向井 章(亞經) 昭二 一 一 二
 播磨 龍城(新聞) 昭二 一 二 六 七
 蘭部 一郎 昭二 二 社經體系
 平田 憲夫(經叢) 昭二 二 四 六

松村 瞭(中史) 大二 六 五
 川村多實三(改造) 大三 六 八
 長谷川萬次郎(我等) 昭二 九 四

輸出信用保險制度制定の提案
 輸出信用保險について
 貿易金融策としての輸出信用保險制度
 輸出金融制度としての信用保險

小島昌太郎(經叢) 大五 三 三
 小島昌太郎(經叢) 大五 三 三
 上阪 酉三(銀研) 昭二 二 二
 岩崎 博(銀研) 昭二 三 六

松本亦太郎(改造) 大三 六 四
 城戸幡太郎(思想) 大四 八 四
 金子 弘(商研) 大五 六 一

若林 米吉(勞科) 大五 三 二
 近藤 文二(商經) 大五 一 四
 古賀 行義(商叢) 大五 四 一

遠藤 金英(歴理) 大六 一 一
 直良 信夫(歴地) 大五 四 二

メンタルテストの根本原理
 歴史的現實性と心理學
 シュブランゲルの心理學に就て
 遞信省に於けるメンタルテスト
 心理學と保險
 主觀的評定と統計尺度

吉野の林業
 石器時代に於ける日本の林業に於けるメンタルテスト

【森】

【心理學】

【森林】

【信用】

【信用組合】

【信用状】

【信用保険】

【人】

【人類】

【人類】

【人類】

【人類】

【人類】

【人類】

【人類】

【人類】

【人類】

【人類】

【人類】

【人類】

【人類】

【人類】

【人類】

【人類】

【人類】

【人類】

【人類】

【人類】

【人類】

【人類】

【人類】

【人類】

【人類】

【人類】

【人類】

【人類】

一一一

又部

【水産】

水産統計の理論及實務
水産業
印度支那の水産業

参照ニ漁業。

長澤 柳作 (統集) 昭二 年 卷 五
村上 隆吉 昭二 社経系 五
向井 章 (亞經) 昭二 二 三

【水利】

治水の一例 (武蔵大宮桶川地方)

江戸の治水と洪水 (講演)
寶曆年間尾濃勢地方治水事件

熊澤蕃山の治水策と岡山藩の治水施設
徳川時代に於ける農業水利の権利關係
灌漑水利權論

河田 巖 (歴地) 昭三 二 五
吉田 東伍 (歴地) 昭三 一 六 四

本多辰次郎 (歴地) 昭三 一 六 四
岩崎 孫八 (歴地) 大九 三 六 六

西崎 正 (國家) 昭二 四 一 二 四
播磨 龍城 (新聞) 昭二 一 三 七 六

【瑞西】

住宅問題に對する瑞西の立法の回顧

年齡別及熟練程度別に依る瑞西失業労働者の分布
瑞西保險監督法解説

【瑞典】

瑞典に於ける政治的労働運動

瑞典諾威丁抹の社會運動概況

瑞典の金融制度と我國との比較

【數學】

日本數學發達の由來

數學上に於けるアインスタインの地位

數學上の大數法則と統計學の一般的假説としての大數法則

半對數方眼紙と數列の微少

後藤 清 (商論) 昭二 二 一

小川 雅次 (統集) 昭二 一 五 二
三浦 義道 (新報) 昭二 三 七 二

松澤 兼人 (社思) 大 三 三 六 七

松澤 兼人 (社思) 大 三 三 九

松崎 壽 (銀研) 昭二 三 四

三上 義夫 (史雜) 大 七 二 九 三

小倉金之助 (改造) 大 一 四 一 三

柴田銀次郎 (國經) 大 五 四 三

變動記入に就て

數學的危險論

對數小史

數學上の大數法則と統計學の一般的假説としての大數法則

【樞密院】

立憲政治に於ける二つの首腦 (樞密院と貴族院)

樞密院論

【蘇蘭】

スコットランドの小作法
マルクス「スザラント女公と奴隸」 (譯)

【スタアリン】

現ロシヤの巨柱スタアリン
スタアリン「モスクワの對東方就中對支那民族政策」

猪間 驥一 (洋經) 大 五 一 三 二 八

山本恭次郎 (商濟) 昭二 七 二

長崎 精男 (商論) 昭二 二 二

柴田銀次郎 (統雜) 昭二 四 四 九

長谷川萬次郎 (改造) 大 四 七 二
美濃部達吉 (國家) 昭二 四 九

澤村 康 (社科) 昭二 三 一

大内 兵衛 (我等) 昭二 九 八

(Ivan V. Stalin, pseud. Joseph Vissarionovich Djughashvili)

佐野 學 (改造) 昭二 九 一〇

(譯)

スタアリンの政黨論 (譯)

【スタイン】

民訴改革論の種々相 (故スタイン教授の改革論)

【スタムラー】

シュタムラーのマルクス觀
シュタムラーの權利主體の概念 (譯)

シュタムラーに於ける社會形式概念の一考察 (特にシュタムラーの形式概念を考慮し乍ら)
シュタムラーの法律概念論の法理學的價值

【スチュアート】

ジエムス・スチュアルトの經濟學說

富士 辰馬 (社科) 昭二 三 二

住谷 悅治 (社思) 昭二 六 四

(Friedrich Stein 1859-1923)

竹井 康 (法曹) 大 五 四 二

(Rudolf Stammler, 1836-)

松永 義雄 (法新) 大 五 一 五 九 〇

田岡嘉壽彦 (商集) 昭二 一 二

林 惠海 (社雜) 昭二 四 三 七

尾高 朝雄 (法叢) 昭二 一 七 六

(Sir James Denham Stewart, 1712-1780)

竹島富一郎 (商經) 昭二 一 四 七

【ステイルナー】 【ステインネス】 【ステルンベルク】 【ストライキ】 【スペイン】

【ステイルナー】

(Max Stirner, Pseud. f. Kaspar Schmidt, 1806-1856)

スベンゲレル、スタイネル、

ブラウト (思想) 大二三 五

スチルナアの無政府主義と

マルクスの國家観

森戸 辰男 (原雜) 大二五 一

「唯一者」の結構 (「聖マツクス」よりの斷章)

森戸 辰男 (原雜) 大二五 一

【ステインネス】

(Hugo Sinnes, 1870-1924)

新獨逸の獨裁王

室伏 高信 (改造) 大二四 六

【ステルンベルク】

(Theodor Sternberg, 1878-)

Zeitungsverlag und Schriftstellerschutz

T. Sternberg (法研) 大ニ六 二

【ストライキ】

同盟罷工を見よ。

【スペイン】

(Othmar Spann, 1878-)

シュバンの經濟學方法論の

根本思想

藤林 敬三 (三學) 大五二〇 一〇

シュバン社會科學的概念構成の論理

岩井 茂 (商工) 大ニ二 一

【ストオス】

(Carl Stouss, 1849-)

七十九歳のカール シュト

ース前教授を南塊グラ

ツの閑居に訪ふ

安平 政吉 (法究) 大ニ二四 二

【スピノ】

(Camillo Supino)

伊太利のリラ貨引上策につ

いて (スピノ)

松岡 孝兒 (經叢) 大ニ二四 三

【スプランガア】

(Eduard Spranger, 1882-)

シュプランゲエルの心理學

に就て

金子 弘 (商研) 大ニ五六 一

【スペイン】

西班牙 (イスパニヤ) を見よ。

【スベングラール】

(Oswald Spengler, 1880-)

スベンゲレル「泰西の結末」を読む

飯田 忠純 (史學) 大ニ一 三

スベンゲレル、スタイネル、

タゴール

ブラウト (思想) 大ニ三 一五

「西洋の没落」の著者と語る

スベングラールの經濟觀

笠 信太郎 (商研) 大ニ五六 二

【スペンサー】

(Herbert Spencer, 1820-1903)

ハーバート・スペンサーと日本の法律

牧 健二 (法叢) 大ニ五六 四

【スマアト】

(William Smart, 1853-1915)

ウイリアム・スマアトの著作年表並びに其の生涯と思想

中澤慶之助 (商評) 大ニ五 四

【スミス】

(Adam Smith, 1723-1790)

スミスとマルクスの經濟學

說

喜多壯一郎 (解放) 大一〇 三

アダム・スミスの出づるま

で

高橋誠一郎 (思想) 大一一 四

アダム・スミスと佛國學者

アダム・スミスの財政學說

堀江 歸一 (改造) 大一一 四

人としてのアダム・スミス

資本主義經濟學の建立

出井 盛之 (解放) 大一一 五

アダム・スミスの勞賃論

スミスの足跡を追ふて

河田 嗣郎 (解放) 大一一 五

アダム・スミスの社會哲

學と其の思想的背景

森 耕二郎 (經叢) 大一一 三

アダム・スミスの政治論

スミスとリストの經濟發達

柳澤 泰爾 (社雜) 大一一 三

階段說 (ヘランダー)

金利の高低原因と我國の金利 (スミス・フィツシャ

高橋 信司 (同論) 大一一 二

利) 說に觸れて)

輸出獎勵金問題におけるス

ミスとリカアデオ

上田藤十郎 (經叢) 大一一 五

アダム・スミスの大英帝國

論

高木友三郎 (法集) 大一一 三

論

アダム・スミスの「國富論」

油本 豊吉 (經論) 大一一 六

【スベングラール】 【スペンサー】 【スマアト】 【スミス】

不朽の名著「國富論」
國富論の經濟的背景
國富論の根本思想に就て
アダム・スミス「富國民論」
の基本的考察

谷口彌五郎(解放)六三
竹内謙二(社研)六五一
藤林敬三(三學)昭二三
石川興二(經叢)昭二五
六

【スモール】

(Albion Woodbury Small, 1854-1926)

スモール先生の死を悼む
スモール教授の生涯

小林郁(社雜)六五三
圓谷司娜(法政)六五三
二

七部

【セ】

セイの土地所得論
セイの人口論

【イ】

(Jean Baptiste Say, 1767-1832)

増井幸雄(三學)六五二
増井幸雄(三學)昭二二
五

【生】

【活】

参照||家計。住宅問題。食糧。
生活費。生活標準。

我が古代文學に現はれたる衣食住

文化生活と智識の民衆化
思惟生活の社會的地位
理想主義と現實生活
日本文化生活史
生活に對する支配の道德
文化生活とは何ぞ
經濟生活の進化
指標の世界と民衆の生活
知的生活の階級的構成に就て

生活の昔と今
倫理及び法理の基底として

阪倉篤太郎(歴史)六八三
戸田海市(解放)六九二
長谷川萬次郎(解放)六一
阿部次郎(改造)六一
西村文則(中史)六一
長谷川萬次郎(改造)六一
諸家(解放)六一
佐野學(解放)六一
村松正俊(解放)六二
長谷川萬次郎(改造)六二
芳賀矢一(中史)六三
一

の生活

生活改善運動
生活帝國主義

【生活費】

米國の賃銀問題と生計費調査

査

各國に於ける生活費の統計
實質賃銀と生活費指數
我國に於ける勞務者の生計費

支那勞働者生活費の研究
兒童の多少と生計費
日米農家の生活費

【生活標準】

生活標準問題研究

【生産】

資本なき生産の世界
社會學的分析の出發點とし

長谷川萬次郎(改造)六三
棚橋源太郎(社政系)七
綾川武治(外時)昭二四
一

参照||家計。生活標準。節約。
賃銀。物價。

藤田友作(統集)六五
平井幸雄(統集)昭二
一
榊原平八(統集)昭二
一
岡野一朗(社政)昭二
一
榊原平八(統集)昭二
一
高岡態雄(農經)昭二
一

参照||奢侈。生活費。節約。
賃銀。

参照||企業。競争。資本。私
有財産。報酬漸減。

高橋誠一郎(解放)六九二
一

【生産】 【生産組合】 【政治】

ての生産力
生産曲線に關する研究
生産の概念
ミルの生産要素論
生産の概念に就て(土方博士河津博士那須博士福田博士の説にふれて)
ミルの生産論に就て

ブハーリン(社思)	大四	九
八木 高次(勞科)	大五	三
高田 保馬(經叢)	大五	三
榎本 鏡治(三學)	昭二	二
小西 憲三(法集)	昭二	二
古林 喜樂(商論)	昭二	二

【生産組合】

一つのユートピア物語

河西太一郎(社思)	大三	三
参照 政治學。政治教育。政治體。政黨。選舉。(選舉權)。統治。婦人參政權。内閣。民主主義。		

【政治】

感激なき政界の一年
代議制度か委任政治か
經濟眼で觀た日本現時の政治
我現代政治の先驅的條件と其將來
支配階級のテイレンマ
高橋内閣批判

長谷川萬次郎(解放)	大〇	三
大山 郁夫(解放)	大〇	三
占部百太郎(解放)	大〇	三
堀江 歸一(改造)	大〇	三
美濃部達吉(改造)	大三	六
長谷川萬次郎(改造)	大三	六
大山 郁夫(改造)	大〇	三
諸 家(改造)	大〇	三

空想政治家としての大隈侯
山縣の死と政黨・官僚・軍閥
カウツキイ「階級獨裁と政黨獨裁」
勞働運動と政治運動との相關
所謂憲政の本質と我が政局の進化
内閣改造と將來の政局
超然内閣批判
政黨政治に就いて
本年の政治外交界
改造政治の原理
眞に民衆の政治たらしむるには
王道と霸道
政治改造運動
勞働政治・金權政治並びに貴族政治
少數貴族の政治支配
民衆戦ふべきか旗進むべきか
山本内閣の辭職より衆議院

長谷川萬次郎(改造)	大二	四
諸 家(改造)	大二	四
高島 素之(解放)	大二	四
宮崎 龍介(解放)	大二	四
長谷川萬次郎(改造)	大二	四
諸 家(改造)	大二	四
南總逸人(歴史)	大二	四
大山 郁夫(解放)	大二	四
室伏 高信(改造)	大三	五
諸 家(改造)	大三	五
北 吟吉(改造)	大三	五
武藤 山治(改造)	大三	五
堀江 歸一(改造)	大三	五
諸 家(改造)	大三	五
室伏 高信(改造)	大三	五

の解散まで

商人政治への過程
普選による我政局の新展開と勞働者階級
社會運動と政治運動
自由、力、及び無價値の哲學
總選舉と護憲内閣の前途
加藤内閣と護憲三派の前途
ブルジョア政治の片鱗
新政治意識の倫理的基礎
最近政變の事實と批判
若槻内閣と政界の前途
憲本妥協の根本意義
少數黨内閣の問題
獨裁政治家簇出の現象
議會政治の崩壊か改造か運動論
西園寺公と新内閣
「街頭より政治へ」の序
政治の非倫理化
民主政治と獨裁政治
非國家行動の社會的性質
實業政治を讀んで

美濃部達吉(改造)	大三	六
長谷川萬次郎(改造)	大三	六
堀山 政道(社思)	大三	六
福田 徳三(改造)	大三	六
村松 正俊(改造)	大三	六
諸 家(改造)	大三	六
諸 家(改造)	大三	六
大山 郁夫(改造)	大四	七
馬場 恒吾(改造)	大四	七
諸 家(改造)	大五	八
白柳 秀湖(解放)	大五	五
千葉雄次郎(社思)	大五	五
松井 石根(外時)	大五	四
高橋 龜吉(解放)	大五	五
不破 清警(新聞)	大五	一
田川大吉郎(洋經)	大五	一
村瀬武比古(法治)	大五	一
室伏 高信(改造)	大五	八
永井 亨(國知)	大五	六
長谷川萬次郎(我等)	大五	八
田川大吉郎(洋經)	大五	一

現内閣と其政治的關係
政治の行詰まりと將來政治は總ての罪惡の源
政經時局觀
王道と法治
大正の政治及び社會運動
昭和維新に直面して
獨裁か自治か(農民自治運動の創唱稿)
王道と政治
憲本聯盟劇
借金政治の行詰り
政治政策原論
獨裁政治の運命
政變、政黨、出兵
官僚と職業政治家
經濟的罷業と政治的罷業
變化的精神と不變的精神
政界雜感
現政局に對する無產階級的批判
軍國的反動の空想
勞働運動及無產者政治運動
經濟に讓歩せんとする政治

村瀬武比古(法治)	大五	五
室伏 高信(改造)	昭二	九
石川三四郎(解放)	昭二	六
政經學人(政經)	昭二	一
不破 清警(新聞)	昭二	一
渡邊幾治郎(中史)	昭二	一
作間 耕逸(法公)	昭二	一
中西伊之助(解放)	昭二	六
不破 清警(臺法)	昭二	三
山川 均(改造)	昭二	九
田川大吉郎(洋經)	昭二	一
今中 次磨	昭二	一
西谷淳一郎(外時)	昭二	五
山川 均(改造)	昭二	九
永井 亨(社雜)	昭二	七
阪本 勝(社思)	昭二	六
田中治五平(臺法)	昭二	六
不破 清警(新聞)	昭二	一
青野 季吉(改造)	昭二	九
長谷川萬次郎(我等)	昭二	九
長谷川良信	昭二	六
前田 多門(財經)	昭二	八

【政治】

政黨政治の野蠻性 政權の争奪戦と法律的壓迫 に就て	長谷川萬太郎 (我等) 昭二 九 七
教育の政治化	布施 辰治 (法新) 昭二 一 二三 森戸 辰男 (改造) 昭二 九 二二
政治史	丸山 正彦 (史雜) 昭三 一 七
藤原氏の政治 (講演)	元良勇次郎 (史雜) 昭四 二 三〇
輿論の變遷と國家の盛衰と (講演)	加藤 弘之 (史雜) 昭四 二 一七 久米 邦武 (史雜) 昭五 三 三三
民權進歩の狀況東西相異れ り (講演)	池田 見淵 (史雜) 昭六 四 四〇
大化の改革を論ず	三浦 周行 (史雜) 昭九 七 一 久米 邦武 (史雜) 昭三 一 一 本多辰次郎 (史雜) 昭三 一 一 渡邊 世祐 (歴史) 昭五 四 一三
徳川氏施政の張弛を評す (講演)	三上 參次 (史雜) 昭七 五 六
大化改新論	深澤 健吉 (歴史) 昭六 七 九
明經學の政治に於ける結果	三上 參次 (史雜) 昭九 一 二
足利氏政治要略	銀 巷 子 (歴史) 昭四 九 二
建武中興を論ず	
版籍奉還に關する一問題 (講演)	
奈良朝時代に於ける地方民政	
模範政治家としての松平定信 (講演)	
建武中興に就て	

明治維新後府縣設置の顛末 及其後の分合廢置に就て	喜田 貞吉 (歴史) 昭二 一 三
戊辰の役三春藩去就の真相 大政返上建議前子が西郷君 に於ける討幕の密盟 (講演)	浪岡 具雄 (歴史) 昭二 一 一
信玄の民政	板垣 退助 (史雜) 昭一 九 九
廢藩置縣の理勢を論じて大 化改新に及ぶ	土屋 操 (歴史) 昭二 一 三
五箇條御誓文の發表に就き て (講演)	藤井甚太郎 (歴史) 大二三 一 六
建武中興と明治維新に於ける 類似點の二三	岡部 精一 (史雜) 大二三 四 六
徳川慶喜公の政權奉還に就 いて (講演)	岡部 精一 (歴史) 大四五 四
徳川氏の處分に就いて (講演)	井野邊茂雄 (史雜) 大四二 七
柴田勝家と民政	岡部 精一 (史雜) 大五二 七 八
酒井忠勝の民政	牧野信之助 (歴史) 大七一 三
明治時代の思想界	清原 貞雄 (歴史) 大八三 五 六
武家政治論の一節	辻 善之助 (中史) 大九一 一
土佐藩政のデモクラシー	沼田 頼輔 (中史) 大九一 三
版籍奉還始末の研究	澤田 章 (史林) 大〇六 一 三
大化改新	中村 直勝 (歴史) 大〇八 二 四

政治史と文化史 (リッタ)	小野田萬壽 (史雜) 大〇三 三 二〇
徳川のウツツキ政治	赤堀又次郎 (中史) 大二 四 三
井伊大老の獨裁と其後	伊井 敬 (解放) 大三 五 一
貞永式目を經緯とせる祭政 一致論	西岡虎之助 (歴史) 大二 四 三 四
建武中興の政治史的社會史的 的觀察	三浦 周行 (中史) 大三 七 五 六
江戸時代に於ける天災と政 治との關係	栗田 元次 (中史) 大三 八 一
平安朝に於ける王政の復興	西岡虎之助 (中史) 大三 八 一
徳川の末期より明治の新政 へ	藤井甚太郎 (中史) 大三 八 一
新井白石の政治思想	栗田 元次 (歴史) 大四 一 五
徳川慶喜公の大政奉還に就 きて	藤井甚太郎 (中史) 大四 一 〇 七
郡縣の議 (廢藩置縣の環境) (講演)	藤井甚太郎 (歴史) 大四 四 二
足利義政の政治と女性	三浦 周行 (史林) 大五 一 一 三
日本民權發達史	白柳 秀湖 大五 社問講一
明治元年の御誓約と我が立 憲思想の淵源	山口鏡之助 (歴史) 大五 四 七 六
安政年間に於ける政治思想	永井 亨 (社雜) 大五 三 三〇
五箇條御誓文の宣布と其由 來	妻木 忠太 (歴史) 大五 四 四

佐幕論と民權論	尾佐竹 猛 (歴史) 大五 四 八 四
立憲政治の根本思想は我國 にも古代より存在す	川手 忠義 (新報) 大五 三 六 二
東洋思想に於ける政治道德 觀	池岡 眞孝 (政經) 大五 一 三
西郷隆盛辛未の建白と廢藩 置縣	妻木 忠太 (歴史) 大五 四 八 五
神代に於ける議會政治	村松 山壽 (正義) 大五 二 一 一
明治初年の國體擁護運動	藤井甚太郎 (史林) 昭二 三 一 二
明治憲政史	尾佐竹 猛 昭二 社經體系
明治政治史の一節	吉野 作造 昭二 社問講三
日本國家の歴史の諸形態	高橋 信司 (同論) 昭二 一 三 三
鎌倉幕府の法治主義と其影 響	三浦 周行 (史雜) 昭二 三 四
中世英國の政治詩歌	榎 智雄 (三學) 昭二 三 四
明治維新の成否に關する維 新當時の一觀察	本庄榮治郎 (經叢) 昭二 五 五
莊内藩主酒井忠徳の施政資 料	國分 剛二 (史學) 昭二 六 四
我國近代史に於ける政治意 識の發生	吉野 作造 昭二 小野塚二
	参照 外交。革命。議會。共 産主義。行政。經濟學。 警察。憲法。國際關係。

政治學

國有。國家。財産。裁判所。司法。社會學。社會主義。自由。權民地。政治。政黨。選舉。選舉法。租稅。地方行政。帝國主義。統治權。内閣。比例代表。婦人參政權。封建制度。民主主義。無政府主義。ユトピア。長 壽吉(歴史) 七六二 大七富井祝賀 仁保 龜松 大七 杉森孝次郎(改造) 六二四 桑木 嚴翼(改造) 六二四 瀧本 誠一(解放) 六二四 久保 勉(思想) 六三三 中村善太郎(史林) 六三九 蠟山 政道(社思) 六三三 福田 德三(改造) 六三六 大山 郁夫(改造) 六四七

孟子政治説の傳統
憲政の法理觀
間接行動の存在權
カントの政治哲學に就て
抵抗權の變遷
アルニム「古代希臘の理想帝國觀」(譯)
フレデリック二世の政治學說
レーニンの政治論より行政論
自由獲得社會より資本的營利社會へ
政治過程の盲目的進行に對する意識的統制の必要及びその目標

政治現象を基礎づける變態的的感覺
新約聖書に現はれたる政治思想
パピロニヤに於ける世界統治 Welthimperium 思想に就て
政治行爲と政治秩序
現代常識の根本概念百
ラスキの「Grammar of politics」
英國政治思想史上に於けるホップス及ロックの地位
政治の本質に就て
國史上のマキヤベリズム
アダム・スミスの政治論
政治行動と政治意識
政治思想史
歐洲政治思想史概觀
マキアヴェリズムに就いて
自由民權論と基督教
ホップス「レヴィアタン」の歴史的意義
權利論
支配の歴史より生活自體の

長谷川萬次郎(改造) 六四七
島田 久吉(史學) 六四四
中原與茂九郎(歴史) 六四六
新明 正道(社思) 六四五
杉森孝次郎(改造) 六五八
中島 重(社政) 六五九
堀 潮(商論) 六六一
戸澤 鐵彦(國家) 六五〇
早田 正雄(法政) 六五三
高橋 信司(同論) 六五二
長谷川萬次郎 一 社間講三
高橋 清吾 一 社經體系
シエバード(早政) 六五七
佐々 弘雄(外時) 六五七
三谷 隆正(國家) 六五七
金子鷹之助(企社) 六五二
村瀬武比古(法治) 六五二

歴史へ(革命史の反社會的性質)
政治的統制の成立條件
社會哲學より觀たる「多數決」の問題
權利論備考「アナキズムの史的提唱」
社會的統制と政治闘争
多數決原理の省察
政治の本質
科學としての政治學
政治學方法序論
政治學に於ける經濟政策の概念(經濟政策、社會政策及び政治政策の關係)
思想としてのイギリス革命

長谷川萬次郎(我等) 二九 年卷 五
長谷川萬次郎(我等) 二九 六
川村 豊郎(商研) 二六 三
村瀬武比古(法治) 二六 一
長谷川萬次郎(我等) 二九 七
木村 龜二(思想) 二二 三
戸澤 鐵彦 二二 小野塚一
堀 眞琴 二二 小野塚一
佐々 弘雄 二二 小野塚一
今中 次磨 二二 小野塚一
松平 齊光 二二 小野塚一
楠田 民藏(我等) 二九 九

政治教育

種々なる「政治學校」の成長

生存權

種々なる「政治學校」の成長

政治

生存權の社會政策
生存權の倫理的考察
生存權と法律體系(生存權を中心として觀たる公法及び私法の對立の問題)
最後の一人の生存權
人格法學と生存權

米國政黨の起原
商工黨の提唱
四黨派對選舉宣言
階級と政黨
政黨を離れしめる目下の動因
既成政黨の崩壞過程としての第五十一議會
一八四四年以前の米國政黨史
我國に於ける新政黨のレーゾン・デートル
米國政黨の社會的構成
各國労働者組合及び政黨統

福田 德三 一 大五金井記念
藤井健治郎(解放) 六九二
恒藤 恭(改造) 六二五
牧野 英一(改造) 六三六
渡邊 省三(法新) 二一 一〇三
恒松 安夫(史學) 六二二
山川 均(改造) 六二五
諸 家(改造) 六三六
波多野 鼎(社思) 六三三
長谷川萬次郎(改造) 六五八
清瀬 一郎(改造) 六五八
恒松 安夫(史學) 六五五
五來 欣造(早政) 六五一
吉川季治郎(外時) 六五四

黨

參照 政治。無産政黨。

【政黨】 【稅務會計】

計

奇怪なる三黨首の妥協と國民の深恨

政黨の研究に關する一節

社會政策上より見たる日本の政黨

日本の政黨に關する史的考察

政黨の社會的構成と無產政黨

何故既成政黨を排撃するか

既成政黨は何を存在理由とするか

ブルジョア政黨に對抗して

地方選舉戦と既成二大政黨の政綱

協同會調查課 (社政) 昭二一年 卷一 共號

鶴見 祐輔 (改造) 昭二一年 卷一 三

永井 亨 (國家) 昭二一年 卷一 五

永井 亨 (社究) 昭二一年 卷一 二

永井 亨 (企社) 昭二一年 卷一 一五

吉川末次郎 (同論) 昭二一年 卷一 一三

細道 兼光 (エコ) 昭二一年 卷一 一九

中野 正剛 (エコ) 昭二一年 卷一 一九

諸 家 (改造) 昭二一年 卷一 一九

丘本 三郎 (社思) 昭二一年 卷一 一〇

【稅務會計】

信託稅制概論

所得稅に於ける繰越缺損

法人の前期繰越損金を當期の所得より控除せざる所得稅法施行規則第一條の

細矢 祐治 (會計) 大五二九 一三

池田 武 (會計) 大五一九 二

削除を要す

形式か實質か繰越缺損金の問題

減價償却準備金に所得稅を課することの可否に關する輿論

租稅法執行上に横たはる難問

所得稅法上の同族會社に就て

企業合同の場合に於ける所得稅に付ての疑義若干問題

營業收益稅法上の疑問

法人の繰越缺損金と所得稅

會社合併の場合に於ける所得稅上の問題

會計眼に映ずる日本工業俱樂部の法人所得稅算定方法改正運動

所得稅算上に於ける現金、推定の二主義

鐵道業及軌道業と稅制整理 (講演)

服部 榮二 (會計) 大五一九 二

木村 洪濤 (會計) 大五一九 二

岡田 誠一 (會計) 大五一九 三

福田 清 (會計) 大五一九 三

武井 厚 (會計) 大五一九 四

福田 清 (會計) 大五一九 四

木村 洪濤 (會計) 大五一九 四

織田 吉藏 (會計) 大五一九 五

木村 鍵治 (會計) 大五一九 六

中村 茂男 (企社) 大五一九 九

福田 清 (會計) 大五一九 六

佐藤 雄能 (會計) 昭二一年 一

準配當と法人所得との關係

會計の被買收差益と所得稅

及營業收益稅

保險會社の助成金對納付金

及納付準備金に關する問題

信託關係登録稅並に同改正

登録稅法案評論

實質か形式か合併差益

評價差益の可否を論ず

佐藤氏の鐵道業及軌道業と

稅制整理を讀みて

第一種所得計算上公課は常に

損金なりや

所得稅法施行地に本店又は

主たる事務所を有せざる

法人の所得計算上に於ける

二、三の問題

營業收益稅法上の損益計算

に就て

減價償却積立金の性質

合名(合資)會社の第一種

所得及營業收益の稅務取扱

木村 鍵治 (會計) 昭二一年 卷一 一號

織田 吉藏 (會計) 昭二一年 卷一 一三

武井 猛 (會計) 昭二一年 卷一 二

細矢 祐治 (會計) 昭二一年 卷一 一三

福田 清 (會計) 昭二一年 卷一 三

鹿野清次郎 (計理) 昭二一年 卷一 二四

福田 清 (會計) 昭二一年 卷一 四

木村 鍵治 (會計) 昭二一年 卷一 四

武井 猛 (會計) 昭二一年 卷一 四

村瀬 玄 (會計) 昭二一年 卷一 五

武井 猛 (會計) 昭二一年 卷一 五

船木金一郎 (會計) 昭二一年 卷一 五

營業收益稅に於ける法人の

營業純益の意義

會社の所得稅と營業收益稅

【生命保險】

我國に於ける生命保險會社の

責任準備金に就て

死亡確率論

利益配當附生命保險に就て

生命保險の缺陷

生命保險事業經營概説

米國生命保險會社の新施設と其

効果 (講演)

生命保險の缺陷

生命保險の缺陷

貨幣購買力上の問題として

生命保險金支拂額に就いて

の一提案

生命保險契約解除防止に就いて

大正十四年度に於ける本邦

生命保險事業成績概要

死亡保險に於ける死亡の積

與賀田辰雄 (會計) 昭二一年 卷一 二五

矢部 俊雄 (會計) 昭二一年 卷一 六

角尾猛治郎 大三五木等記念

鈴木 敏一 大三五木等記念

石川 文吾 大三五木等記念

錦織理一郎 (法集) 大五二一

森 凱雄 (法治) 大五二七

オールド (保評) 大五一九

錦織理一郎 (法集) 大五二一

錦織理一郎 (保評) 大五一九

佐野 包治 (銀叢) 大五二七

森 凱雄 (法政) 大五二九

渡邊 郡逸 (保雜) 大五三〇

三〇

【稅務會計】 【生命保險】

【生命保険】 【赤十字】

立金に對する偏り	山根 眞藏 (保雜) 大五三〇 三〇
景氣循環の生命保険に及ぼす影響並其對策	水野 昇 (保評) 大五九 七八
伊太利生保國營事情と其後の狀況	藤川 博 (保評) 大五一九 九
生命保険に於ける醫學的診査の現狀並に其の將來	篠原 昌治 (保雜) 大五三〇 三二
俸給振當生命保険概説	國崎 裕 (保評) 大五一九 一〇
亞米利加から歸つて	國崎 裕 (保評) 昭二〇 一
生命保険收入保険料の季節的變動	水野 昇 (保評) 昭二〇 一
日本人の生長と西洋人の生長との相違	石川日出鶴丸 (保評) 昭二〇 一五
生命保險會社計理の不備に就きて	川村 環一 (計理) 昭二一 二四
數學的危險論	山本恭次郎 (商濟) 昭二七 二
生命保險と自由競争	錦織理一郎 (法集) 昭二二 三
生命の金錢的價值を論ず	ヒューブナー (保雜) 昭二三 三三
第八回萬國アクチュアリー會議に就て	國崎 裕 (保評) 昭二三 三三
外野機關組織運用	國崎 裕 (保評) 昭二〇 五
生命保險會社は利益を獨占するか	野津 務 (エコ) 昭二五 一五
生命保險會社は利益を獨占するか	野津 務 (エコ) 昭二五 一五

ヒューブナー「米國に於ける生命保險の新傾向」(講演) (譯)	野津 務 (保評) 昭二〇 七
米國に於ける團體保險	末高 信 (保評) 昭二〇 七
生命保險契約に於ける利益配當と確定配當に就て	小谷 一雄 (國經) 昭二〇 三
最近に於ける生命保險の傾向	角尾猛治郎 (保雜) 昭二三 三四
Educational and other important tendencies in life insurance in America	鶴田 誠 (保雜) 昭二三 三四
生命保險契約の利益配當と確定配當 (講演)	S.S.Huebner (保雜) 昭二三 三四
生命價値の經濟觀 (講演)	角尾猛治郎 (保評) 昭二〇 九
生命保險	ヒューブナー (保評) 昭二〇 九
經驗死亡率の算出方法に就て	矢野 恒太 (昭二社經體系)
獨逸生命保險の起原に就て (エミングハウス)	龜田豐治郎 (保雜) 昭二三 三五
	大橋 英郎 (保雜) 昭二三 三五

【赤十字】

赤十字條約と各國赤十字社

事業との沿革關係を論ず
薩摩に於て發達せし赤十字的思想

The facts on the formation of the League of red cross societies

赤十字の新使命	秋山雅之助 明三法大記念 年卷 號
赤十字事業の新傾向	渡邊 盛衛 (歷地) 昭四一七 一三
	乾 精末 (國知) 昭二七 一
	蜷川 新 (國際) 大五二五 八
	蜷川 新 (外時) 大五四 五七

【關所】

箱根關所に關する史料	富 南 生 (歷地) 昭六 五 五
關所の研究に就て	岡部 精一 (歷地) 昭六 五 五六
我國上代に於ける關の配置に就て	衣笠 健雄 (歷地) 大八三四 四
中世に於ける關所の研究	相田 二郎 (歷地) 大八三四 四
上代に於ける關の研究	榎畑 雪湖 (歷地) 大八三四 四
關所へ禮錢	相田 二郎 (歷地) 大八三四 四
中世の兵士及び兵士米に就いて (關所の研究、五)	相田 二郎 (歷地) 大五〇七 一
關所としての越前三國湊 (關所の研究、六)	相田 二郎 (歷地) 大五〇七 一
富士山と關所 (關所の研究、七)	相田 二郎 (歷地) 大五〇八 二

富士山と關所補考 (關所の研究、八)

身延山の御會式と關所 (關所の研究第十回)

【石炭】

英國炭業の現在と將來	相田 二郎 (歷地) 昭二五〇 二
英吉利の炭坑並に炭業經濟	相田 二郎 (歷地) 昭二五〇 六
英國炭坑國有問題	堀江 歸一 (三學) 大五二〇 七
石炭の研究	河田 嗣郎 (經叢) 大五二三 三
山西の石炭	大平 頼母 (商經) 大五一 四三
	吉村 萬治 (昭二社經體系) 昭二一三六附錄

【石油】

石油企業を論ず	水口晉三郎 (法集) 大五一 一
モースールの國際的意義 (世界を風靡する石油戰)	富士 辰馬 (國知) 大五一 六 八
石油の研究	大平 頼母 (商經) 大五一 一
石油と國策	内藤 久寛 (昭二社經體系)
中米の石油外交	松澤傳太郎 (國知) 昭二七 二
モースール油田問題の經緯	有川 治助 (外時) 昭二五 五三六
	松澤傳太郎 (國知) 昭二七 四

【赤十字】 【關所】 【石炭】 【石油】

【石油】【ゼツケル】【竊盜の罪】【セトルメント】【節約】【セメント】
 【織維工業】【船員】【選舉】

世界列強の石油爭奪戰
 近東の國際石油戰
 ロイヤルダッチ石油會社の
 世界政策
 生島廣治郎〔國經〕昭二四三 六
 下田 禮佐〔商濟〕昭二八 一

【ゼツケル】(Emil Seckel. 1844-1924)
 後藤 清〔法治〕大五五 七九

【竊盜の罪】
 竊盜の犯意認定と竊盜着手
 の理論
 上内恒三郎〔臺法〕昭二二 二

【セトルメント】
 セツトルメント
 隣保事業
 セツトルメントの教育的職
 能
 大林 宗嗣 社問講四
 海野 幸徳 昭二社政系七
 松澤 兼人〔社政〕昭二 一 〇
 参照 家計。生活費。生活權
 準。貯蓄。貯蓄銀行。
 投資。

享保時代の儉約の令
 古田 良一〔歴史〕大七一 五

【セメント】
 我國セメント業に於けるカ
 ルテル
 中川 孫一〔企社〕大五一 八
 輸出貿易上に於ける織維産
 業の地位
 〔洋經〕大五一 一
 昭二〇九
 昭二二三

【船員】
 米國の新海員法
 米國海員の罷業と海員組合
 ジュネブ海員労働會議(一
 九二六年)
 船員最低年齢法に關する件
 伊藤重治郎 大五金井記念
 鈴木 文治〔解放〕大〇三 六
 〔海法〕大五一 一
 〔海法〕昭二 一 二
 参照 衆議院。政治。政黨。
 (選舉權)。選舉法。比
 例代表。

【選舉】
 普通運動の再燃
 普通選舉の諸問題
 華族の選舉權
 諸 家〔解放〕大 一 四 三
 〔改造〕大二三 五 三
 美濃部達吉〔改造〕大二三 五 三

ソビエツト・ロシアと普通
 選舉
 我國無産階級運動と普通選
 舉
 選舉權を如何に行使すべき
 か
 普通實施と政治教育
 兩院協議會に於ける普通選
 舉
 帝國議會に於ける普通運動
 略史
 大阪府第一區の選舉訴訟に
 付きて(行政區劃の變更
 と選舉區との關係)
 衆議院議員選舉及道府縣會
 議員選舉の結果
 刑餘者に選舉權の行使を許
 すべし
 普通の濫踏み
 濱松市會議員の普通選舉
 濱松市會議員選舉記録
 全國に於ける衆議院議員總
 選舉
 立憲國に於ける誤つた選舉

取締を難す
 選舉權者の最低年齢と普通選
 マルクスの普通選舉觀小論
 府縣會議員選舉と所謂選舉
 協定
 普通の實施に就て
 再び「選舉協定」について
 地方選舉戦と既成二大政黨
 の政綱
 棄權に顧みて政治教育の必
 要を論ず
 選舉權の抛棄と戸別訪問
 普通選舉史觀(講演)
 普通選舉の戦蹟について
 府縣選舉の結果と普通選
 法の缺陷
 府縣議選に於ける普通選の試
 練
 普通選の成績と其將來
 地方議會選舉の棄權に關す
 る觀察
 府縣會議員選舉結果に付て
 府縣選舉側面觀
 普通選舉制度批判

【選舉】【選舉法】【潛航艇】【戰時禁制品】【先取特權】【戰時利得稅】【戰爭】

二四〇

普選の歸趨

奥秋 高義 (法公) 昭二 三二 一

【選 舉 法】

選舉法改正私見

市村 光惠 | 大四種積祝賀

普通選舉法要綱

坂 千秋 (改造) 大四 七 五

貧困に因る缺格と勞働權

清瀬 一郎 (改造) 大四 七 五

(第六條第三號を論評す)

改正衆議院議員選舉法の疑義に付ての解釋

〔法曹〕 昭二 五九 三

改正衆議院議員選舉法の疑義に付ての解釋

選舉法疑解

〔法新〕 昭二 一 三三 八
〔新聞〕 昭二 一 二七 七

普選法規の改正を必要とする諸點 (府縣會選舉の結果を見て)

關口 泰 (都問) 昭二 五 五六

外 國 法

白耳義に於ける選舉法問題

吉野 作造 | 大四種積祝賀

Wahlrecht und Wahlpraxis in Sowjetrussland

L. Zaitref (法研) 昭二 五 四

佛國新選舉法に就て

宮澤 俊義 (國家) 昭二 四 二

【潛 航 艇】

潜水艇戰に就いて (講演) 日高 謹爾 (史雜) 大八 三 八

毒瓦斯及び潜水艦の起原に就て 太田保一郎 (中史) 大五 三 五

【戰 時 禁 制 品】

参照 || 局外中立。

敵貨と戰時禁制品

松原 一雄 (國際) 昭二 二六 一〇

【先 取 特 權】

借地に因る先取特權を論ず

藥師寺志光 | 大〇横田記念

【戰 時 利 得 稅】

戰益稅論

小川郷太郎 | 大五金井記念

戰爭の哲學

参照 || 歐洲戰爭。外交。軍國主義。軍備縮少。國際關係。國際聯盟。(戰費)。日獨戰爭。日露戰爭。日清戰爭。平和。

【戰 争】

戰爭主義と狼狽說

賀川 豐彦 (改造) 大〇 三 四

如何にして戰爭と戦ふべきか

長谷川萬次郎 (改造) 大〇 三 一〇

天龍寺船の由來

岡部 精一 (歴地) 昭六 五 七

朱印船渡航地信州迦知安密

西耶田彈西洋摩陸及毘耶字に就て

川島元次郎 (歴地) 大二 二 一 二

天龍寺船に關する新研究

倭寇とバハン船及寶船

三浦 周行 (史雜) 大三 二 五 一

倭寇とバハン船に就いて

日本船舶史の曙

長沼 賢海 (史雜) 大八 三 〇 二、五

歲條送使船に就て

所謂貞應の廻船式目に就きて

後藤 秀穂 (史雜) 大八 三 〇 七

「サンバン」支那起原說に關する一二の考證に就て

船船金融に就いて

西村 眞次 (歴史) 大八 四 一 四

甲板積貨物保險

岡山藩の自營船廠

武田 勝藏 (史學) 大二 一 四

船費保險論

元治元年上海派遣官船「健順丸」に關し石渡博士提

古田 良一 (海法) 大五 一 二

供の史料

勝安房の汽船買入狀

向井 章 (亞經) 昭二 二 一 一

廻船式目に就て

船船及船舶所有者

黒川新次郎 (銀叢) 昭二 八 五 一

武藤 長藏 (商濟) 昭二 八 一 一

村岡 典嗣 (海法) 昭二 一 三 三

住田 正一 (海法) 昭二 一 三 三

参照 || 海損。航海。

参照 || 海損。航海。

参照 || 海損。航海。

参照 || 海損。航海。

参照 || 海損。航海。

参照 || 海損。航海。

参照 || 海損。航海。

歴史と戰爭

成田 篤 (國知) 大五 六 八 號

空中襲撃論

参照 || 海上捕獲。(交戰團體)。局外中立。國際法。(水雷)。赤十字。潛航艇。(仲裁裁判)。平和。

航空機の交戰權に就ての一研究

榑崎 敏雄 (法協) 大五 四 八 九

化學戰と國際法

榑崎 敏雄 (國際) 昭二 二六 七、九

空中襲撃論

榑崎 敏雄 (國際) 昭二 二六 七、九

空中襲撃論

榑崎 敏雄 (國際) 昭二 二六 七、九

空中襲撃論

榑崎 敏雄 (國際) 昭二 二六 七、九

空中襲撃論

榑崎 敏雄 (國際) 昭二 二六 七、九

空中襲撃論

榑崎 敏雄 (國際) 昭二 二六 七、九

空中襲撃論

榑崎 敏雄 (國際) 昭二 二六 七、九

空中襲撃論

榑崎 敏雄 (國際) 昭二 二六 七、九

空中襲撃論

榑崎 敏雄 (國際) 昭二 二六 七、九

空中襲撃論

榑崎 敏雄 (國際) 昭二 二六 七、九

空中襲撃論

榑崎 敏雄 (國際) 昭二 二六 七、九

空中襲撃論

榑崎 敏雄 (國際) 昭二 二六 七、九

空中襲撃論

榑崎 敏雄 (國際) 昭二 二六 七、九

空中襲撃論

榑崎 敏雄 (國際) 昭二 二六 七、九

空中襲撃論

榑崎 敏雄 (國際) 昭二 二六 七、九

空中襲撃論

榑崎 敏雄 (國際) 昭二 二六 七、九

空中襲撃論

榑崎 敏雄 (國際) 昭二 二六 七、九

空中襲撃論

榑崎 敏雄 (國際) 昭二 二六 七、九

空中襲撃論

榑崎 敏雄 (國際) 昭二 二六 七、九

空中襲撃論

榑崎 敏雄 (國際) 昭二 二六 七、九

空中襲撃論

榑崎 敏雄 (國際) 昭二 二六 七、九

空中襲撃論

榑崎 敏雄 (國際) 昭二 二六 七、九

空中襲撃論

榑崎 敏雄 (國際) 昭二 二六 七、九

【船舶及船舶所有者】 【占有権】

一九二三年船主責任の制限に關する統一條約準備案に就て

鳥賀陽然良 | 三年 卷 大 三 神 戶 高 商

船舶所有權讓渡の要件を論ず

田中 誠二 | 大 四 商 大 記 念

公船の概念について

前原 光雄 (法研) 大 五 五 二

公船責任條約案の成立

松波仁一郎 (國際) 大 五 二 五 七 八

公船論

松波仁一郎 (國家) 大 五 四 〇 二

公船責任論の實化

松波仁一郎 (海法) 大 五 一 二

米國人の公船責任觀

松波仁一郎 (國家) 昭 二 四 二 三

公船責任論に對する英米學者の批評、附學生の書簡

松波仁一郎 (海法) 昭 二 一 三

海上衝突豫防法史

津島 憲一 (海法) 昭 二 一 三

船舶の不堪航と共同海損

椎名幾三郎 (商討) 昭 二 二 下

【占有権】

占有権の相續

末弘嚴太郎 | 大 四 穂 積 祝 賀

【倉庫】

【倉庫】

唐宋時代の倉庫に就いて
保稅倉庫に就て
改正保稅倉庫法に就いて

加藤 繁 (史學) 大 四 四 二
内池 廉吉 | 大 四 商 大 記 念
前馬 治一 (商叢) 昭 二 五 一
參照 || (寄託) 倉庫營業 (農 業 倉 庫)

【倉庫營業】

倉庫寄託貨物の競賣に就て
自己の發行せる倉庫證券を擔保とする倉庫營業者の貸付に就て

安河内 升 (銀叢) 昭 二 八 三 四
内池 廉吉 (商研) 昭 二 七 一
參照 || 海軍、汽船、(軍艦)、(商 船)、船舶、(戰時船舶管 理令)。

【造船】

本邦造船業勞働事情概説

吉田 寧 (社政) 昭 二 一 一 昭 二 八 〇

【相續】

母權と母系相續に就いて
相續思想と改正英國相續法

久野 芳藏 (歷地) 大 三 四 五
高柳 賢三 (改造) 大 五 八 九
參照 || 遺言、(遺產相續)、家 督相續。

【倉庫】 【倉庫營業】 【造船】 【相續】 【相續稅】 【左右田喜一郎】

藤原時代に於ける相續に關する法律家への質疑狀二 通

相續法基礎觀念の一考察
限定相續と株金拂込請求
他家相續
相續法と相續稅との交渉點
に就ての管見

瀧川政次郎 (社雜) 大 五 三 二 九
檜橋 渡 (新聞) 大 五 一 二 五 九
豐原 清作 (正義) 大 五 二 二
島田 鐵吉 (法曹) 昭 二 五 二
阿部 賢一 (早政) 昭 二 一 六

【相續稅】

我國の相續稅を論ず
相續法と相續稅との交渉點
に就ての管見

工藤 重義 | 大 五 金 井 記 念
阿部 賢一 (早政) 昭 二 一 六

【左右田喜一郎】

純理經濟學と心理主義 (左 右田博士の經濟學認識論 に就て)
經濟學者としての左右田博 士
哲學者としての左右田博士
左右田喜一郎博士追悼錄

赤松 要 (國經) 昭 二 四 二、四
北山富久二郎 (經研) 昭 二 四 四
古在 由重 (經研) 昭 二 四 四
諸 家 (思想) 昭 二 三 七 三

【左右田喜一郎】【早大事件】【相對性】

左右田博士の「協同體倫理」金子鷹之助(商研) 昭二 年 卷 一 號
 左右田博士とその業績 南 亮三郎(商討) 昭二 年 卷 一 號
 社會哲學の基本問題(社會對個人の問題を通して) 左右田哲學への一省察) 南 亮三郎(商討) 昭二 年 卷 一 號

【早大事件】

早稻田の騒動に顯はれた反動思想の擡頭
 思想戦の早稻田學園 諸 吉野 作造(解放) 昭二 年 卷 一 號
 學問と権力の衝突 諸 家(解放) 昭二 年 卷 一 號
 大學擁護運動の社會的意義 諸 家(解放) 昭二 年 卷 一 號
 早稻田の學徒に與ふ 大山 郁夫(解放) 昭二 年 卷 一 號
 彼等の「大學の自由」(社會科學暴壓策の發展) 大山 郁夫(改造) 昭二 年 卷 一 號
 「教授」と無産黨の「委員」と「委員長」 森戸 辰男(我等) 昭二 年 卷 一 號
 自由の學園を葬る者 榎田 民藏(我等) 昭二 年 卷 一 號
 學術の機能と學術機關の獨立性(大學の獨立性の獲得と喪失) 大内 兵衛(我等) 昭二 年 卷 一 號
 長谷川萬次郎(我等) 昭二 年 卷 一 號

【相對性】

相對論に於ける法則の絕對性
 相對性原理と眞髓 石原 純(改造) 昭二 年 卷 一 號
 相對性理論の含める哲學的問題 石原 純(思想) 昭二 年 卷 一 號
 相對性理論 三枝 博吾(思想) 昭二 年 卷 一 號
 The theory of relativity 三枝 博吾(改造) 昭二 年 卷 一 號
 日蝕觀測と相對性理論の價値 B. Russell(改造) 昭二 年 卷 一 號
 幾何學の物理學征服 石原 純(改造) 昭二 年 卷 一 號
 相對原理を中心としての學界の推移 西内 貞吉(改造) 昭二 年 卷 一 號
 感じたまゝ、相對原理の實驗方法 桑木 彥雄(改造) 昭二 年 卷 一 號
 新物理學の世界 小野忠五郎(改造) 昭二 年 卷 一 號
 相對原理側面觀 園 正造(改造) 昭二 年 卷 一 號
 「アインスタイン相對性原理の否定」の誤謬 吉村 冬彦(改造) 昭二 年 卷 一 號
 エーテルの原理 池邊 常刀(改造) 昭二 年 卷 一 號
 土井理學士の「相對性理論の否定」について 竹内 時男(改造) 昭二 年 卷 一 號
 如何にして私は相對性理論を創めたか 石原 純(思想) 昭二 年 卷 一 號
 アインスタイン(改造) 昭二 年 卷 一 號

【贓物に関する罪】

贓物罪に關聯して

村田 左文(朝司) 昭二 年 卷 一 號

【ゾ オ ヲ】 (Rudolf Sohm, 1841-1917)

中世獨逸都市制度の成立に關する研究(ゾームの市場法説に就きて)

宮下 孝吉(國經) 昭二 年 卷 一 號

【ソ オントン】 (Henry Thornton 1760-1815)

ヘンリー・ソントンの信用論とその一派

春日井 薫(明商) 昭二 年 卷 一 號

【訴訟】

参照 刑事訴訟。裁判所。證據。(訴訟行爲)。(訴訟手續)。(訴訟當事者)。(訴訟費用)。(民事訴訟)。

【租 稅】

参照 印紙稅。營業稅。家屋稅。關稅。財政。資本利子稅。消費稅。所得稅。戰時利得稅。相續稅。地租。地

方稅。

租稅制度論 小川 郷太郎 昭二 年 卷 一 號
 左傾の租稅政策 神戶 正雄(解放) 昭二 年 卷 一 號
 我が國に行はるゝ租稅論争 堀江 歸一(改造) 昭二 年 卷 一 號
 公債乎租稅乎 花戸 龍藏(國經) 昭二 年 卷 一 號
 酒稅の轉嫁を論ず 沙見 三郎(經叢) 昭二 年 卷 一 號
 糖稅改正に關する私見 清水都代三(企社) 昭二 年 卷 一 號
 不在者課稅論 神戶 正雄(經叢) 昭二 年 卷 一 號
 流通過程に於ける酒稅の轉嫁(酒稅の轉嫁を論ず、一)
 Double taxation with special reference to its international aspects 沙見 三郎(經叢) 昭二 年 卷 一 號
 新自由主義と租稅制度 神戶 正雄(京紀) 昭二 年 卷 一 號
 租稅の目的と實體 上田貞次郎(企社) 昭二 年 卷 一 號
 兵役稅と徴兵保險 神戶 正雄(經叢) 昭二 年 卷 一 號
 廣告稅論 松下 芳男(法治) 昭二 年 卷 一 號
 俱樂部稅論 神戶 正雄(經叢) 昭二 年 卷 一 號
 勤勉獎勵目的の課稅 神戶 正雄(經叢) 昭二 年 卷 一 號
 The purposes and substance of taxation 神戶 正雄(京紀) 昭二 年 卷 一 號
 公益團體と課稅 神戶 正雄(經叢) 昭二 年 卷 一 號
 農業稅論 神戶 正雄(經叢) 昭二 年 卷 一 號

累進税論	内池 廉吉(國經)	昭二	四
酒造税法問題の考察	播磨 龍城(新聞)	昭二	一
租税に於ける家計	神戸 正雄(経叢)	昭二	五
Prices and injustice in taxation	神戸 正雄(京紀)	昭二	二
租税道義	神戸 正雄(経叢)	昭二	五
税制整理	堀江 歸一(改造)	昭二	九
税制整理案批判	堀江 歸一(改造)	昭二	九
物價問題より見たる税制整理	堀江 歸一(改造)	昭二	九
第二次の税制整理	土方 成美(改造)	昭二	九
減税の財源に在り	堀江 歸一(エコ)	昭二	四
租税史	武藤 山治(財經)	昭二	三
大小切に就て	土屋 操(歴地)	昭二	二
戦國時代の通行税につきて	中川 泉三(歴地)	昭二	一
明治初年に於ける富豪税に關する評論	原 傳藏(歴地)	昭二	二
隱岐國正税帳の研究	澤田 吾一(史雜)	昭二	八
但馬國正税帳の研究	澤田 吾一(史雜)	昭二	八
弘仁主税式註解	瀧川政次郎(新報)	昭二	二
天平時代の税帳(振入、斗量、國貯)	澤田 吾一(史雜)	昭二	二
鳥取藩の租法と廢藩後の變遷	梅原 千松(歴地)	昭二	一

支那	明初蘇州府の田租につきて	清水 泰次(歴地)	昭二	六
	支那の租税制度に就て	木村増太郎(亞經)	昭二	二
【粗製濫造】	参照(國産)。産業。			
粗製濫造と金融	服部文四郎(早政)	昭二	一	
【ソムロウ】	(Felix Somló)			
ソムローの社會學的法理學	中島 重(同論)	昭二	一	
【ソルヴェイ】	(Ernest Solvay, 1838-1922)			
ソルベールのコンタビリズム	ソシアル			
【損益計算】	参照(會計學)。原價計算。			
不景氣に於ける損益計算法	私案			
代金未收入の賣買益計算に就て	東 爽五郎(會計)	昭二	一	
東會計士の所說に就て石塚	石塚 陸(會計)	昭二	一	

氏の誤解	平瀬 末喜(會計)	昭二	五
石塚陸氏の所說に就いて	高野字三郎(會計)	昭二	五
金錢債權の企業損益計算法	岡田 誠一(會計)	昭二	六
上の取扱方に就て	岡田 誠一(會計)	昭二	六
企業財政表の研究	田中藤一郎(商叢)	昭二	四
損失を免れたると利益を收めたるとの區別に就て	東 爽五郎(會計)	昭二	一
税法上の損益	原口 亮平(國經)	昭二	六
投資家と損益勘定及び利益の處分	今村慶太郎(計理)	昭二	二
土地を廻りて	岡田 誠一(會計)	昭二	二
資本金は負債なりや	下野直太郎(會計)	昭二	三
損益計算書の様式	岡本 眞一(商評)	昭二	三

【損益計算】	参照(會計學)。原價計算。			
【損害保險】	参照(運送保險)。火災保險。			
【ソムバルト】	(Werner Sombart, 1863-)			
理念の經濟學に關する一論	(ソムバルトを中心として)			
ソムバルトの人口論	岸本誠二郎(經研)	昭二	三	
ソムバルト教授の「經濟制度の將來觀」	伊藤 久秋(長彙)	昭二	一	
	中西 仁三(社政)	昭二	一	

夕部

【ダアダネルス海峡】

ダルダネル海峡問題の歴史 (講演) 坪井九馬三(史雜) 大元三三 八號

【大】 學 教育を見よ

【怠】 業

サボタージユの本質及び刑 法上の意義 大喜多 光(正義) 大五二二 八二〇 大喜多 光(臺法) 大五二二 八二〇 同上

【貸借対照表】 参照||財産評價。財産目録。

決算諸表を見る人々の爲めに(ウイルドマン) 平瀬 末喜(會計) 大五一九 一 資本的支出及収益的支出に就いて 岡田 誠一(會計) 大五一九 二 負債の評価 原口 亮平(國經) 大五二二 三 レヒトマン貸借対照表に於

【代書人】

ける營業價格 デュマルシエー貸借対照表の量的研究 企業財政表の研究 金法貸借対照表に就て シュウベルト營業價格の計算 投資上参考物件として貸借対照表の價值如何 貸借対照表上の評價に就て 銀行より見たる貸借対照表の研究 資本金は負債なりや 貸借対照表と財産目録との異同辨 貸借対照表は勘定なりや 動的貸借対照表に於ける評價 創業費に就て ケスター貸借対照表の分析的觀察法 田中 保平(商論) 大五一 三 高瀬莊太郎(商研) 大五六 二 田中藤一郎(商叢) 大五四 一 太田 哲三(會計) 大五二〇 二二三 田中 保平(會計) 大五二〇 三 今村慶太郎(計理) 大五一 二四 土岐 政藏(商論) 大五二二 一 長谷川忠平(銀研) 大五二三 二二五 下野直太郎(會計) 大五二三 三 下野直太郎(會計) 大五二三 四 下野直太郎(會計) 大五二三 五 林 健二(國經) 大五二四 五 土岐 政藏(商論) 大五二二 三 土岐 政藏(商論) 大五二二 三

司法代書人及司法代書人法の改正を論ず 井上 不言(新聞) 昭二 一 二七六號

【大統領】

米國大統領職務の由來と選舉方法 北澤 佐雄(商集) 大五一 一

【太平洋】 参照||軍備縮少。南洋。

太平洋問題に於ける竹島回顧 栢原 昌三(歴史) 大八三 六 太平洋の交通 下田 禮佐(歴史) 大八四 一 日米關係の將來と太平洋問題 滿川龜太郎(解放) 大〇三 二 太平洋問題 淺野利三郎(中史) 大二四 一 北太平洋に於けるロシア人の探險 下田 禮佐(歴史) 大四一 一 太平洋論 藤田 元春(歴史) 大五一七 六 汎太平洋學術會議に就いて 乾 精末(外時) 大五四 五 汎太平洋學術會議を迎へて 山崎 直方(外時) 大五四 五 太平洋海權問題と海軍政策の確立 坂本 俊篤(外時) 大五四 五 第三回汎太平洋學術會議の

【代書人】 【大統領】 【太平洋】 【大寶令】 【代理】

【大寶令】 参照||法制史。

大寶令の施行及び破棄 大寶令に於ける富の分配の制度について 大寶令の制定と寺院制度 赤堀又次郎(歴史) 大八三四 三 和辻 哲郎(思想) 大一一 九 禿氏 祐祥(歴史) 大四一六 二二三

【代理】

Agency by estoppel の法理 と我表見代理の觀念 使者及び代理人 花岡 敏夫 大六土方記念 鳩山 秀夫 大七富井祝賀

【代理商】

伊太利に於ける代理商に就て

寺田 四郎 年卷 六〇 岡野記念

【臺灣】

臺灣新港社文書

村上直次郎(史雜) 昭〇 八

臺灣と琉球との混同に付て

中馬 繁吉(史雜) 昭〇 八

臺灣朝鮮滿洲史研究の枝折

那珂 通世(史雜) 昭三 一

清初臺灣の鄭氏に關する文書

市村瓊次郎(史雜) 昭五 三九 二

臺灣談

那珂 通世(歴史) 昭七 六 三

三百年前日本と臺灣との經濟的關係に就きて

内田 銀藏(史林) 大六 二

臺灣の人口と理蕃事業

栗野 秀穂(歴史) 大七 二

臺灣見聞記

板澤 武雄(歴史) 大八 三

弱少民族の悲哀

山川 均(改造) 大五 八

臺灣印象記

島本 英夫(長彙) 大五 八

臺灣に於ける蕃人人口に就て

水科七三郎(統雜) 大五 四 五

臺灣産米増殖計畫

黄 及 時(企社) 昭二 一

臺灣センサスの由來(講演)

水科七三郎(統雜) 昭二 三

臺灣統治と臺灣銀行
豊臣秀吉の臺灣征伐計畫について

有川 治助(外時) 昭二 四六 五 四三

臺灣の神佛

岩生 成一(史雜) 昭二 三 八

臺灣南支開見録

東方 孝義(臺法) 昭二 三九 二

民法第六〇二條の期間を超えたる贖耕契約の民法施行後に於ける效力

西山 榮久(亞經) 昭二 二 四

臺灣清時の司法制度

渡邊 里樹(臺法) 大五 二〇 二

高松事件の法律的考察

白井新太郎(臺法) 昭二 三六 二

高松事件の法律的考察

松谷與二郎(法公) 大五 三〇 一〇

高松事件の法律的考察

松谷與二郎(新聞) 大五 一 二六 一

【高松事件】

高松事件の法律的考察

松谷與二郎(新聞) 大五 一 二六 一

【田口卯吉】

文明史家並「社會改良」論者としての田口卯軒

森戸 辰男(我等) 昭二 九 五

田口卯吉博士(その人物と業績)

諸 家(我等) 昭二 九 六

地租委譲、谷將軍、田口博士

大内 兵衛(我等) 昭二 九 六

忘れられた田口先生と忘れ得ぬ田口先生

文明史家としての田口卯軒先生

梅田 民藏(我等) 昭二 九 七

福田 徳三(商研) 昭二 七 一

【墮胎の罪】

墮胎罪の立法的基礎に就て

小泉 英一(法曹) 昭二 五 三〇 二

【伊達政宗】

伊達政宗之海外交通策

春日 重泰(史雜) 昭六 一四 一 三

伊達政宗海外遣使の目的に對する吾人の疑問

森田 實(史雜) 昭六 一四 一 三

【足袋】

足袋の製造工程

阿部 秀助(史雜) 昭七 一 一

【團體交渉】

團體協約關係小見

本多 芳郎(經叢) 大五 三三 一二

労働協約と法律

孫田 秀春 一 六四 商大記念

労働協約締結の要件として

末弘嚴太郎(改造) 大五 八 一

の権利能力と行爲能力(カスケルの見解を中心として)

後藤 清(法治) 昭二 八 五 一 二

労働協約に於ける一般的拘束性に就て(法規としての労働協約)

吉川大二郎(法叢) 昭二 七 三 四

労働協約法概論

末弘嚴太郎 昭二 社問講三

佛國労働協約法

檜橋 渡(法公) 昭二 三 五

佛國労働法と労働協約

山口正太郎(商經) 昭二 一 四六

千部

【治安維持法】

過激運動取締法案批評 諸家(解放)大二卷四號
 過激社會運動取締法案に就て 福田 德三(改造)大二卷四號
 祝はれる治安維持法案 大山 郁夫(改造)大四卷七號
 治安維持法批判 清瀬 一郎 社説講三
 治安維持法に於ける國體變革の意義 渡邊 里樹(臺法)昭三二卷一〇

【治安警察法】

治安警察法存置論を駁す 三邊 金藏(解放)大九卷一

【チイチエツク】 (Franz Žizek, 1876-)

比較性なき統計的計數(チイチエツク) 菊田 太郎(經叢)昭二二卷五
 統計に於ける二重計算(チイチエツク) 岡崎 文規(經叢)昭二二卷六

【チウニス】

佛蘭西のチウニス占領に就いて 大村作次郎(歴史)大五卷四

【チエツコ・スロヴァキア】

チエホ・スロヴァク民族の消長 内藤 智秀(歴史)大八卷四五
 チエホ・スロヴァキア國の土地制度改革 河田 嗣郎(經叢)大五卷一
 チエツコ・スロヴァキアに於ける土地政策 國際勞働局(社政)大五卷一
 マサリック「歐洲戦争の結果としてのチエツコ・スロヴァキア民族の解放」(譯) 鈴木 福治(法究)昭二二卷六
 法 律
 チエコ・スロヴァキア新社會保險法の立法事情 森 莊三郎(經論)大五卷一
 チエツコ・スロワカイ共和國民法草案と我民法 齋藤常三郎(國經)大五卷二
 チエツコ・スロワカイ共和

國民法草案に於ける賃借

【治外法權】 参照||領事裁判。

治外法權に付て(講演) 久米 邦武(史雜)昭三一卷一
 Extraterritorial experiences of the countries other than China 乾 精末(國際)大五卷二九
 外交使節の特權に關する問答 立 作太郎(國際)昭二二卷五六

【地震】

参照||震災(大正十二年)。(米國—桑港震災)。
 震災年表 日下 寬(史雜)昭二二卷一
 京都及び附近の大地震 大森 房吉(歴史)昭二二卷一
 江戸から東京への地震ごよみ 矢田 挿雲(改造)大二卷一〇
 地震 横山又次郎(中史)大三卷七
 地震觀の變遷 三宅 雪嶺(中史)大三卷七
 海外震災火災小話 佐藤 功一(中史)大三卷七
 安政地震についての出版物 K N K(中史)大三卷七
 日本大震災史 藤澤 衛彦(中史)大三卷七
 大地震豫報之可能性 日下部四郎太(思想)大二卷二五

【地震保險】

日本と地震學 藤田 元春(歴史)大三卷五
 地震學の本質とその現時の缺陷について 石原 純(改造)大三卷一
 地震保險の合理的基礎 進藤 誠一(保雜)昭二二卷三三
 地震保險論 進藤 誠一(保雜)昭二二卷三三
 土地課税の發達を論ず 神戸 正雄 大三宮崎記念
 京都の屋地子について 岩橋小彌太(歴史)大二卷三六
 土地賃賃價格の調査に就て 黒田 英雄(新聞)大五卷一
 筑前の地租制度 伊東尾四郎(歴史)大五卷三
 地券制度の解説 小野 武夫(企社)昭二二卷一〇
 支那の地租梗概 木村増太郎(亞經)昭二二卷二
 地租廢止論 秋月左都夫(財經)昭二二卷七

【地租】 参照||租稅。(地價)。

地租委 諭
 政友會内閣の地租移讓論
 (新内閣の「地方分權」政策)
 地租委 諭
 政友會内閣の地租移讓論
 地租委 諭
 政友會内閣の地租移讓論

鈴木 武雄(都問)昭二二卷六
 諸 家(財經)昭二二卷七
 神戸 正雄(時經)昭二二卷六

市政改善の基礎要件として
 の地租改革
 地租委譲論を評す
 地租委譲、谷將軍、田口博
 士
 地租委譲問題に就て
 地租委譲批判
 地租委譲の實行的價值
 地租委譲と政府案の缺陷
 土地課税權の委譲
 地租委譲と義務教育費國庫
 負擔増額
 教育費負擔と地租委譲
 地租委譲に就て
 自作農地法案の坐礁と地租
 委譲の延期

北岡 壽逸 (都問)	昭二	五	一
小林丑三郎 (都問)	昭二	五	一
大内 兵衛 (我等)	昭二	九	六
土方 成美 (エコ)	昭二	五	五
小川郷太郎 (イン)	昭二	六	三
堀江 歸一 (エコ)	昭二	五	七
小川市太郎 (エコ)	昭二	五	八
藤田進一郎 (都問)	昭二	五	三
小川郷太郎 (イン)	昭二	六	四
汐見 三郎 (經叢)	昭二	田島記念	
田川大吉郎 (都問)	昭二	五	五
河西太一郎 (改造)	昭二	九	三

カール・マルクスの地代論
 (リカルド及ロドベルト
 ス説と比較しつつ)
 チュルギー地代論の構成
 土地の非資本的性質に就て

高島 素之 (改造)	大五	八	三
東浦 庄治 (農經)	大五	二	四

【地代】 参照 小作。

(ロードベルツスの地代
 主義)
 地代原理の考察
 チウネン「孤立國」の研究
 (一、地代論)
 リカルドの地代説につき
 て
 テイラー研究 (農業經營者
 の能力と地代)
 地代論解説
 地代理論の歴史に於けるマ
 ルサスの地位 (リカード
 の地代理論との比較研究)
 リチャード・ジョーンズの
 小農地代論

河田 嗣郎 (經叢)	昭二	二	一
小林丑三郎 (政經)	昭二	二	一
近藤 康男 (農經)	昭二	三	二
西村文太郎 (政經)	昭二	二	二
石川 武彦 (農經)	昭二	三	三
北浦千太郎 (社科)	昭二	三	四
高橋 次郎 (商討)	昭二	二	下
東浦 庄治 (社政)	昭二	一	七

チベットの名義につきて
 西藏の現在
 喇嘛教の起原に就て

太田保一郎 (歴地)	昭七	六	九
下田 禮佐 (歴史)	大六	一	一
竹中 歌吉 (歴地)	大八	三	五

【地方行政】 参照 地方財政、地方税、自治
 都市、都市計畫。

郡村の語源に就きて
 郡村の語源に關して専門大
 家の御教示を乞ふ
 中田君が郡村の語源に就て
 の考を讀む
 再び郡村の語源に就て
 四たび郡村の語源に就て
 韓國古代の村邑の稱呼たる
 啄評、邑勒、檐魯及び須
 祇の考
 中田君が韓國古代村邑の稱
 呼たる啄評、邑勒、檐魯
 及び須祇に就きての考を
 讀む
 韓國古代村邑の稱呼に就い
 て白鳥博士に答ふ
 韓語城邑の稱呼たる忽 (Koi)
 の原義に就いて
 啄評の原義
 國家と地方團體との區別
 (主權は國家の觀念に必
 要缺くべからざるの原素
 なるや否や)
 明治初年の地方官會議

金澤庄三郎 (史雜)	昭五	二	二
中田 薫 (史雜)	昭七	五	七
白鳥 庫吉 (史雜)	昭七	五	九
中田 薫 (史雜)	昭七	五	二
中田 薫 (史雜)	昭六	二	七
中田 薫 (史雜)	昭六	二	八
白鳥 庫吉 (史雜)	昭六	二	〇
中田 薫 (史雜)	昭六	二	二
白鳥 庫吉 (史雜)	昭六	二	一
宮崎道三郎 (史雜)	昭九	一	一
野村 淳治	大三	宮崎記念	
藤井甚太郎 (史林)	大二三	一〇	一

王朝時代の地方行政に關す
 る一考察
 地方政治の側面觀
 人民を愚にする地方政治
 明治初年に於ける村の人格
 英國に於ける中央政府と地
 方團體との關係

宮地 直一 (史雜)	大三	五	九
齋藤 巖 (新聞)	昭二	一	二
齋藤 巖 (新聞)	昭二	一	九
中田 薫 (國家)	昭二	二	〇
蠟山 政道 (國家)	昭二	二	二

【地方財政】 参照 財政、租税、地方行政、
 地方税。

町村の會計
 地方財政と累進税比例税
 地方財政
 高利地方債の借換
 我が國の地方費國庫補助制
 度

奥田 大造 (會計)	昭二	二	二
汐見 三郎 (經叢)	昭二	二	三
田中廣太郎	昭二	社經體系	
井上 元 (イン)	昭二	六	五
中川與之助 (經叢)	昭二	二	六

【地方税】 参照 租税、地方行政、地方
 財政。

資本利子税と地方附加税
 アドルフ・ワグネル「地方
 税問題」(譯)
 船舶課税と市域
 府縣税戸數割と疑義

神戸 正雄 (經叢)	大五	三	一
小山田小七 (商論)	大五	一	四
平野 眞三 (都問)	昭二	四	一
大島 正義 (新聞)	昭二	一	三

【茶】

宇治茶園の起原について	口入田覺了(歴地)	大二三	年	卷	一
日本喫茶史	木宮 泰彦(歴地)	大九八	三	三	一
喫茶と評水	那波 利貞(歴理)	大四一	五	一	一
龍井と茶	那波 利貞(歴理)	大四一	六	一	一
宇治茶園史概説	藤田 元春(史林)	昭二	三	四	一

【中華民國】

支那を見よ。参照階級闘争。(プロレタリア)。

【中間階級】

中等階級政策に就きて	内田 銀藏	大五	金井記念	六	六
現代社會生活と知識階級	大山 郁夫(解放)	大九	二	六	六
勞働運動に對する知識階級の地位	山川 均(解放)	大九	二	八	八
知識階級と社會事實	權田保之助(解放)	大九	二	八	八
中産階級滅亡論	山川 均(改造)	大〇	三	一	三
中間階級の社會運動	島中 雄三(解放)	大〇	三	三	三
社會進歩と中間階級	佐野 學(解放)	大〇	三	三	三
社會運動に對する智識階級の使命	仁保 龜松(解放)	大〇	三	三	三

【仲裁手續】

知識階級の無識	山川 均(改造)	大〇	三	二	二
社會革命と知識階級	佐野 學(解放)	大二	五	四	四
卑怯無爲なる自稱知識階級	山本 宣治(解放)	大二	五	四	四
知識階級といふもの	有島 武郎(解放)	大二	五	四	四
知識階級の分解	平林初之輔(解放)	大二	五	四	四
知識階級存在の價値	新村 出(解放)	大二	五	四	四
智的生活の隷屬と反抗	長谷川萬太郎(解放)	大二	五	四	四
知識階級の問題	波多野 鼎(社思)	大三	三	一〇	九
社會運動と智識階級	麻生 久(改造)	大四	七	九	九
新中産階級の社會的意義	上田貞次郎(企社)	大五	一	五	五
知識階級の失業問題に就て	遊佐 敏彦(社政)	大五	一	七	七
中間階級論	青野 季吉	一	七	四	四
社會運動と智識階級	麻生 久	一	七	四	四
中間階級の苦悶とその對策	青野 季吉(改造)	昭二	九	一	一

【チュウネン】

仲裁契約に就きて	吾孫子 勝	昭三	法大記念	四	四
エドヴィンカツツ「仲裁契約及仲裁人」(譯)	籃	[法曹]	昭二	五	四
チュウネン「孤立國」の研究	Johann Heinrich von Thünen, 1783-1850				

(一、地代論)

Von Thünen に於ける遊離的數學的方法に就いて

【チュルゴ】

(Anne Robert Jacques Turgot, baron de l'Aulne, 1725-1781)

近藤 康男(農經)	昭二	三	二	二	二
寺尾 琢磨(三學)	昭二	三	二	二	二
手塚 壽郎(國經)	大五	四	一	一	二
東浦 庄治(農經)	大五	二	四	四	四

【朝鮮】

古代半島諸國興廢概考	吉田 東伍(史雜)	昭四	二	二	二
古朝鮮三國鼎立形勢考	坪井九馬三(史雜)	昭三	三	三	三
朝鮮古史考	那珂 通世(史雜)	昭三	三	三	三
臺灣朝鮮滿洲史研究の枝折	那珂 通世(史雜)	昭三	三	三	三
高麗の舊都(開城)及王宮遺址(滿月臺)	關野 貞(歴地)	昭七	六	七	七
朝鮮の活版術	林 泰輔(史雜)	昭九	七	三	三
高麗の舊都	重田 定一(歴地)	昭四	一	六	六
倭韓共に日本神國なるを論ず(講演)	久米 邦武(史雜)	昭四	三	一	二
日韓の文物比較殊に貨幣制					

【チュウネン】【チュルゴ】【朝鮮】

度の興敗(講演)

朝鮮史の葉	吉田 東伍(史雜)	昭四	二	二	二
上代の南朝鮮に就いて	今西 龍(史林)	大六	五	二	二
失はれんとする一朝鮮建築の爲に	梅原 末治(思想)	大二	四	四	四
三韓考	柳 宗悅(改造)	大二	四	九	九
樂浪文化の研究に就て	坪井九馬三(史雜)	大三	三	四	九
判決に現はれた朝鮮の文化	伊藤 憲郎(朝司)	昭二	八	一	二
明治十五年朝鮮事變と錦繪	武田 勝藏(中史)	昭二	三	五	六
明治十五年朝鮮事變の回顧	武田 勝藏(史學)	昭二	六	二	二
北鮮及琿春並間島へ旅して	松尾 鶴城(朝司)	昭二	八	一	二
朝鮮産米増殖計畫と朝鮮産業組合令	猪谷 善一(企社)	大五	一	四	四
Tenant systems in Japan and Korea	河田 嗣郎(京紀)	大五	一	一	一
朝鮮の産業と其開發策に對する若干の考察	藤野 清(商集)	大五	一	一	一
朝鮮米の效用	猪谷 善一(企社)	昭二	一	二	二
朝鮮の婚姻	李 範昇(歴理)	大七	二	六	六
北部朝鮮の風物	後藤朝太郎(史雜)	大九	三	一〇	一〇
朝鮮無産階級の團體及び在					

日本朝鮮團體
 朝鮮の族譜に就て
 朝鮮解放運動概観
 朝鮮に於ける現行の養子制度
 朝鮮犯罪物語
 朝鮮の犯罪者に關する新らしい統計
 政治
 朝鮮に於ける黨争の原因及當時の狀況
 副島道正伯の朝鮮統治論
 總督政治更新の機
 對外關係
 韓滿境界歴史
 明末の袁崇煥と清に代れる袁世凱兩袁の朝鮮に附與すべき感動如何
 朝鮮最近世史の一節「佛艦來襲」
 日韓關係
 三韓歸化人の分布
 百濟の服屬と其王位繼承に對する我國の態度

百濟滅亡の我國に及ぼせる影響
 寛永年中の日韓清の國際と國勢について
 日本百濟交渉志稿
 正統癸亥約條に就て
 日本朝鮮の交通に關する附録に就て
 大内義弘と朝鮮との關係に就て
 韓國併合事情
 日中間の高麗
 文永、弘安兩役間に於ける日、麗、元の關係
 實曆信使來聘と宗教
 朝鮮及朝鮮人を正しく理解するに必要な若干の基礎的事實
 國策の基點「朝鮮」
 後百濟及び高麗太祖朝の日本通聘
 日鮮貿易
 法 律
 依田 豊(歴史)四三二六 六
 吉田 東伍(歴史)四四一九 六
 樋口隆次郎(史雜)六二二四九二 三
 瀨野 馬熊(史雜)六四二六 九
 今西 龍(史雜)六四二六 三
 瀨野 馬熊(史雜)六八三〇 一
 小松 綠(史林)六八四一 一三
 青山 公亮(史雜)六〇三三 八九
 中村 榮孝(史雜)六五三七 六八
 武田 勝藏(中史)六五三三 七
 山口 正(社雜)四二四 三七
 石本 惠吉(外時)四二四 五四
 中村 榮孝(史雜)四二三元 八
 貿易—日鮮貿易を見よ
 農業—朝鮮を見よ

光武十一年法律第一號新聞紙法第二十五條に規定する沒收に就て

佐々木日出男(朝司)四二六 一號

【徵兵】

参考—軍事。

古代ゲルマンの徵兵制度と土地所有との關係に就て
 中古徵兵制度の變遷
 無産階級より見たる我國の徵兵制度
 兵役服務の實情と徵兵令改正に關する二三の私見
 徵兵制度反對宣言に就て
 兵役税と徵兵保險
 徵兵令發布の前後

植村清之助(史雜)六四二六 五
 川上 多助(歴史)六九三五 一五
 安部 磯雄(解放)六二四 四
 松下 芳男(法治)六二五 七八
 作田 莊一(經叢)六二五 四
 松下 芳男(法治)六二六 二三
 松下 芳男(法治)六二六 六八

【著作權】

参考—著音機。著作權法。

Zeitungsverlag und Schriftstellerschutz

T. Sternberg (法研)四二六 二

【著作權法】

【朝鮮】【徵兵】【著作權】【著作權法】【貯蓄】【貯蓄銀行】

再び文藝家協會の著作權法改正案に就て
 伊太利新著作權法

【貯蓄】

参考—節約。貯蓄銀行。郵便貯蓄。

貯蓄と投資に就て

【貯蓄銀行】

参考—銀行。信託。節約。

貯蓄銀行公營論の根據
 英國に於ける貯蓄銀行公營化運動
 相互貯蓄銀行の意義と特質
 貯蓄銀行と庶民銀行の改善に就て
 貯蓄銀行に關する若干問題
 貯蓄銀行の市營問題
 獨逸に於ける貯蓄銀行制度の發達
 貯蓄銀行小論
 貯蓄銀行市營に關する若干考察

岡野文之助(銀研)六五二 一
 岡野文之助(銀叢)六五七 二
 多田 喜一(銀研)六五二 三四
 岡野文之助(銀叢)六五七 五
 岡野文之助(銀叢)四二九 二
 松崎 壽(銀研)四二三 三
 岡野文之助(銀叢)四二九 三四
 淺野 信一(銀研)四二三 四
 岡野文之助(都問)四二五 六

【地理學】

参照||聚落。

戦時の歐洲地理學界
地理學方法論史の一断片

小川 琢治(史林) 大五一 一

(ベルンハルト・ワレニ
ウスまで)

小野 鐵二(商論) 大五一 三

デヨーン・ライト「西歐十
字軍時代に於ける自然地
理學的知識」

小野 鐵二(商論) 大五一 四

英米地理學雜誌の若干につ
いて

小野 鐵二(商論) 四二二 一

ドイツの地理學雜誌若干に
就いて

小野 鐵二(商論) 四二二 二

歐米並に我國地理學界の現
狀(講演)

寺田 貞次(商工) 四二二 三

最近佛伊その他の地理學雜
誌若干に就て

小野 鐵二(商論) 四二二 三

【賃銀】

参照||給料。經濟學。最低賃
銀。所得。生活費。物
價。利益分配。勞動及び
勞動階級。勞動組合。勞
働契約。勞動者保護。

男子の賃金と女子の賃金

河田 嗣郎(改造) 大九二 五

不景氣再來と新たなる賃銀
引下運動の擡頭に備へよ

高橋 龜吉(解放) 大五 五

各國勞働賃金統計

協調會調査課(社政) 大五 一

賃銀及勞働時間統計

永谷 良一(統集) 大五 一

賃銀調査に就て

森 數樹(統集) 大五 一

上毛モスリン事件と賃金保
護法の必要

末弘嚴太郎(改造) 大五 八

實際賃銀と其測定(Hansen)

蜷川 虎三(經叢) 大五 三

資本主義と賃銀制度

加藤 一雄(法治) 大五 五

賃銀及勞働時間統計の方法

國際勞働局(統集) 大五 一

景氣轉換期に於ける物價と
勞銀の變動

土方 成美(經研) 四二四 二

奈良時代の雇傭制度と賃銀
の種々相

瀧川政次郎(史雜) 四二六 一

勞働賃銀と經營規模

田村 市郎(商評) 四二六 一

賃金局制度に就て

河田 嗣郎(經叢) 四二六 二

賃銀立法の一考察

宮本 英雄(法叢) 四二八 五

人口論及賃銀學說と社會運
動

小泉 信三(改造) 大九二 三

アダム・スミスの勞賃論

森 耕二郎(經叢) 大二三 三

賃銀學說史概論

富永 和夫(三學) 大五〇 七

シニョアの勞賃論

濱田 恒一(三學) 大五〇 二

フィジオクラートの勞賃論

濱田 恒一(三學) 大五〇 二

と「純收入」
リカアド勞賃論とマルサス
人口法則
フォードの勞賃論

森 耕二郎(經叢) 四二四 一

森 耕二郎(經叢) 四二五 二

星野周一郎(經叢) 四二五 二

【賃借】

参照||小作法。借地法。借家法。

民法第六〇五條同第六一二
條に關する一疑問

姉齒 松平(臺法) 大五〇 八

賃借契約上に於ける再轉
賃借契約の効果及所謂他
理權を容認したる高等法
院上告部判例に就て

姉齒 松平(臺法) 四二二 八

所謂權利金に就て

鈴木喜三郎(新聞) 四二二 一七三

權利金に就いて

S O 生(新聞) 四二二 一七四

造作買取請求權行使に因る
造作代金支拂と建物明渡
請求との間に存する同時
履行抗辯權に就き

鈴木喜三郎(法公) 四二三 九

同上

鈴木喜三郎(法新) 四二二 一四

權利金に就て

岡本 司藏(新聞) 四二二 一七五

所謂權利金の意義性質

寺田 彌一郎(新聞) 四二二 一七六

佛蘭西の老舖權

西島彌太郎(商論) 四二二 一

【青島】

膠洲灣を見よ

チエッコ・スロワカイ共和
國民法草案に於ける賃借

後藤 清(商論) 四二二 二

【賃銀】【賃借】【青島】

ツ部

【通信】 参照＝交通。(電信)。(無線電信)。

世界の通信事業の話

岩永 祐吉(國知) 大五 六 八 號

【ツウンベルグ】 (Karl Peter Thunberg, 1743-1828)

百五十年前渡來のツウンベルグ氏と農業經濟の研究 武藤 長藏(國家) 大五 〇 九

【ツガン・バラノウスキー】 (Michael Tugan-Baranowsky)

分配論上の權力學說(ツウガン・バラノウスキー) 南 亮三郎(商討) 大五 一 下

【積立金】 準備金を見よ

テ部

【テューツゲン】 (Josef Dietzgen, 1828-1888)

哲人労働者テューツゲンの生涯 遠藤 無水(解放) 大二 四 八 九 號

【テュール】 (Karl Diehl, 1864-)

テュール「最近獨逸社會民主黨の變遷」(譯) 黒田 禮二(解放) 大二 五 九

【帝國議會】 議會を見よ

【帝國主義】 参照＝資本主義。

英國に於ける帝國主義とシ

ーリーの學說 小野塚喜平次 大四種積祝賀

新帝國主義

永井 亨(外時) 大五 四 五 三

思想上より見たる帝國主義

と國際主義

水井 亨(社雜) 大五 三 二 九

帝國主義の經濟的基礎

ブハーリン(社思) 大五 五 九

【テューツゲン】 【テュール】 【帝國議會】 【帝國主義】

ヒルファディング「プロレタリアートと帝國主義」(譯)

林 要(社思) 大五 五 九

帝國主義論

猪俣津南雄 社問講三

世界及日本資本主義の情勢と我國社會運動

丸岡 重亮(社思) 大五 五 三

右翼夢遊病者の帝國主義論(丸岡氏の俗論を駁す)

濱田 徹造(マル) 四二 一 三三

「資本主義の情勢と我國社會運動」再論(濱田徹造等の駁論に答ふ)

丸岡 重亮(社思) 四二 六 三

超帝國主義と資本主義發展不均等の法則

ヴァルガ(我等) 四二 九 三

帝國主義研究

諸 家(社科) 四二 三 二

帝國主義の理論と没落の過程

猪俣津南雄(社科) 四二 三 二

帝國主義論と超帝國主義論

河野 密(社科) 四二 三 二

パウエル「資本の蓄積と帝國主義」(譯)

向坂 逸郎(社科) 四二 三 二

世界資本主義「安定」とその性質

山川 均(社科) 四二 三 二

末期に於ける帝國主義の變質

高橋 龜吉(社科) 四二 三 二

帝國主義的政治過程

淺野 晃(社科) 四二 三 二

支那に於ける反帝國主義運動	市村今朝藏 (社科) 昭二 三 二
マヌイルスキー「太平洋支那を中心とする日英米の帝國主義葛藤」(譯)	稻村 順三 (社科) 昭二 三 二
アメリカ帝國主義の本質ダラア・テイプロマンシイ	佐々木修二郎 (社科) 昭二 三 二
帝國主義に關する文獻集録	(社科) 昭二 三 二
夢遊病者の躍進について (丸岡氏併せて薄氏を評す)	濱田 徹造 (マル) 昭二 一 三三六 綾川 武治 (外時) 昭二 五 五二八
生活帝國主義	佐野 學 (マル) 昭二 一 三七
我が排外主義者の帝國主義戰爭論	レニ (マル) 昭二 一 三七
所謂「超帝國主義」批判	猪俣津南雄 (改造) 昭二 九 六
資本主義日本の帝國主義	濱田 徹造 (マル) 昭二 一 三三六
「大衆」は批判者たり得たか (夢遊病者の躍進に就て、三)	高橋 龜吉 (改造) 昭二 九 八
左翼帝國主義理論の自殺	美濃口時次郎 (企社) 昭二 一 一七
「極東に於ける帝國主義政策」(Reinhard)	
帝國主義の「政治」と所謂	

「安定」	淺野 晃 (社科) 昭二 三 三五
帝國主義と民族主義	中谷 武世 (外時) 昭二 一 四五
泥沼に陥没した「ブチ・帝國主義」者	猪俣津南雄 (改造) 昭二 九 一〇
帝國主義論大意	猪俣津南雄 (社科) 昭二 三 四
經濟政策としての帝國主義	平野 常治 (法集) 昭二 三 二
【抵當權】	
未だ發生せざる債權の擔保に就て	富井 政章 醫法大記念
火災保險と抵當權	山崎 英雄 (商叢) 昭二 五 一
【テイラア】 (Henry Charles Taylor 1873-)	
テラア研究 (農業經營者の能力と地代)	石川 武彦 (農經) 昭二 三 三
【デイルタイ】 (Wilhelm Dilthey, 1834-1911)	
ケラア「哲學者としてのデイルタイ」(譯)	三枝 博音 (思想) 大二三 六 三三
デイルタイの藝術哲學	勝部 謙造 (改造) 大二三 六 三八
デイルタイの社會概念に就	

【手形】

手形裏書の本質を論ず	松本 丞治 大三宮崎記念
手形交換の法性	堤 正元 (銀研) 大五一 二
手形の偽造及び變造	山尾 時三 (法協) 大五四 八
信用狀附手形の Recourse に就て	佐野 薫 (銀研) 大五一 三
爲替手形振出人の義務免除に就いて	野口 洪基 (商集) 大五一 一
手形交換所規約改正私案	堤 正元 (銀研) 大五一 二
手形支拂場所並に支拂擔當者の法意と實際	高木武比古 (銀研) 大五二 二
手形交換所の起原に就て	堤 正元 (銀研) 大五一 二
手形支拂場所の法的研究	松山 岩根 (銀研) 大五一 二 五六
取立手形取扱の實際と其法的解釋	西田 安信 (銀研) 昭二 三 三
手形書換の性質に就いて	野口 洪基 (商集) 昭二 一 二
早渡手形發行上の一考察	須々木庄平 (商工) 昭二 二 二
手形割引市場に就て	明石 照男 (國家) 昭二 四 七
時效の中斷と手形の呈示	小野 久 (法公) 昭二 三 七
手形交換高の季節的變動	高橋 正雄 (國家) 昭二 四 九
手形上の權利を行使すべき	

【手形】

時期	野口 洪基 (商集) 昭二 二 一
英國手形法第二編爲替手形の概説	堀部 靖雄 (長策) 昭二 一〇 四
震災手形整理の一策	中津海知方 (洋經) 大五二 一 一三三
震災手形の跡始末	吉村 貫一 (財經) 昭二 一 一四一
震災手形の後に	田川大吉郎 (洋經) 昭二 一 一四二
震災手案と社會政策	成瀬 義春 (財經) 昭二 一 一四四
震災手形法案	諸 家 (財經) 昭二 一 一四四

【デチャルダン】 (Arthur Desjardins, 1835-1901)

デチャルダン「古代の海法」	西島彌太郎 (商論) 大五一 一 四
---------------	--------------------

【鐵】

神代史と中國鐵山	山田新一郎 (歴史) 大六 三〇 三二六
本邦製鐵業勞働事情概説	橋本能保利 (社政) 大五一 一 一三〇
我國の鋼材市場と價格	岩野晃次郎 (經研) 大五三 三 四
歐洲製鐵聯合	神戸 正雄 (時經) 大五 六 五二
歐洲鐵鋼カルテル成立の経緯	林 正義 (外時) 大五四 五二九
本邦基礎產業集中の現勢其	[資料] 昭二 三 四

【鐵】【哲學】

歐洲製鋼國際カルテルの組織
本邦製鐵業の現在及將來

【哲】

「思想問題」と哲學的精神
唯物主義より精神主義へ
自然科學に於ける理想主義
流行の哲學思潮
理想主義のために
哲學倫理の大勢
私の主意主義の意味
現代哲學思潮
權力の思想的研究
東洋に於ける權力超越の思想
近代の科學と希臘の哲學
Moderne Wissenschaft und
griechische Philosophie
宗教倫理哲學界總評
統粹性に就て
テレオロギー考察

高松高商(商工) 昭二 二
田中 貢(明商) 昭二 二
参照 基督教。自然。社會學。
宗教。(進化)。人格。心
理學。相對性。道德。論
理。

朝永三十郎(改造) 大九 二
富永 德磨(解放) 大九 二
ジョン・デューイ(改造) 六〇 三
桑木 嚴翼(思想) 六〇 一
阿部 次郎(改造) 六〇 三
村松 正俊(解放) 六〇 三
西田幾多郎(改造) 六二 九
矢崎 美盛(改造) 六二 九
諸 家(解放) 六二 〇
高瀬武次郎(解放) 六二 二
リツケルト(改造) 六二 二
H. Rickert(改造) 六二 二
村松 正俊(解放) 六二 二
紀平 正美(思想) 六二 三
左右田喜一郎(思想) 六二 三

原始民族の思想觀
眞と美
本質研究の方法
カント哲學に於ける「自然
の合目的性」の概念
現代に於ける自我問題の一
面

承認の原理
哲學と人格關係
我が國民の正統思想に就て
(講演)
中國哲學の貢獻
オーギュスト・コントが見
たるその諸先哲
教育と思想
マックス・アドラーの觀た
るマルクス思想類型の史
的生成とその理念的內容
新カント學派の哲學
ソロヴオフの完全善に就て
カントに於ける哲學の概念
ステイニス氏著「ヘーゲル
の哲學」を疑ふ
支那の近代思想

三宅 雪嶺(中史) 六二 六
西田幾多郎(改造) 六二 五
フツサール(改造) 六三 六
大橋 勉(思想) 六三 七
錦田 義富(改造) 六四 七
村松 正俊(解放) 六四 三
紀平 正美(思想) 六四 九
作田 莊一 六五 山口高商
馬 友蘭(改造) 六五 八
高橋 益實(商討) 六五 一
河崎義三郎(法公) 六五 二
山田 秀男(國家) 六五 四
齋藤 要(法政) 六五 三
長谷川玄海(法政) 六五 三
山口 諭助(思想) 六五 二
大關 將一(思想) 六五 二
佐伯 復堂(法公) 昭二 三

【哲學】【鐵道】

思想の正統性と異端性
希臘人の哲學思想
哲學概論
浪漫主義
ワオイエルバッハ「ヘーゲ
ル哲學の批判」(譯)
哲學新刊漫錄
啓蒙思想としての自己意識
說
デモクリットとエピタール
との自然哲學の差異(マ
ルクスの學位論文)(譯)
ハイデッガーの關心論の基
礎
ラスクの客觀主義とカント
の主觀主義
理念としての哲學

【鐵】

内水路と鐵道
我邦國有鐵道運賃制度
鐵道業及軌道業と營業收益
稅

【道】

伊藤重治郎 大三和田垣記念
松岡 均平 大三和田垣記念
佐藤 雄能(會計) 六五 一

【道】

参照 運輸。交通。市街鐵道。
電氣鐵道。

恒藤 恭(改造) 昭二 九
石原 謙 昭二 社經體系
紀平 正美 昭二 社經體系
岸本誠二郎 昭二 社經體系
恒藤 恭(我等) 昭二 九
本多 謙三(企社) 昭二 一
嘉治 隆一(我等) 昭二 九

鐵道に關する智識傳來史上
の山口縣
鐵道會社と優先株
鐵道の買收價格と株式價格
鐵道業利益の遞増
地方鐵道及軌道に對する北
海道拓殖費の補助
國有鐵道の營業費と運賃收
入
企業界に於ける地方鐵道軌
道業の趨勢と會計的考察
鐵道
澤田、福田二氏の批評に就
て

武藤 長藏(亞經) 六五 一〇
佐藤 雄能(會計) 六五 一
佐藤 雄能(會計) 六五 一
佐藤 雄能(會計) 六五 一
佐藤 雄能(會計) 六五 一
松本 武雄(財經) 六五 一
金谷久三郎(會計) 昭二 一
中川 正左 昭二 社經體系

英國に於ける鐵道の改造問
題

LMS 鐵道會社と従事員の
待遇

合衆國に於ける鐵道の合同
問題(スブロン)

島田 孝一(早商) 昭二 三
島田 孝一(早商) 六五 二

北米合衆國に於ける交通機關の戰時統制	米國に於ける鐵道の發達	安奉鐵道	滿蒙の鐵道熱と日露兩國東支鐵道物語	滿蒙の鐵道係争	吉會線全通の急要	滿蒙鐵道問題	其 他	中央亞細亞鐵道	「加奈陀太平洋鐵道の沿革」 (Innis) (譯)	【テニイス】 (Ferdinand Tönnies, 1855-)	マルクスの「資本論」に於ける二種の社會型とテニイスの「共同社會」及び「利益社會」の範疇	ジンメルとテニイスの社會圖型論
太田黒敏男 (明商) 昭二 二	太田黒敏男 (明商) 昭二 二	洋月生 (歴地) 昭四 二	小川 節 (國知) 大五 六	加藤 行吉 (法公) 昭二 三	牛澤 玉城 (外時) 昭二 四	菅原 友親 (國知) 昭二 七	半澤 玉城 (外時) 昭二 四	長野 朗 (外時) 昭二 四	大江 聽琴 (歴地) 昭四 一〇	高野 忠雄 (資料) 大五 三	服部 之總 (社雜) 大五 三	新明 正道 (思想) 昭二 三

【デボーリン】 (Alexander Deborin)	デボーリンのコント批評	デボーリン「ルカツチと彼のマルクス主義批評」 (譯)	マルクスの思惟に於ける「惟物的」(デボーリン及びブルムより)	【デモクラシー】 民主主義を見よ	【デュウイ】 (John Dewey, 1859-)	東洋文明は精神的にして西洋文明は物質的なりや	Some factors in mutual national understanding	自然科学に於ける理想主義	科學と現今の産業制度	ジョン・デュウイの哲學	人種的偏見の哲學的解釋
大森金五郎 (經論) 大五 一	稻村 順三 (我等) 昭二 九	本莊 可宗 (解放) 昭二 六	稲村 順三 (我等) 昭二 九	ジョン・デュウイ (改造) 大二〇 三	J. Dewey (改造) 大二〇 三	ジョン・デュウイ (改造) 大二〇 三	ジョン・デュウイ (改造) 大二〇 三	田中 王堂 (改造) 大二〇 三	ジョン・デュウイ (改造) 大二〇 三	田中 王堂 (改造) 大二〇 三	ジョン・デュウイ (改造) 大二〇 三

大平洋會議

ジョン・デュウイ (改造) 大二〇 三

【デュギー】 (Léon Duguit, 1859-)

デュギーの實證主義に對する一考察 (「私法に於ける變遷」に就て)	デュギーの實證法學
近藤 倫二 (正義) 昭二 三	好富 正臣 (國家) 昭二 四

【デュルケイム】 (Emile Durkheim, 1858-1917)

ソシオロジズムの教育學說	デュルケム「性的分業と夫婦的連帶」 (譯)
田邊 壽利 (社雜) 大五 三	田邊 壽利 (我等) 昭二 九

【田園都市】

田園都市に就きて	近代生活と田園都市の問題	英國田園都市使り
石井逸太郎 (歴理) 大二 九	オフベンハイヤー (解放) 大二 四	平野 眞三 (都問) 昭二 五

【電氣】

本邦電氣事業の現勢と電力

【デュウイ】 【デュギー】 【デュルケイム】 【田園都市】 【電氣】 【電氣鐵道】 【天皇】 【テンプル】

統制問題	電氣事業法の改正と社債の將來	電氣事業	我國主要都市に於ける電氣事業報償契約
〔法集〕 大五 二	太田 收 (銀叢) 昭二 八	松永安左衛門 昭二 社經體系	小倉 庫太 (都問) 昭二 五

【天皇】

女帝の皇位繼承に關する先例を論じて大日本史の大友天皇本紀に及ぶ	女帝皇位繼承の先例に就て稱制の辨
喜田 貞吉 (歴地) 昭七 六	喜田 貞吉 (歴地) 昭七 一

【テンプル】 (Sir William Temple, 1628-1699)

サア・ウキルリアム・テン

ブル

【丁

抹】

内田 銀藏 (史林) 大六二 年 卷 四 號

瑞典、諾威、丁抹の社會運動概況

松澤 兼人 (社思) 大三三 年 卷 九

ト 部

【獨

逸】

参照 (ウエルテンベルク)。歐洲戰爭。(サクソニア)。

バウアリア。(普魯西)。歐羅巴。

獨逸帝國思想の由來 (講演)

坂口 昂 (史雜) 大四二六 年 卷 六 號

中世都市の典型としての

「ローテンブルグ」

阿部 秀助 (歴史) 大四二六 年 卷 二

ヴェルサイユとボツツダム

波 良 生 (歴史) 大八三三 年 卷 四

共産獨逸の諸相

小田 稔 (解放) 大〇三 年 卷 二

獨逸と伊太利

大類 伸 (中史) 大三八 年 卷 三

復興ドイツの新生面

池田 林儀 (外時) 大五五 年 卷 五

獨逸に於ける教育制度

榎木 八郎 (商叢) 大五五 年 卷 一

ドイツ高等商業教育論

増地庸治郎 (企社) 大二 年 卷 一

獨逸都市に於ける乗合自動車交通の現状 (ブヒナ

一)

山口 信男 (經叢) 大二二五 年 卷 一

獨逸に於ける専門商業教育

池内 信行 (商評) 大二六 年 卷 三

本年ドイツの總勘定

中平 亮 (國知) 大二七 年 卷 三

海 運

海運 獨逸を見よ

貨 幣

貨幣 獨逸を見よ

經 済

銀行 獨逸を見よ

シーザー及タチトスに依る古獨逸土地共有制度に關する若干の疑問
三十年戰爭の影響如何
共産獨逸と資本主義聯合國との將來の戰爭
ブルジョア革命の社會的基礎

福田 德三 | 大三和田垣記念
阿部 秀助 (史雜) 大六二六 年 卷 三
稻垣 守克 (解放) 大〇三 年 卷 二
マルクス (社思) 大二三 年 卷 四

獨逸復興の難關 (人口動態及食糧問題)
獨逸に於ける資本主義の發達
經濟と社會政策
經濟議會の一種としての獨逸國經濟委員會
獨逸の力乎、國際分業の力乎

池田 林儀 (外時) 大五五 年 卷 五
石濱 知行 (社政) 大五五 年 卷 一
野口 政造 (保雜) 大五三 年 卷 三
森口 繁治 (經叢) 大五三 年 卷 四

獨逸の復興
ドイツ工業合同と科學的研究

奥野 七郎 (外時) 大二五五 年 卷 五
永井 萬助 (國知) 大二七 年 卷 二

獨逸戰後の經濟と經濟政策
獨逸自由主義の濫觴 (エレン)
獨逸の取引所組織概論
獨逸の産業回復

吉村 萬治 (エコ) 大二五 年 卷 五
堀江 歸一 (改造) 大二八 年 卷 三
美濃口時太郎 (企社) 大二 年 卷 一
申本友三郎 (銀研) 大二三 年 卷 一
宮川眞一郎 (國知) 大二七 年 卷 七

不安去らぬ獨逸財界
ドイツ經濟史
獨逸に於ける戦後のカルテル
經濟復興の途上にある獨逸
財政
獨逸の租稅收入
社會
獨逸共和國の政治及社會問題を論ず
Die politischen und sozialen Probleme der Deutschen Republik
オルガニザチヨーン・エシ
エリツヒ
獨逸社會運動の沿革と現勢
解放途上の犠牲(放浪記九)
冬眠せる獨逸社會主義運動
ドウズ案以後に於ける獨逸經濟と社會政策
無産階級の娛樂と獨逸國民劇場運場
獨逸無産階級協同組合に於ける政治的諸傾向

森田 久(外時) 昭二 卷五 四五
小林 良正 昭二 社經體系
目崎 憲司(國家) 昭二 四一〇
宇都宮 鼎(外時) 昭二 四一五
沙見 三郎(經叢) 昭二 二五六
ベルンシュタイン(改造) 大二 四一
E. Bernstein(改造) 大二 四一
室伏 高信(改造) 大二 四一
後藤 信夫(社思) 大二三 三九
石濱 知行(社思) 大二 四一
藤井 悌(改造) 大二 四一
緒方 潔(マル) 大二 四一
野口 政造(保難) 大二 四一
白崎 享一(社政) 昭二 一七
岩城 忠一(商論) 昭二 一七

第十九世紀前半の獨逸社會思想史文獻大要
ドイツ問題について
ドイツ職業調査報告
中世獨逸都市制度の成立に關する研究(ゾームの市場法説に就きて)
伊、佛、獨に於ける公益質屋制度
市場と都市發生(中世獨逸市制起原に關する一考察)
種 民
ザルツブルグ移住民
獨逸海軍と其海外植民地の初期
ドイツの舊植民地恢復熱
人口統計
政治
獨逸社會黨の穩和的傾向
獨逸先帝の陣中日記に就いて(講演)
獨逸社會黨に於ける硬軟兩派の衝突
ヘンリ四世時代の獨逸(特

加田 哲二(三學) 昭二 三六
ブハーリン(社科) 昭二 三三
増地庸治郎(企社) 昭二 一八
宮下 孝吉(國經) 昭二 四五六
藤野 惠(法協) 昭二 四二
奥井復太郎(三學) 昭二 二二
長 壽吉(史林) 大五 一三
長 壽吉(歴史) 大六 一四
堀 敏一(國知) 昭二 二七
人口統計—獨逸を見よ
小野塚喜平次 大三宮崎記念
村川 堅固(史雜) 大五 二七
桑田 熊藏 大五金井記念

に都市の勃興に就て)
獨逸大統領エーベルトと語る
獨逸共和國の政治及社會問題を論ず
Die politischen und sozialen Probleme der Deutschen Republik
一九二二年の獨逸
獨逸革命の回顧
動亂獨逸の將來
デイル「最近獨逸社會民主黨の變遷」(譯)
獨逸労働組合と政治運動
獨逸無産政黨の成立と其綱領
フランス労働黨及びドイツ共産黨の農業綱領
獨逸の政黨分野
獨逸革命の前
ビスマルクとシレスウィツ
ヒ・ホルンシュタイン問題
二人の革命家(ドイツ革命夜話)

植村清之助(史林) 大七 卷三 三四
室伏 高信(改造) 大二 四一
ヤンシュタイン(改造) 大二 四一
E. Bernstein(改造) 大二 四一
守田 有秋(解放) 大二 四一
北 哈吉(改造) 大二 四一
黒田 禮二(解放) 大二 四一
田中 九一(社思) 大二三 三九
桧崎 輝(社思) 大二 四一
河西太一郎(社思) 大二 四一
新明 正道(社思) 大二 四一
千葉雄次郎(社思) 大二 四一
菅原 憲(歴史) 大二 四一
千葉雄次郎(社思) 大二 四一

前獨逸帝室財産沒收國民投票
獨逸社會黨内の諸分派
獨逸に於ける各邦と前爲政王侯家間の財産清算問題
社會黨とビスマルク
獨逸無産政黨運動の現状と日本
ミツツラフ「革命後のドイツ市政」(譯)
對 外 關 係
獨逸領土變動の意義
一九二二年の獨逸
ドーズ報告書の世界政治的意義
罅隙を縫ふドイツ外交
ドイツの聯盟加入とロシア對獨封鎖問題に關する英米の見解及び其の影響
三國干渉前後の獨逸極東政策
明治二十七八年の戦役とドイツ外交
委任統治地と獨逸の要求

常盤 敏太(法新) 大五 一
岩城 忠一(商論) 大五 一
升本 重夫(新報) 大五 三六
小泉 信三(財經) 大五 三三
蠟山 政道(社思) 昭二 二六
小倉 庫次(都問) 昭二 二五
石橋 五郎(史林) 大九 五
守田 有秋(解放) 大二 四一
レデラー(改造) 大二三 六
中平 亮(外時) 大五 四四
竹尾 式(國知) 大五 六
森 權吉(國際) 大五 九
永富守之助(外時) 昭二 四三
立 作太郎(國際) 昭二 二六
長田 三郎(商經) 昭二 一

【獨逸】

獨逸外交の諸問題	神田襄太郎 (國知) 二七三
英國 佛蘭西 獨逸	英國 對外國關係 獨逸を見よ
普佛戰爭と日本 (國際法上より觀たる) (講演)	尾佐竹 猛 (歴地) 六四五
一八七一年ヴェルサイユ講和會議	瀨川 秀雄 (中史) 六一
ルール占領の前途如何	青木 得三 (改造) 六三五
無産階級の觀たるルール事件	赤松 克磨 (解放) 六三六
獨佛の外交關係	米田 實 (改造) 六三六
獨佛兩國の親近	中平 亮 (國知) 六五六
トアリ會見の一特性	三島 泰雄 (外時) 六五五
トアリ會見とドウズ案	佐々木修一郎 (外時) 六五五
ロカルノーカール政策か (佛獨關係の緊張)	高木 信威 (國知) 二七九
其 他	齋藤清太郎 (史雜) 二二
ビヨルケ密約	坪井九馬三 (史雜) 二二
獨逸の膠洲灣租借の動機に就いて	稻原 勝治 (外時) 二四
日獨通商條約成る	永井 萬助 (外時) 二四
獨逸合併問題	農 獨逸を見よ
貿易	

ゲルマンの交通貿易	藤田 亮策 (史雜) 六六二
獨逸に於ける外國貿易振興機關	井上 貞藏 (法政) 六五三
獨逸の對外貿易と其政策	尾形 繁之 (商經) 二一
法 律	
獨逸固有法に於けるCarnalの觀念	石田文次郎 (法叢) 六五二
獨逸勞働契約法案に於ける不誠實なる解約告知	後藤 清 (法叢) 六五二
獨逸増價法正文	小町谷操三 (志林) 六五二
新獨逸共和國の法律的性質 (獨逸新憲法研究の一)	美濃部達吉 (國家) 六五〇
一九二三年のドイツカルテル法	小島 英一 (企社) 六五
經濟學的立場より見たる獨逸新憲法	井上 貞藏 (法政) 六五三
獨逸和議法案	齋藤常三郎 (法叢) 六五六
獨逸國不正競争防止法	飯塚 半衛 (新聞) 二二
獨逸國不正競争防止法	飯塚 半衛 (法新) 二二
新獨逸國憲法と私有財産制度	田岡嘉壽男 (商集) 二二
獨逸勞働裁判所法	後藤 清 (社政) 二二
精神勞働者と獨逸所得税法	沙見 三郎 (經叢) 二二
獨逸國に於ける工業所有權	

の保護 (講演)	飯塚 半衛 (法新) 二二
獨逸航空法に於ける損害賠償責任	本間 喜一 (商研) 二二
獨逸に於ける女子の法律上の地位	田岡嘉壽男 (商集) 二二
刑 法	
獨逸新刑法草案評論	守安富太郎 (法曹) 二五
ビンノヅ「優生學と獨逸刑法改正案」 (譯)	笹 〔法曹〕 二五
ブムケ「獨逸刑罰執行法草案概要」 (譯)	守安富太郎 (法曹) 二五
千九百二十五年獨逸一般刑法草案概評	仲 節雄 (法公) 二二
フロイデンタール「千九百二十七年獨逸國刑罰執行法案」 (譯)	笹 〔法曹〕 二五
獨逸刑法一九二七年草案正文	〔志林〕 二九
獨逸議會に於ける新刑法 (譯)	笹 〔法曹〕 二五
獨逸刑法改正運動と刑法の根本問題	安平 政吉 (臺法) 二二
保 險	
勞働及勞働階級	保險 獨逸を見よ
	勞働及勞働階級 獨逸を見よ

問 屋	參照 問屋營業
問屋の研究	桑原 親通 (歴理) 六九
中古の港と問丸	三浦 周行 (史學) 二五
問屋營業	
問屋の介入權と商慣習	齊藤 巖 (新聞) 六五
乘りの商慣習と法律關係	齊藤 巖 (新聞) 六五
勞農國問屋契約	水口 吉藏 (法治) 二六
【トインビー】 (Arnold Toynbee, 1852-1883)	
アーノルド・トインビー	武藏 長藏 一 六五
銅	
高岡の銅器	石橋 五郎 (歴地) 二七
銅に就いて	大平 頼母 (商經) 二一
銅關稅撤廢論	阿部 利雄 (洋經) 二二
【東 亞】	東洋を見よ

【獨逸】 【問屋】 【問屋營業】 【トインビー】 【銅】 【東亞】

【投機】

参照 株式、株式取引所。恐慌。信用。投資。

経済的豫見とその限界
投資、投機及賭博の區別を論じて我國取引所の制度に及ぶ
ミルの投機論

- 福田敬太郎 大正神戶高商 二
- 北崎 進 (明商) 大正 一
- 小西 憲三 (法集) 大正 二

【登記】

参照 物權。

實體事實に吻合せざる登記の効力を論ず
不動産に關する回復登記に就て
假登記に關する一、二の疑問
家督相續届出前の代位登記に就て
不動産登記の申請に付當事者的一方が相手方の代理人となり又同一人にして當事者双方の代理人と爲ることを得るや

- 横田 秀雄 大正評論記念 三
- 南雲 幸吉 (朝司) 大正 五
- 孤淵 清雄 (法政) 大正 三
- 井上 二一 (臺法) 大正 二
- 姉齒 松平 (臺法) 大正 三

【東京】

参照 震災 (大正十二年)

家督相續届出前の代位登記に就てを讀みて
大正十一年勅令第四百七號第六條第七條及民法施行法第四十四條に關する一疑問
不動産登記法第八十一條と競賣申立の關係に就て
中間省略の登記に關する一考察

- 佐伯 直 (臺法) 昭二 一
- 姉齒 松平 (臺法) 昭二 三
- 淺井 磧 (臺法) 昭二 九
- 小田 寛 (新聞) 昭二 二七五〇
- 河田 巖 (史雜) 昭六 四
- 三上 參次 (歷地) 昭三 一
- 吉田 東伍 (歷地) 昭六 五
- 赤堀又次郎 (歷地) 昭二 一
- 星野 恒 (歷地) 昭二 一
- 赤堀又次郎 (歷地) 昭二 一
- 吉田 東伍 (歷地) 昭二 一
- 岡部 精一 (歷地) 昭二 一
- 岡部 精一 (歷地) 昭二 一

江戸以前の江戸
東京に於ける二三の地名に就て
東京奠都は遷都にあらず
室町時代及び戰國時代の江戸
家康及び秀吉と江戸城
江戸の町割
江戸町方書上に就いて
江戸地勢考
江戸から東京への地震ごよみ
地震より火災
江戸の名主について
江戸氣分を一掃された武藏野所見
明暦の大火を分界線として見たる江戸の文化
東京奠都に關する一考察
東京市の生野菜供給概況
帝都從來の町界町名及地番に就いて

- 喜田 貞吉 (歷地) 大正 五
- 室田 武利 (歷地) 大正 一
- 岡部 精一 (歷地) 大正 五
- 渡邊 世祐 (歷地) 大正 五
- 栗田 元次 (歷地) 大正 五
- 喜田 貞吉 (歷地) 大正 五
- 中村 亨也 (史雜) 大正 四
- 阿部 愿 (歷地) 大正 三
- 矢田 挿雲 (改造) 大正 一〇
- 關根 默庵 (中史) 大正 四
- 幸田 成友 (史學) 大正 四
- 鳥居 龍藏 (中史) 大正 七
- 藤懸 靜也 (中史) 大正 八
- 森谷 秀亮 (史雜) 大正 七
- 福本 英男 (都問) 大正 三
- 富樫 建造 (都問) 大正 三

東京大阪兩都市の經濟的特徴
東京の過去
東京市十五區民所得の階級別構成
帝都に於ける乞食の研究
江戸及東京の交通概論
東京市電車事業の財政に就て
統計より見たる東京市の交通
東京市の交通問題
東京市地下鐵道の私營說に就て
東京市の電車事業に就て
東京市の電車事業に就て田川氏に答ふ
市債
東京市の佛貨公債と國際的訴訟
再び東京市の佛貨公債に就て
東京市佛貨公債訴訟と正義

- 柴田銀次郎 (國經) 昭二 三
- 赤堀又次郎 (中史) 昭二 七
- 小田 忠夫 (都問) 昭二 一
- 吉田 英雄 (社政) 昭二 一
- 樋畑 雪湖 (歷地) 大正 五
- 豐浦 與七 (都問) 大正 一
- 道家齊一郎 (都問) 大正 二
- 吉村 弘義 (都問) 大正 三
- 松木幹一郎 (都問) 大正 三
- 田川大吉郎 (都問) 昭二 三
- 荒木 孟 (都問) 昭二 四
- 板橋 菊松 (イン) 大正 一
- 板橋 菊松 (イン) 大正 一

衡平	豐浦 與七(都問) 六五三
佛蘭西に於ける東京市債の 私法問題	遊佐 慶夫(法新) 四二一 遊佐 慶夫(早法) 四二六
東京市と市債シンヂゲート 銀行團	鈴木 武雄(都問) 四二五
東京最初の市政	岡部 精一(歴地) 六六二
其日暮しの東京市	安部 磯雄(解放) 六九二
疑獄の東京	伊藤 痴遊(解放) 六〇三
東京市政の諸問題	大澤 一六(法新) 六五一
東京市政の一考察	小倉 庫次(都問) 四二四
東京都制案の沿革と内容	田川大吉郎(都問) 四二三
東京市の昭和二年度の豫算 に就て	田川大吉郎(都問) 四二三
東京瓦斯報償契約改訂問題 に關する東京市政調査會 の意見	(都問) 四二三
區劃整理及幹線道路擴張の 一部廢止案に就て	東京市政調査會(都問) 四二四
瓦斯報償契約に於けるスラ イチンク・スケール其他	田川大吉郎(都問) 四二四
昭和二年度東京市豫算案管 見	鈴木 武雄(都問) 四二四

東京市政の現状とその改善 東京市のごたごたに關し兩 黨首に望む	大塚 一心(都問) 四二五
復興事業	田川大吉郎(洋經) 四二七
新東京建設の理想	三宅 驥一(中史) 六二七
帝都の建設と創造的精神	安部 磯雄(改造) 六二五
復興事業進捗状況(東京の 部)	平野 眞三(都問) 六五三
復興事業進捗状況(東京の 部)	小倉 庫次(都問) 四二四
帝都復興豫算の改定	關口 泰(都問) 四二四
復興事業と地價修正	田川大吉郎(都問) 四二四
東京復興事業を觀る	小倉 庫次(都問) 四二五
參照 經濟統計。國勢調査。 人口統計。(道徳統計)。 農業統計。(犯罪統 計)。	佐藤 保兒 六三三 田村 市郎(商評) 六二五 中川 友長(經研) 六二五 郡 菊之助(商討) 六五一 宮本 基(統雜) 六五二
數理統計序論	横山 雅男(統雜) 六五二
統計學の意義及び性質	田村 市郎(商評) 六二五
相關關係測定の一方法	中川 友長(經研) 六二五
エンゲルの法則に就いて	郡 菊之助(商討) 六五一
比例算出方に就て	宮本 基(統雜) 六五二
統計上より觀たる我國の 將來(講演)	横山 雅男(統雜) 六五二

統計時言	横山 雅男(統雜) 六五二
相關關係論の問題	中川 友長(統集) 六五二
統計的研究方法特に經濟統 計に關するその發達	大内 武次(明商) 六五一
數學上の大數法則と統計學 の一般的假説としての大 數法則	柴田銀次郎(國經) 六五二
自然法則と社會法則	木村喜一郎(商經) 六五一
アツヘンヴァール研究	森 文三郎(商集) 六五一
經濟學と統計學	郡 菊之助(統雜) 六五二
統計圖法の統一に就いて	郡 菊之助(統集) 六五二
統計學沿革の概要	横山 雅男(統雜) 六五二
統計圖表の分類に就いて	猪間 驥一(統集) 六五二
統計的比例數に就て(方法 論的研究)	山本恭次郎(商濟) 六五七
民文について(統計拾穗抄、 五)	財部 靜治(經叢) 六五三
統計的研究法の本質に就て	木村喜一郎(商經) 六五一
主觀的評定と統計尺度	古賀 行義(商叢) 六五二
社會統計論	岡崎 文規 社問講四
家族統計概論	財部 靜治(經叢) 六五二
大正年間の數字的概観	中川 友長(統集) 六五二
確率論の基礎	長澤 柳作(統集) 六五二
水産統計の理論及實務	長澤 柳作(統集) 六五二

統計に就ての卑見	眞田 鶴松(統雜) 四二四
梅雨考(統計拾穗抄、七)	財部 靜治(經叢) 六五二
工業統計の理論及實務	長澤 柳作(統集) 六五二
比較性なき統計的計數(チ イチュック)	菊田 太郎(經叢) 六五二
中川學士の批評に答ふ	龜田豊治郎(統集) 六五二
社會科學に於ける統計的方 法	水谷 良一(統集) 六五二
統計に於ける二重計算(チ エック)	岡崎 文規(經叢) 六五二
漁業經營の危險性と水産統 計	蜷川 虎三(統時) 六一九
居住費の研究特にシュワー への法則に就いて	郡 菊之助(商討) 六五二
統計圖に就て	藤橋喜太郎(統集) 六五二
企業統計と我國の會社統計	長澤 柳作(統集) 六五二
竹下清松氏著「統計學原論」 を評す	郡 菊之助(企社) 六五二
統計圖の通俗化を唱ふ	高橋 太一(統雜) 六五二
賽の目に依る確率實驗	内館 泰三(統雜) 六五二
數學上の大數法則と統計學 の一般的假説としての大 數法則	柴田銀次郎(統雜) 六五二
統計雜論	中川 友長(統雜) 六五二

【統計】【投資】【陶磁器】

所謂統計病
統計學と大数の法則
余の所謂「壽命値」(Vital value)
統計の誤謬について
地方統計書様式其他改善統一私見
圖表學の應用
統計に就て
統計的系列の類型に就いて
統計的研究法普遍化の目標
統計と云ふ言葉
經濟指數の技術に關する研究(經過的統計材料の解剖法)

【投 資】
債券投資時代
投資機關としての信託會社
米國の投資トラスト
貯蓄と投資に就て
投資會社の發展
投資投機及賭博の區別を論

【資 料】
社債。證券。投機。有價證券。利息。

して我國取引所の制度に及ぶ
米國の外債投資に就て
投資の史的發展を顧みて
投資家とは斯んなもの
銀行と投資との關係
證券投資者保護法 Blue sky law に就て
銀行家の心得べき放資利殖の研究
投資上參考物件として貸借對照表の價值如何
朝鮮に投資する人々へ
投資家の「債券尺」に就て
外貨邦債の買付
不動産投資と資金化
社債投資の合理化
債券による利殖の妙味

【陶 磁 器】
七寶燒の説(講演)
瀬戸の陶磁器
文祿慶長の役が我が製陶業

信天翁生(統集)	昭二	年卷	五三
木村喜一郎(商經)	昭二	一	四七
大串菊太郎(統雜)	昭二	四三	四九八
財部 靜治(經叢)	昭二	田島記念	四九八
加地 成雄(統集)	昭二	一	五五
近藤 鷲(山商)	昭二	一	一
森 林太郎(統雜)	昭二	四三	四九七
田村 市郎(商評)	昭二	五	三
小林 新(統時)	昭二	一	二
下出 隼吉(統集)	昭二	一	五五七
小林 新(早商)	昭二	三	二
後藤登喜男(イン)	昭二	一	一六
細矢 祐治(イン)	昭二	四	一三
渡邊 鐵藏(經論)	昭二	五	二
吳 文炳(イン)	昭二	四	四
山田 武夫(銀叢)	昭二	七	四

北崎 進(明商)	昭二	一	二
江上 友吉(銀研)	昭二	一	六
草野 均(イン)	昭二	一	一
草野 均(イン)	昭二	一	一
前川 正輔(銀叢)	昭二	一	二
師尾 誠治(イン)	昭二	一	一
鈴木 幸堂(銀叢)	昭二	一	一
今村慶太郎(計理)	昭二	一	一
藤井寛太郎(イン)	昭二	一	一
草野 生(イン)	昭二	一	一
井上 元(イン)	昭二	一	一
吳 文炳(イン)	昭二	一	一
松田 芳男(イン)	昭二	一	一
磯貝 一郎(イン)	昭二	一	一
横井 時冬(史雜)	昭二	一	一
深澤 鍾吉(歷地)	昭二	一	一

に及ぼせる影響
陶磁器に於ける東西文化の交渉
支那陶磁器に表はれたる西域文化

【統 治 權】
政治行爲と政治秩序
主權に關する三様の考察
兵權獨立の法學的根據
英國憲法に於ける兵權獨立の變遷
主權發生過程に於けるポトラッチの作用
國法の固有性

題に就て(譯)
生活に對する支配の道德
社會道德の再評價
宗教倫理哲學界總評
社會的道德への進化と日本自然と道德との干係
カントの道德律に就いて
道德と宗教
道德的自覺
個人倫理問題の再新
ブレタノに於ける道德的認識の起源に關する問題

魚澄惣五郎(歷理)	昭二	年卷	六
奥田 誠一(中史)	昭二	一	一
小村 俊夫(亞經)	昭二	一	一
新明 正道(社思)	昭二	一	一
村瀬武比古(法治)	昭二	一	一
中野登美雄(早政)	昭二	一	一
中野登美雄(外時)	昭二	一	一
板倉 進(我等)	昭二	一	一
中野登美雄(早政)	昭二	一	一

石原 謙(思想)	昭二	一	一
長谷川 萬太郎(改造)	昭二	一	一
室伏 高信(改造)	昭二	一	一
村松 正俊(解放)	昭二	一	一
長谷川 萬太郎(改造)	昭二	一	一
西 晋一郎(思想)	昭二	一	一
日高 四郎(思想)	昭二	一	一
安倍 能成(思想)	昭二	一	一
西 晋一郎(思想)	昭二	一	一
フツサル(改造)	昭二	一	一
世良 壽男(思想)	昭二	一	一
澤口 勝藏(歷理)	昭二	一	一
錦田 義富(思想)	昭二	一	一
阪本 勝(解放)	昭二	一	一
淡 德三郎(社問講)	昭二	一	一
佐伯 復堂(法公)	昭二	一	一
北野 大吉(商評)	昭二	一	一
清原 貞雄(歷理)	昭二	一	一
福場 保洲(社雜)	昭二	一	一
田島 錦治(京紀)	昭二	一	一

【道 徳】
服忌制の變遷を論じ徳川初期の道德史に及ぶ
平安朝時代宗教道德の概觀
哲學倫理の大勢
オイケン「現代の倫理的問

参照||經濟道德。國際道德。黨道德。

日本道德史の特色
「義理」に就ての一二の考察
Economics and morality

原 勝郎(史林)	昭二	一	一
清原 貞雄(歷理)	昭二	一	一
村松 正俊(解放)	昭二	一	一

北野 大吉(商評)	昭二	一	一
清原 貞雄(歷理)	昭二	一	一
福場 保洲(社雜)	昭二	一	一
田島 錦治(京紀)	昭二	一	一

【陶磁器】【統治權】【道德】

【動物】

兩性論 阿部余四男(思想) 大三 年 卷 四 二九號
 動物界の闘争 川村多實二(経叢) 大五 三三
 生物の美的進化 川村多實二(経叢) 昭二 二四 二
 海産動物の國際的保護 泉 哲(政経) 昭二 二 一
 關節動物の共産的社會の發生要素 光成 信男(解放) 昭二 六 二二
 参照|| (希臘)。ダアダネルス

【東方問題】

近東問題に就て(講演) 林 毅陸(史雜) 昭三 二〇 八一九
 近東の國際石油戰 生島廣治郎(國經) 昭二 四二 六
 海峽。土耳其。バルカン半島。
 参照|| 三國同盟。日英同盟。

【同盟】

同盟に關する法律上及歴史 松原 一雄(國際) 大五 二五 八
 上若干の觀察 松原 一雄(新報) 大五 三六 三〇
 ビスマルクを中心としての 参照|| アイ・ダブリュー・ダブリュー。サンジカリ
 同盟及協商 スム。労働及び労働階

【同盟罷工】

米國海員の罷業と海員組合 鈴木 文治(解放) 大〇 三 六
 公益事業と同盟罷工批判 諸 家(改造) 大三 六 八
 産業の封建化と總罷業 長谷川萬太郎(我等) 大五 八 七
 労働争議調停法と「罷業の自由」 丸谷 喜市(國經) 大五 四 五
 經濟的罷業と政治的罷業 阪本 勝(社思) 昭二 六 六
 團結及罷業の自由に關する一考察 森田 良雄(社政) 昭二 一 〇
 上海に於ける昨年度の同盟罷工 岡野 一朗(社政) 昭二 一 〇
 同盟罷業保險の現状 近藤 文二(経叢) 昭二 二五 三

【東洋】

東洋人聯盟批判 諸 家(改造) 大三 六 六
 日本の東洋政策に就いて 戴 天 仇(改造) 大四 七 三
 白人國に於ける東洋人排斥法 小島 憲一(法治) 昭二 六 一 二
 米國の東洋外交 米田 實(政経) 昭二 二 二

【道路】

諸 家(改造) 大三 六 六
 戴 天 仇(改造) 大四 七 三
 小島 憲一(法治) 昭二 六 一 二
 米田 實(政経) 昭二 二 二

古代ローマの軍用道路に就いて
 道路に關する課役制度

村川 堅固(歴地) 昭三 年 卷 三
 松岡 均平 | 大五金井記念

【特殊部落】

穢多非人の由來 久米 邦武(史雜) 昭三 一 三
 賤民考(講演) 小中村義象(史雜) 昭五 三 三
 古代賤民制 三浦 周行(史雜) 昭二 九 九 二
 餘戸考(穢多の起原) 小林庄次郎(歴地) 昭六 七 二
 特殊部落問題 山本美越乃 | 大五金井記念
 穢多非人の稱號廢止に就いて

特殊部落民解放論 尾佐竹 猛(歴地) 大八 三四 五
 吾等の水平運動 佐野 學(解放) 大〇 三 七
 選まれたる人々 高橋 貞樹(解放) 大三 五 五
 歴史上の所謂部落民 佐野 學(解放) 大三 五 五
 水平運動と其の戰士 喜田 貞吉(解放) 大三 五 五
 水平社大會の印象 猪原 榮一(解放) 大三 五 五
 中古賤民の等級に就いて 堀 利彦(改造) 大三 六 四
 水平運動大觀 瀧川政次郎(史雜) 大三 三五 五 八
 全國水平社 布施 辰治(解放) 大五 五 一 六
 水平運動發達史 深川 武(解放) 大五 五 一 六
 融和問題 吉井 浩存 | 社問講一
 梅原 貞隆 | 昭三社政系九

部落問題

有馬 頼寧 | 昭三社經體系

【瀆職の罪】

公務員の犯罪に關する刑政觀
 贈賄罪の處罰に就て 板倉松太郎 | 大〇横田記念
 贈賄提供罪を論ず 秦 良一(新聞) 昭二 一 二 五
 震災手形問題の告發に就て 三上 英雄(新聞) 昭二 一 二 九
 賄賂提供罪を論ず 三上 英雄(法新) 昭二 一 〇 六
 三上 英雄(法新) 昭二 一 〇 八

【獨占】

參照|| 專賣。トラスト。

資本利子と獨占

土方 成美(改造) 大二 五 七
 參照|| 區劃整理。住宅問題。

【都市】

歴史的中心としての都府 中村 士德(歴地) 昭九 八 一 二
 人文史上に於ける都市 阿部 秀助(歴地) 昭三 一 三
 名古屋 花見 朔巳(歴地) 昭三 一 四
 本邦都城の制 喜田 貞吉(歴地) 昭四 一 七 一 六
 都市の膨脹に付て 戸田 海市 | 大三和田垣記念
 本邦の大都會人口 高野岩三郎 | 大四種積祝賀

城下都市としての江州八幡

町 都市の意義及成因

我邦都會成立の概要、特に

町の由来

本邦古代の都市に就いて

桃山時代と城下町

人口五萬以上の都市

中世に於ける備後尾道

都市としての名古屋

都市としての鎌倉

都市の變遷

都市の地理學的觀察

都市發達の歴史的觀察

中世の都市

近世の都市

都市の立體的形態

町の呼方より見たる都市の

發展史

都市雜觀

市區の名稱について

都會文明から農村文化へ

都會と田舎との分裂

都市構築の根本策は之を耐

栗田 元次 (歴史) 大五二七 年卷 一號

阿部 秀助 (歴史) 大五二七 五

吉田 東伍 (歴史) 大五二七 五

喜田 貞吉 (歴史) 大五二七 五

大類 伸 (歴史) 大五二七 五

高橋 勝 (歴史) 大五二七 五

魚澄惣五郎 (歴史) 大五二七 五

花見 朔巳 (歴史) 大五二七 五

川上 多助 (史林) 大七三 四

大類 伸 (歴史) 大八四 四

橋本 辰彦 (歴史) 大八四 四

橋本 辰彦 (歴史) 大九五 五

橋本 辰彦 (歴史) 大九六 二

橋本 辰彦 (歴史) 大九六 三

橋本 辰彦 (歴史) 大〇七 二

平山常太郎 (歴史) 大〇七 六

橋本 辰彦 (歴史) 大〇八 一

橋本 辰彦 (歴史) 大〇八 一

室伏 高信 (改造) 大三 五

河田 嗣郎 (改造) 大三 五

火的ならしむるにあり

都市と田園

City and village

市會議員の選舉と市政の政

黨化問題

市營乘合自動車の近況

最近五年間全國各都市人口

の變化

都市生活の一研究

都市自治權の擴張に就て

マックス・ウェバーの中世

都市論 (社會學的研究)

都市社會行政の根本方針

都市の結核問題

現代大都市の發達と其限度

市會議員選舉と無産階級

防火地區と共同建築

大都市隣接町としての澁谷

町地番整理

江戸時代に於ける交隣地行

政と日本都市自治政治の

發達に關する一考察

大都市と郊外町

最近諸外國並に本邦都市の

内田 祥三 (改造) 大二 五 一〇

タゴール (改造) 大三 六 七

R. Tagore (改造) 大三 六 七

松木幹一郎 (都問) 大五 三 一

岡野文之助 (都問) 大五 三 一

猪間 驥一 (都問) 大五 三 一

古谷 善亮 (社研) 大五 一 四

松尾 楸 (都問) 大五 三 二

阿部 勇 (經論) 大五 五 二

三好豐太郎 (都問) 大五 三 三

宮島幹之助 (都問) 大五 三 三

弓家 七郎 (政經) 大五 一 三

安部 磯雄 (都問) 大五 三 五

小倉 庫次 (都問) 大五 三 五

富樫 建造 (都問) 大五 三 五

吉川季治郎 (同論) 大五 一 二

今井登志喜 (都問) 大五 三 六

孔兒死亡率

北海道各市市會議員選舉記

録

都市問題及住宅政策

都會及び農村生活者の悩み

とその打開策

東京都制と大阪特別市制

シテイマネジャー制度の研

究

都市建設の技術

本邦都市に於ける社會事業

調査機關とその文獻

都市の墓地問題

全國都市問題會議の經過

私企業都市經營化の動機論

都市の塵芥處分問題

八日市の起源と歸化人

自治體の經濟化なることに

就て

本邦都市社會行政の現在及

將來

都市社會事業の經費と財源

近代都市の職能

最近我國に於ける人口の都

猪間 驥一 (都問) 大五 三 六 年卷 六號

小田垣光之輔 (都問) 大五 三 六

弓家 七郎 (都問) 大五 三 六

河西太一郎 (改造) 大九 一 一

小倉 庫次 (都問) 大九 一 一

弓家 七郎 (政經) 大九 一 一

柳田 國男 (都問) 大九 一 一

磯村 英一 (社雜) 大九 一 一

井下 清 (都問) 大九 一 一

弓家 七郎 (都問) 大九 一 一

岡野文之助 (都問) 大九 一 一

藤原九十郎 (都問) 大九 一 一

菅野和太郎 (經叢) 大九 一 一

蟻山 政道 (都問) 大九 一 一

磯村 英一 (都問) 大九 一 一

山口 正 (國經) 大九 一 一

大野 辰男 (商經) 大九 一 一

猪間 驥一 (統集) 大九 一 一

大澤 一六 (法新) 大九 一 一

野村兼太郎 (三學) 大九 一 一

野村兼太郎 (三學) 大九 一 一

後藤 肅堂 (歴史) 大九 一 一

張 維翰 (都問) 大九 一 一

阿部 秀助 (歴史) 大九 一 一

宮下 孝吉 (國經) 大九 一 一

奥井復太郎 (三學) 大九 一 一

今井登志喜 (歴史) 大九 一 一

藤原 音松 (歴史) 大九 一 一

小田垣光之輔 (都問) 大九 一 一

極木 徹 (都問) 大九 一 一

市長は誰が選舉するか

英 國

古代英國都市概論 (英國都

市發達の史の一節)

Richt's Kalenderに就て

支 那

倭寇史上に於ける支那の都

市

雲南市の制度及び其事業

獨 逸

中世都市の典型としての

「ローテンブルグ」

中世獨逸都市制度の成立に

關する研究 (ゾームの市

場法説に就きて)

市場と都市發生 (中世獨

逸市制起原に關する一考

察)

其 他

西洋に於ける都市の變遷

都市アンチオキヤに就て

ローマ都制

海外諸都市の街路照明

猪間 驥一 (統集) 大九 一 一

大澤 一六 (法新) 大九 一 一

野村兼太郎 (三學) 大九 一 一

野村兼太郎 (三學) 大九 一 一

後藤 肅堂 (歴史) 大九 一 一

張 維翰 (都問) 大九 一 一

阿部 秀助 (歴史) 大九 一 一

宮下 孝吉 (國經) 大九 一 一

奥井復太郎 (三學) 大九 一 一

今井登志喜 (歴史) 大九 一 一

藤原 音松 (歴史) 大九 一 一

小田垣光之輔 (都問) 大九 一 一

極木 徹 (都問) 大九 一 一

【都市計画】

都市計画と労働者階級
平城京の都市計画に就て
我國都市計画事業の財政
リージョナル・プランテン
グの本質とその問題
科學的都市計画の樹立

【土地】

奈良朝の墾田出舉稻を論ず
江戸幕府の檢地手續
條里の制
天文繩井畝歩
中部越後の土地制度研究旅
行の概況
土地配分法は國史學の原基
なるを論ず
琉球地割制度の一端
豊臣秀吉の檢地と近江繩
近世開墾の發達特に受負新

蠟山 政道 (社思) 大三三	一
上田 三平 (歴史) 大五七	六
小幡 清金 (都問) 大五三	一六
弓家 七郎 (都問) 昭二四	一
武居高四郎 (都問) 昭二五	一
參照 (開墾) 小作・莊園・地 租・地代・地主・土地 所有權・土地國有・農 業	
菊池謙二郎 (史雜) 昭五三	三
坪井九馬三 (史雜) 昭七五	五
堀田璋左右 (史雜) 昭四三	二
阿部 愿 (史雜) 昭四三	二
牧野信之助 (歴史) 昭四八	五
久米 邦武 (歴史) 大二三	一
河上 肇 (大和田垣記念)	二
中川 泉三 (歴史) 大四五	二

田について
對馬の土地制度について
豊臣秀吉の檢地事業
豊臣秀吉最初の檢地と其の
實行難
農村の土地問題
舊宇和島藩の關持制度
耕地共有の割地制度につ
て
舊新發田藩の新田政策と土
地慣行
南北朝時代土地知行制度の
一二に就いて
我國資本主義發達の礎石と
しての維新の土地政策
荒廢に委せられたる土地
土地に對する上代人の概念
信州小布施の地割制度
美濃名森村の地割制度
越後國地割制度の分布に就
て
土地の費用と人の結合 (維
新史の基礎研究の一)
(講演)

牧野信之助 (歴史) 大四五	三
牧野信之助 (歴史) 大五二	八
牧野信之助 (歴史) 大七二	二
中川 泉三 (歴史) 大〇三	七
安部 磯雄 (解放) 大二五	三
小野 武夫 (史學) 大二三	三
越山 史郎 (中史) 大四一	〇
小野 武夫 (史學) 大五五	一
魚澄惣五郎 (歴史) 大五一	七
高橋 龜吉 (社科) 大五二	二
岩田 新 (企社) 大五一	一
松岡 靜雄 (社雜) 大五三	三
本庄榮治郎 (經叢) 大五三	三
本庄榮治郎 (經叢) 大五三	三
小野 武夫 (法集) 大五二	二
藤井甚太郎 (歴史) 大五四	六

地券制度の解説
土地の非資本的性質に就て
(ロードベルツスの地代
主義)
江戸時代の土地政策論
第十九世紀愛蘭土地法制小
史
アイルランドの土地政策
英 國
リーブクネヒト「イギリス
の土地問題」(譯)
オーストリアの土地政策
加 拿 大
加奈陀に於ける國有未開地
區劃制度
加奈陀に於ける國有未開地
の處分
支 那
支那古代の土地制度
明代の田地面積について
唐代の土地問題管見
支那古代の地割について

小野 武夫 (企社) 昭二一	卷一	〇
河田 嗣郎 (經叢) 昭二二	四	一
中村 孝也 (史雜) 昭二二	三	五
小島 機一 (歴史) 大一一	〇	四六
澤村 康 (社政) 大一一	一	四七
河西太一郎 (社思) 昭二六	一	一
澤村 康 (社政) 昭二一	一	八五
高岡 熊雄 (商討) 大五一	下	
高岡 熊雄 (農經) 昭二三	二	
加藤 繁 (史雜) 昭四三	三	六一
清水 泰次 (史雜) 大二三	七	六
玉井 博 (史雜) 大二三	八	一〇
藤田 元春 (史林) 大二三	八	一

青島の土地制度
明代の地檢
チエツコ・スラヴァキア
の土地制度改革
チエツコ・スロヴァキアに
於ける土地政策
米 國
米國憲法の民主政と土地法
米國政治史に於ける土地の
意義
アルフレッド・ラッセル、
ウオレリス研究
土地國有論
土地國有の問題
土地國有問題の歴史的意義

安部 磯雄 (都問) 昭二四	二
清水 泰次 (亞經) 昭二二	三
河田 嗣郎 (經叢) 大五三	一
國際勞働局 (社政) 大五一	一
岩本 英夫 (法政) 大五三	八
高木 八尺 (昭二小野塚)	二
久保田明光 (早政) 大五一	五
安部 磯雄 (社問講)	二
神戸 正雄 (時經) 昭二六	五
三浦 周行 (改造) 昭二九	〇
堀江 歸一 (エコ) 大五四	一九

【土地所有權】

参照||外國人土地所有權。家産。小作。借地。所有權。地代。(地主)。封貢制度。

シーザー及タチトスに依る

古獨逸土地共有制度に關する若干の疑問

古代ゲルマニの徵兵制度と土地所有との關係に就て

我國に於ける土地所有權の移動

土地私有の起原

土地所有權矛盾最近の展開

農業立法の基礎としての土地所有權

中世の幕府法に於ける土地財產權確認制度

明治初年に於ける土地水代賣買の解禁

植村清之助(史雜)大四五 五

高岡 熊雄 | 大五金井記念

林 要(社思)大四五 九

青木 惠一(社科)昭二三 一

根岸 勉治(社政)昭二一 八

牧 健二(法叢)昭二一八 四

牧 健二(歴史)昭二二〇 六

【特許】

参照||發明。

特許請求權を論ず

歐米特許局參觀記

井葉 正一(法治)天二五 五
飯塚 半衛(新聞)大五 一
三六九
二二二

【徒弟】

三宅氏の特許法講義を讀む
特許訴訟と假處分
再び特許請求權を論ず
特許權の限界に就て
特許法第四條第二號の解釋に就て

飯塚 半衛(新聞)大五一 二六五
飯塚 半衛(新聞)昭二一 二六〇
井葉 正一(法治)昭二六 四
井葉 正一(法治)昭二六 五三
山口 重明(正義)昭二三 一一

獨逸に於ける徒弟制度

佛國勞働法と工業徒弟問題

エリザベス「徒弟法」の研究

石本 雅男(法政)昭二一 八三

山口正太郎(商經)昭二一 四

東 晋太郎(商評)昭二六 三

【トトミアンツ】

(Vachan Fomic Totomianz. 1875-)

最近の露國組合運動(トトミアンツ)

岩城 忠一(經叢)大五 三 六

【賭博罪】

律令時代の賭博罪に就て

内山慶之進(法治)大五 五 七八

参照||貨幣。銀行。經濟學。財產。資本。奢侈。商業。所得。

富の科學
富の概念と學の權威
リーフマンの國富均等の思想

高橋誠一郎(解放)大二 年卷 四 五
出井 盛之(解放)大二 五 八
宮田喜代藏(國經)大五 四 二

【トライチケ】

(Heinrich Gotthard von Treitschke. 1834-1896)

ハインリッヒ・フォン・トライチケ

リース(史雜)昭元 七 八
参照||會社。企業。競争。信託。獨占。

【トラス】

参照||會社。企業。競争。信託。獨占。

カルテル組織の史的展開

米國の投資トラス

カルテル政策の史的発展

我國セメント業に於けるカルテル

勞農露西亞に於けるトラス

ト及シンチケイト

一九二三年のドイツカルテル法

カルテルとトラス

企業結合禁壓に關する各國の法制

小島 精一(經研)大五 三 三

渡邊 鐵藏(經論)大五 五 二

小島 精一(經研)大五 三 四

中川 孫一(企社)大五 八 八

竹中 龍雄(企社)大五 一 八

小島 英一(企社)大五 一 八

小島 精一 | 昭二社經體系

林 癸未夫(早政)昭二 一 六

ドイツ工業合同と科學的研究
トラス政策の史的発展
我國のカルテル運動
カルテルの國際化
獨逸に於ける戦後のカルテル

吉村 萬治(エコ)昭二五 五
小島 精一(經研)昭二四 二
竹中 龍雄(企社)昭二一 一 五
圓地與四松(外時)昭二四 六 五
目崎 憲司(國家)昭二四 一 一〇

【取締役】

参照||會社。株式會社。

取締役の責任を論ず

取締役の選任及就任の性質に就て

會社重役の株主なる要件と其選舉(商法雜題四)

休業銀行重役責任論

西脇 晋 | 昭三法大記念

水口 吉藏 | 大〇横田記念

松本 丞治(新報)大五 三 七

平井 信也(銀研)昭二三 四

参照||株式取引所。市場。

英蘭銀行と倫敦取引所及其の周圍

賣買事業に於ける信用取引を論ず

特權取引の理法續稿

青木 得三(改造)大四 七 四

石川 文吾 | 大四商大記念

井浦仙太郎 | 大四商大記念

【取引所】【度量衡】

大阪砂糖取引所と倫敦砂糖取引所	棗田 藤吉(商經)大五	年卷	四	號
國債長期取引と國際市場取引所に於ける立會の觀念	池田 生(イン)大五	四	四	號
證券金融に就て	小山正之助(會計)大五	一九	四	號
投資、投機及賭博の區別を論じて我國取引所の制度に及ぶ	南波 禮吉(銀叢)大五	七	四	號
大阪三品棉花市場開始と業務規定	北崎 進(明商)大五	一	二	號
取引所に於ける賣買取引の主體	棗田 藤吉(商經)大五	一	四	號
取引所に於ける賣買物件表示の形式	小山正之助(會計)昭二	二〇	一	號
取引所に於ける賣買締結の方法	小山正之助(法政)昭二	二四	一	號
差額取引の性質	棗田 藤吉(商經)昭二	一	四	號
取引所の地位に關する行政裁判例	北崎 進(明商)昭二	二	一	號
取引所に於ける賣買取引の種類	小山正之助(法究)昭二	二四	五	號
生絲正量取引問題側面觀	中野 濱男(企社)昭二	一	一六	號
獨逸の取引所組織概論	串本友三郎(銀研)昭二	一三	一	號
獨逸取引所の取引員と手數				

取引所市場と金融市場	串本友三郎(銀叢)昭二	九	二	號
新設會員組織神戸大豆粕取引所	島本 得一(銀研)昭二	一三	三	號
商品勘定の純化か分化か	棗田 藤吉(商經)昭二	一	四	號
東米の正米市場合併問題	大谷顯太郎(商集)昭二	二	一	號
不良會社の淘汰に關する信託會社と取引所の施設	河合 良成(エコ)昭二	五	二	號
受渡代行機關の使命	串本友三郎(銀叢)昭二	九	四	號
清算取引市場の繁榮策に就て	沼間 敏明(銀叢)昭二	九	四	號
證券提供と早受渡	長滿 欽司	昭二	社經體系	
振替證券保護預り制度を採	池田 時郎(銀研)昭二	一三	五	號
用するの議	島本 得一(銀研)昭二	一三	六	號
佛國ル・アール棉花取引所	串本友三郎(銀叢)昭二	九	六	號
正米相場の新豫測法	棗田 藤吉(商經)昭二	一	四	號
里程考	青木 萃一(洋經)昭二	一	二七八	號
京間、田舎間を論じて令尺と曲尺との關係に及ぶ	河部 愿(史雜)昭二	一三	二	號
	喜田 貞吉(歴地)大	二	三	號

平安京大極殿址と曲尺の研究

徳川時代に於ける衡器の檢定	喜田 貞吉(歴地)大	四	二五	年卷	五	號
支那の度量衡及び地積	藤山 豐(歴地)大	八	三四		三	
榊の研究	中村久四郎(中史)大	九	一		五	
奈良時代の斗量	鈴木 登(歴理)大	三	三		二	
尺の研究	澤田 吾一(史雜)大	三	五		三	
十七世紀に於ける尺度比較表	藤田 元春(史林)大	四	一〇		一	
	(會計)大	五	九		二	

【土耳其】

参照IIダアダネルス海峡。東方問題。バルカン半島。

コンスタンチノブル雜觀	瀬川 秀雄(歴地)昭二	二	一	號
新月旗と君斯丹丁堡城	渡邊 轍(歴地)昭二	三	二	號
君府の思ひ出	坂口 昂(史林)大	七	三	號
君府の歴史と地理	内藤 智秀(歴地)大	七	三	號
トルコの復興と回々教徒の運動	大久保幸次(改造)大	二	四	號
トルコ後宮の女奴隷	大久保幸次(解放)大	三	五	號
トルコの政教分離と回教聯盟	笠間 呆雄(國知)大	五	六	號
對外關係				
コンスタンチノブル處分				

【度量衡】【土耳其】【トルストイ】【奴隷】

論(佛國史家ドリヨール氏の所論) 土耳其に於ける英國の現勢力

君府の國際的委任統治論	大類 伸(歴地)大	四	二六	號
誣られてゐたトルコ人	内藤 智秀(史雜)大	七	二九	號
最近トルコと列強の勢力	内藤 智秀(史雜)大	八	三〇	號
日土關係の過去現在及將來	大久保幸次(解放)大	二	四	號
モスール油田問題の經緯	田口 運藏(解放)大	二	四	號
君府海峡の通航制度を論ず	笠間 呆雄(外時)大	五	四	號
	松澤傳太郎(國知)昭二	七	四	號
	芦田 均(國際)昭二	二	六	號

【トルストイ】

(Leo Nikolaeovich Tolstoi, 1828-1910)

トルコ革命憲法と其意義	有川 治助(外時)大	五	四	號
トルコ民法典(譯)	穂積 重遠(法協)大	五	四	號
江藤新平とトルコ民法	穂積 重遠(社究)昭二	一	二	號
トルコ民法典	穂積 重遠(法協)昭二	一	二	號
トルストイと陪審制度	根本 松男(法究)昭二	二	四	號
希臘奴隷史論	田中 忠夫(解放)大	二	四	號
東大寺の奴婢の事につきて	赤堀又次郎(歴地)大	二	四	號

【奴隷】 【トレルチ】 【トロツキー】

二九二

奴婢を和買するといふ事に就いて

瀧川政次郎氏の本邦古代の奴隷の説を讀みて

天平時代に於ける奴隷の價格に就いて

民族古代の奴隷發達史

ギリシアの奴隷制度

古代ローマに於ける奴隷制度の起源

ローマの社會とその奴隷制度

古代ローマに於ける奴隷の勞働

古代希臘の奴隷學說

本邦上代隸人制の一研究

筑紫觀世音寺の奴隷

古代ローマに於ける奴隷の反亂

【トレルチ】 (Ernst Troeltsch, 1865-1923)

歴史的現象評價の標準に就て (トレルチ)

瀧川政次郎 (歴地)	六二	四〇	六號
赤堀又次郎 (中史)	六二	六	二
瀧川政次郎 (思想)	六三	六	三三
新井 龍峰 (中史)	六三	九	五
柳澤 泰爾 (法治)	六五	五	八
玉城 肇 (我等)	六五	八	二二
柳澤 泰爾 (法治)	六六	一六	一六
玉城 肇 (我等)	六六	二九	四六
高橋誠一郎 (社究)	六六	二一	二
立花 嘉美 (早政)	六六	二一	八
瀧川政次郎 (我等)	六六	二九	九
玉城 肇 (社雜)	六六	二四	四
三木 清 (史林)	六〇	六	一

トレルチの歐洲文化觀並之に對する所見

【トロツキー】 (Leon Trozky, Pseud. (Lev Davidovich Bronshtein) 1880-)

勞農露國の經濟的現勢

トロツキイ論

革命藝術と社會主義的藝術

トロツキイ「さらばレーニンよ!さらば!!」(譯)

ロシア經濟は資本主義、社會主義の何れに向ひつゝあるか?

トロツキイ氏の「ヨーロッパとアメリカ」を讀む

トロツキイの觀たる英國の將來

レオ・トロツキイ「勞農露西亞の新經濟政策」(譯)

ロシア資本主義の發達

ソヴィエツト聯邦とアメリカ合衆國

前田幸太郎 | 大五山口高商

トロツキイ (改造)	六二	五	四
ラデツク (社思)	六三	三	一
トロツキイ (改造)	六三	六	二
茂森 唯士 (改造)	六三	六	四
トロツキイ (社思)	六五	五	三四
深見 尙行 (國知)	六五	六	九
北澤新次郎 (外時)	六五	四	五六
岩城 忠一 (商論)	六五	一	四
トロツキイ (社思)	六六	一	一
トロツキイ (社思)	六六	一	一

十部

【内閣】

【閣】

参照 政治。政黨。

英國内閣制度の進展

イギリス内閣制度の史的考察

占部百太郎 (史學)	六四	四	號
竹内 雄 (法治)	六二	六	二

【長野】

【崎】

英人の出島蘭館乗取計畫 (講演)

長崎の史的雜見

福岡藩主黒田家の長崎警衛 (講演)

福岡藩長崎差遣の人数に就きて

齊藤 阿具 (史雜)	六二	二四	一五
武藤 長平 (歴地)	六二	三三	二五
藤井甚太郎 (歴地)	六四	二五	四六
藤井甚太郎 (歴地)	六四	二五	六

【長野事件】

騷擾事件に對する法律家の態度

不破 清誓 (新聞)	六五	一	三五
------------	----	---	----

【内閣】 【長崎】 【長野事件】 【ナトルプ】 【ナポレオン】 【奈良】

二九三

警察と民衆との鬭争的對立

長野縣事件が示唆する社會相

長野市の暴動事件

長野騷擾事件の重大意義

天災と人災、特に長野事件の一考察

諸 家 (改造)	六五	八	一〇
大山 郁夫 (改造)	六五	八	一〇
上田貞次郎 (企社)	六五	一	六
布施 辰治 (新聞)	六五	一	二五
神戸 正雄 (時經)	六五	六	五二

【ナトルプ】 (Paul Natorp, 1854-)

フォルレンダーの「ナトルプを憶ふ」

平野義太郎 (思想)	六四	八	四五
------------	----	---	----

【ナポレオン】 (Napoleon I., 1769-1821)

百日政府

諷刺畫にあらはれたるナポレオン

大陸制度

深澤 總吉 (歴地)	四二	二	二
中村善太郎 (史林)	四五	一	二
村島 靖雄 (歴地)	六六	三	四六

【奈良】

古京雜記

平城京の四至を論ず

堀田璋左右 (歴地)	四五	四	一三
喜田 貞吉 (歴地)	四五	八	二九

【奈良】【南米】【南洋】

奈良の一里塚と高野の町石 黑板 勝美〔歴史〕九年 八 二
平城京四至の論を補ふ 喜田 貞吉〔歴史〕九 八 二
「平城京及大内裏考」評論 喜田 貞吉〔歴史〕四 二二 一
奈良 赤堀又次郎〔歴史〕四 三三 一
平城京の都市計畫に就て 上田 三平〔歴史〕六 一七 六

【南米】

参照||亞爾然丁。(ヴェネチエ
エラ)。(智利)。(秘魯)。
(伯利西爾)。

南米貿易 西田與四郎〔歴史〕六 八 三 四
南米銀行業概論 奥田 勳〔銀叢〕六 五 七 三
羅甸南米諸邦と日本 田付 七太〔外時〕二 四六 五
歐洲諸國と南米の近況 土方 寧〔外時〕二 四六 五

【南洋】

参照||大平洋。

「南洋」の意義 内田 寛一〔史林〕六 五 一 二
南洋貿易會議 神戸 正雄〔時經〕六 五 六 五
本邦南洋貿易の發達と現状 松岡 靜雄〔國知〕二 七 一 二
南洋委任統治地の民 松岡 靜雄〔國知〕二 七 一 二

日部

【ニイチエ】 (Friedrich Nietzsche, 1844-1900)

エーラー「ニイチエと現代」
(譯) 高橋 禎二〔思想〕六 五 九 五

【荷爲替】

荷爲替の法理と其慣習 妹尾 一雄〔銀研〕六 二 二 一
我國の荷爲替信用狀に就て 松川 昇造〔銀研〕二 三 一

【西陣】

西陣撰糸仲買仲間の研究
(本庄博士「西陣研究」
の批判) 澤田 章〔史林〕二 三 四

【日英同盟】

日英同盟史論 匹田 直〔歴史〕六 二 九 三
日英同盟の印度條項 高橋 清一〔國際〕二 二 三 三
日英同盟の史的考察 信夫 淳平〔國際〕二 二 三 三
噫ランスダウン侯 本多熊太郎〔外時〕二 三 五

【ニイチエ】【荷爲替】【西陣】【日英同盟】【日獨戦争】【日露戦争】
【日清戦争】【日本】

【日獨戦争】

参照||歐洲戦争。

歴史地理學上より見たる日 深澤 總吉〔歴史〕六 三 二 六
獨交戦地

【日露戦争】

ポーツマス會議 原 隨園〔中史〕六 二 一

【日清戦争】

下關講和會議 松浦嘉三郎〔中史〕六 二 一
明治二十七八年の戦役と下 立 作太郎〔國際〕二 二 一 一
イッ外交 遼東還付に關する三國干涉 信夫 淳平〔國際〕二 二 九

【日本】

日本國號考(講演) 星野 恒〔史雜〕五 三 三
和蘭國へীগ市に於ける日 星野 恒〔史雜〕五 三 三
本歴史に關する古文書 星野 恒〔史雜〕五 三 三
星野恒氏の日本國號考に就

て	木村 正辭 (史雜) 明三	年	一〇	七
日本國號考の補考	星野 恒 (史雜) 明三		一〇	二
日本國號の管見	川住 鏗三郎 (史雜) 明三		一〇	三
日本號の起原	内田 銀藏 (史雜) 明三		一〇	二
駁星野氏日本國號考の補考	木村 正辭 (史雜) 明三		一〇	一
「日本」號に關する諸家の説に賛成す	喜田 貞吉 (史雜) 明三		一〇	二
羅馬バルベリニ圖書館所藏	坪井 九馬三 (史雜) 明三		一〇	二
日本古文書	村上 直次郎 (史雜) 明三		一〇	二
ロンドンの日本古文書	後藤 庸堂 (歴史) 大八		一〇	二
日本國號に就て	遠藤 金英 (歴史) 大八		一〇	二
日本を中心とする世界思想家の見た十年後の日本	諸 家 (改造) 大〇		一〇	二
日本國旗制定史	齋藤 文藏 (中史) 大〇		一〇	二
白、黄、黒人の本質的社會合作	杉森 孝次郎 (改造) 大〇		一〇	二
歐米人の書ける日本史の柴	牧 健二 (史林) 大〇		一〇	二
ケンベルの日本歴史觀	牧 健二 (歴史) 大〇		一〇	二
歐人の日本研究	西田 直二郎 (歴史) 大〇		一〇	二
シーボルトは如何にして日本を研究せしや (講演)	吳 秀三 (史學) 大〇		一〇	二
日本といふ國名の原始的意				

味
支那三國時代に於ける我が國の形勢に就いて
海外より見たる邦人の短所
支那の史料に現れたる我が上代

中島 悦次 (歴史) 大五	四
橋本 增吉 (史學) 大五	五
新渡戸 稻造 (改造) 昭二	九
橋本 增吉 (史學) 昭二	六
	三

又部

【ヌスバウム】

(Arthur Nussbaum, 1877-)

ヌスバウム「商品取引と供給契約」

河村 東洋 (山商) 昭二 年 一 卷 一 號

【年部】

【年金】

年金事業と信託會社 細矢 祐治〔國家〕大五〇 年卷八號
 恩給制度としての郵便年金 今井田清徳〔保評〕大五一九 六一七
 英國新年金法 [保雜] 大五三〇 三二一
 數回拂及期首拂年金の新範 式 長崎 精男〔商論〕四二二 一
 英國の年金保險法 森 莊三郎〔國家〕四二二 四

【燃料】

【燃料】

燃料利用に關する諸問題 松山 文二〔商集〕四二二 一

【農部】

【農業】

参照Ⅱ(開墾)。家産。家畜。(耕地整理)。小作。自作

農業教育。農業。農業統計。農村問題。農民。農業組合。

官私稻出舉法沿革 關根 正直〔史雜〕明三一 一〇
 奈良朝の懸田出舉稻を論ず 菊池謙二郎〔史雜〕明五三 三三
 日本農業の將來 神戸 正雄 大三和田垣記念
 失業者歸農問題 小野 武夫〔解放〕大〇三 二
 不勞取得と土地社會主義 小泉 信三〔改造〕大〇三 六
 農業改造方策 河田 嗣郎〔改造〕大二三 一
 日本原史時代の農耕 藤澤 衛彦〔中史〕大二三 一
 社會主義と農業問題 佐野 學〔解放〕大二三 六
 日本農業神話の研究 津田 敬武〔中史〕大二三 八
 我が太古の農業 喜田 貞吉〔歴地〕大三四 三
 士族歸農問題と百姓一揆と
 その他 藤井甚太郎〔歴地〕大三四 三
 資本主義と農業 河田 嗣郎〔改造〕大四七 三
 農業の將來 中島 九郎〔改造〕大四七 七
 農業經營形態推移と農業階級構成の移動に關する一

【農業】

考察

カウツキー「社會主義と農業小經營」(譯)
 資本主義社會に於ける農業の發達と衰退
 資本主義社會に於ける農業の展開傾向
 農業社會化運動
 資本主義と農政問題
 商工業の發達と農業の經營
 百五十年前渡來のツウンベ
 ルグ氏と農業經濟の研究
 農業經營集約度理論の史的
 發展
 小農動態觀
 小農問題を論ず
 籐草の栽培に就て
 「農業政策學的特質」に關するシフ教授の意見(譯)
 Agricultural problems and their solution in Japan
 The agrarian problem in the Tokugawa regime
 本年度の農政及び農政學界

河西太一郎〔社思〕大四四 一〇
 河西太一郎〔社思〕大四四 三
 河西太一郎〔社思〕大四五 一
 河西太一郎〔改造〕大五八 二
 河田 嗣郎〔改造〕大五八 七
 河田 嗣郎 | 大五社間講二
 矢作 榮藏〔經論〕大五五 二
 武藤 長藏〔國家〕大五四〇 九
 東畑 精一〔農經〕大五二 三
 我妻 東策〔農經〕大五二 三
 栗原藤七郎〔解放〕大五二 三
 安田 儀作〔洋經〕大五一 二
 八木澤善次〔新報〕大五二 一〇
 河田 嗣郎〔京紀〕大五一 二
 本庄榮治郎〔京紀〕大五一 二

を顧みて	那須 皓 (農經) 大五二
小農經營の範圍 (小農に關する研究一斑、續篇)	横井 時敬 (農經) 大五二
明治時代の農業發達の特色	有元 英夫 (企社) 昭二一〇
耕地所有權移動の趨勢と米價	片山 達吉 (經研) 昭二四一
農業問題に於ける社會民主黨と共產黨	河西太一郎 (社科) 昭二三一
レーニン「農業問題に關する指導原理」(譯)	廣島 定吉 (社科) 昭二三一
カウツキー「マルクス主義的農業問題研究方法」(譯)	河西太一郎 (社科) 昭二三一
ヒルフアーディング「商業政策と農業恐慌」(譯)	太田 徹夫 (法政) 昭二二四一、三
享保前後における新田開發利害論	中村 孝也 (歴史) 昭二一九一
フレイザー「原始農業に於ける女性の職分」(譯)	内藤 俊彦 (商濟) 昭二七二
「愛知縣農史」に就いて	杉野 忠夫 (農經) 昭二三二
テウネン「孤立國」の研究 (一、地代論)	近藤 康男 (農經) 昭二三二
マルクスの農業經濟觀	河田 嗣郎 (經叢) 昭二二五
津輕藩の武士歸農策	黒正 巖 (經叢) 昭二二四一、二

邊陲の農漁村を巡りて	三好豊太郎 (社雜) 昭二四三
シツフ「農業政策の特質」(譯)	八木澤善次 (新報) 昭二七六
農業協同組合と金融資本との關係 (メシチエルヤコフ)	丘本 三郎 (社思) 昭二六六
新農業政策の提唱	石橋 湛山 (洋經) 昭二一、二、七
江戸時代に於ける新田開發に就て	橋村 博 (歴史) 昭二五〇
農業問題の基本的考察	西山 武一 (社科) 昭二三三
豊後青蓮と其取引	太神 和好 (商集) 昭二二一
國際經濟會議に於ける農業問題に關する決議	佐藤 寛次 (農經) 昭二三三
自作制度乎、小作主義乎	小野 武夫 (農經) 昭二三三、四
テイラー研究 (農業經營者の能力と地代)	石川 武彦 (農經) 昭二三三
報酬漸減則の意義と我農業に於ける其適用	生松 淨 (經研) 昭二四四
農業稅論	神戸 正雄 (經叢) 昭二田島記念
萬國農事協會に關し	信天 翁生 (統集) 昭二一、五、五
マルクス主義農業理論の史的發展	村山藤四郎 (社科) 昭二三三
財政と農業	神戸 正雄 (時經) 昭二七六、五
農業に於ける總生産費と勞	

働費

伊 太 利	國際聯盟支局 (社政) 昭二一年 卷八七
伊太利最近の農民運動	小野 武夫 (我) 大一一、四
伊太利に於ける農業社會化運動	河田 嗣郎 (叢) 大五二、三
印度に於ける政治運動と農民の蜂起	田口 運藏 (解放) 大二三、五
英 國	八木澤善次 (社思) 大五、五
英國労働黨内閣の農業政策	岩崎 博 (銀研) 大五、二
英國に於ける農業金融問題	河田 嗣郎 (經叢) 大五、三
英國労働黨の農政方針	酒井正三郎 (商叢) 大五、四
英國農業革命史論	下田 將美 (外時) 昭二、五、五〇
英國の農業問題	
埃 太 利	河西太一郎 (社思) 昭二、六
埃國社會民主黨農業綱領	河田 嗣郎 (經叢) 昭二、五
獨埃社會民主黨の農政綱領	
支 那	相原熊太郎 (歴史) 昭四、一〇
支那上古の農業狀態	高桑 駒吉 (歴史) 大三四
支那の農神に就いて	
The development of farmer's co-operation in China	Shih-Tsin Tung (農經) 昭二、三
The agricultural Credit in 朝 鮮	

朝鮮

朝鮮農民運動の展開	河田 嗣郎 (京紀) 昭二、二
ドイツ農村の起源とその歴史	朝倉 昇 (農經) 昭二、三
獨逸に於ける農民運動	栗田 元次 (歴史) 大二三、三
十六世紀獨逸農民戰爭について	河西太一郎 (解放) 大一一、四
「獨逸に於ける農業經營學の進歩」(Fasner)	小林 良正 (社研) 大五、二
獨逸社會民主黨の農政綱領	磯邊 秀俊 (農經) 昭二、三
獨逸に於ける農業經營調査	河田 嗣郎 (經叢) 昭二、五
新たに制定されたる獨逸の小作人金融法に就て	磯邊 秀俊 (農經) 昭二、三
ウエーバー「獨逸原始の農業制度及び農業共產主義」(譯)	串本友三郎 (銀研) 昭二、三
佛 蘭 西	石田秀一郎 (同論) 昭二、一、二、四
中世紀に於けるフランスの農民	小牧 近江 (解放) 大一一、四
フランスに於ける大戰後の農民の地位	佐々木修一郎 (我等) 大五、八
佛國社會主義者と農業問題	八木澤善次 (社政) 昭二、一、八、七

【農業】 【農業教育】 【農業金融】

米國に於ける新農業金融施設	奥田 勳 (商評) 大五 年 五 卷 一 號
北米合衆國に於ける農家の社會的状況と生活費	高岡 熊雄 (社政) 昭二 一 八
聯邦準備制度と農業金融	田北 學 (商集) 昭二 二 一
日米農家の生活費	高岡 熊雄 (農經) 昭二 三 四
歐 羅 巴	
東歐及中歐に於ける現代農民の社會的地位	黒田 禮二 (解放) 大三 五 三
戦後歐洲に於ける農政改革	高岡 熊雄 (農經) 大五 二 三
露 西 亞	
露西亞の農民	山川 均 (解放) 大二 四 四
ウイリアムス「ロシア農民生活印象記」(譯)	山川 菊榮 (解放) 大二 四 〇
東歐及中歐に於ける現代農民の社會的地位	黒田 禮二 (解放) 大三 五 三
露西亞農民運動史概観	河西太一郎 (社思) 大三 三 一
レーニンの農業政策	河西太一郎 (社思) 大三 三 三
新經濟政策に至る迄のレーニンの農村行政	蠟山 政道 (社思) 大三 三 四
勞農露西亞に於ける農民問題	小泉 信三 (三學) 大五 〇 八
農奴解放後に於ける露西亞の土地問題	吉川 秀造 (經叢) 大五 三 三

ソビエット・ロシア農業經濟學研究所	杉野 忠夫 (農經) 大五 二 三
露西亞に於ける農業改革とその効果	吉川 秀造 (經叢) 大五 三 六
ブハーリン「農民問題に關するテーゼ」(譯)	廣島 定吉 (社科) 昭二 三 一
スミルノフ「現ロシア農村に於ける「文化過程」について」(譯)	荒川 實藏 (社科) 昭二 三 一
露西亞の新經濟政策と農業	河田 嗣郎 (經叢) 昭二 二 四 二 三
ロシアに於ける農業政策の變遷	八木澤善次 (社思) 昭二 六 二
【農業教育】	
農村教育の諸問題	古瀬 傳藏 (解放) 大三 五 三
一國農業生活に於ける教育と新哲學	フオード (改造) 大三 六 二
木崎村農民學校問題所感	平林初之輔 (改造) 大五 八 九
農民教育の根本方針	日本農民組合 (マル) 大五 五 二九
【農業金融】	
米國に於ける新農業金融施設	

設	
農村金融問題	奥田 勳 (商評) 大五 年 五 卷 一 號
農業金融制度と普通銀行	成瀬 義春 (財經) 大五 三 一〇
農村金融と普通銀行	松尾 藤平 (銀叢) 大五 七 二
英國に於ける農業金融問題	成瀬 義春 (財經) 大五 三 一
農業利潤は決して低率なら	岩崎 博 (銀研) 大五 二 四
農業利潤論を讀みて	白濱 和夫 (洋經) 大五 一 三 三 九
重ねて農業利潤の低率ならざるを論ず	石橋 湛山 (洋經) 昭二 一 二 三 七
農業金融の根本問題	牧野 輝智 (社科) 昭二 三 一
The agricultural credit in Corea	河田 嗣郎 (京紀) 昭二 二 一
聯邦準備制度と農業金融	田北 學 (商集) 昭二 二 一
新たに制定されたる獨逸の小作人金融法に就て	串本友三郎 (銀研) 昭二 三 六
【農業統計】	
農業センサスの提案並其の範圍方法と我國の準備	長澤 柳作 (統集) 大五 一 五 四 三
耕地の擴張潰廢及現在面積調査——農林省調査	神田 橋畔 (統集) 大五 一 五 四 五
農業センサス計畫の具體化	神田 橋畔 (統維) 昭二 四 四 四

小作爭議統計	協同會農村課 (社政) 昭二 一 八 六
【農村問題】	
日本古代の村落制に就きて	内田 銀藏 (歷地) 昭二 二 三 八
農村改良の要件	氣賀 勘重 (大三和田垣記念) 大五 四 四 二 三
農村法律問題	末弘嚴太郎 (改造) 大二 四 四 二 三
江戸時代地方農村に於ける階級的社會組織	魚澄惣五郎 (歷理) 大三 一 一
農村問題と諸政黨	室伏 高信 (改造) 大三 五 三
農村救濟問題の考察	河田 嗣郎 (解放) 大三 五 三
農村の土地問題	安部 磯雄 (解放) 大三 五 三
農村の階級化	北原 龍雄 (解放) 大三 五 三
農村青年の新興政治熱	鈴木 文治 (解放) 大三 五 三
都會文明から農村文化へ	室伏 高信 (改造) 大三 五 三
日本古代の村落	川上 多助 (中史) 大三 六 五 四
農村問題及び物價論	大森金五郎 (歷地) 大三 五 三
都會と田舎との分裂	河田 嗣郎 (改造) 大二 五 八
農村青年に與ふ	河田 嗣郎 (改造) 大二 五 九
都市と田園	タゴール (改造) 大三 七 七
City and village	R. Tagore (改造) 大三 七 七
農村問題の歸趨	那須 皓 (改造) 大三 八 八
農村の根本問題	室伏 高信 (改造) 大三 九 九
農村振興建議案の批判	岡田 温 (改造) 大三 九 九

【農業金融】 【農業統計】 【農村問題】

【農村問題】

農村疲弊の問題
歴史上より見たる農村
近世村落の發達及び變遷
混沌たる農村問題(殊に那須、河田兩教授の農村問題論を讀みて)

柴謙太郎(歴史)大三四三號
赤堀又次郎(歴史)大三四三
小野武夫(歴史)大三四三

封建制度の時代的特色と農村社會の推移
農村問題
寺院と農村問題
都會及び農村生活者の悩みとその打開策

小野武夫(法集)大五二二
氣賀勘重(大五社政系六)
木津無庵(大五社政系六)

【農】

【民】

參照—農村問題。百姓一揆。

富民協會設立に際して所懐を述べ

本山彦一(エコ)昭二五二號

日本農民史
おほみたから考

喜田貞吉(歴史)大三四三
西岡虎之助(歴史)大三四三

農業労働者の保護
我國農民解放の曙光
農業の資本主義化と農民運動

河田嗣郎(大五金井記念)
高山義三(解放)大八一七

農民運動の一例として萬石騷動
會津御藏入騷動
土佐の農民

大森金五郎(歴史)大三四三
花見朝巳(歴史)大三四三

農民生活と現代文藝
農民問題に就ての一考察
共産主義の農民政策
英國初期の農民運動史
信州伊那の被官百姓
農民經濟史研究に就て
近世史上の日本農民生活
農民運動の心理的考察
農民大會に對する私見
我々は農民階級に對して如何なる態度を採るべきか
今期議會に提出されたる農民振興に關する建議案に就て

佐野學(解放)大〇三二
吉江孤雁(解放)大〇四一
大杉榮(改造)大〇四二

王朝時代に於ける農民の生活
尾張國解文に就きて
安土桃山時代の農民
江戸時代に於ける農民愛護の思想
農民運動の一例として萬石騷動

八木澤善次(社思)大三四五
河西太一郎(社思)大三四六

農民運動の恒久的病根

有馬頼寧(改造)大三六六
小野武夫(改造)大三六九

我國農民運動の二潮流
農民自治運動の創始

瀧川政次郎(我等)大五八七
八木澤善次(解放)大五五二

【農村問題】 【農民】

八部

【バーク】(Edmund Burke, 1729-1797)

パークの自然的社會辯護論 瀧澤 三郎(企社)昭二 一八

【バアベ】(Ernst Pape, 1876-)

バーベの簿記學說 高橋一太郎(法集)昭二 三

【陪審制度】参照司法。

陪審裁判と商業裁判 竹田 省(解放)大九 二 二

憲法と定年法及び陪審法 江木 衷 一 六〇 評論記念

陪審法理觀 江木 衷 一 六〇 評論記念

無産者の立場より見たる陪審制度 末弘嚴太郎(解放)大九 二 五

廣澤參議暗殺事件(講演) 尾佐竹 猛(歴史)大四 一 一

陪審員は獨立の國家機關なり 司法省刑事局(臺法)大五 二〇 七

陪審官は法律の擁護者なり 齋藤 巖(新聞)大五 一 二五七

陪審法宣傳と模倣裁判 安齋 一安(新聞)昭二 一 二七五〇

陪審法廷の座席問題 白濱 直衛(新聞)昭二 一 二七五七

陪審法宣傳民衆心理 黒法 隆(新聞)昭二 一 二七五九

陪審員名簿調製に就て 大濱 隆(法新)昭二 一 二二六

陪審裁判法廷戦術の一端(ヴァン) 安東 禾村(法新)昭二 一 二二九

陪審制度と検事 國分 丸治(法曹)大五 四 二二

白濱判事の陪審法廷座席問題に就て 國分 丸治(新聞)昭二 一 二七六

陪審法の疑義に付ての解釋 國分 丸治(法曹)昭二 五 二二

陪審法の疑義に就ての解釋 國分 丸治(新聞)昭二 一 二七五

陪審法の疑義に付ての解釋 國分 丸治(法新)昭二 一 二七五

英國に於ける陪審制度 村上 貞吉(正義)大五 二 一七〇

英國陪審制度視察復命書 宇野要三郎(法新)大五 一 二一五

サットリフ「陪審裁判印象記」(譯) 江橋 治郎(法新)大五 一 二七九

埃太利國ウイーンに於ける陪審裁判 塚崎 直義(新聞)大五 一 二五九

埃太利國ウイーンに於ける陪審裁判傍聴記 塚崎 直義(法新)大五 一 二五九

上島君の著「カイヨー」夫人の書後に 靜洋 漁夫(新聞)大五 一 二五五

【陪審制度】【賣買】【バウアー】

耶道理の擁護者なり耶

陪審裁判の實相 齊藤 巖(新聞)大五 一 二五七

陪審法に關する一疑點 皆川 治廣(法曹)大五 四 二

陪審制度と檢事 卜部喜太郎(正義)大五 二 九

陪審法の概要に就て 大森 洪太(法新)大五 一 八八

陪審法に於ける裁判長の説 大濱 隆(法新)昭二 一 二〇六

示に就て 小齋甚治郎(法新)大五 一 九六

陪審法の運用に就て 大森多實之助(正義)昭二 三 一

陪審法の宣傳 山内確三郎(法新)昭二 一 二〇

陪審法の將來 介川龍太郎(正義)昭二 三 二

陪審法に於ける裁判長の説 示に就て 小齋甚治郎(正義)昭二 三 二

陪審法の内容 島本 英夫(商濟)昭二 七 二

陪審模倣裁判に就て 大谷 美隆(法治)昭二 六 三

陪審法論 岡田 庄作(法公)昭二 三 三二

陪審制度に就て 小山 松吉(新聞)昭二 一 二六九

陪審事件と非陪審事件との併合審判をなし得べきか 坂本 英雄(法治)昭二 六 六八

陪審と刑の適用 大塚 郷二(志林)昭二 二九 六

陪審制度と其公判の機微 中村 宗雄(早法)昭二 七 一

陪審制度の根本義 大森 洪太(新聞)昭二 一 二七〇

陪審法の宣傳劇に付て 藤田 尹(新聞)昭二 一 二七〇

陪審制度と其實際 塚崎 直義(法公)大五 三 九二

トルストイと陪審制度 根本 松男(法究)昭二 二四 一〇

英國刑事訴訟法に於ける審理陪審の發達に關する一問題 神垣 秀六(法曹)大五 四 一〇

英國陪審制度の起原 種積 重威(正義)大五 二 一一

讀上島氏著カヨー夫人之獄 播磨 龍城(新聞)昭二 一 二六六

英國陪審裁判の歴史と特質 湯淺 恭三(正義)昭二 三 五

布哇の陪審制度 根來 源之(新聞)大五 一 三五八

英國陪審裁判課 椋の舎主人(法曹)昭二 五 一〇

最近歐洲陪審制度の實例 坂本 哲夫(新聞)昭二 一 二七六

賣買一方の豫約と試験賣買との關係 小池 隆一(法研)大五 五 三

二重賣買と危險負擔 大谷 美隆(法治)大五 五 二

英法に於ける海上物品賣買契約CIFに就て 小町谷操三(海法)大五 一 二

CIF契約論 小町谷操三(法協)昭二 一六 一

CIF契約の私經濟的研究 上坂 西三(早商)昭二 三 二

【バウアー】(Otto Bauer)

金融資本の成立(ヒルファ)

イディング) 三三
消費 三三
バウエル「資本の蓄積と帝國主義」(譯) 向坂 逸郎(社科) 三三
バウエル(社思) 六三
バウアー(統集) 六五

【バウアリア】

ドナウ河とバウアリア 大類 仲(歴地) 六八
バイエルン國刑事執務規程 チュル(法曹) 六五

【バウンド】(Roscoe Pound, 1870-)

バウンドのアメリカ法概論 峰岸 治三(法研) 六五
アメリカに於ける社會學的法律學(バウンド) 我妻 榮(志林) 六五
バウンドの英米裁判論 平井 三次(志林) 六五
バウンド氏「私有財産制度の基礎に關する法理學史的考察」(譯) 田岡嘉壽彦(商集) 六五
バウンドの「法律と道德」 前原 光雄(法研) 六五
法律思想史上より觀たる歴史學的地位と意義(バウンドの所論) 大塚 秀雄(法曹) 六五

【バクニン】(Michael Bakunin, 1814-1876)

無政府主義の父、ミシエル・バクウニン 大杉 榮(改造) 六〇
マルクスとバクウニン(社會主義と無政府主義) 大杉 榮(改造) 六二
新たに發見されたバクウニンの手紙 石濱 知行(社思) 六四

【幕府】 参照=武士。封建制度。

幕府の朝廷及人民に對する處置 星野 恒(史雜) 四三
北條氏の執權について 大森金五郎(歴地) 四四
鎌倉幕府の組織及其遺跡 大森金五郎(歴地) 四六
鎌倉幕府の年中行事 平出鏗二郎(史雜) 四八
奉行所書類解題 阿部 愿(史雜) 四九
柳營歳首の嘉例について 花野井生(歴地) 五〇
鎌倉幕府と北條氏 大森金五郎(中史) 六一
革命の起る前 尾池 義雄(解放) 六一
幕府と佐藤信淵 幸田 成友(中史) 六一
鎌倉幕府の緊縮政治 大森金五郎(中史) 六一
鎌倉幕府の法治主義と其影響 一

【破産法】

元祿以前に於ける江戸幕府の財政に就いて 三浦 周行(史雜) 二二
破産管財人の地位を論ず 加藤 正治 六四
公訴附帯の私訴と破産關係 加藤 正治 六〇
株式會社の破産 加藤 正治 六一
破産者の法律上の地位を論ず(講演) 齋藤常三郎 六三
破産宣告の訴訟行為に及ぼす影響 遠藤 武治(新報) 六五
破産債権者平等取扱の原則を論ず 竹野竹三郎(新報) 六五
新破産法或問 加藤 正治(新報) 六五
破産管財人と信託會社 齋藤常三郎(國經) 六五
期限附破産債権の即時辨濟 竹野竹三郎(法曹) 六五
期到來の原則を論ず 齋藤常三郎(國經) 六五
破産宣告の申立 竹内 恒吉(新聞) 六五
信託は破産法上否認することを得るや 井上直三郎(法叢) 六五
破産債権の要件に關する二三の問題 三

破産を豫期したる信託行為に就いて 久田 博人(新聞) 二二
破産管財人に就いて 山内確三郎(法新) 二二
辨済並代物辨済の性質及破産法第百十二條に所謂利害關係人の範圍に關する高等法院上告部の見解に關する疑問 姉齒 松平(臺法) 二二
破産と信託 乾 政彦(法公) 二三
破産と信託 山内確三郎(法新) 二三
大正十三年度東京區裁判所破産及和議事件統計 東京區裁判所破産掛員調査 齋藤常三郎(法曹) 二五
塊太利和議法及び破産法の改正 齋藤常三郎(法曹) 二六

【バジヨット】(Walter Bagehot, 1826-1877)

バジヨットの恐慌論 平井 常吉(銀研) 二二

【パスカル】(Blaise Pascal 1623-1662)

パスカルと生の存在論的解釋 三木 清(思想) 六四
愛の情念に關する説(パスカル) 三

【バスカル】 【八時間労働】 【發明】 【巴奈馬】 【巴奈馬運河】 【羽二重】
【バルカン半島】 【布哇】 【匈牙利】 【判決】

カル覺書) 三木 清(思想) 大八 八 號
バスカルの方法 三木 清(思想) 大九 九 究
バスカルの「賭」 三木 清(思想) 大九 九 吾

【八時間労働】 労働時間を見よ。

【發明】 参照||特許。

イギリスに於ける發明の保護と工場工業の成立 園 乾治(三學) 大五二〇 一〇

【巴奈馬】

巴奈馬共和國の成立 竹林 熊彦(歴史) 大六一 一
一九一七年巴奈馬共和國刑法典略評 岡田朝太郎 大七 富井祝賀

【巴奈馬運河】

運河の發達と巴奈馬開鑿の意義 石橋 五郎 大三 神戸高商

【羽二重】

福井地方羽二重業の發達 牧野信之助(歴史) 大七一 六

【バルカン半島】 参照||希臘。ダアダネルス海峡。東方問題。土耳其。

古代史に現はれたるバル幹半島 長瀬 鳳輔(歴史) 大八三 五六

バルカンの巨頭殞つ(パンツチ氏の効業を論ず) 米田 實(外時) 昭二 登 五三

バルカンは依然重大 中平 亮(外時) 昭二 哭 五三

【布哇】

布哇の陪審制度 根來 源之(新聞) 大五 一 昭二 五七九
布哇の現在及び將來 原田 助(國知) 大五 六 一〇

【匈牙利】 参照||奧太利。

奧、匈、蘭三國に於ける社會運動 河野 密(社思) 大三 三 九

國際聯盟と通貨偽造問題 栗飯原 晋(外時) 昭二 四六 五四七

匈牙利の新和議法 齋藤常三郎(法叢) 昭二 一八 三一四

【判決】 参照||公判。裁判。訴訟。判例。

認諾論 外國裁判所の判決の執行に關する各國法制 成道齋次郎 大二 横田記念

判決の資料化 虚偽の氏名と判決の效力 大赦事件の判決餘論二 太刀川英雄(法政) 大五三 七
竹添 蝶二(朝司) 大五 五 一〇
江口 新(法究) 昭二 二四 六
溝淵 幸雄(法新) 昭二 一 一三

【犯罪】 参照||刑罰。犯罪原因。犯罪社會學。犯罪人類學。犯罪統計。(併合罪)(未遂罪)。

犯罪徵表論 牧野 英一 大四 穂積祝賀
犯罪の實質的意義に就て 牧野 英一 大〇 評論記念
權利實行と犯罪 泉二 新熊 大〇 評論記念

ベンサムの功利主義的犯罪及び刑罰觀 永澤 邦男(法研) 大五 二 二
身分に因る犯罪の性質 平井彦三郎(新報) 大五 三 二
ブラッセル「犯罪學の基礎觀念」(紹介) 泉二 新熊(法曹) 昭二 五 二二

ツミ(罪)とツミナヒ(刑) 松岡 靜雄(社雜) 昭二 四 三
刑法の體系に於ける中止犯の地位(ギバノビッチ) S M 生(法曹) 昭二 五 二二

違法状態に就いて 宮本 英脩(法叢) 大五 一六 三
緊急行為に關する研究資料 岡田朝太郎(法治) 昭二 六 二

責任 法人の刑事責任と工業労働者最低年齢法違反に就て 福永 亮三(新聞) 昭二 一 三五六

【犯罪原因】 参照||犯罪社會學。犯罪人類學。犯罪統計。法醫學。

刑罰觀念の變遷と犯罪原因に就て 泉二 新熊(臺法) 昭二 二 七

【犯罪社會學】 参照||遺傳。教育。刑罰。宗教。

犯罪の地理的分布に就て 小野清一郎(志林) 大五 六 七
飲酒と犯罪 向山 義雅(統雜) 大五 四 四八
都市の犯罪現象に關する統計的研究 藤本幸太郎(統雜) 昭二 四 四八

精神衛生 小野清一郎(都問) 昭二 四 二
朝鮮犯罪物語 金子 準二 昭二 社政系七
犯罪社會學參考文獻小錄 竹添 蝶二(朝司) 昭二 六 六
犯罪社會學參考文獻小錄 淺野 研眞(法究) 昭二 二四 一〇

【犯罪人類學】 参照||遺傳。少年犯罪。(精神病)。不夏少年。法醫學。

文明と性的犯罪 田中 香涯(解放) 大二 四 八

【判決】 【犯罪】 【犯罪原因】 【犯罪社會學】 【犯罪人類學】

【犯罪人類學】 【犯罪豫防】 【判事】 【犯人藏匿の罪】 【パンタレオニ】 【販賣】

女性犯罪人の特質と心理
 社會防衛と犯人の危險性(イ
 タリヤ刑法草案の根本思
 想)
 犯罪人の宗教と教誨研究
 婦人と犯罪(講演)
 犯罪と其の治療
 朝鮮の犯罪者に關する新ら
 しい統計
 女性犯罪現象の統計的觀察
 白耳義國刑務所の刑事人類
 學部
 G A 生(法公) 大五三〇 七八
 瀧川 幸辰(法叢) 大五一六 四
 加藤 教榮(法政) 昭二二四 二
 花井 卓藏(新報) 昭二二七 二
 マンニンゲル(臺法) 昭二二二 三
 伊藤 憲郎(朝司) 昭二二六 六
 小野清一郎(法協) 昭二二五 六
 近藤 英明(法協) 昭二二五 六
 【法曹】 昭二二五 八九

【犯罪豫防】 参照刑事政策。

カーチウエー「米國に於ける
 犯罪とその防止策」(譯)
 犯罪の防止はこれが根源に
 研究の歩を進めざる可か
 らず
 犯罪豫防手段としての住宅
 改善(フオード)
 堤 隆(法曹) 大五四 八
 フランク・マフィ(新聞) 昭二二 一七五九
 池田 宏(法曹) 昭二二五 一二
 【判事】 参照裁判所・司法官。法曹。

婦人と判事適格性(最
 近司法界の重要問題)
 獨逸の判事會
 補助豫審判事設置論
 如何にせば優良なる判事を
 任用し得べきか
 刑事訴訟に於ける判事の除
 斥に關する問題
 ガリイ判事の學生時代と其
 公職時代
 森山武市郎(新聞) 大〇 一七〇七
 飯塚 半衛(法公) 大五三〇 九
 徳岡敬一郎(新聞) 昭二二 一六五四
 綿野 玉次(新聞) 昭二二 一六六四
 板倉松太郎(法究) 昭二二四 五
 坂本 英雄(法究) 昭二二四 八

【犯人藏匿の罪】

犯人藏匿罪と證憑湮滅罪 飯塚 敏夫(法曹) 大五三〇 九、一〇

【パンタレオニ】 (Maffeo Pantaleoni, 1857-1924)

パンタレオニと經濟學の基。 松岡 孝兒(經叢) 昭二二四 四

【販賣】

小賣商征伐 安部 磯雄(解放) 大九二 二
 賣價維持論 小林 昌行(早商) 大五二 一

卸賣事業の使命及其將來
 不當廉賣と不正競争
 チェーンストア組織に就て
 ジョーンソン「販賣研究」消
 費者への接觸」(譯)
 米國の月賦販賣制度と其金
 融機關
 月賦販賣制度の社會的及經
 濟的結果
 割賦販賣制度と消費金融
 家具月賦販賣業の經營
 石川 文吾(明商) 大五一 一
 神戶 正雄(時經) 大五五 五〇
 長谷川安兵衛(早商) 大五二 二
 榎尾 謙(商叢) 大五四 一
 岩井 仙吉(銀研) 昭二二 四
 岡本 眞一(國經) 昭二四 四
 向井 鹿松(三學) 昭二三 六
 岡澤 隆一(會計) 昭二三 五

【ハンムラビ法典】

ハンムラビ法典とモーゼ法
 との比較研究
 中田 薫(史雜) 大二三 二
 【判例】 参照判決。
 判例法の利害得失 竹野竹三郎(法曹) 昭二五 一一

【ビエ】「ビグウ」「飛行機」「ビスマルク」「非訴事件」「秘密を侵す罪」
 【百姓一揆】

【部】

【ピ】 H】 (Antoine Pillet, 1847-1926)

アントアニス・ピエ教授の
 計 江川 英文〔国際〕年巻 二二六 一〇

【ピグウ】 (Arthur Cecil Pigou, 1877-)

ビグー教授の原生経済學 加田 哲二〔改造〕六一 四 一

【飛行機】 参照「航空」。戦争法規。

飛行機法論

松波仁一郎 大四穂積祝賀

ホイッテインガム「飛行家の生理的適否を決定すべき病理的検査方法」(譯)

田邊 秀穂〔勞科〕六五 三 二

【ビスマルク】

(Karl Otto Eduard Leopold Fürst von Bismarck-Schönhausen, 1815-1897)

諸方面から見たビスマルク 齋藤 文藏〔歴史〕六五 二七 三六
 ビスマルクと文事 齋藤 文藏〔歴史〕六六 二九 五
 ビスマルクの研究と大戦 原 勝郎〔史林〕六七 三 四

ビスマルクの見たるキルヘルム二世

カウツキー〔改造〕六一 四 三

Wilhelm II. gezeichnet von Bismarck

K. Kautsky〔改造〕六一 四 三

ビスマルクとシレスウイッ

菅原 憲〔歴史〕六四 一六 四一六

ヒ・ホルンタイン問題

長 壽吉〔史雜〕六五 三七 八

五月法令とビスマルク

松原 一雄〔新報〕六五 三六 三〇

ビスマルクを中心としての同盟及協商

小泉 信三〔財經〕六五 一三 一一

社會黨とビスマルク

【非訴事件】

非訴事件の概念を論ず

中島 弘道 一六〇横田記念

非訴事件手續法の申立

宮武 能孝〔新報〕六二 七〇 一〇

【秘密を侵す罪】

刑法上より見たる醫料請求權の行使

泉二 新熊 一六〇横田記念

【百姓一揆】

土一揆

三浦 周行〔史林〕六八 四 一三

我國社會史に現はれたる一

揆の研究

土民一揆と農民一揆

佐野 學〔解放〕六二 四 一〇二

百姓一揆の鎮壓

佐野 學〔解放〕六一 四 二

士族歸農問題と百姓一揆とその他

藤井甚太郎〔歴史〕六三 四 三

明治六年の百姓一揆

伊東尾四郎〔歴史〕六三 四 三

の越境騒動

小野 武夫〔史學〕六四 四 三

明治初期の百姓一揆

梅原 北明〔解放〕六五 五 三

明治六年筑前竹槍一揆

石濱 知行〔社科〕六五 二 七

羽州庄内農民愁訴騒動

黒正 巖〔経叢〕六五 三 二

作州鶴田藩の農民騒動

黒正 巖〔歴史〕六五 一八 三

福山藩天明六年百姓一揆

黒正 巖〔亞經〕六五 一〇 四

伊豫の百姓一揆

黒正 巖〔経叢〕六五 三 五

領主擁護の農民騒動

黒正 巖〔経叢〕六五 三 六

徳川時代の農民逃散

黒正 巖〔経叢〕六五 三 一

徳川時代百姓一揆の原因

黒正 巖〔亞經〕六五 二 一

土佐の百姓一揆

黒正 巖〔経叢〕六五 二 三

小野武夫博士「徳川時代百姓一揆叢談」を読む

山尾三千雄〔企社〕六二 一 七

百姓一揆の地方的分布に就て

黒正 巖〔史林〕六二 二 四

【ヒュウブナー】 (Solomon S. Huebner, 1882-)

生命の金銭的價值を論ず

ヒュウブナー〔保雜〕六三 三 三三

ヒュウブナー「米國に於ける生命保険の新傾向」

末高 信〔保評〕六二 二〇 七

(講演)(譯)

Educational and other important tendencies in life insurance in America

S.S.Huebner〔保雜〕六三 三 三九

企業危険と其の對策(講演)

ヒュウブナー〔保評〕六二 二〇 九

Economic tendencies in America since the war

S.S.Huebner〔商討〕六二 二 下

過燐酸石灰肥料製造後時の

品川 秀三〔商討〕六五 一 上

經過が品質に及ぼす影響

椎名 七郎〔商工〕六二 二 四

世界の無機窒素工業に就て

【ヒルデブランド】 (Bruno Hildebrand, 1812-1878)

ブルノオ・ヒルデブランド

の一書簡(「共產黨宣言」)

【百姓一揆】 【ヒュウブナー】 【肥料】 【ヒルデブランド】

【ヒルデアブランド】 【ヒルファアーディング】 【比例代表】 【貧困】 【ビンディング】 【貧民】

成立史の一資料) 平井 新(三學) 二二 年卷 六 號

【ヒルファアーディング】 (Rudolf Hilferding, 1877-)

金融資本の成立(ヒルファアー

ディング)

ヒルファアーディング「プロレ

タリアートと帝國主義」

(譯)

ヒルファアーディング「商業政

策と農業恐慌」(譯)

林 要(社思) 二五 五 九

【比例代表】 参照||議會。衆議院。選舉。

比例代表法に就いて

美濃部達吉(改造) 二六 一 六

【貧】 参照||救貧。失業。貧民。

貧富問題

貧富調節論

北京に於ける貧窮問題と其

救済

人は何故に貧乏するか

田島 錦治 | 大五金井記念

本庄榮治郎(経叢) 二五 三 七

伊藤 武雄(我等) 二二 九 二

高島 素之(改造) 二二 九 八

【ビンディング】 (Karl Binding, 1841-1920)

ナグラ「カール・ビンデ

ィングを憶ふ」(譯)

荒尾 貞吉(法曹) 二五 四 〇

【貧】 参照||救貧。失業。住宅問題。

生活費。貧困。(浮浪)。

労働及び労働階級。

英國に於ける貧民法發達の

初期

帝都に於ける乞食の研究

谷 文一(社雜) 二二 四 三 八

吉田 英雄(社政) 二二 一 〇 八 五

7 部

【ファスシズム】

ファスシスチー

ファスシスチー

ファスシズムと歐洲の現状

ファスシズムの本質と其社

會的基礎

ムツソリニーの新膨脹政策

經驗的現實主義のファシズ

ムへの轉向

ファシスト及びファシズム

伊太利とワッシスト

ファシストの獨裁的立法

ファシズムの本質

ファシズムと日本

ファシスト伊太利の内治外

交

労働の新世界

宮本 潔(國知) 二七 一 二

加藤 一雄(法治) 二六 二 二

【フィアカント】 (Alfred Vierkandt, 1867-)

【ファスシズム】 【フィアカント】 【フィッシャー】 【フィヒテ】

【ファスシズム】 【フィアカント】 【フィッシャー】 【フィヒテ】

フィアーカーントの服従本能論

田畑 忍(同論) 二二 一 三

【フィッシャー】

(Irving Fisher, 1867-)

失業と物價の變動(フィッ

シャー)

菊田 太郎(経叢) 二五 三 三

金利の高低原因と我國の金

利(スミス・フィッシャ

ー説に觸れて)

高木友三郎(法集) 二二 三 一

【フィヒテ】

(Johann Gottlieb Fichte, 1762-

1814)

フィヒテの社會主義の哲學

的基礎

Die philosophischen Grund-

lagen von Fichtes Sozialis-

mus.

フィヒテの哲學に於ける倫

理的個性主義と經濟社會

主義

Ethischer Individualismus

und wirtschaftlicher Sozial-

ismus in Fichtes Philoso-

リッケルト(改造) 二二 五 五

H. Rickert(改造) 二二 四 六

リッケルト(改造) 二二 五 五

如何にして國家學は學として可能なるか(フイヒテ及びヘーゲルに關する一研究)

Phie

H. Ricket (改造) 大三五 五號

フイヒテがカントを介して世に出てるまで

リッケルト(改造) 大四七 一
鈴木 宗忠(思想) 大四八 四三

【回々教】

カイゼルと回教徒

内藤 智秀(歴史) 大五七 六

印度回教徒の國際聯盟觀

神田 相一(歴史) 大九三 五

回教法制の源流

飯田 忠純(史學) 大二〇 一
大一一 二
大一一 二

トルコの復興と回教徒の運動

大久保幸次(改造) 大一一 二
ラズビゴス(改造) 大一一 二

汎回教主義と汎亞細亞主義

大川 周明(改造) 大一一 二

回教徒の政治的將來

内藤 智秀(改造) 大一一 二

汎イスラミズムの將來

大川 周明(解放) 大一一 二

回教法學の發達に就て

笠間 呆雄(國知) 大五 六

盟

【比律賓】

フィリッピン諸島の命令とタンダヤ島の位置とに就いて

柴 謙太郎(史雜) 四四 一八一
柳澤愼之助(外時) 大五四 五三

米國の比律賓政策
米國より見たるフィリッピン獨立問題

K A 生(國知) 四二 七 二

【封鎖】

平時封鎖を論ず

立 作太郎 大三宮崎記念

【ブウスケイ】 (G. H. Bousquet)

ブースケイ「純理經濟學の批評」(譯)

手塚 壽郎(商討) 四二 二 上下

【風俗】 參照 社會事情・婦人。

人身賣買の風俗(講演) 關根 正直(史雜) 四五 三
風俗沿革説(講演) 黒川 眞頼(史雜) 四六 六
源語時代の人情風俗(講演) 高津敏三郎(史雜) 四六 六

武家古代の風俗
維新前後に於ける風俗の變遷(講演)

久米 邦武(史雜) 四三 一〇 二號

敵討について

大隈 重信(史雜) 四三 一〇 六
平出鏗二郎(史雜) 四六 一四 五 一 二

古神像の研究と中古の服制
維新前後に於ける服飾界の動搖

高橋 健自(歴史) 四二 一 一
櫻井 秀(歴史) 大四 二 六

藤原時代の容儀服飾に就て
服飾に現はれたる室町時代の社會的傾向

江馬 務(史林) 大五 一 二
櫻井 秀(史林) 大七 三 二

神像より見たる平安初期の風俗

江馬 務(歴史) 大八 三 三

近世風俗史の範圍より見たる京都の舞妓

櫻井 秀(歴史) 大九 六 一 三

平安朝中世の社會と女装の推移

櫻井 秀(歴史) 大二 四 六

平安朝初期の女装及其社會的背景

櫻井 秀(史林) 大三 八 一 二

日本原史時代の服飾
平安季世に於ける女装の變化とその背景

高橋 健自(中史) 大三 六 一
櫻井 秀(歴史) 大三 四 一 五
後藤 守一(中史) 大三 八 四
櫻井 秀(史林) 大三 九 三

【風俗】 【夫婦財產制】 【フェビアン協會】 【フォアニエー】 【フォイエルバッハ】

日本服飾史要

櫻井 秀(中史) 大五 三 一

日本の武裝

有阪 紹藏(中史) 大五 三 一

【夫婦財產制】

ゲルマン法に於ける夫婦共同產主義

近藤 英吉(法叢) 四二 一 一
近藤 英吉(法叢) 四二 一 一
栗生 武夫(志林) 四二 九 九

妻の日常家事代理權
夫婦財產契約の活用

近藤 英吉(法叢) 四二 一 一
栗生 武夫(志林) 四二 九 九

【フェビアン協會】

フェビアン社會主義功過 小泉 信三(改造) 大九 二 一〇
英國フェビアン協會發達史 川原次吉郎 社間講一
フェビアン社會主義序論 河合榮治郎(經論) 四二 六 二

【フォアニエー】 (René Faignet. 1864-)

フォアニエー國際法論(譯) 福島 久記(早法) 四二 一 一

【フォイエルバッハ】

(Ludwig Feuerbach. 1804-1872)

【フオイエルバツハ】 【フオオシユ】 【フオオド】 【フォルレンダー】 【福利】
【武士】 【婦人】

ル哲學の批判」(譯) 恒藤 恭(我等) 四年九卷五七號

【フオオシユ】 (Paul Fauchille, 1858-1926)

ポール・フオオシユの訃音 松原 一雄(國際) 大五二五 七

【フオオド】 (Henry Ford, 1863-1927)

フオオドの新企業家的精神
に學べ

フオオド氏の銀行及事業觀 淺利順四郎(エコ) 大五二四 二
フオオドの勞賃論 天野 綠山(銀研) 四二二 一
星野周一郎(經叢) 四二二 二

【フォルレンダー】 (Karl Vorländer, 1860-)

フォルレンダーの「ナトル
ブを憶ふ」

【福 利】 平野義太郎(思想) 大四一八 四
參照 工場、住宅問題、田園
都市、利益分配、勞動
者保護、勞働法。

再び福利施設に就て 村本 福松(商經) 大五一 一 四
産業福利施設 永井 亨 二 二 社政系四
産業福利施設の發展及び本 松澤 兼人(商評) 四二六 二
質

【武 士】

武士と都會生活 栗田 元次(歴史) 大五二七 五
古代に於ける武士の名稱と 喜田 貞吉(史林) 大六二 一
其の民族的研究
社會の弛廢と武門興起の機 運 勝水 淳行(中史) 大九一 六
武士階級崩壞の經濟的説明 魚澄惣五郎(歴史) 大九五 三
鎌倉武士 川上 多助(中史) 大九一 六
武士の經濟 瀧本 誠一(中史) 大〇二 四
瀧本氏の武士の經濟を讀み 赤堀又次郎(中史) 大〇三 三

鎌倉時代の武士道管見 清原 貞雄(歴史) 大三一 二
武士存在の思想 藤井甚太郎(中史) 大五一 二
騎兵制の發達と武士 西岡虎之助(史雜) 大五三 七
武士階級の窮乏 本庄榮治郎(經叢) 四二二 四

The decay of the Samurai
class

【婦 人】 參照 愛、家族、婚姻、風俗、
婦人選舉權、婦人勞働。

支那婦人纏足の起原 那珂 通世(史雜) 四一九 六
唐代女子化粧考 原田 淑人(史雜) 四二二 四

女人の地位

江戸時代に於ける武家婦人
の社會及家庭的地位

最近の世界婦人運動
婦人解放問題

現代生活と男女兩性の接近
女人文明の回復

ロシア革命と婦人の地位
婦人參政、拒婚同盟

有産者の妻無産者の妻
協同的社會と婦人の解放

社會主義婦人運動と赤潮會
ブルジョアの「新しき女」
より無産階級の「新婦人」

コロンタイ「無産婦人の國
際的團結」(譯)

國史上の婦人觀

國史上活動せる女性觀

社會の趨勢と婦人

過去一年の婦人界を省みて
婦人と判事適格性(最近獨
逸司法界の重要問題)

支那婦人の社會的地位に就

岡村 司 四年三法大記念號

櫻井 秀(歴史) 大五二七 三六

山川 菊榮(解放) 大八一 七

諸 家(改造) 大九二 四

野上 俊夫(改造) 大九二 四

賀川 豊彦(改造) 大九二 四

穂積 重遠(改造) 大九二 三

諸 家(改造) 大〇三 二

高橋誠一郎(解放) 大〇三 二

山川 菊榮(改造) 大〇三 六

山川 菊榮(解放) 大〇三 七

山川 菊榮(解放) 大〇三 九

【婦人】

きての歴史的考察

婦人運動の新傾向

婦人と流行

ブルジョア婦人運動の動搖

現代婦人雜誌批判

近代的女性大觀

近代的女性觀

政治的婚姻と女性の活動

鎌倉時代の女性

王朝初期の新しき女性

無産階級運動に於ける婦人
の問題

近世女子結髮の淵源

職業婦人運動の概觀

婦人と高等教育

婦人運動の二潮流

新女性主義の提唱(結婚制
度と強權教化)

那波 利貞(歴史) 大一九 二、六

諸 家(改造) 大一一 四

新居 格(解放) 大一一 四

山川 菊榮(解放) 大一一 四

諸 家(改造) 大一一 四

諸 家(解放) 大一一 四

諸 家(改造) 大一一 四

西岡虎之助(中史) 大三三 八

西岡虎之助(中史) 大三三 八

三好 伊刀(中史) 大四二 一

山川 菊榮(改造) 大五八 一

高橋 健自(史林) 大五二 一

奥 むめを(解放) 大五五 五

神近 市子(解放) 大五五 五

新妻伊都子(解放) 大五五 五

高群 逸枝(解放) 大五五 五
タルノーフスカヤ 大五五 五
朱胡 彬夏(改造) 大五八 八
陳 望道(改造) 大五八 八
G A 生(法公) 大五三 七八

エス・ミルの哲學的基礎	香山 勇二 (法集) 大五二 一
毒婦の社會學的研究	早田 正雄 (法政) 大五三 八
今年の婦人界の印象	神近 市子 (解放) 大五五 一六
婦人運動概観 (一九二六年概観)	山川 菊榮 (我等) 大五八 一三
婦人の自覺史	山川 菊榮 社問講一
我が國の婦人運動	奥 むめを 大五社問講一
現代婦人論	山川 菊榮 昭二社經體系
婦人と功名心の問題	諸 家 (改造) 昭二九 二
婦人と犯罪 (講演)	花井 卓藏 (新報) 昭二七 二
フレイザー「原始農業に於ける女性の職分」(譯)	内藤 俊彦 (商濟) 昭二七 二
婦女賣買條約と日本の留保撤廢	長谷川文人 (國知) 昭二七 四
婦人問題及婦人運動	高島 米峰 昭二社政系九
職業婦人問題	奥 むめを 昭二社經體系
女性犯罪現象の統計的觀察	小野 清一郎 (法協) 昭二五 六
婦人問題總論	近藤 英明 昭二社經體系
我國に於ける妊産婦保護施設	永井 亨 昭二社經體系
都市に於ける女子教育上の問題	猪間 驥一 (都問) 昭二五 三
女權に就て	小川 靜子 (都問) 昭二五 三
社會主義の婦人觀	柳川元次郎 (法新) 昭二 一三
	山川 菊榮 (社科) 昭二 三

婦人と司法官及び辯護士適格性	森山武市郎 (法治) 昭二六 二
法律上の地位	高柳 賢三 (改造) 大一一 一〇
法律上から見た日本婦人と英米婦人	田岡嘉壽彦 (商集) 昭二二 一
獨逸に於ける女子の法律上の地位	
【婦人參政權】	
婦人參政、拒婚同盟	諸 家 (改造) 大〇三 二
婦人參政より共產主義へ	バンクハースト (改造) 大〇三 二
From suffragette to communist	S. Pankhurst (改造) 大〇三 二
婦人參政運動の過程及び將來への展望	坂本 眞琴 (解放) 大五五 六
婦人參政權の理論	森口 繁治 (社政) 大五一 七〇
【婦人労働】	
戦時の英國婦人労働問題	渡邊 鐵藏 大五金井記念
紡績女工募集の裏表	細井和喜藏 (解放) 大二三 五
婦人に於ける生理的週期と作業能	桐原 傑見 (勞科) 昭二五 一
參照 労働及び労働階級。	

フランス労働婦人の活動	山川 菊榮 (解放) 大五五 六
女工哀史の一面	佐倉 啄二 (解放) 大五五 一〇
婦人労働者と労働組合	山川 菊榮 (改造) 大五八 二
國際労働會議の問題となれる日本の婦人労働状態	淺利順四郎 (國家) 大五〇 一〇
ツヤルモン「佛國に於ける婦人、少年及家庭労働に關する立法」(譯)	三浦 義一 (法曹) 昭二五 一
婦人労働者撰擇の生理學的標準に關する研究	小西 與一 (勞科) 昭二四 一
工場と田園の婦人労働	中西伊之助 (解放) 昭二六 二
吾々は婦人の反抗を今や如何に指導すべきか?	松村 徹也 (マル) 昭二 一
【普通選舉】	
參照 貨幣。經濟學。食糧。生活費。實銀。物價指數。米價。	
【物價】	
足利氏秀世の物價	春 峰 生 (歴史) 昭六 五 三
算學啓蒙と元代の關稅及び物價	中村久四郎 (歴史) 大五二 七 二
天平文書田稅物價諸表	中島慶太郎 (史雜) 大〇三 八一〇
ブルジョア内閣の物價政策	安部 磯雄 (解放) 大一一 四 二

江戸時代以前の物價調節策	柴 謙太郎 (歴史) 大二四 二
農村問題及び物價論	大森金五郎 (歴史) 大二四 二
物價變動の一研究	土方 成美 (經研) 大五三 三
物價と貿易及びその利益 (ブラウンの國際貿易論)	柴田三四治 (銀叢) 大五七 三、五
失業と物價の變動 (フィッシャー)	菊田 太郎 (經叢) 大五三 三
貨幣政策と物價安定論	安藝 國雄 (商經) 大五一 四
物價を決定する都會農村の關係公式	土田 茂 (農經) 大五二 三
物價の季節的變動	高城仙次郎 (三學) 大五二 二
關稅と物價の關係 (續論)	小林 行昌 (早商) 大五二 二
物價問題	河津 遼 昭二社經體系
最近の物價趨勢	吉村 貫一 (財經) 昭二四 三
ロバートソン銀行政策と物價水準	伊藤 義路 (商論) 昭二二 一
國際間の物價變動の比較に就きて	森 文三郎 (商集) 昭二 一
景氣轉換期に於ける物價と勞銀の變動	土方 成美 (經研) 昭二四 二
相反二現象の對立に見て物價不騰貴の諸因	藤原銀次郎 (エコ) 昭二五 二
物價は落勢に富む	瀨下 清 (エコ) 昭二五 二
わが物價の前途と其對策	最上 國藏 (エコ) 昭二五 二
	山口 義一 (エコ) 昭二五 二

【物價】【物價指數】【佛教】

パニック救済と物價の前途 堀江 歸一 (エコ) 昭二 年 卷 三 號
支拂猶豫令と物價 土方 成美 (經論) 昭二 年 卷 一 號
物價の月次的變動 高城仙次郎 (三學) 昭二 年 卷 八 號
「爲替相場と物價の關係」 (Hugo Müller)
小畑 茂夫 (企社) 昭二 年 卷 一 號
地方生産物價額の分類標準 とその範圍に就て 加地 成雄 (統集) 昭二 年 卷 五 五 六 號

【物價指數】

A study in the index numbers of price of the Bank of Japan

貨幣價值と物價指數 汐見 三郎 (京紀) 大五 年 卷 一 號
物價指數研究 森田 優三 (國經) 大五 年 卷 一 號
物價指數の意味 郡 菊之助 (商叢) 大五 年 卷 四 號
日銀指數利用の一指標 蜷川 虎三 (經叢) 昭二 年 卷 二 號
指數の形式と指數の目的 (Archer) 蜷川 虎三 (經叢) 昭二 年 卷 二 號

【佛敎】

德川家康一向一揆の處分 星野 恒 (史雜) 昭三 年 卷 一 號
家康と佛敎 藤本 慶祐 (歷地) 昭九 年 卷 八 五 六 號

東本願寺の創立と關原役 川住鎰三郎 (歷地) 昭九 年 卷 八 號
本地垂迹説の起源について 辻 善之助 (史雜) 昭四 年 卷 一 號
家康と佛敎續篇 藤本 慶祐 (歷地) 昭四 年 卷 九 號
佛敎の西漸 堀 謙徳 (史雜) 昭四 年 卷 一 號
補公の宗教信仰に就いて (講演) 鷺尾 順敬 (史雜) 昭四 年 卷 二 號

水戸義公の對佛態度に就て 安藤 祐專 (歷地) 昭四 年 卷 一 號
池田光政排佛事蹟論考 安藤 祐專 (歷地) 大二三 年 卷 四 號
平安末に於ける社會の解體 と鎌倉初期民心の動搖を 敘し新佛敎興起の因由を 論ず 大屋 徳城 (歷地) 大六三 年 卷 二 號
論ず 大屋 徳城 (歷地) 大七二 年 卷 四 號
東山時代の佛敎 赤堀又次郎 (歷地) 大九三 年 卷 五 號
天台宗年表 長沼 賢海 (歷理) 大九〇 年 卷 八 七 六 號
安藝門徒の一揆運動 和辻 哲郎 (思想) 大二 年 卷 一 號

推古時代に於ける佛敎受容 の仕方について 木村 泰賢 (改造) 大二 年 卷 四 號
佛敎改造の上より見たる親 辻 善之助 (中史) 大二 年 卷 五 號
鷺主義と新大乘運動 大屋 徳城 (中史) 大二 年 卷 五 號
日本佛敎の側面觀 河口 慧海 (中史) 大二 年 卷 五 號
奈良佛敎の今後 樹下 桃泉 (中史) 大二 年 卷 五 號
西藏佛敎の特徴 和辻 哲郎 (思想) 大二 年 卷 一 號

佛敎と天體崇拜 淺野 長武 (史雜) 昭二 年 卷 三 號
神職の離權問題に就いて 赤堀又次郎 (中史) 昭二 年 卷 三 號
(講演) 辻 善之助 (史雜) 昭二 年 卷 一 號
佛敎經濟 友松 圓諦 昭三 年 卷 十 號
佛敎經濟 參照 (永小作權)。實權。所有權。先取特權。占有權。(地役權)。抵當權。登記。不動産法。(留置權)。

【物權】

獨逸固有法に於けるGewereの觀念 石田文次郎 (法叢) 大五一 年 卷 一 號
物權變動と債權債務關係 永井 壽吉 (法曹) 大五 年 卷 四 號
或法律事實と其對抗 野津 務 (新報) 昭二 年 卷 八 九 號

【佛敎】

佛敎經濟 野津 務 (新報) 昭二 年 卷 八 九 號
佛敎經濟 參照 (永小作權)。實權。所有權。先取特權。占有權。(地役權)。抵當權。登記。不動産法。(留置權)。

【フツサール】

革新 フツサール (Edmund Husserl, 1859-) フツサール (改造) 大二三 年 卷 三 號

日本佛敎の發達 鷺尾 順敬 (中史) 大二 年 卷 五 號
生活指導原理としてのカトリック敎と大乘佛敎 大谷 尊山 (改造) 大二三 年 卷 五 號
戦亂と佛敎 高野 靈山 (中史) 大二三 年 卷 八 號
鎌倉時代の復古思想と新宗敎の興隆 辻 善之助 (中史) 大二三 年 卷 九 號
佛敎を弘通したは信仰か政策か 赤堀又次郎 (中史) 大二三 年 卷 九 號

鎌倉時代に於ける宗教改革の問題 松本彦次郎 (史雜) 大二三 年 卷 三 號
佛神と神佛 高橋 俊乘 (歷理) 大四 年 卷 一 號
後北條氏と一向宗 渡邊 世祐 (史雜) 大四 年 卷 三 號
宗敎につき鴻雪爪の意見 赤堀又次郎 (中史) 大四 年 卷 一 號
日本佛敎の紀元について 藤原 猶雪 (中史) 大四 年 卷 一 號
初期佛敎資料の取扱ひ方に就て 和辻 哲郎 (思想) 大五 年 卷 九 號

肉食妻帯宗の研究 喜田 貞吉 (歷地) 大五 年 卷 七 號
原始佛敎の根本的立場 和辻 哲郎 (思想) 大五 年 卷 一 號
天台宗團の財政 中川與之助 (經叢) 大五 年 卷 三 號
我國古代の財政と佛敎 本庄榮治郎 (經叢) 大五 年 卷 三 號
佛敎思想研究 諸 家 (思想) 大五 年 卷 二 號
原始佛敎に於ける「道」 和辻 哲郎 (思想) 大五 年 卷 二 號
宗派と寺院と僧侶と 赤堀又次郎 (中史) 大五 年 卷 三 號

【佛敎】【物權】【佛國】【フツサール】

Erneuerung. Ihr Problem und ihre Methode
 E. Husserl (改造) 大三 年 五 卷 三 號
 フッサール (改造) 大三 年 六 卷 二 號
 フランツ・ブレンタノの思ひ出
 フッサール (思想) 大三 年 三 卷 一 八
 フッサール (改造) 大三 年 六 卷 四

【不動産法】参照登記。物權。

現行英國不動産法の研究 啓程 生 (法協) 四二 二 卷 四 五

【不當利得】

ローマに於ける不當利得返還請求理論の形成 船田 享二 (法究) 四二 二 卷 七 二

【船荷証券】海上運送。證券

定期航海に充當せる定期備船上の積荷に對して發行する船荷証券の契約當事者 田崎 慎治 一 大 三 神 戶 高 商 學 校 報 九
 船積前發行船荷証券の效力 (商法雜題五) 松本 丞治 (新報) 大五 三 卷 九

船荷証券の船積前發行に就て 田中 誠二 (海法) 大五 一 卷 二
 積荷の保證渡 (所謂ビーエル問題) に就て 田中 誠二 (商研) 大五 六 卷 二
 物權證券の本質に就て 鬼武 義彦 (新聞) 大五 一 卷 二 六 八
 船荷証券上の過失約款 西島彌太郎 (法叢) 四二 二 卷 一 七
 矢野剛氏著「船荷証券の研究」 田中 誠二 (企社) 四二 一 卷 一 七
 船荷証券の船積前發行の社會的經濟的作用 田中 誠二 (商研) 四二 二 卷 一
 船荷証券債務の主體 西島彌太郎 (商論) 四二 二 卷 三
 船荷証券の起源に就て 西島彌太郎 (商論) 四二 二 卷 三
 所謂ビー・エル問題判決の考察 牧野幾久男 (法新) 四二 一 卷 二 七
 船荷証券の船積前發行に就ての比較法學的考察 田中 誠二 (海法) 四二 一 卷 二
 再運送に於ける船荷証券の署名者 〔海法〕四二 一 卷 二
 (Nikolai Ivanovich Bukharin, 1879-)
 田中 誠二 (海法) 四二 一 卷 二
 嘉治 隆一 (社思) 大四 四 卷 二

【プハリン】

プハリン「近代的資本主義の矛盾」(譯) 嘉治 隆一 (社思) 大四 四 卷 二
 社會學的分析の出發點とし

ての生産力 帝國主義の經濟的基礎 普ハリン「農民問題に關するテーゼ」(譯) 廣島 定吉 (社科) 四二 三 卷 一
 普ハリンの限界效用學說 批評 大森義太郎 (經論) 四二 五 卷 四
 普ハリンの歴史學派觀 住谷 悦治 (同論) 四二 一 卷 三
 ドイツ問題について 普ハリン (社科) 四二 三 卷 三
 普ハリンの限界利用說批評 に就て 大山千代雄 (經研) 四二 四 卷 四

【不法行爲】

被用者の行爲に對する事業主の責任 梅原錦三郎 一 大 〇 横 田 記 念 報 七
 誤判賠償の根本原理 末弘嚴太郎 (改造) 大三 五 卷 七
 裁判上の離婚に因る損害の賠償責任 野村調太郎 (朝司) 大五 五 卷 一 〇
 備主の酷使と民法七一五條における免責要件 平野義太郎 (志林) 大五 二 卷 八
 不法行爲の成立要件として 觀た權利侵害 末川 博 (法叢) 大五 一 卷 二
 被用者の共同不法行爲に對し 各使用者が被害者に對し

【プハリン】【不法行爲】

て負ふ損害賠償債務の性質に就いて 無 適 庵 (新聞) 大五 一 卷 二
 工作物設置に原因する不法行爲の成立と之が救済に關する一疑問 姉齒 松平 (臺法) 大五 二 卷 九
 不法行爲上の過失相殺 宗宮 信次 (法公) 大五 三 卷 一
 不法行爲上の過失相殺 宗宮 信次 (法政) 四二 二 卷 一
 被用者の共同不法行爲による別異使用者間の責任問題に關して 西本 寬一 (新聞) 四二 一 卷 四 〇
 權利の濫用に就て 松田 昇 (法治) 四二 六 卷 二
 權利の行使が法律上の不法行爲となる場合を調和するの必要を論ず 松倉慶三郎 (新聞) 四二 一 卷 二 〇
 法人の不法行爲 井上 周三 (早法) 四二 七 卷 一
 被用者の過失に對する使用者の不法行爲上の責任 松倉慶三郎 (法新) 四二 一 卷 二 〇
 慰籍料請求權の相續性 柚木 馨 (國經) 四二 二 卷 三 五
 英 法 我妻 榮 (志林) 四二 二 卷 一 〇
 中世紀末の英法に於ける契約の發達と不法行爲との

關係
英法に於ける土地工作物の
危険に關する責任に就て
名義上の損害賠償(Nominal
damages)
物又は權利に對する名譽毀
損
Lord Campbell 法の梗概
其の他
ソヴィエト・ロシア民法に
おける不法行爲法
獨逸航空法に於ける損害賠
償責任

豊浦 與七(法叢)大五二六 一五
宗宮 信次(法公)大五三〇 一〇
宗宮 信次(法政)昭二二四 三
宗宮 信次(法究)昭二二四 七
嘉山 幹一(法曹)昭二二五 九

【フラヴィウス】

Gnaeus Flavius (Pseud. f. Her-
mann Kantorowicz), 1877-)
グネウス・フラヴィウス
「法律學の爲の戰」(譯)
岡松成太郎(志林)大五二六 七
山口 嘉夫

【プラトーン】(Plato, B. C. 427-347)

プラトンの教説に於ける善
のはたらき
ホフマン「プラトーンとカン

ト(譯)
プラトーンの社會哲學
ユートピア思想家としての
イエスとプラトーン(ユー
トピア研究その二)
澤田 謙(社政)大五 三

【フラン】(Louis Blanc, 1811-1882)

ルキ・ブランの社會學說と
國民工場
德増榮太郎(企社)大五 一
參照||アルサス・ローレン。歐
洲戰爭。歐羅巴。

【佛蘭西】

ヴェルサイユとボツツダム
藝術と宗教より見たる日佛
の傳統
Tradition japonaise et tradition
française
フランスは方向する
佛蘭西文藝復興に就いて
フランスのルネッサンス
草 命
フランス二月革命の話
パリ・コンミュンとボリシ

エギキ革命
フランス大革命と猶太人の
解放
佛蘭西革命概論
米國と佛國革命
一八四八年の革命とプロレ
タリアー

堺 利彦(解放)大二 年 四 卷 六 號
時野谷常三郎(歴史)大二二 五
飯田 忠純(歴史)大四一六 四 五
齋藤清太郎(史雜)大五三三 三
マルクス(マル)昭二 一 四 二
マルクス(マル)昭二 一 四 二
貨幣—佛蘭西を見よ
銀行—佛蘭西を見よ

佛蘭西の經濟状態に就て
佛蘭西の併優組合
歐洲資本主義安定の最後の
基石としての佛蘭西
佛蘭西に於ける同職組合の
起源
巴里に於ける食料品市場の
發達
佛國ル・アール棉花取引
所
佛蘭西經濟史研究の近狀
佛蘭西財政の改造に就て

佛國の通貨爲替問題
フラン慘落と戦債問題
佛國の本年度豫算成立經過
と其財政状態
佛國新減債基金法を評す
佛國金融の改善策
佛國財政幣制の紊亂と幣貨
切下問題
社會
十八世紀の末フランス人の
常用したる野菜物に就て
十八世紀末フランスに於て
常用したる穀類及び果物
に就て
クラルテ運動の將來
フランスに於ける共同戦線
共産フランスの一年
佛蘭西の無産階級運動の沿
革及現況
伊、佛、獨に於ける公益質
屋制度
人 口
フランスの暴舉
政治

堀江 歸一(エコ)大五 四 一 六
小汀 利得(外時)大五 四 五 二
松井 敏生(明商)大五 一 一 二
青木 得三(外時)大五 四 五 二 六
新庄 博(國經)大五 四 六
木村孫八郎(同論)大五 一 三 二
坪井九馬三(史雜)大四 三 六 五
坪井九馬三(史雜)大五 二 七 九
小牧 近江(改造)大二 四 五 九
小牧 近江(解放)大二 四 八 八
小牧 近江(解放)大二 四 三 三
平 貞藏(社思)大三 三 九
藤野 恵(法協)昭二 四 二 一
人口—佛蘭西を見よ
ルドナー(解放)大三 五 六

【佛蘭西】

フランス第三共和國と初期
 社會黨の議會運動
 フランス労働黨及びドイツ
 共產黨の農業綱領
 佛蘭西労働黨創立前後と其
 の綱領
 フランス統一社會黨々則
 佛國政變の倫理觀
 フランス救はるべきか
 ボアンカレイ氏果して難局
 を打開すべきか
 佛蘭西の政局
 佛國の急進黨と社會黨
 一九二六年の佛國政界
 フランスに於ける最近の行
 政改革
 フランスに於ける組閣難
 ラルノード「佛國政治組織
 の大要」(譯)
 對 外 關 係
 第十七世紀に於ける英佛同
 盟及び英國侵入計畫に就
 て
 一八〇九年佛埃戰役に就い

小牧 近江(改造)六三	河西太一郎(社思)六四	平 貞藏(社思)六四	小岩井 淨(社思)六四	町田 梓樓(外時)六五	稻原 勝治(外時)六五	青木 得三(改造)六五	稻田周之助(新報)六五	町田 梓樓(外時)六五	町田 梓樓(國知)六七	小田垣光之輔(都問)六八	佐々木修一郎(國知)六八	天野 弘一(正義)六九	長 壽吉(史林)六九
二號	四	四	四	三	三	八	三	一	一	二	八	一〇	二

ての一研究
 箱館役に現れたる日佛關係
 の考察
 一八五九年戰役開始前の佛
 蘭西とサルチニヤ
 佛國を中心として
 露佛同盟の回顧
 十八世紀末英佛開戰に至る
 迄の事情
 佛露斷交すべきや
 獨 逸
 農 業
 法 律
 佛國に於ける離婚制度の歴
 史(講演)
 佛法に於ける營業財産の性
 質を論ず
 佛國裁判所の法律審査權に
 ついて
 刑法上の Dous に關する立
 法の研究
 ルイ十四世商業條例中商業
 帳簿に關する條文

佐藤 堅司(史雜)六六	田保崎 潔(史雜)六三	齋藤清太郎(史雜)六四	若杉 要(外時)六五	松原 一雄(新報)六七	片山辨一郎(商集)六九	渥美 宏(外時)七〇	獨逸—對外關係—佛蘭西を見	農業—佛蘭西を見よ	穂積 重遠(史雜)四五	杉山直次郎—六六土方記念	宮澤 俊義(國家)六五	千賀 孝善(法曹)六九	岡田 誠一(會計)六九
二〇	三	二	三	二	二	二	上	上	三	七	七	二	四

ツヤルモン「佛國に於ける
 婦人、少年及家庭労働に
 關する立法」(譯)
 佛蘭西の老舗權
 ボアンカレイ内閣の司法的
 改革
 佛國労働協約法
 佛國に於ける行政裁判制度
 の沿革
 佛國新選挙法に就て
 佛國に於ける優先議決株制
 度の法律的經濟的考察
 保 險
 労働及労働階級
 労働及労働階級—佛蘭西を見
 よ

三浦 義一(法曹)二五	西島彌太郎(商論)二二	近藤 倫一(正義)二三	橋橋 渡(法公)二三	渡邊宗太郎(法叢)二八	宮澤 俊義(國家)二四	大木 利一(山商)二一	労働—佛蘭西を見よ	労働及労働階級—佛蘭西を見
年	二	三	三	一六	二	一	上	上

【フリードリッヒ大王】 (Friedrich II., Der Grosse, 1712-1786)

フレデリック二世の政治學
 說
 【不 良 少 年】 参照—少年保護。
 文學と不良少年
 鈴木賀一郎(法政)六五

中村善太郎(史林)六三	鈴木賀一郎(法政)六五
九	一〇

【佛蘭西】 【フリードリッヒ大王】 【不良少年】 【ブルウドン】 【ブルガコフ】 【ブルゲン】 【ブレハアノフ】

【ブルウドン】 e Joseph Proudhon, 1809-1865

マルクスのブルドン嘲評
 (「哲學の貧困」)
 ブルドンの相互主義
 【ブルガコフ】 (Sergius Bulgakov)
 「經濟哲學序說」(譯)
 【ブルゲン】 (Maurice Bourguin, 1856-1910)
 ブルゲン氏の諸社會主義評
 論(譯)

小泉 信三(解放)六一	小泉 信三(財經)二四	ブルガコフ(資料)六三	ブルガコフ(資料)六三	ブルガコフ(資料)六三	ブルガコフ(資料)六三	ブルガコフ(資料)六三	ブルガコフ(資料)六三	ブルガコフ(資料)六三
六	二	八	八	八	八	八	八	八

【ブレハアノフ】 (Georgij Valentinovich Plekhanov, 1857-1918)

唯物論かカント主義か(ブ
 レハアノフ及シュミット)
 プレハアノフ「辨證法的唯
 物論(附行動の哲學とし
 ての辨證法的唯物論)」
 富士 辰馬(社科)六五

富士 辰馬(社科)六五
八

【フレイザー】 (Sir James George Frazer)

フレイザー「原始農業に於ける女性の職分」(譯) 内藤 俊彦(商濟) 四二七 二號

【ブレンタノ】 (Franz Brentano)

フランツ・ブレンタノの思ひ出 フツサール(思想) 六三三 一八

ブレンタノに於ける道德的認識の起源に關する問題 世良 壽男(思想) 六三七 七

非人稱判断に就いて(ブレンタノの判断説の一考察) 本多 謙三(思想) 四二二 三

【プロレットカルト】

プロレットカルトの問題 諸 家(改造) 六二五 四

【文化】 参照教育、社會學、生活、文明。

近世支那の日本文化に及ぼ

したる勢力影響
平安朝文化と庶民階級
國際文化主義提唱第一歩
文化生活と智識の民衆化
日本國民文化の特色
政治史と文化史(リツタ)
上代文化研究上の二三の新資料

中村久四郎(史雜)	六三二	二二
西田直二郎(史林)	六七三	三二
大澤 章(解放)	六九二	三三
戸田 海市(解放)	六九二	三四
中村 孝也(中史)	六〇二	三六
小野田萬壽(史雜)	六〇三	三六
梅原 末治(思想)	六〇一	二
田邊 元(改造)	六一	二
諸 家(中史)	六一	三
佐藤鋼次郎(中史)	六一	三
西宮 藤朝(中史)	六一	三
桑木 嚴翼(中史)	六一	三
久米 邦武(中史)	六一	三
三宅雄二郎(中史)	六一	三
金子 筑水(中史)	六一	三
安藤 正次(中史)	六一	三
E. Husserl(改造)	六二	三
フツサール(改造)	六二	三
後藤 守一(中史)	六二	三
高橋 健自(中史)	六二	三

上代文化に對する一考察	齋木 雪村(中史)	六二	五
文化から觀た日本史	西村 文則(中史)	六三	六
階級文化と共產文化	室伏 高信(改造)	六三	六
文化の輪廻	後藤 守一(中史)	六三	六
現代文化の改正を必要とする原則的意義	杉森孝次郎(改造)	六三	五
天災を背景として見た史上の文化爛熟期及び建設期	高須芳次郎(中史)	六三	八
奈良朝以前の文化	安藤 正次(中史)	六三	八
足利時代の世相	松浪 紫水(中史)	六三	八
明治大正の文化	赤堀又次郎(中史)	六三	八
明治時代の建設的氣分	時野谷常三郎(中史)	六三	八
安土桃山時代相の一面	花見 朔巳(中史)	六三	八
個人倫理問題の再新	フツサール(改造)	六三	六
ジムメルの文化哲學	バウル・ブラウト(思想)	六三	六
カント「判断力批判」の問題と文化の合目的性	川村 豊郎	六四	商大記念
陶磁器に於ける東西文化の交渉	奥田 誠一(中史)	六五	三
トレルチの歐洲文化觀竝之に對する所見	前田幸太郎	六五	山口高商
東西文化の流通と孔子教の西漸	後藤 末雄(思想)	六五	一〇
「文化」概念の法理學的意義			五七

義
教化によるか裁判によるか
地と人と文化との三角關係
文化政策基本論
靜的及び動的な文化とその綜合

大和民族の傳統的精神文化の由來及び其中心思想
ベロルツハイマーの法理學(特に其の「文化」概念に注意して)

文化現象の凝集作用
文化現象の地理的認識

文學に類はれたる變愛と結婚
漢字は何うしたら廢されるか
唯物史觀と文學
文學の社會學的研究方法及びその適用
國文學史上より觀たる當來

小野清一郎(志林)	六二	二八	八一
長谷川萬次郎(我等)	六二	二九	八
西村 眞次(我等)	六二	二八	八
森本 厚吉	六二	二八	八
赤松 要(商叢)	六五	四	一
渡邊 龍聖(商叢)	六五	四	一
小野清一郎(國家)	四二	二四	三四
恒藤 恭(經叢)	四二	二五	二六
恒藤 恭(經叢)	四二	二五	二六
石本 靜枝(解放)	六二	四	二
本多淺次郎(解放)	六二	四	一六
有島 武郎(解放)	六三	五	七
平林初之輔	六五	社間講四	

【文學】【文書偽造の罪】【分配】【文明】

三三六

の文學
現代ロシア文學の主流
現代の獨逸文學
文學と不良少年
無産階級文藝論
ロシア無産階級文學の發達
資本家自壞の文學

佐成謙太郎 (法政) 大五三三
昇 曙 夢 (法政) 大五三三
山岸 光澄 (法政) 大五三三
鈴木賀一郎 (法政) 大五三三
藤森 成吉
片上 伸
鈴木 厚 (解放) 昭二六八

【文書偽造の罪】

刑法學上の文書概念 (文書
偽造罪研究の一節)
文書偽造論
不實記載罪 (刑法第一五七
條) 論

飯塚 敏夫 (法政) 大五三三
新保勘解人 (早法) 昭二六
播磨 龍城 (新聞) 昭二二七四一

【分配】

大寶令に於ける富の分配の
制度について
批評されたるリカード價值
論・分配論の研究
分配論上の權力學說 (ツウ
ガン・バラノウスキー)

和辻 哲郎 (思想) 六一二九
中澤慶之助 (商評) 大五五二三
南 亮三郎 (商討) 大五一一下

分配論の性質

【文】

【明】

中世文明の特質 (講演)
自然主義文明批判
東洋文明は精神的にして西
洋文明は物質的なりや
文明の再建 (講演)
エンゲルス「野蠻と文明」
(譯)
近代文明の衰頹
二元社會に於ける文明の成
立と崩壞
近代西洋文明に對する吾人
の態度
迷信文明の變態的延長とし
ての資本主義文明
文明の西遷北徙
ラッセルの文明觀と其の哲
學

高田 保馬 (經政) 昭二四一
參照 教育。社會問題。宗教。
道德。發明。文化。優
生學。
姉崎 正治 (史雜) 大二四二
鷺尾正五郎 (解放) 大九二
ジョン・デューイ (改造) 大〇三
ラッセル (改造) 大〇三
堺 利彦 (解放) 大〇三
齋藤 文藏 (中史) 大八三
長谷川萬次郎 (改造) 大四七
胡 適 (改造) 大五八
長谷川萬次郎 (改造) 大五八
今井 時郎 (外時) 昭二五三
川村 豐郎 (企社) 昭二一三

【部】

【米】

【價】

參照 穀物。米。物價。米穀法。

保科正之の米價調節策と安
藤市兵衛
米價調節と朝鮮米
耕地所有權移動の趨勢と米
價
米價と小麥價との比較
米價の變動と其の影響
穀物低價が資本利潤に及ぼ
す影響に就て
米價問題

二瓶 唯由 (歴地) 大五二七
矢作 榮藏 大五金井記念
片山 達吉 (經研) 昭二四一
齋藤三郎 (企社) 昭二二
勝賀瀬 質 (農經) 昭二三
油本 豊吉 (經研) 昭二四三
神戸 正雄 (時經) 昭二七三

【米】

【國】

參照 歐洲戰爭。

合衆國南北戦後の發展政策
テキサスに於ける最初の植
民地 (講演)
米國人に與ふ
一九二一年の米國
自己満足のアメリカーン

庄司萬太郎 (史雜) 昭〇三六
齋藤清太郎 (史雜) 大四二五
野口米次郎 (改造) 大〇三二
伊井 敬 (解放) 大〇三三
木下 乙市 (國知) 昭二七一

【米價】【米國】

米國に於ける商業大學教育
米國々民性管見
米國の人種問題
歐米旅行雜感
米國の廢兵待遇問題
アメリカに於ける合理化運
動

平井泰太郎 (企社) 昭二二
神崎 驥一 (外時) 昭二五五
長谷部 靜 (國知) 昭二七五
草場林五郎 (朝司) 昭二六七三
デクスター (國知) 昭二七一〇
上野 陽一 (社政) 昭二一六
移民 米國を見よ
貨幣 米國を見よ
銀行 米國を見よ

北米大陸太平洋に於ける工
業地
米國に於ける市吏員給料と
物價の變動
トロッキイ氏の「ヨーロッパ
とアメリカ」を讀む
米國の投資トラス
米國の外債投資に就て
米國の經濟革命
世界を席捲する「弗」の威
力
ロヴストン「アメリカのヨ
ーロッパ征服」(譯)

黒田 謙 (歴理) 大二二
福本 英男 (都問) 大五三
深見 尚行 (國知) 大五六
渡邊 鐵藏 (經論) 大五五
江上 友吉 (銀研) 大五一
星野周一郎 (商經) 昭二一
小汀 利得 (國知) 昭二七
岡田 宗司 (社科) 昭二三

三三七

アメリカ帝國主義の本質ダ
ラア・デイブロマシイ
米國資本主義構成の變化
(ヴァルガ)
米國に於ける産業の膨張
米國の繁榮と産業合理化
ソヴィエツト聯邦とアメリカ合衆國
Economic tendencies in
America since the war
財政
一九二六年米國歳入法の改正
正頭末と其批評
社會
自由の廢墟を見る
米國の警察と監獄の話
クー・クラックス・クラン
米國社會運動の過去と現在
米國社會運動の最近傾向
米國の賃銀問題と生計費調査
禁酒法
米國に於ける各種社會事業

佐々木修一郎 (社科)	昭二	三	二
宮川 實 (商論)	昭二	二	二
太田黒敏男 (明商)	昭二	二	二
上田貞次郎 (企社)	昭二	一	三
トロッキー (社思)	昭二	六	二
S.S.Huebner (商討)	昭二	二	下
高島 誠一 (政經)	大五	一	三
室伏 高信 (改造)	大〇	三	六
安部 磯雄 (解放)	大〇	三	二
新居 格 (改造)	大二	四	五
八木澤善次 (社思)	大三	三	九
八木澤善次 (改造)	大五	八	一
〔統集〕	大五	一	五九
増永 正一 (朝司)	大五	五	二

團體の協働
英米に於ける社會調査とその文獻
米國に於ける消費組合經營事業の現状
政治
エー・エム・サイモンズ
「米國獨立の原因」
富豪獨裁政治の米國
米國政黨の起源
米國に於ける政黨政治の趨勢
米合衆國無産階級と政治問題
米國に於ける労働黨運動の進展
米國の無産政黨の成立と綱領の變遷
一八四四年以前の米國政黨史
米國大統領職務の由來と選舉方法
世界に君臨する米國共和黨
米國政黨の社會的構成

宮島幹之助 (都問)	昭二	四	六
磯村 英一 (社雜)	昭二	四	〇
美濃口時太郎 (社政)	昭二	一	八四
海老名一雄 (歴地)	昭五	一	九
伊井 敬 (解放)	大二	一	四
恒松 安夫 (史學)	大二	二	二
安部 磯雄 (改造)	大三	六	二
後藤 信夫 (社思)	大三	三	二
八木澤善次 (社思)	大三	三	八〇
八木澤善次 (社思)	大四	四	四
恒松 安夫 (史學)	大五	五	二
北澤 佐雄 (商集)	大五	一	一
藤井 新一 (外時)	大五	二	一
吉川季治郎 (外時)	大五	四	五

米國總選舉は何を語る
米國上下兩院議員選舉の結果
一九二六年の米國を顧みて
米國憲法政治の本質
米國の政界漸く動く
米國大統領候補の面々
米國政治史に於ける土地の意義
對外關係
東洋に於ける亞米利加の外交 (講演)
修正モンロー主義で進んだ米國凡そ國家實利を逸せぬ腕力、彈性
ヴァージン諸島の買収と米國
米國と佛國革命
米國の二重外交
世界に萌せる排米運動
米國の獨り得る好機
將來の太平洋に於ける米國
西部海岸諸洲の地位
世界に君臨する米國共和黨

稻原 勝治 (國知)	大五	六	二
吉田丹一郎 (外時)	昭二	四	五〇
高木 信威 (國知)	昭二	七	一
藤井 新一 (國知)	昭二	七	三
清澤 洵 (外時)	昭二	六	五〇
清澤 洵 (外時)	昭二	六	五〇
高木 八尺	昭二	小野塚二	一
ハート (史雜)	昭二	一九	二
伊藤 正徳 (改造)	大三	六	一
庄司萬太郎 (史雜)	大三	五	四
齋藤清太郎 (史雜)	大五	七	三
松原 一雄 (外時)	大五	四	五二
清澤 洵 (外時)	大五	四	五三
田川大吉郎 (國知)	大五	六	九
神崎 驥一 (外時)	大五	四	五五
藤井 新一 (外時)	大五	四	五五

米國のパロキアリズム (アメリカと國際聯盟)
ジュネーヴより華盛頓へ、法律上合衆國の性質と其外交
一九二六年の米國を顧みて
米國の國際司法裁判所參加問題
米國憲法上に於ける條約の特質
中米に於ける米墨兩國の爭鬪
ニーヤリング及フリーマン
「米國帝國主義外交の進展」 (譯)
支那の動亂と米國
米國の東洋外交
四面楚歌の米國に寄語す
最近に於ける米國外交の歸趨
米國と太平洋及支那
汎米會議の發展 (注目すべき米國の外交振り)
歐洲運動と對米交渉

藤田進一郎 (國知)	大五	六	一〇
シモンズ (國知)	大五	六	二
岩本 英夫 (法治)	大五	五	二
高木 信威 (國知)	昭二	七	一
松原 一雄 (國際)	昭二	二	天
大山卯次郎 (外時)	昭二	四	五三
清澤 洵 (國知)	昭二	七	三
八木澤善次 (外時)	昭二	四	五五
鶴見 祐輔 (改造)	昭二	九	五
米田 實 (政經)	昭二	二	二
松原 一雄 (外時)	昭二	六	五四
好富 正臣 (外時)	昭二	六	五四
米田 實 (外時)	昭二	六	五四
柳澤慎之助 (外時)	昭二	六	五五〇
高橋清三郎 (外時)	昭二	六	五五二

昭和二年の米國を觀る	清澤 洵 (國知) 四二七 三
久里濱に於ける彼理渡來の舊蹟に就きて	横山 達三 (歴地) 四三三 二
日本と英米兩國	志賀 重昂 (歴地) 四三三 七
第十九世紀初半に於ける北米合衆國の日本交通計畫	今井 貞臣 (歴地) 四二二 一
概要	齋藤 文藏 (歴地) 六七一 一
ニューヨークの新聞に見えた萬延遣米使節	末廣 重雄 (改造) 六九二 九
日米戦ふべきか	末廣 重雄 (改造) 六九二 二
日米葛藤は終に解決さるべきか	滿川龜太郎 (解放) 六二〇 三
日米關係の將來と太平洋問題	田保橋 潔 (歴地) 六二四 一
江戸幕府の海軍擴張と米國日米の關係	片山 潜 (改造) 六三六 四
日米問題と其對策	諸 家 (改造) 六三六 五
ベダハト「米國帝國主義と排日」(譯)	後藤 信夫 (社思) 六三三 七
明治初年岩倉大使遣外始末	信夫 淳平 (國際) 六二五 八
一九二四年米國移民法と日米通商條約との關係	臥龍學人 (外時) 六二五 五
米國に於ける排日問題總論	

定	大山卯次郎 (外時) 四二五 五
軍縮問題と日米の將來に關する考察	信夫 淳平 (國知) 四二七 六
排日第四周年を迎ふ	稻原 勝治 (外時) 四二四 三
四面楚歌の米國に寄語す	松原 一雄 (外時) 四二四 三
排日移民法に就ての回顧	大山卯次郎 (外時) 四二四 三
米國に於ける日本語學校問題	大山卯次郎 (外時) 四二四 五
再び日米の紛争平和的處理條約案に就て	信夫 淳平 (國知) 四二七 八
日米間平和保障條約の提唱	青木 節一 (外時) 四二四 八
日米間平和保障條約試案	信夫 淳平 (外時) 四二四 九
日米不戰條約	高柳 賢三 (改造) 四二九 三
英 國	英國 對外國關係、米國を見よ
加 奈 陀	米田 實 (國際) 四二二 二
加奈陀公使の新任	支那 對外國關係、米國を見よ
支 那	鐵道—米國を見よ
鐵 道	農業—米國を見よ
農 業	伊藤重治郎 — 大五金井記念
法 律	花岡 敏夫 — 大六土方記念
Agency by consular の法理と我表見代理の觀念	

米國に於ける裁判の社會化	高柳 賢三 (改造) 六〇三 五
法律上から見た日本婦人と英米婦人	高柳 賢三 (改造) 六一四 一〇
米國加州親族法釋義	岩本 英夫 (法政) 六五三 七
パウンドのアメリカ法概論	峯岸 治三 (法研) 六五五 二
米國憲法の民主政と土地法	岩本 英夫 (法政) 六五三 八
パウンドの英米裁判論	平井 三久 (志林) 六五二 八
私權の平等と加州外國人土地法	岩本 英夫 (法治) 六五五 八
地法	岩本 英夫 (法治) 六五五 一〇
第四十九回米國辯護士協會年會	花岡 敏夫 (正義) 六五二 八
米國憲法の均等保護と加洲民法	岩本 英夫 (法治) 六五五 一〇
法律上合衆國の性質と其外	岩本 英夫 (法治) 六五五 一〇
交	飯塚 半衛 (法新) 六五五 一
歐米裁判見聞記	吳 文炳 (イン) 四二五 一
信託業に關する日米法制の比較	藤井 新一 (新聞) 四二二 一
米國憲法の本質に就て	岩本 英夫 (法治) 四二六 七
米國憲法上州警察權の範圍と排外土地法	岩本 英夫 (法治) 四二六 七
保 險	保險—米國を見よ
労働及労働階級	労働及労働階級—米國を見よ

【米 穀 法】	今この米穀法案と昔の三倉制度	芝 葛盛 (中史) 六〇二 四
【ベ イ リ イ】	サミュエル・ベイリー	森 耕二郎 (經叢) 六五三 六
【平 和 會 議】	カントの平和論	朝永三十郎 (改造) 六二四 三
	世界平和主義の考察	神川 彦松 (外時) 四二四 五
	第一海牙萬國平和會議 (一八九九年)	米田 實 (中史) 六二四 一
	第二回海牙平和會議	泉 哲 (中史) 六二四 一
	ベルサイユ會議管見	中野 正剛 (中史) 六二四 一
【平 和 議 定 書】		

【平和議定書】【平和條約(一九一九年)】【ペイン】【ヘーゲル】【ベエリング】

三四二

壽府平和議定書とロカルノ協定

杉村陽太郎(國際)大五二五九

【平和條約(一九一九年)】

参照=國際聯盟(獨逸-賠償問題)

ヴェルサイユ平和條約中海上保險契約に關する規定

足立 千古(法叢)大五二六一

【ペイン】

(Thomas Paine, 1737-1809)

トマス・ペインの生涯と其の事績

堀 經夫(外時)昭二五五三九

【ヘーゲル】

(Georg Wilhelm Friedrich Hegel, 1770-1831)

アリストテレスとヘーゲルとの推理圖式に就て如何にして國家學は學として可能なるか(フイヒテ及びヘーゲルに關する研究)

紀平 正美(思想)大三二五二九

ヘーゲルの學位論文についての穿鑿

リッケルト(改造)大四七一

ヘーゲルの歴史哲學

矢崎 美盛(思想)大五二〇五
關 榮吉(思想)大五二六三四

ヘーゲル哲學とマルクス、レーニンの辨證法的唯物論の哲學」を疑ふ
ロッシヤの歴史經濟學の根本思想とヘーゲル哲學
フオイエルバッハ「ヘーゲル哲學の批判」(譯)
ヘーゲルの「市民社會」

土田 杏村(社科)大五二八
大關 將一(思想)大五二一六
米田庄太郎(經叢)昭二二四一五
恒藤 恭(我等)昭二九一五七
新明 正道(我等)昭二九一七

【ベエリング】

(Ernst von Beiling, 1866-)

六十歳を迎えたベエリング教授

瀧川 幸辰(法叢)大五二六一

【ヘルウイヒ】

(Konrad Hellwig, 1856-1913)

ヘルウイヒ「訴權及起訴自由(Klagerecht und Klagemöglichkeit)(譯)

自由 (Klagerecht und Klagemöglichkeit) (譯)

中野 峯夫 江口 新(法究)昭二二四一三

【白耳義】

白耳義の中立

立 作太郎 — 大四種積祝賀

白耳義に於ける選舉法問題

吉野 作造 — 大四種積祝賀

の趨勢

山村 喬(社思)大三三九

ベルギー労働黨發達史

山村 喬(社思)大五二五九

ベルギーに於ける労働爭議調停制度

中村 武(新報)昭二二七七八

白耳義通貨安定問題

向井 章(山商)昭二二一

白耳義の社會防衛法案

〔志林〕昭二二九三三

【ベルグソン】

(Henri Bergson, 1859-)

ベルグソン哲學の精神

金子 馬治(改造)大四〇三七

ベルグソンの印象

室伏 高信(改造)大二二四二

【波斯】

ベルシヤ教の史的説明
波斯灣の東洋貿易港に就て
創業時代に於ける明治政府の對波斯交渉(古川大尉の「波斯紀行」を讀む)
ソヴェト聯邦と波斯との關係

柴 謙太郎(歴地)翌七六九一〇
桑原 隲藏(史林)大五一三
田保崎 潔(史雜)大二三四一〇
大竹 博吉(外時)昭二四四一五五〇

ヘルフェリツヒの貨幣價值論

大野 純一(商討)大五一

【ベルンシュタイン】

(Eduard Bernstein, 1850-)

カウツキーとベルンシュタイン
獨逸共和國の政治及社會問題を論ず
Die politischen und sozialen Probleme der Deutschen Republik
社會學的進化論としての社會主義
Der Sozialismus als soziologische Entwicklungslehre
ベルンシュタイン唯物史觀修正論批判
ベルンシュタイン「經濟生活の諸形態」(譯)

室伏 高信(改造)大四〇三三
ベルンシュタイン(改造)大二二四一

E. Bernstein(改造)大四一
ベルンシュタイン(改造)大二二四一
〔改造〕大二二四一
榎本 謙輔(社思)大五二一〇
石濱 知行(社思)大五二一〇

【白耳義】【ベルグソン】【波斯】【ヘルフェリツヒ】【ベルンシュタイン】

三四三

ペルンシュタインの「追放の時代」

河合榮治郎〔經論〕大五 五 卷 三 號

【ベロルツハイマー】 (Fritz Berolzheimer)

ベロルツハイマーの法理學 (特に其の「文化」概念に注意して)

小野清一郎〔國家〕昭二 四 一 三 四

【辯護士】 参照『辯護士法。法曹。』

穂積先生と辯護士の地位
辯護士會の自治權を如何

原 嘉道〔正義〕大五 二 七

(辯護士法改正の一大問題)

吉田三市郎〔法公〕大五 三 〇 七

全國辯護士會長會議に就て
手数料及び謝金の標準に就て

森 穰〔法新〕大五 一 八

第四十九回米國辯護士協會
年會

古野 周藏〔新聞〕大五 一 二 五 七

辯護權の行使に地域の制限
あるべき乎

花岡 敏夫〔正義〕大五 二 八

余は此故に訟師の實職を抛つ

龜山 要〔正義〕大五 二 二

梅原錦三郎〔新聞〕昭二 一 二 六 四 二

辯護士道十則
正義に虐げらるる吾實職を抛
たん

原 嘉道〔法新〕昭二 一 九 九

辯護士の辯論と責任

梅原錦三郎〔法新〕昭二 一 九 九

辯護士の品位と辯護士出張
所問題

宗宮 信次〔法公〕昭二 三 二

辯護士の品位と辯護士出張
所問題

豐島 武夫〔法新〕昭二 一 一 〇 〇

法律家の人格修養(マッカ
ーティ)

豐島 武夫〔新聞〕昭二 一 二 六 七

勞農ロシヤの辯護士
ブルックス「辯護士の職業
道徳」(譯)

岸 清一〔正義〕昭二 三 三

辯護士道の一觀察

G A 生〔法公〕昭二 三 三

辯護士の辯論と責任

大澤 一六〔法新〕昭二 一 一 〇 四

辯護士會の自治

藤井 清士〔正義〕昭二 三 四

先づ辯護士界を清めよ

宗宮 信次〔法政〕昭二 四 四

獨逸辯護士の法律學界に於ける勢力

木會 逸人〔新聞〕昭二 一 二 七 一

三たび辯護士缺格問題に就て

齊藤 巖〔新聞〕昭二 一 二 六 五

播磨 龍城〔新聞〕昭二 一 二 七 〇 三

升本 重夫〔法公〕昭二 三 七

播磨 龍城〔新聞〕昭二 一 二 七 〇 七

播磨 龍城〔新聞〕昭二 一 二 七 〇 七

播磨 龍城〔新聞〕昭二 一 二 七 〇 七

播磨 龍城〔新聞〕昭二 一 二 七 〇 七

播磨 龍城〔新聞〕昭二 一 二 七 〇 七

播磨 龍城〔新聞〕昭二 一 二 七 〇 七

播磨 龍城〔新聞〕昭二 一 二 七 〇 七

播磨 龍城〔新聞〕昭二 一 二 七 〇 七

播磨 龍城〔新聞〕昭二 一 二 七 〇 七

播磨 龍城〔新聞〕昭二 一 二 七 〇 七

播磨 龍城〔新聞〕昭二 一 二 七 〇 七

播磨 龍城〔新聞〕昭二 一 二 七 〇 七

播磨 龍城〔新聞〕昭二 一 二 七 〇 七

播磨 龍城〔新聞〕昭二 一 二 七 〇 七

播磨 龍城〔新聞〕昭二 一 二 七 〇 七

播磨 龍城〔新聞〕昭二 一 二 七 〇 七

播磨 龍城〔新聞〕昭二 一 二 七 〇 七

播磨 龍城〔新聞〕昭二 一 二 七 〇 七

播磨 龍城〔新聞〕昭二 一 二 七 〇 七

播磨 龍城〔新聞〕昭二 一 二 七 〇 七

播磨 龍城〔新聞〕昭二 一 二 七 〇 七

播磨 龍城〔新聞〕昭二 一 二 七 〇 七

播磨 龍城〔新聞〕昭二 一 二 七 〇 七

播磨 龍城〔新聞〕昭二 一 二 七 〇 七

播磨 龍城〔新聞〕昭二 一 二 七 〇 七

播磨 龍城〔新聞〕昭二 一 二 七 〇 七

播磨 龍城〔新聞〕昭二 一 二 七 〇 七

播磨 龍城〔新聞〕昭二 一 二 七 〇 七

播磨 龍城〔新聞〕昭二 一 二 七 〇 七

辯護士缺格問題の追論第二
成功謝金問題と大審院判例
の一考察

播磨 龍城〔新聞〕昭二 一 二 七 〇 九

ゾルダン「有限責任組織の
辯護士信託會社」

青木 徹二〔法公〕昭二 三 八 一 二

婦人と司法官及び辯護士適
格性

森山武市郎〔法治〕昭二 六 二

第五十回米國辯護士協會大
會の模様

花岡 敏夫〔正義〕昭二 三 二

曝露を怖るゝ軍閥の専恣と
陰險を見よ

布施 辰治〔新聞〕昭二 一 二 七 五

【辯護士法】

辯護士法改正に就て

碧 洋 生〔法新〕昭二 一 一 八

辯護士法改正綱領

諸 家〔法公〕昭二 三 一 〇

刑法並に辯護士法改正の機
果して熟せしや

不破 清警〔新聞〕昭二 一 二 七 三

【辨證法】

認識論に於ける唯物主義と
辨證法

アドラア〔社思〕大五 五 八

マルクス經濟學の方法
ブレハーン「辨證法的唯
物論(附行動の哲學とし
ての辨證法的唯物論)」

淺野 晃〔我等〕大五 八 九

ヘーゲル哲學とマルクス、
レーニンの辨證法的唯物論

富士 辰馬〔社科〕大五 二 八

マルクス方法論の一考察

土田 杏村〔社科〕大五 二 八

福本氏著「經濟學批判の方
法論」に就ての一感想

河野 密〔社科〕大五 二 八

デボリーンのカント批評

河野 密〔社科〕大五 二 八

社會批判の方法論考

河野 密〔社科〕大五 二 八

理論と戰術の氣化的方向

河野 密〔社科〕大五 二 八

資本論の始點と終點との辨
證法的統一

河野 密〔社科〕大五 二 八

唯物辨證法と唯物史觀

河野 密〔社科〕大五 二 八

【ベンサム】 (Jeremy Bentham, 1748-1832)

ベンサムの功利主義的犯罪
及び刑罰觀

永澤 邦男〔法研〕大五 六 五 二 二

木部

【ボアソナード】 (Gustave Boissonade, 1824-1910)

拷問廢止とボアソナード氏の功績
杉村 虎一 (法治) 昭二六 八九
大谷 美隆 年卷 二六 八九

【法醫學】 参照 犯罪人類學。

指紋の觀相
精神的缺陷者の去勢 (シヤ
ーテル教授の所説)
指紋の人類特異性並に「指
紋係數」に就て
血液に依る親子の鑑別
雙胎兒の指紋に同一なるも
のありとの説に對して
南 條 生 (臺法) 昭二〇 七八
波久 志行 (法曹) 大五 四七
古畑 種基 (臺法) 昭二二 二
古畑 種基 (臺法) 昭二二 四一五
岸 孝義 (臺法) 昭二二 六七
参照 運河、運輸、海運、外國
爲替、海法、貨幣、關稅、
金融、航海、工業、國際
關係、商業、商船、信用、
(門戶開放)。(尙各國名に
て「貿易」の項を見よ

【貿易】

丸山嘉八郎 (外時) 大五 四 五三
小島昌太郎 (經叢) 大五 二 三
小島昌太郎 (經叢) 大五 二 三
井上 正賀 (洋經) 大五 一 三三八
泉 哲 (明商) 大五 一 二
服部文四郎 (早政) 大五 一 九
森 富次郎 (企社) 大五 一 九
上坂 西三 (銀研) 大五 一 一六
三浦 周行 (經叢) 大五 三 六
小汀 利得 (國知) 大五 六 三
石川 文吾 (商研) 大五 六 二
徳増榮太郎 (企社) 昭二 一 二〇
前田卯之助 (企社) 昭二 一 二〇
宮川貞一郎 (國經) 昭二 四 一
平井泰太郎 (國經) 昭二 四 二
商 工 省 (統集) 昭二 一 五四八

王朝の貿易 (講演)
ミュンステルベルヒ氏日本
の外國貿易
室町時代に於ける貿易港と
勘合船の航路
平戸に於ける貿易時代の遺
跡
貿易上より觀たる最近列強
の大勢
歲條送使船に就て
維新前後に於ける外國貿易
に就いて
我が國將來の貿易に就て
明治年間の外國貿易額に就
いて
日本古代の貿易
鎖國經濟の危機我國に迫る
我國の海外貿易に就きて
貿易契約に於ける基礎條件
我が貿易金融機關の改善
財界の根柢と輸出振興策
輸出金融實務解説
徳川幕府初期の外國貿易

横井 時冬 (史雜) 昭五 三 三二
幸田 成友 (史雜) 昭九 七 一〇
岡部 精一 (歴地) 昭四 三 一
山鹿誠之助 (歴理) 大六 一 二
玉泉 大梁 (歴理) 大七一 六
武田 勝藏 (史學) 大一一 四
石橋 五郎 (史林) 大三八 二二三
下田 禮佐 (歴理) 大二三 二
石橋 五郎 大三 神戶高商
西村 眞次 (歴地) 大四 四 一
堀江 歸一 (改造) 大四 七 二
奈佐 忠行 大四 商大記念
上坂 西三 (早商) 大五 二 一一二
服部文四郎 (早商) 大五 二 一
井坂 孝 (エコ) 大五 四 一三
雪野 清 (銀研) 大五 一 一六
渡邊修二郎 (社科) 大五 二 七

貿易會議に就いて

輸出信用保險制度制定の提

案

輸出信用保險について

食糧品の輸出獎勵を念とせ

よ

通商平衡待遇と世界の平和

粗製濫造と金融

商工省の旅商派遣

貿易金融策としての輸出信

用保險制度

足利時代の通商貿易

貿易障害撤廢宣言

旅商の海外派遣に就きて

明治年間横濱に於ける對外

商權の消長

所謂商權恢復戰の跡を顧み

て

通商の自由に關する歐米實

業家の共同宣言に就て

大戰前後に於ける國際貿易

の比較

大正十五年外國貿易概況

輸出入の禁止及制限撤廢問

丸山嘉八郎 (外時) 大五 四 五三

小島昌太郎 (經叢) 大五 二 三

小島昌太郎 (經叢) 大五 二 三

井上 正賀 (洋經) 大五 一 三三八

泉 哲 (明商) 大五 一 二

服部文四郎 (早政) 大五 一 九

森 富次郎 (企社) 大五 一 九

上坂 西三 (銀研) 大五 一 一六

三浦 周行 (經叢) 大五 三 六

小汀 利得 (國知) 大五 六 三

石川 文吾 (商研) 大五 六 二

徳増榮太郎 (企社) 昭二 一 二〇

前田卯之助 (企社) 昭二 一 二〇

宮川貞一郎 (國經) 昭二 四 一

平井泰太郎 (國經) 昭二 四 二

商 工 省 (統集) 昭二 一 五四八

題に就て

日本と各國との通商貿易の

現勢

外國貿易問題

海軍々備縮少と我が海運貿

易

近年に於ける我對外貿易の

金額減退と其數量

輸出入貿易金融の實際

通商航海條約論

近世貿易の趨勢

輸出入禁止制限撤廢條約の

調印

本多利明の通商交易說

輸入に對する一國需要の伸

縮性 (マーシャルの國際

價值論)

ミルの外國貿易論 (比較生

産費說)

リカードの穀物貿易論

物價と貿易及びその利益 (プ

ラウンの國際貿易論)

需要伸縮性が國際貿易條件

高島 誠一 (明商) 昭二 二 一

森田 久 (國知) 昭二 七 四

堀江 歸一 昭二 社經體系

寺島 成信 (國知) 昭二 七 七

泉 榮太郎 (商討) 昭二 二 上

岩谷 靜治 (銀叢) 昭二 九 三

田村 幸策 (外時) 昭二 四 五五二

三浦 周行 (經叢) 昭二 五 五

小汀 利得 (外時) 昭二 四 五五二

海老名一雄 (歴地) 昭四 一 七

柴田三四治 (銀叢) 大五 七 一

油本 豐吉 (經研) 大五 三 三

油本 豐吉 (經論) 大五 五 二

柴田三四治 (銀叢) 大五 七 三、五

及び輸入税負擔に及ぼす影響(マーシャルの國際價值論)	柴田三四治(銀叢) 大七 年九 卷一
マーシャル博士の貿易統計論(松本金次郎君譯「貨幣信用及商業」を讀みて)	郡 菊之助(統集) 昭二 一 五〇
自由貿易論	小泉 信三(財經) 昭二 一四 七
輸出獎勵金問題におけるミスとリカアドオ	油本 豊吉(經論) 昭二 六 二
日 蘭 貿 易	
德川時代和蘭通商始末	山縣 昌敏(史雜) 昭二 二 三二
和蘭通商の起源及其創立考	本多淺次郎(史雜) 昭二 五 七八
和蘭標本の起源	大山 綱良(商經) 昭二 一 四六
日 支 貿 易	
日元貿易の研究	栢原 昌三(史雜) 大七 三二五 三
日明勘合貿易に於ける細川大内二氏の抗争	栢原 昌三(史雜) 大七 二五九 二二
永享條約に就いて後藤肅堂君の説を評す	栢原 昌三(史雜) 大六 二九一 一〇
義政時代の日明勘合貿易	栢原 昌三(歴史) 大七 二 四
日支貿易港としての寧波港	栢原 昌三(歴史) 大九 五 四六
日明勘合の組織と使行	栢原 昌三(史雜) 大九 三 四九
日明貿易の發展につきて	三浦 周行(史林) 昭二 二 一 二
對支貿易の危機	高柳松一郎(エコ) 昭二 五 七
時局の重大性と對支貿易の一轉期	内田 壽(企社) 昭二 一 一四
寛永貞享時代の長崎の支那貿易	矢野 仁一(史雜) 昭二 三 二〇
德川時代に於ける長崎の支那貿易	矢野 仁一(經叢) 昭二 二五 五十六
日 鮮 貿 易	
德川幕府初期に於ける朝鮮との修交貿易	三井 大作(史雜) 昭二 九 二二
日鮮貿易史上の三浦和和館	武田 勝藏(史學) 大七 一 三
其 他	
南米貿易	西田與四郎(歴史) 大八 三 四十五
南洋貿易會議	神戸 正雄(時經) 大五 六 五二
日本と暹羅との貿易につきて	新村 出(史林) 昭二 三 一
英吉利の日支初期貿易關係	矢野 仁一(亞經) 昭二 二 二〇
本邦南洋貿易の發達と現狀	〔洋經〕 昭二 一 二五九
【法 學】	
法律的方法と社會學的方法	織田 萬 大四 穂積祝賀
正義の法理觀	仁保 龜松 大四 穂積祝賀
靜的安全な自動的安全の調節を論ず	鳩山 秀夫 大四 穂積祝賀
人格法學と勞働力尊重	渡邊 省三(法新) 昭二 一 次
法の行はれる社會心理的基礎	中島 重(同論) 昭二 一 三
新ヘーゲル派の法律哲學	中島 重(同論) 昭二 一 三
價値の法理學と法律學の價値	牧野 英一(志林) 昭二 二 二二
人格法學と法人本質論	渡邊 省三(法新) 昭二 一 三〇
法規の解釋と法律學の對象	木村 龜二(國家) 昭二 四 三
ペロルツハイマーの法理學(特に其の「文化」概念に注意して)	小野清一郎(國家) 昭二 四 三三四
ケルゼン「純粹法學の發展と其の文獻」(譯)	黒田 覺(商論) 昭二 二 一
法律段階説と自然法	黒田 覺(法叢) 昭二 一 三
人格法學と生存權	渡邊 省三(法新) 昭二 一 一〇三
人格法學と公序良俗	渡邊 省三(法新) 昭二 一 一〇五
人格法學と法的安全	渡邊 省三(法新) 昭二 一 一〇六
人格法學と資本及財産制	渡邊 省三(法新) 昭二 一 一〇七
法律思想史上より觀たる歴史法學の地位と意義(パウンドの所論)	大塚 秀雄(法曹) 昭二 五 五七
法律科學の概念	島田 武夫(法究) 昭二 四 五
法律學といふ名稱の起源に就て	船田 享二(法究) 昭二 四 五

純正法規と援用法規	中島 玉吉 大七 富井祝賀
法律思想の發達	杉山直治郎 大七 評論記念
法律學に於ける古い頭と新しい頭	高柳 賢三(改造) 大七 五 一
サヴィニイの社會學的法律觀	木村 龜二(思想) 大七 四 三
回教法學の發達に就て	大川 周明(解放) 大七 五 四一五
法律及經濟の一元論的考察	山内 正瞭 大七 商大記念
グネウス、フラヴィウス「法律學の爲の戰」(譯)	岡松成太郎(志林) 大七 五 七
「文化」概念の法理學的意義	山口 嘉夫 大七 五 七
統制支配の權力と法律	小野清一郎(志林) 大七 二 八二
法律學の價値に關する懷疑	平野義太郎(志林) 大七 二 九一
法律に於ける普通思想	田村 徳治(法叢) 大七 一 一七
人格法學と萬物靈長感	脇坂 雄治(法曹) 大七 四 一
デューギの實證主義に對する一考察(「私法に於ける變遷」に就て)	渡邊 省三(法新) 大七 一 九四
パウンドの「法律と道德」	近藤 倫二(正義) 昭二 三 一
法律學の新しい目標	前原 光雄(法研) 昭二 六 一
法律の理念 (Idée) に就て	牧野 英一(志林) 昭二 二 九
法律哲學におけるユダヤ人	仁保 龜松(法叢) 昭二 一 七
人格法學と權利闘争論	瀧川 幸辰(法叢) 昭二 一 七
	渡邊 省三(法新) 昭二 一 七

【法学】【封建制度】

人格法學と私法協働の原則 法律思想史	渡邊 省三(法新) 昭二 一 二〇 小野清一郎 昭二 社經體系
シユタムラーの法律概念論 の法理學的價值	尾高 朝雄(法叢) 昭二 一 一七 渡邊 省三(法新) 昭二 一 二三 田中耕太郎 昭二 社經體系
人格法學と社會的利益 法律學	岡松成太郎(國家) 昭二 四 一七
ラートブルフの法理學上 の相對主義に對する私見	後藤 清(法治) 昭二 六 七二
ケルゼン法律學的方法と社 會學的方法との限界に就 て(譯)	本間 喜一(商研) 昭二 六 三 鷯澤 總明(臺法) 昭二 二 八 好富 正臣(國家) 昭二 四 九〇 仁保 龜松(法叢) 昭二 八 三六 大塚 秀雄(法曹) 昭二 五 九 高柳 賢三 昭二 社經體系
アドルフ・メンツェルの論 文「法と權力の問題に就 いて」紹介	高柳 眞三(國家) 昭二 四 二二
日本民族の法理思想 デュギーの實證法學 法律の效力を論ず 純粹法學論 法律哲學	中川善之助(法協) 昭二 四 五 二二
未開社會の法律生活(マリ ノウスキイ) 法律定型論(メーン研究の 一出發點)	牧野信之助(史林) 大 三 八 三 榎 智雄(史學) 大 三 三 四 尾池 義雄(解放) 大 五 五 四一五 松平 年一(歴史) 大 五 四 七 六 小野 武夫(法集) 大 五 二 二 高橋 信司(同論) 昭二 一 三 本庄榮治郎(經叢) 昭二 二 五 六
近代獨逸に於ける法律哲學	

【封建制度】

概観	森吉 義旭(法治) 昭二 六 一三
日本に封建の制なし 武家の世は如何なる時ぞ(講 演)	重野 安釋(史雜) 昭五 三 三三 加藤 弘之(史雜) 昭五 三 三六
日本封建土地制度起源の抽 稿につきて	朝河 貫一(史雜) 大 四 二 六 藤井甚太郎(歴史) 大 五 二 六 五
大名領地の性質に關する思 想	平山常太郎(歴史) 大 八 四 三 魚澄惣五郎(歴史) 大 九 五 三 朝河 貫一(歴史) 大 九 三 五 久米 邦武(中史) 大 九 一 六 黒板 勝美(中史) 大 九 一 六 龍居松之助(中史) 大 九 一 六 藤井甚太郎(中史) 大 九 一 六
ユージェニックスより見たる 封建時代	牧野 純一(中史) 大 九 一 六 赤堀又次郎(歴史) 大 一〇 三 五 佐々木臥山(歴史) 大 一〇 二 二 四
武士階級崩壞の經濟的説明 日本の封建制度に就いて	西本辰之助(法研) 大 一 五 二 一 田中耕太郎(法協) 昭二 四 一 一
武家時代概論	細矢 祐治(新報) 昭二 三 七 二 渡邊 省三(法新) 昭二 一 二〇〇 井上 周三(早法) 昭二 七 一 乾 政彦(法協) 昭二 四 五 八
武家時代の裏面觀	
武家時代の終局	
日本武家時代の効果に就い て	
舊藩の歴史の研究の必用 江戸時代思想の回顧	
近世初頭に於ける領民の移	

動について	牧野信之助(史林) 大 三 八 三
社會契約論の起原と封建制 度	榎 智雄(史學) 大 三 三 四
封建制度に於ける支配階級 の没落行程	尾池 義雄(解放) 大 五 五 四一五 松平 年一(歴史) 大 五 四 七 六
豊臣諸侯表	
封建制度の時代的特色と農 村社會の推移	小野 武夫(法集) 大 五 二 二 高橋 信司(同論) 昭二 一 三 本庄榮治郎(經叢) 昭二 二 五 六
日本國家の歴史的諸形態 大名領地について	

【放資】
【報酬漸減】

報酬漸減則の意義と我農業
に於ける其適用

【法人】

公募義捐金	中島 玉吉 大三宮崎記念
外國法人論	山田 三良 大 四 穂積祝賀
機關の觀念	田中耕太郎 大 七 富井祝賀
法人の國籍	島本 英夫 大 三 神戸高商

【封建制度】【放資】【報酬漸減】【法人】

社團と組合	西本辰之助(法研) 大 一 五 二 一 田中耕太郎(法協) 昭二 四 一 一
社員權否認論	
法人能力に關する立法思想 と信託會社	
人格法學と法人本質論	
法人の不法行爲	
單獨社員の法人	
土地調査に於て公號某名義 屋號某名義又は單純公業 名義に査定を受けたる土 地に於て其實質祭祀公業 に屬するもの又は辨事育 才其の他祭祀公業以外の 公業及祠廟に屬するもの の民法施行後に於ける法 律上の地位に就て	姉齒 松平(臺法) 昭二 三 九
祭祀公業の現管理人を解任 し新管理人を選任する手 續と其の決議の效力外二 件	姉齒 松平(臺法) 昭二 三 一〇 中村 光次(銀叢) 昭二 九 一五 堀部 靖雄(商濟) 昭二 八 一
法人の署名に就いて	
英國法上の營利團體	
法人の刑事責任と工業勞働 者最低年齢法違反に就き	福永 亮三(新聞) 昭二 一 二七 六

【法人】【法制史】

民法施行後慣習の儘存續すべき法人たる寺廟及祠廟と其の管理方法に就て

姉齒 松平(臺法) 昭二 三 號

【法制史】

參照 莊園。聖德太子。十七一條憲法。大寶令。土地。幕府。武士。封建制度。

行政三大區の一、鎮西考
國司の交替に付き解由、狀

久米 邦武(史雜) 昭三 一八一

與不の制

國司制の變遷

大森金五郎(史雜) 昭八 六二五

留守所考

喜田 貞吉(史雜) 昭〇 八一五

勅籍と獨符との榮源を論ず

伊東尾四郎(史雜) 昭〇 八六七

太宰府職官考

重田 定一(史雜) 昭〇 八八九

式目に顯れたる武家主義

重田 定一(史雜) 昭一 九二二

政戸考

重田 定一(史雜) 昭一 九二二

三等九等戸考

星野 恒(史雜) 昭三 一〇九

年給考

三浦 周行(史雜) 昭三 一〇二

古代の郷と戸と家に就いて

鈴木 國治(史雜) 昭三 一〇八

戰國時代極刑の一斑

吉田 東伍(史雜) 昭三 一〇四

大寶二年の戸籍に見えたる

阿部 愿(史雜) 昭三 一〇〇

位階

松本 愛重(史雜) 昭三 一〇二

本邦及び支那古代法の公布

松本 愛重(史雜) 昭三 一〇二

と其公布式

三浦 周行(史雜) 昭五 三一八

古の郷の五十戸といふこと

吉田 東伍(史雜) 昭五 四二

郷戸房戸並に政戸といふこと

吉田 東伍(史雜) 昭五 四二

と

吉田 東伍(史雜) 昭五 四二

解由狀の沿革

尾田 信直(史雜) 昭五 一三八

併歸使廳考

淺井 虎夫(史雜) 昭六 一四二

十六夜日記に見えたる細川

松崎 求己(史雜) 昭六 五五

莊の訴訟に就きて

三浦 周行(史雜) 昭七 一五五

僧尼に關する法制の起源につきて

宮崎道三郎(史雜) 昭七 一五七

日本法制史研究上に於ける

宮地 直一(史雜) 昭九 八六二

朝鮮語の價值(講演)

三浦 周行(史雜) 昭九 一七七

諸陵式と陵制の變遷

土屋 操(史雜) 昭一 一三五

江戸時代の裁判制度

星野 恒(史雜) 昭三 一〇九

大小切に就て

阿部 愿(史雜) 昭三 一〇二

國造伴造と宮造

藤井甚太郎(史雜) 昭四 一八六

奉行所書類解題

沼田 頼輔(史雜) 昭五 一九六

西方邊土の統治

中田 薰(史雜) 昭六 二二四

備前國府位置考

中田 薰(史雜) 昭六 二二四

ハンムラビ法典とモーゼ法との比較研究

和田 英松(史雜) 昭六 二二二

徳川時代の文學に見えたる私法

中田 薰(史雜) 昭六 二二四

政事要略考

和田 英松(史雜) 昭六 二二二

タブーと法律

穂積 陳重(史雜) 昭六 二六三

延喜式の杜撰

喜田 貞吉(史雜) 昭八 八三三

法制の史的研究

吳 文炳(史雜) 昭八 八三三

王朝の律令と唐の律令

桑原 隲藏(史雜) 昭九 六九五

回教法制の源流

飯田 忠純(史學) 昭一〇 一一一

憲法及び律令の制定と破壊

赤堀又次郎(史雜) 昭二 二九一

菅原文時封事に就いて

栗田 淳綱(史雜) 昭二 二二三

貞永式目を經緯とせる祭政

西岡虎之助(史雜) 昭二 二二四

一致論

瀧川政次郎(史雜) 昭二 二二四

王朝時代司法制度の研究

瀧川政次郎(史雜) 昭二 二二四

延久記録所の意義

三浦 周行(史雜) 昭二 二二四

王朝時代の地方行政に關する一考察

宮地 直一(史雜) 昭三 三三五

尾張國解文に就きて

川上 多助(史雜) 昭三 三四四

武家法制に現はれたる道德

澤口 勝藏(史雜) 昭四 一六三

藏人式についての一考察

吉村 茂樹(史雜) 昭四 一六三

「春記」を通して藏人頭の

吉村 茂樹(史雜) 昭四 一六三

一考察

吉村 茂樹(史雜) 昭四 一六三

律逸逸

瀧川政次郎(史雜) 昭五 七一九

九條家弘仁格抄の研究

瀧川政次郎(史雜) 昭五 七一九

弘仁主税式註解

瀧川政次郎(史雜) 昭五 七一九

公家新制と武家法則(新制)

瀧川政次郎(史雜) 昭五 七一九

【法制史】

三三五

の研究七)

三浦 周行(法叢) 昭五 二六

律令時代の賭博罪に就て

内山慶之進(法治) 昭五 五七八

成文法の起源

牧 健二(法叢) 昭五 一六二

倉庫令考

瀧川政次郎(法叢) 昭五 一六二

藤原時代に於ける相續に關する法律家への質疑狀二通

瀧川政次郎(史雜) 昭六 二二四

王朝及武家司法制度考

瀧川政次郎(史雜) 昭六 二二四

禊祓に關する研究(宗教的除災式と法律的制裁法との分化)

水上 浩躬(法協) 昭五 四四三

舊幕政時代訴訟文例の一斑

植木直一郎(史雜) 昭二 三三五

徳川時代に於ける雇傭法の研究

播磨辰治郎(正義) 昭二 三六二

十七條憲法と羅馬の十二表

金田平一郎(國家) 昭二 二七二

法との比較

牧 健二(史雜) 昭二 二〇

日本原始法に於ける財物の

内藤吉之助(史學) 昭二 二六

首章

瀧川政次郎(法究) 昭二 二四

制定律令考

牧 健二(法叢) 昭二 一八

中世の幕府法に於ける土地

淺見倫太郎(法協) 昭二 四五

財産權確認制度

奥野彦六郎(法曹) 昭二 五二

卑彌呼法典の通路

瀧川政次郎(史雜) 昭二 二二四

古琉球に於ける法制斷片

瀧川政次郎(史雜) 昭二 二二四

日本勞働法制史研究

瀧川政次郎(史雜) 昭二 二二四

日本勞働法制史研究

瀧川政次郎(史雜) 昭二 二二四

日本勞働法制史研究

瀧川政次郎(史雜) 昭二 二二四

日本勞働法制史研究

瀧川政次郎(史雜) 昭二 二二四

日本勞働法制史研究

瀧川政次郎(史雜) 昭二 二二四

日本勞働法制史研究

瀧川政次郎(史雜) 昭二 二二四

古事記の社會學的研究(法律社會史の一資料)

野村 重臣(同論) 昭二 一 二四

【紡績】 參照 織物。棉花。綿糸。羊毛。

綿絲紡績工場に於ける職工

共済組合

片山 早苗(社政) 昭五 一 七〇

糸關稅

井上 潔(企社) 昭五 一 八

日本紡績業發達の近狀

井上 潔(企社) 昭二 一〇

隱忍自重を要する在支紡績

武居 綾藏(エコ) 昭二 五 八

支那動亂と我紡績業者

神戸 正雄(時經) 昭二 六 五八

紡績操短と在支紡績

神戸 正雄(時經) 昭二 六 六〇

就業案内より見たる紡績業

片山 早苗(社政) 昭二 一 八三

労働事情

谷口 房藏(エコ) 昭二 五 一五

在支紡績の時局對策

神戸 正雄(時經) 昭二 七 五

紡績操短の擴張

神戶 正雄(時經) 昭二 七 五

【法廷】 參照 司法官。辯護士。

【法曹】

【法廷】

英國法廷の感想(講演)

大森 洪太(法曹) 昭五 四 七

英國法廷の感想(講演)

大森 洪太(臺法) 昭五 二 八

法廷の辯論

卜部喜太郎(正義) 昭二 三 七

法廷技術と信義誠實の原則

寺崎 勝治(法究) 昭二 二四 七

法律解釋論

參照 慣習法。(共通法)。(刑事訴訟法)。刑法。憲法。

法律自治の發達

(公法)。司法。私法。

命令的法規と能力的法規

(社會立法)。商法。破産法。判例。法學。民事訴訟法。民法。立法。

噓の效用

労働法。(尙各國名を見よ)

法律の生命

石坂音四郎 昭二 六四種積祝賀

法律に於ける個人的と社會的

高窪喜八郎 昭二 六〇評論記念

的

美濃部達吉 昭二 六〇評論記念

法律文化の新展望

末弘嚴太郎(改造) 昭二 四 七

「生の法律と理の法律」序

恒藤 恭(改造) 昭二 五 三

團體規約に基づく組織法とその效力(團體の自主的立法の法源的性質に關する)

牧野 英一(改造) 昭二 七 三

の傳統と大陸法の傳統とその接近)

鈴木 義男(改造) 昭二 七 九

その傳統と大陸法の傳統と

牧野 英一(志林) 昭二 五 七

ハウンドの法律と道德

牧野 英一(志林) 昭二 五 七

法律に於ける神秘

原 嘉道(正義) 昭二 七 七

法律と國民

末弘嚴太郎(法公) 昭二 三 七

民衆の法律(講演)

横田 秀雄(臺法) 昭二 〇 八

法は人に在り(講演)

牧野 英一(志林) 昭二 九 一

法律の社會化(講演)

參照 憲法表示。期間。(期限)。(條件)。(代理)。(無効及取消)。

法憲鎖談

廣演 嘉雄(志林) 昭二 元 一〇

行為能力についての一考察

廣演 嘉雄(志林) 昭二 元 一〇

法律行為の新種類(謂ゆる附從契約に就いて)

藥谷 政雄(法公) 昭二 三 一

ゲルマン法に於ける法律行為の形式(證書交付の意味)

平田 央(商叢) 昭二 五 一

【法律哲學】 法學を見よ

【ホオランド】 (Sir Thomas Erskine Holland, 1835-1926)

【法律】 法學を見よ

【ホオランド】 (Sir Thomas Erskine Holland, 1835-1926)

【法律】 法學を見よ

【ホオランド】 (Sir Thomas Erskine Holland, 1835-1926)

【法律】 法學を見よ

【ホオランド】 (Sir Thomas Erskine Holland, 1835-1926)

【法律】 法學を見よ

【ホオランド】 (Sir Thomas Erskine Holland, 1835-1926)

【法律】 法學を見よ

【ホオランド】 (Sir Thomas Erskine Holland, 1835-1926)

【法律】 法學を見よ

【ホオランド】 (Sir Thomas Erskine Holland, 1835-1926)

【法律】 法學を見よ

【ホオランド】 (Sir Thomas Erskine Holland, 1835-1926)

【法律】 法學を見よ

【ホオランド】 (Sir Thomas Erskine Holland, 1835-1926)

【法律】 法學を見よ

【ホオランド】 (Sir Thomas Erskine Holland, 1835-1926)

【法律】 法學を見よ

【ホオランド】 (Sir Thomas Erskine Holland, 1835-1926)

【法律】 法學を見よ

【ホオランド】 (Sir Thomas Erskine Holland, 1835-1926)

【法律】 法學を見よ

【ホオランド】 (Sir Thomas Erskine Holland, 1835-1926)

【法律】 法學を見よ

【ホオランド】 (Sir Thomas Erskine Holland, 1835-1926)

【法律】 法學を見よ

【ホオランド】 (Sir Thomas Erskine Holland, 1835-1926)

【法律】 法學を見よ

【ホオランド】 (Sir Thomas Erskine Holland, 1835-1926)

【法律】 法學を見よ

【ホオランド】 (Sir Thomas Erskine Holland, 1835-1926)

【法律】 法學を見よ

【ホオランド】 (Sir Thomas Erskine Holland, 1835-1926)

【法律】 法學を見よ

【ホオランド】 (Sir Thomas Erskine Holland, 1835-1926)

【法律】 法學を見よ

【ホオランド】 (Sir Thomas Erskine Holland, 1835-1926)

【法律】 法學を見よ

【ホオランド】 (Sir Thomas Erskine Holland, 1835-1926)

【法律】 法學を見よ

【ホオランド】 (Sir Thomas Erskine Holland, 1835-1926)

【法律】 法學を見よ

【ホオランド】 (Sir Thomas Erskine Holland, 1835-1926)

【法律】 法學を見よ

【ホオランド】 (Sir Thomas Erskine Holland, 1835-1926)

【法律】 法學を見よ

【ホオランド】 (Sir Thomas Erskine Holland, 1835-1926)

【法律】 法學を見よ

【ホオランド】 (Sir Thomas Erskine Holland, 1835-1926)

【法律】 法學を見よ

【ホオランド】 (Sir Thomas Erskine Holland, 1835-1926)

【法律】 法學を見よ

【ホオランド】 (Sir Thomas Erskine Holland, 1835-1926)

【法律】 法學を見よ

【ホオランド】 (Sir Thomas Erskine Holland, 1835-1926)

【法律】 法學を見よ

【ホオランド】 (Sir Thomas Erskine Holland, 1835-1926)

【法律】 法學を見よ

【ホオランド】 (Sir Thomas Erskine Holland, 1835-1926)

【法律】 法學を見よ

【ホオランド】 (Sir Thomas Erskine Holland, 1835-1926)

考察)

時代の流轉と法律の膠着

平野義太郎(志林) 昭五 二八 七

明治文化史の裏道(「闇魔帳」を読む)

坂本 靉衛(新聞) 昭五 一 二七六

ハーバート・スペンサーと

日比谷市三(法公) 昭五 三 八

日本の法律

牧 健二(法叢) 昭五 六 四

輿論と法律

中根 四郎(新聞) 昭五 一 二五九

國法の國際的統一問題

稲田周之助(外時) 昭五 四 五

法律を忘れた頃に法律家

藤沼藤七郎(新聞) 昭五 一 二六八

悪法遵守の義務に就いて

中島 玉吉(法叢) 昭二 一七 三

宗教と法律

三谷 隆正 昭二 社經體系

法律生活の安定に就ての考察(講演)

堀江專一郎(法研) 昭二 五 四

新時代の進路

鍛冶 良作(法公) 昭二 三 一

法の本旨に徹底せよ(談)

後藤和佐二(臺法) 昭二 三 二

淳風美俗と法律

小山 松吉(臺法) 昭二 三 二

非理法權錄

雨 花 子(志林) 昭二 元 二四

立憲國に於ける法律命令に對する官憲並に國民の責務を論ず

松倉慶三郎(法新) 昭二 一 一〇一

事實問題と法律問題

豊島 直通(法曹) 昭二 五 四一五

直面したる探梅規定と法律の解釋適用

播磨 龍城(新聞) 昭二 一 二六七〇

裁判官法と法學者法(英法)

播磨 龍城(新聞) 昭二 一 二六七〇

【法律】

【法律行爲】

【法律哲學】

【ホオランド】

【法律】

【法律行爲】

【法律哲學】

【ホオランド】

【法律】

【法律行爲】

【法律哲學】

【ホオランド】

【法律】

【法律行爲】

【法律哲學】

【ホオランド】

【法律】

【法律行爲】

【法律哲學】

【ホオランド】

【法律】

【法律行爲】

【法律哲學】

【ホオランド】

松原 一雄 (國際) 大五 二二

【ボオレー】 (Arthur Lyon Bowley, 1869-)

ボウレイ教授の人口推計 成田 三二 (統集) 四二 一 五四九

【簿記】 参照 會計學・原價計算・商業教育

商品勘定に就て 原口 亮平 一 六三 神戸高商

赤字取消傳票に關する小高 高野兩氏の提案に對して 吉田 市松 (會計) 六五 一 一

復式元帳改造時代と其代表的改良案 岡田 誠一 (早商) 六五 二 一

簿記法の本領に對する私の理解 岡田 誠一 (會計) 六五 一 二

特殊仕譯帳に就て オールドキャスル以前の英國に於ける複式簿記 渡部 寅二 (會計) 六五 一 二

複式簿記の普及と階級的的精神 P K 生 (會計) 六五 一 二

大正十五年三月小樽高商人學試驗「簿記」問題解 岡田 誠一 (會計) 六五 一 三

獨逸式銀行簿記法 佐藤 壽吉 (會計) 六五 一 三

簿記の對象たる取引の種類 串本友三郎 (銀研) 六五 一 三五

に就いて 上野 道輔 (經論) 六五 二 二

開城簿記法に就て 大谷顯太郎 (會計) 六五 一 四

大正十五年三月横濱高商人學試驗「簿記」問題解 佐藤 壽吉 (會計) 六五 一 四

世界各國に於ける農業簿記制 (Fensch) (譯) 横山 周大 (農經) 六五 二 四

Working sheet に就て 大正十五年度實業教員檢定 中田 浩 (早商) 六五 二 二

試驗簿記科問題擬答 「小賣帳簿のつけ方」を讀む 淺田 博 (會計) 四二 二 二

會計學の發達と簿記論との關係 飯田靜次郎 (商濟) 四二 七 二

昭和二年三月神戸高商人學試驗「簿記」問題解答 平瀬 末喜 (會計) 四二 二 四

簿記法原理 下野直太郎 (會計) 四二 二 一

昭和二年三月東京商科大学本科入學試驗「簿記」問題擬答 久松 金六 (會計) 四二 二 一

題擬答 高橋 一太郎 (法集) 四二 三 一

バーへの簿記學說 平瀬 末喜 (會計) 四二 二 二

昭和二年三月大分高商人學試驗「簿記」問題解答 村瀬 宏 (會計) 四二 二 二

Voucher system 概説 下野直太郎 (會計) 四二 二 三

日本式收支簿記法 三

監督官の責任範圍論 播磨 龍城 (新聞) 四二 一 四六五三

【北米合衆國】 米國を見よ 参照 運送保險・海上保險・火災保險・家畜保險・簡易保險・健康保險・失業保險・疾病保險・社會保險・傷害保險・信用保險・生命保險・損害保險・地震保險・年金・養老保險・旅客強制保險・労働保險

監督官の責任範圍論 播磨 龍城 (新聞) 四二 一 四六五三

【北米合衆國】 米國を見よ 参照 運送保險・海上保險・火災保險・家畜保險・簡易保險・健康保險・失業保險・疾病保險・社會保險・傷害保險・信用保險・生命保險・損害保險・地震保險・年金・養老保險・旅客強制保險・労働保險

【保 險】 監督官の責任範圍論 播磨 龍城 (新聞) 四二 一 四六五三

保險契約法に於ける順逆二流の發達を論じて其統一に及ぶ 青山 衆司 一 六七 富井祝賀

「保險は致富の道に非ず」を論ず 青山 衆司 一 六七 富井祝賀

廢疾保險に關する醫師の責務 (講演) 中濱東一郎 一 六三 玉木等記念

保險可能の範圍に就て (講演) 森 莊三郎 一 六三 玉木等記念

保險に對する希望 (講演) 桑山 鐵男 一 六三 玉木等記念

震災に對する保險政策 森 莊三郎 (改造) 六三 一〇

經濟思潮の推移に因る保險 三

昭和二年三月名古屋高商人學試驗「簿記」問題解答 平瀬 末喜 (會計) 四二 三 三

昭和二年三月大阪横濱兩高商人學試驗「簿記」問題解答 平瀬 末喜 (會計) 四二 三 四

昭和二年三月彦根京城兩高商人學試驗「簿記」問題解答 平瀬 末喜 (會計) 四二 三 五

簿記に於ける勘定學說に就いて 田中藤一郎 (商叢) 四二 五 一

【牧 畜】 参照 家畜

印度支那の牧畜と狩獵 向井 章 (亞經) 六五 一〇 三

【朴 烈 事 件】 怪寫眞事件の主點と批判 布施 辰治 (改造) 六五 八 二

怪寫眞事件 上田貞次郎 (企社) 六五 一 七

朴烈文字怪寫眞事件 諸 家 (法公) 六五 三〇 九

朴烈事件に就て攻防兩道の諸公に呈す 板倉松太郎 (新聞) 六五 一 二六〇三

減刑不可ならず (理由を公開せよ) 清瀬 一郎 (改造) 六五 八 三

【簿記】【牧畜】【朴烈事件】【北米合衆國】【保險】

思潮變遷過程の一考察 植民地における保險業の監督	水野 昇〔保評〕六五九
航空機の發達と航空保險 保險の基本精神を論ず 心理學と保險	山中岩次郎〔エコ〕六五四 三浦 義道〔國經〕六五四 志田 鈿太郎〔明商〕六五一 近藤 文二〔商經〕六五一
バターソン「保險證券に對する行政的整理」(譯) バターソン「保險證券に對する行政的整理」(譯)	寺田 四郎〔新報〕六五九、一〇〇 寺田 四郎〔保評〕六五九
保險の合理化と自治的民主化	生田 信三〔企社〕六五一
保險の基本精神に關する純理的批判	志田 鈿太郎〔保評〕六五九
經濟學に於ける保險の地位 確率論の基礎	松山 斌〔同論〕六五一 龜田 豊治朗〔保雜〕六五三〇
保險教化の方法に就て(講演)	森 莊三郎〔保評〕六五九
保險料手形制度概論	岡崎 裕〔保評〕六五九
ヴァンス「北米合衆國保險法上の權利拋棄と禁反言」(譯)	寺田 四郎〔新報〕六五九

(譯) 再保險の意義並に性質に就て	寺田 四郎〔保評〕六二〇
兵役税と徴兵保險 保險數學研究者の爲めに「アクチュアリー學」の意義に就て	烏賀陽然良〔法叢〕二七 松下 芳男〔法治〕二六 龜田 豊治朗〔保雜〕三〇
ヴェルナーの保險經營主義「アクチュアリー」ど計理士	志田 鈿太郎〔明商〕二 井上 茂〔企社〕二
保險業經營の科學的企畫 過れる保險監督、間違つた保險經營	藤澤利喜太郎〔保評〕二〇 水野 昇〔保評〕二〇
保險と保險業 保險經營主義について 營業と公益との交錯	古矢美津留〔保評〕二〇 井上 茂〔企社〕二 印南 傳吉〔企社〕二
法律論より見たる保險國營 小島昌太郎氏の保險學說研究に就いて	生田 信三〔企社〕二 森 莊三郎〔保評〕二〇 曄道 文藝〔保評〕二〇
再保險の種類に就いて 間違ひだらけな曄道博士の「法律論より見たる保險國營」	印南 傳吉〔企社〕二 烏賀陽然良〔法叢〕二八 小山哲四郎〔保評〕二〇

保險論	栗津 清亮 二社經體系
保險の合理化と自治的民主化に就いての批評に答ふ	米谷 隆三〔企社〕二
同盟罷業保險の現状 配當附保險料と低保險料の優劣	近藤 文二〔經叢〕二五 矢野 恒太〔保評〕二〇
保險官營諸問題 我邦に於ける保險教育の既往及び將來	栗津 清亮〔保評〕二〇 志田 鈿太郎〔明商〕二
解約防止事業の輪廓と基礎的調査	岡崎 裕〔保評〕二〇
國際アクチュアリス會議 自動車保險に就て 自動車保險の専門化	磯野 正登〔保雜〕二 磯野 正登〔保評〕二〇
伊太利生保國營事情と其後の狀況	藤川 博〔保評〕六五九
伊太利保險事情	大橋 英郎〔保雜〕六五三
英國の醫師と健康保險 ルッテンベルゲン「英國に於ける戰時航空損害保險」(譯)	森 莊三郎〔國家〕六五〇 寺田 四郎〔保評〕二〇

得保險問題 英國の年金保險法 英國に於ける新保險法案	近藤 文二〔商經〕二 森 莊三郎〔國家〕二 寺田 四郎〔保評〕二
獨逸保險事情 世界大戰後に於ける獨逸の保險業(講演)	野口 正造〔保雜〕二 野口 正造〔保評〕二〇
戰後に於ける獨逸保險界の諸問題(講演)	野口 正造〔保評〕二〇
獨逸社會政策的保險の由來 戰後獨逸の保險界に現はれたる企業集中の傾向 獨逸生命保險の起源に就て(エミングハウス)	野口 正造〔保評〕二〇 栗津 清亮 大金井記念 近藤 文二〔商經〕六五
佛蘭西に於ける保險官營 獨占案の沿革 佛蘭西社會保險體系及其批評	大橋 英郎〔保雜〕二 田邊益太郎〔保雜〕二 末高 信〔早商〕六五
米國生保會社の新施設と其效果(講演) 亞米利加より歸りて(共力の研究機關の發達を望む)	オールド〔保評〕六五九 國崎 裕〔保雜〕六五三

